

2017
TOKYO DENKI UNIVERSITY

平成29年度
学生要覧
東京電機大学 情報環境学部

2017（平成29）年度 情報環境学部 授業日程

前学期：4月6日～7月14日（予備日：7月18日・19日） 後学期：9月7日～12月22日（予備日：1月10日・11日）

前学期 授業日程								
日	月	火	水	木	金	土	予 定	
4月						1 健診	4/1 健康診断（2～3年次）	
	2	3 オリ	4 履指	5 履指	6 ①	7 ① 健診	4/3 オリエンテーション 4/4～5 履修指導日 4/6 授業開始日（前学期） 4/8 健康診断（4年次）	
	9	10 ①	11 ①	12 ①	13 ②	14 ②	15	
	16	17 ②	18 ②	19 ②	20 ③	21 ③	22	
	23	24 ③	25 ③	26 ③	27 ④	28 ④	29	4/29 昭和の日
	30							
5月		1 ④	2 ④	3	4	5	6	5/3 憲法記念日 5/4 みどりの日 5/5 こどもの日
	7	8 ⑤	9 ⑤	10 ④	11 ⑤	12 ⑤	13	
	14 体育祭	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑤	18 ⑥	19 ⑥	20	5/14 合同体育祭（予備日5/21）
	21	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑥	25 ⑦	26 ⑦	27	
	28	29 ⑧	30 ⑧	31 ⑦				
6月					1 ⑧	2 ⑧	3	
	4	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑧	8 ⑨	9 ⑨	10	
	11	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑨	15 ⑩	16 ⑩	17	
	18	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑩	22 ⑪	23 ⑪	24	
	25	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑪	29 ⑫	30 ⑫		
7月							1	
	2	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑫	6 ⑬	7 ⑬	8	
	9	10 ⑭	11 ⑭	12 ⑬	13 ⑭	14 ⑭	15 基 卒	7/14 授業終了日（前学期） 7/15 基礎プロジェクト発表日
	16	17 予備	18 予備	19 予備	20	21 卒研	22	7/17 海の日 7/18～19 授業予備日 7/22 卒業研究・開発型プロジェクト発表日
	23	24	25	26	27	28	29	7/23～8/31 夏季休業
	30	31						
8月			1	2	3	4	5	8/5～14 事務窓口停止
	6	7	8	9	10	11	12	8/11 山の日
	13	14	15	16	17	18 卒発	19	8/18 8月卒業発表 8/19 窓口停止日
	20	21	22	23	24	25	26	8/26 窓口停止日
	27	28	29	30	31 卒業式			8/31 8月卒業式

※○付数字は曜日の授業回数を示します。

※9月11日（創立記念日）は、月曜日の授業日となります。

※9月18日（敬老の日）は、月曜日の授業日となります。

※長期休業期間は、集中講義・補講などを実施する場合があります。

※予定を変更する場合は、事前に掲示等で周知します。

※授業科目によって開講回数異なります。授業時間割を参照してください。

後学期 授業日程								
日	月	火	水	木	金	土	予 定	
9月						1 2		
	3	4 オリ	5 履指	6 履指	7 ①	8 ①	9	9/4 オリエンテーション 9/5～6 履修指導日 9/7 授業開始日（後学期） 9/9 創立記念日振替休日
	10	11 ①	12 ①	13 ①	14 ②	15 ②	16	9/11 創立記念日【授業実施日】
	17	18 ②	19 ②	20 ②	21 ③	22 ③	23	9/18 敬老の日【授業実施日】 9/23 秋分の日
	24	25 ③	26 ③	27 ④	28 ④	29 ④	30	
10月	1	2 ④	3 ④	4 ④	5 ⑤	6 秋葉祭	7	10/6 秋葉祭準備日（休講） 10/7～8 秋葉祭
	8 秋葉祭	9 ⑤	10 ⑤	11 ⑥	12 ⑥	13 ⑤	14	10/9 体育の日（片付け）
	15	16 ⑤	17 ⑥	18 ⑥	19 ⑦	20 ⑥	21	
	22	23 ⑥	24 ⑦	25 ⑦	26 ⑧	27 ⑦	28	
	29	30 ⑦	31 ⑧					
11月				1	2	3	4	11/1～7 千住キャンパス休講に伴う休講 11/3 文化の日
	5	6	7	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑧	11	
	12	13 ⑧	14 ⑨	15 ⑨	16 ⑩	17 ⑨	18	
	19	20 ⑨	21 ⑩	22 ⑩	23 ⑩	24 ⑩	25	11/23 勤労感謝の日
	26	27 ⑩	28 ⑪	29 ⑪	30 ⑪			
12月						1 ⑪	2	
	3	4 ⑪	5 ⑫	6 ⑫	7 ⑫	8 ⑫	9	
	10	11 ⑫	12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑬	16	
	17	18 ⑬	19 ⑭	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑭	23	12/22 授業終了日（後学期） 12/23 天皇誕生日
	24	25	26	27	28	29	30	23～1/6 冬季休業 27～1/6 窓口停止日
	31							
2018 1月		1	2	3	4	5	6	1/1 元日
	7	8	9	10 予備	11 予備	12 基 卒	13	1/8 成人の日 1/10～11 授業予備日 1/12 基礎プロジェクト発表日
	14	15	16	17	18	19	20 卒研	1/20 卒業研究・開発型プロジェクト発表日
	21	22	23	24	25	26	27	1/15～3/31 春季休業 エクステンション期間（2月中を除く）
	28	29	30	31				
2月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	2/11 建国記念日 2/12 建国記念日振替休日
	18	19	20 卒発	21	22	23	24	2/20 3月卒業発表
	25	26	27	28				
3月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18 卒業式	19	20	21	22	23	24	3/18 3月卒業式 3/21 春分の日
	25	26	27	28	29	30	31	

情報環境学部 主要年間行事日程

2017年 4 月～2018年 3 月（平成29年度）

主 要 行 事	日 程
(前学期)	
在学生オリエンテーション	4 月 3 日(月)
在学生履修指導	4 月 4 日(火)・5 日(水)
成績評価問合せ受付期間	4 月 3 日(月)・4 日(火)・5 日(水)・6 日(木)
前学期授業開始（在学生）	4 月 6 日(木)
合同体育祭	5 月14日(日)（予備日 5 月21日(日)（予定））
前学期授業終了	7 月14日(金)
基礎プロジェクト発表日	7 月15日(土)
授業予備日	7 月18日(火)～19日(水)
卒業研究・開発型プロジェクト発表日	7 月22日(土)
夏季休業	7 月23日(日)～8 月31日(木)
8 月卒業発表・学位記確認期間	8 月18日(金)・21日(月)
成績通知書配付・成績評価問合せ受付期間	
8 月卒業式	
8 月卒業式	8 月31日(木)
(後学期)	
在学生オリエンテーション	9 月 4 日(月)
在学生履修指導	9 月 5 日(火)・6 日(水)
成績評価問合せ受付期間	
後学期授業開始	9 月 7 日(木)
創立記念日振替休日	9 月 9 日(土)
創立記念日（月曜日授業日）	9 月11日(月)
敬老の日（月曜日授業日）	9 月18日(祝日・月)
秋葉祭	10 月 7 日(土)、8 日(日)
(学園祭準備・片付けのための休講)	(10 月 6 日(金)～10 月 9 日(祝日・月)
千住キャンパス休講に伴う休講	11 月 1 日(水)～11 月 7 日(火)
後学期授業終了	12 月22日(金)
冬季休業	12 月23日(祝日・土)～1 月 6 日(土)
授業予備日	1 月10日(水)・1 月11日(木)
基礎プロジェクト発表日	1 月12日(金)
卒業研究・開発型プロジェクト発表日	1 月20日(土)
エクステンションプログラム期間	1 月15日(月)～3 月31日(土)（2 月中は除く）
3 月卒業発表・学位記確認期間	2 月20日(火)～2 月22日(木)
成績通知書配付・成績評価問合せ受付期間	
3 月卒業式（予定）	3 月18日(日)

※日程は変更になる場合があります。

学 生 要 覧

2017

■学生要覧とは

学生要覧は、本学部で学修・生活するために必要な重要事項を知ってもらうため、在学している間、年度が替わるごとに皆さんにお渡ししています。

■注意事項

入学年度によって内容が異なるページが一部あります。その場合は、必ず各自の入学年度を確認してから該当するページを参照するようにしてください。

なお編入学生は、入学年度の指定がある場合には、実際に編入学した年度でなく、学籍番号に記載の年度となりますので、注意してください。

科学技術により社会貢献を果たしてください

学 長 安 田 浩

東京電機大学は、社会が必要とする科学技術に関わる「実学」を尊重することを建学の精神として、1907年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が、「技術で社会に貢献する人材を養成し国を発展させること」を目指して、神田に創立した電機学校が母体となっています。東京電機大学は、さらに初代学長の丹羽保次郎先生の名言である、「技術は人なり」を教育・研究の理念とし、建学の精神を連綿と受け継ぎ、学園の使命を果たしてまいりました。

本学は現在、工学部、工学部第二部、理工学部、情報環境学部、未来科学部、システムデザイン工学部の6学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の4研究科（大学院修士課程）、および先端科学技術研究科（大学院博士課程後期）を擁しています。本学は学園創立110年を迎え、21万人以上の卒業生を輩出し、社会から高い評価を得ております。

現代は、社会活動、産業活動のすべての活動において、科学技術の知識を必要とする時代であり、知識自体が価値を持ち、さらに知識に基づく創案が付加価値を生み出す、「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術知識の修得さらには新たな科学技術知識の創案が、現代の「実学」であることは明らかです。本学は、この「実学」に長じて社会を支える科学技術者を養成することと、新たな科学技術知識を創案してより社会に貢献すること、により重要な役割を果たしてきました。

これから皆さんは、科学技術の基礎と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献されることを期待しています。大学時代は、人生で一番効率良く多くの知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。本学卒業後、最新知識と技術を駆使するために、まずは数学のような基礎学問の修得、さらにこれに加えて専門学問の修得に励んでください。

科学技術者として社会で活躍するためには、上で述べたように自分の専門に関する知識を修得するだけでなく、それを活用する能力も身につけてください。あなた方が社会に出て直面する課題のほとんどは、環境、資源、エネルギー、情報等、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されないからです。

ほとんどの活動現場において、起案、研究、実用化、生産、販売を一つの国ないし地域の中でのみ行うことはまれになり、科学技術者も国際的な活動が求められる時代となり、国際的なコミュニケーション能力は必須になってきています。このような状況から、専門の修得は当然ですが、これに加えて、外国語に堪能になりかつ異文化を理解する能力を持つことが必要なことも、しっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。本学卒業後、国際的な技術者として活躍できるように、意欲を持って大学生活に取り組んでください。

情報環境学部で学ぶ皆さんへ

情報環境学部長 和田 雄 次

今年度、情報環境学部長に就任しましたので、本学部の学生諸君に、期待するところを述べます。

今年度は千葉ニュータウンキャンパスで学ぶ最後の年になり、東京千住キャンパスに移転しますが、移転後の本学部教育システムは変わりませんので、引き続き安心して勉学に励んでください。

そこで、皆さんにお願いしたいことを以下に述べます。

第一に、日常の学習生活や研究活動の過程で、皆さんは問題の発見、課題の設定そしてその解決策を模索するわけですが、このプロセスで一番意識して頂きたいことは、一言で言うならば、自分の頭で物事を考えること、特にそうした習慣を身につけて欲しいということです。待っていれば、教員がそのうち答えを提示してくれるだろうとか、また現在はインターネットには膨大な情報が溢れていますので、ネット検索すれば解決策が見つかるだろうと考えるのではなく、まずは自らの頭で考えてみて欲しい。社会に出れば、どこにも答えが無いような問題に遭遇することは容易に想像できます。こうした状況を乗り越えられるように学生時代から考える習慣を身につけてください。

次に、こうした問題にぶつかったときにもう一つ別の方法論があります。それは、周囲の人間に相談しながら、解を見つけ出すことです。一見、先に述べたことと矛盾するように聞こえるかもしれませんが、周囲の人間を巻き込んでチームを作って問題解決に当たることも社会に出たとき大変重要です。自らの頭で考えることは基本ですが、一人だけで悩まないことです。自分の頭だけで考えていると、空回りしてしまうことがよくあるからです。それを解決するためには周囲の人に相談し、議論することです。この点、本学部のプロジェクト科目や研究室ゼミ、PBLなどの科目が多いに役立つはずです。

ただ、以上のことは、今更言われなくとも分かっているという学生もいるかと思います。やる気になれば、出来ると言うかもしれませんが、しかしながら、当たり前のことをきちんと実行して積み重ねた人と、やれば出来ると考えていただけの人とでは、学部卒業時に非常に大きな実力差が付きます。例えば、英語が嫌いな人、プログラミングが苦手な人、計算が面倒な人、自分の考えを他の人に上手く伝えることができない人など、人間みな得意不得意がありますが、そのうちやる気が出れば、何とかなるであろうと考えるのではなく、やれば出来ることは必ずその時に実行する人間に育ってほしいと思います。

最後にもう1つ、皆さんにお願いがあります。今年度新たにスタートしたシステムデザイン工学部は、皆さんの情報環境学部が母体となって生まれた学部です。したがって、その新入生は学部学科が変わっても皆さんの後輩であることは紛れもないことです。そこで、是非ともお願いしたいことは、システムデザイン工学部の新入生を同じ学部の後輩と思って、特に研究活動や就職活動などでは、上下のコミュニケーションを円滑にして先輩として指導して欲しいということです。よろしく、お願いします。

目 次

ページ

第1章 建学の精神、教育・研究理念等

建学の精神、教育・研究理念等	3
学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針	3
情報環境学部の特徴	4
情報環境学科におけるコース制について	6

第2章 学修案内

1 学籍と学費

学 籍	11
・ 学生証、学籍番号	11
・ 学籍について（休学、復学、退学、除籍、転学部、コース変更、再入学）…	12
学 費	15
・ 納入金額、学費納入方法、納入期限、延納手続	15

2 卒業までの学修

（入学年度別） ＊入学年度毎に条件等が異なるので注意してください

卒業

- ・ 卒業の要件
- ・ 授業科目配当表

入学年度	卒業の要件	授業科目配当表	カリキュラム変更に伴う再履修・事前履修条件・履修履歴について	カリキュラムマップ
2016(平成28)年度～ 2011(平成23)年度	23	27	42	43
2010(平成22)年度以前	53	57	64	

（共通部分）

卒業見込み・早期卒業・飛び級

・ 卒業見込み	69
・ 早期卒業	70
・ 飛び級について	71

試験と成績

・ 試験	72
・ 不正行為	72
・ 成績	72
・ G P A制度	74

・ 退学予備勧告・退学勧告	74
3 授業と履修	
授 業	77
・ 授業時間	77
・ 休講・補講・授業予備日	77
・ 授業への出席／欠席届	78
・ 授業担当教員	79
・ クラスと学生アドバイザー	79
・ オフィス・アワー	79
・ 配当期	80
・ 集中講義・エクステンションプログラム科目	80
履 修	81
・ 履修計画	81
・ 履修申告、履修申告の流れ	82
・ 履修制限について	84
・ 科目履修における事前履修条件	84
・ 「基礎プロジェクト」科目の着手条件	85
・ 「卒業研究・開発型プロジェクト」科目の着手条件	85
・ 再履修、他学部等の履修等	86
・ 単位認定	86
・ 履修科目の保留の扱い（科目保留）	87
4 その他・学修に関すること	
学習サポートセンター	91
英語で開講する素養科目の取扱いについて	92
TOEIC高得点学生に対する単位認定	94
5 免許・資格	
・ 教職課程	97
・ 建築士の受験資格・インテリアプランナーについて	115
第3章 学生生活	
1 学生生活について	
学生生活について	125
・ 掲示板、学生ポータルサイト等の確認	125
・ 守って欲しいこと	125
・ 気をつけて欲しいこと	127
通学について	128

・通学定期乗車券について	128
・スクールバスについて	128
・千葉ニュータウンキャンパスにおける自動車、オートバイ等の車両通学	128
奨学金	130
・本学独自の奨学金	130
特別奨学金	130
東京電機大学学生応急奨学金	130
東京電機大学学生サポート給付奨学金	131
大学院進学特別奨学金	131
東京電機大学学生救済奨学金	131
東京電機大学学生支援奨学金	132
東京電機大学校友会奨学金	132
・日本学生支援機構奨学金	132
・各種団体による奨学金	133
こんなときどうする	134
・事故にあったとき	134
学生教育研究災害傷害保険	134
学研災付帯賠償責任保険	135
・学生への連絡	135
・学割証	135
学割証の発行条件	135
学割証利用上の注意	135
・短期貸付金	136
・貸口ッカー	136
・遺失物、拾得物	136
・アルバイト	136
・賃貸アパートの紹介	138
・課外活動	138
学外活動をおこなう場合	139
学内集会をおこなう場合	139
施設利用	139
・学生団体（一覧表）	141
学生相談、健康管理	142
・学生相談	142
・健康相談	142
・健康診断	142
留学、海外研修	143
・留学・海外語学研修の種類	143
・留学・海外語学研修への参加にあたり	144

国際センターについて	144
・国際センター、千葉ブランチ	144
校友会	144
後援会	146
ストップ！ハラスメント	147
 2 インフォメーション	
大学から学生への連絡、通知	153
・掲示板	153
・学生ポータルサイト	154
情報環境学部事務部	156
・窓口取扱	156
・証明書発行機	157
・各種証明書	157
・届出および願出	159
総合メディアセンター	161
・利用にあたっての注意事項	161
・利用案内	161
・ITサービス	162
・図書サービス	165
・総合メディアセンター（千葉NT）Webサイト	168
・お問い合わせ窓口	169
 3 進 路（就職・大学院への進学）	
就 職	173
大学院への進学のすすめ	177
科目等履修生	182
 第4章 資 料	
東京電機大学学則	185
東京電機大学情報環境学部規則	197
学生生活についての規程	203
試験に関する細則	206
部室使用に関する内規	208
特別奨学生規程	210
東京電機大学学生救済奨学金貸与規程	211
東京電機大学学生応急奨学生規程	213
東京電機大学学生サポート給付奨学生規程	214
東京電機大学大学院進学特別奨学金規程	216

東京電機大学学生支援奨学金貸与規程	218
東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン	220
沿 革	222
大学の教育・研究組織、大学・学部・学科（大学院・専攻）の英文名称 ...	226
情報環境学部の教員組織	227
千葉ニュータウンキャンパス施設案内	229
・門 扉	229
・教育研究施設	229
・学生厚生施設	229
・その他の施設	229
千葉ニュータウンキャンパス案内図	230
千葉ニュータウンキャンパス校舎平面図	231
校歌	246
学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み	247
個人情報の取扱いについて	247
ホームページ	248
大学キャンパス所在地	249
（公財）大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について	249

TDU ST&E 東京電機大学
情報環境学部

2017 学生要覧

index



第1章 建学の精神、教育・研究理念等

第2章 学修案内

2016(平成28)年度入学生
～2011(平成23)年度入学生

2010(平成22)年度以前入学生

第3章 学生生活

第4章 資 料

第1章

建学の精神、
教育・研究理念等

建学の精神、教育・研究理念等

○本学の建学の精神

「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

○本学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基いた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

○情報環境学部での学位授与の方針

本学部に4年以上在学し所定の単位を修得して、以下の能力を身につけたと判断された者に学士（情報環境学）の学位を授与します。

- （DP1）情報技術や工学の教養をもつとともに、学際領域にも適応可能な人材（技術者・設計者）であること。
- （DP2）自ら課題を発見し、論理的思考のもと、問題解決方法を提案できる人材であること。
- （DP3）多様な価値観を理解するとともに自らの考えを表現できるコミュニケーション能力をもつこと。

○情報環境学部の教育課程編成・実施の方針

本学部の教育理念に基づく特色ある教育を実施するため、以下の方針により教育課程を編成し、実施します。

- （1）情報技術基礎から専門への履修を促すことによる理解力向上（コース専門課程の基盤となる基礎基幹科目を1～4セメスターに、コース基幹科目を5～8セメスターに配置して、十分な基礎学力を獲得した上で専門課程を履修するように配慮する。）
- （2）コース毎の専門性の習得（コース専門課程では、幅広い分野の知識、能力をバランスよく身につけさせるために、コース基幹科目を3つの科目群に分け、そのうちの2つの科目群について8単位以上修得させる。）
- （3）学際的な知識を涵養するための幅広い専門性の習得（コースの枠を越えた幅広い専門知識を身につけさせるために、他コースの専門科目を、コース一般科目として位置づけ、幅広い履修を促す。）
- （4）体験により知識を習得し、技術者・設計者としての教養を育成（プロジェクト科目を中心にした科目を導入する。）

情報環境学部の特徴

情報環境学部は、21世紀の情報化社会で活躍する人材を育成することを主たる目的としています。分野としてはコンピュータネットワークと情報技術に関連する学際領域を学修する学部です。21世紀の重要な課題を探究する本学部の大きな特徴の一つは、日本で初めての試みと思われる教育方法です。その根底には、自主・自立の精神と国際化対応力、そして想像力豊かな人材を育成するという願いがあります。

なお、本学部・学科では、人材養成及び教育研究において、以下を目的にしています。

○本学部の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的

情報環境学部は、個々の学生がそれぞれの能力に応じ、それぞれの興味・関心を伸ばす「個別重視型教育」を通じて、将来にわたって情報技術の変遷に適応し、社会に貢献する能力を備えるための基礎学力と、本質を理解して広い視野に立って自らの進むべき方向を判断・選択する基礎能力を育成する。また、本学部は、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成する。

○情報環境学科における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的

情報環境学科は、情報、人間、システム、コミュニケーションの分野において専門性を十分に発揮できる情報技術に関する基礎能力を修得させることを目的とする。また、本学科は、急速な技術変革が常在化している情報社会において、技術の本質を見抜き、問題発見と解決能力を有し課題に的確に対処し、広い視野にたって21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成する。

次に、本学部の代表的な教育の特色を列挙し、その背景などを以下に説明します。

1 学年制を無くし単位制とします。つまり1年生や2年生という考えはありません。

努力次第で定められた条件を満たせば3年間で卒業し、大学院へ進学あるいは社会で活躍する可能性もあります（これを早期卒業の制度といい、詳細は別に説明してあります）。この制度の重要な意味は、個々の学生に応じたペースで納得の行く学修が可能であるということです。本学部に学ぶ学生は、それぞれに適したカリキュラムにしたがって社会で通用する能力を得ることができるよう工夫されています。

2 必修科目を無くし、事前履修条件により無理のない系統立てた学習が可能です。

事前履修条件は、ある科目を学習するために必要となる科目を明確にするためのものです。ある科目を履修するために必ず事前に学習しておかなければならない科目を事前履修条件の科目といい、この条件により科目履修の組み立てを行います。これらは入学直後の約1週間にわたって行われる「カリキュラム計画」の授業において、具体的な指導があります。

3 セメスター制(学期制)とGPA(Grade Point Average)を導入した教育を行います。

春セメスター（前学期）は4月1日から8月31日まで、秋セメスター（後学期）は9月1日から翌年の3月31日までです。春セメスターの授業は4月から7月下旬、秋セメスターの授業は9月から1月中旬まで行われ、3月は、自主性によるリフレッシュ期間で、エクステンションプログラムなどが多数用意されています。

GPAは履修したすべての科目から平均として1単位あたりの成績がどの程度になっているかを示す指数です。最高が4.000で最低が0です。この値が一定水準以下の状態が2セメスター、つまり1年間続いた場合は個人指導を受け、さらに学習意欲が認められない場合は退学が勧告されることもあります。セメスター期間中の学修はすべてに優先すると考えて努力しなければなりません。

4 国際化対応力を重視する英語教育を実施します。

英語は基本的に30人前後のクラス編成でTOEICをベースにした実用英語に特化しています。英語に自信のない学生、十分な実力を持っている学生、それぞれの学力に応じた英語教育が受けられるよう細心の工夫が盛り込まれています。

5 授業料は単位従量制を導入しています。

本学部の授業料は、履修した単位数に応じて支払う仕組みになっています。したがって、十分な計画の下に科目の履修を行うことが重要です。個人にとって興味も必要性も感じない科目をいたずらに履修しないよう注意すべきです。履修した以上は最後まで最大限の努力を惜しまないことが大切です。

6 産学協力によるブラクティカル・テクノ(実習)教育の実施を重要視しています。

プロジェクト関連科目は、企業、官庁、教員等から提案されたテーマを解決することを通して、擬似社会体験が与えられます。

7 高校までの教育との接続を重視した導入教育の実施を行います。

導入教育の一つの科目として「カリキュラム計画」がありますが、これは大学に入学した時点で将来の目標を考え、それに応じた卒業までの時間割を作成するというものです。作成した時間割は各セメスターの始めに各自が修正し、再確認した目標の時間割に作り直すことにより、絶えず目標を定めた学修を続ける効果を期待しています。なお、この科目では、高校までに学んだ基礎的な内容を基にそれを高度なものへ発展させる過程を通じて、大学で学修する方法をつかんでもらうことを目的にしています。

以上、いくつかの代表的な本学部の教育の特色について説明しましたが、最初に述べたように、本学部の特色の一つである「自主・自立の精神」に則り、皆さんは自らの進路、目標を決めていくことが必要となります。決断のためには、しばしば多くの情報、あるいは教職員、先輩達の助言が必要となる場合があります。そのために、教職員は皆さんの疑問に対応するために最大限の努力をします。皆さんの質問の山は、やがて本学部の宝となるはずです。躊躇することなく話し合える学部であることを、まず最初に認識してください。

情報環境学科におけるコース制について

情報環境学科では、情報環境学に関する様々な専門科目と素養科目を通して、独創性、創造性、起業家的マインドに富んだ問題発見とその解決能力を有し、社会環境に優しい情報関連技術者を育成することを目的としています。

情報環境の基盤整備の基礎部分として、情報基礎関係科目、プログラミング関係科目、数学関係科目、英語関係科目をベース科目として指定し、基礎能力を養成します。

【コース制】

「情報環境学科」では、コース制を採用しており、重複領域を持たせた連携により情報関連の新分野の創生をも目指すことを目的としています。

2010(平成22)年度以前入学生

(1) ネットワーク・コンピュータ工学コース (JN)

ネットワーク、コンピュータ、プログラミングの3つのコアがあり、それに係る情報工学・情報基盤系の分野の専門教育科目を配置しています。

(2) 先端システム設計コース (JA)

ウェブシステム、マルチメディアシステム、ロボティクスの3つのコアがあり、それに係る先端的なシステム情報系の分野の専門教育科目を配置しています。

(3) メディア・人間環境デザインコース (JM)

医療・福祉工学、映像・音響メディア、建築・都市デザインの3つのコアがあり、それに係る人間情報学・人間環境学系の分野の専門教育科目を配置しています。

(4) コミュニケーション工学コース (JC)

「わかりやすい」「使いやすい」モノをどう作るか？情報社会で人と人をどうつなぐか？をテーマに。インタフェースデザイン、メディア処理などの工学的な学問とユーザの視点、人の心理に基づく人文的な学問を学びます。

2011(平成23)年度以降入学生

(1) ネットワーク・コンピュータ工学コース (JN)

情報化社会を支える技術者になるために、ネットワーク、コンピュータ、プログラミングの3つの技術について学びます。

(2) デジタル情報工学コース (JD)

音響・画像システム、医用・福祉システムを設計し、目に見える形で実現させ、デジタル情報を活用し、社会に貢献する有益なシステム設計開発を学びます。

(3) 建築デザインコース (JS)

建物や街などのリアルな環境をデザインする「建築」と、バーチャルリアリティの技術を建築やものづくりに活かすとともに、リアルな空間をつくる知識・技能を応用して魅力的なバーチャル空間を創造する「バーチャル環境デザイン」を学びます。

(4) コミュニケーション工学コース (JC)

人にわかりやすいモノづくりのためのマルチメディア技術、使いやすさのデザイン工学、それらの基礎となる人間科学を学びます。

第2章

第2章
学修案内

学 修 案 内

第2章

学 修 案 内

1 学籍と学費

第2章
学修案内

学 籍

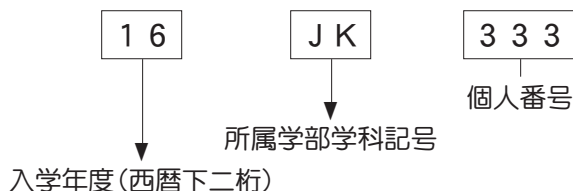
1 学生証について

学生証はプラスチック製カードでできています。この学生証は、ＩＣカードで多くの機能を持っています。例えば、通学定期券の購入、各種証明書の発行、図書の貸出しの他に、夜間の建物への入退室時に開錠・施錠を行う鍵として、また、Ｗｅｂページの個人情報表示などを利用する際に必要です。皆さんのパスポートですから常に携帯してください。また、卒業するまで使用することになりますので、大切に取り扱いってください。万一、学生証を紛失したときは、直ちに近くの警察署や交番へ届けるとともに、事務部で速やかに学生証再発行（有料）の手続きを取ってください。（関連 P. 158）

なお、退学、除籍の場合は学生証を直ちに返納してください。（関連 P. 13）

2 学籍番号

学生証に記入された7桁の数字・記号を学籍番号といいます。



所属学部学科記号

・情報環境学部 情報環境学科 …………… JK

個人番号（2007年度以降入学者）

4月 新入学者	9月 新入学者	転学部	転学科	編入学				外国人特別学生		外国人特別編入学				企業 依託 学生	再入学	
				3年次相当へ		2年次相当へ				3年次相当へ		2年次相当へ				
				4月入学	9月入学	4月入学	9月入学	4月入学	9月入学	4月入学	9月入学	4月入学	9月入学			
001～	901～	401～	451～	501～	951～	551～	961～	601～	971～	651～	981～	671～	986～	701～	751～	991～

個人番号（2006年度以前入学者）

4 月 新入学者	9 月 新入学者	転学部	転学科	編 入 学				外国人 特 別 学 生	外国人 特 別 編入学	企 業 依 託 学 生	再 入 学
				3 年次相当へ		2 年次相当へ					
				4月入学	9月入学	4月入学	9月入学				
001～	281～	301～	391～	401～	431～	451～	481～	351～			491～

3 学籍について

皆さんは、入学により本学の学生になりますが、病気・事故などのためにやむなく休学しなければならないことや、どうしても退学せざるを得ない事態も起こってくるかもしれません。そのようなときには、事務部に相談の上、下表のような適切な手続きを行ってください。詳細は、各項目を参照してください。

学籍に関する手続の方法一覧（詳細は、各項目を参照）

種類	必要書類	学生アドバイザーとの面談	期 限	備 考
休学	休学願 診断書※1	必要	前学期5月末日 後学期10月末日 ※2	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人、保証人とも自署が必要 ● 在籍料は、学期毎に60,000円が必要 ● 休学できる期間は、許可を受けた学期のみ
復学	復学願	必要	履修登録前に 手続完了	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人、保証人とも自署が必要 ● 復学の時期は原則として学期始め
退学	退学願 学生証 診断書※1	必要	前学期5月末日 後学期10月末日 ※2	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人、保証人とも自署が必要

※1 診断書 …… 病気、ケガによる場合は医師の診断書が必要です

※2 履修登録をしていない場合に限る（履修登録後の遡っての休学・退学は原則として認められません）

（1）休学

病気、ケガ、その他やむを得ない理由により、ひき続き3ヶ月以上の欠席を必要とする場合は、休学をすることができます。休学できる期間は、許可を受けた学期のみです。ただし、特別な事情があると認められた場合は、願い出により、休学期間の延長を許可することがあります。休学期間は、通算して3年をこえることはできず、在学年数にも算入されません。詳細については事務部に問い合わせてください。

手続きの方法

- ①事務部で「休学願」を受け取る。
- ②学生アドバイザーと面談をする。
- ③「休学願」「通学キャンパス変更に係る承諾書」に本人と保証人が自署捺印をする。
- ④必要書類を事務部に提出する。（病気・ケガの場合は、医師の診断書が必要）
- ⑤在籍料として、60,000円を納入する。
- ⑥休学許可通知が郵送される。

※平成30年4月に通学キャンパスが千葉ニュータウンキャンパスから東京千住キャンパスへ変更することも十分理解した上で休学の申請を行ってください。

(2) 復学

休学の理由がなくなったときは、復学の手続きを行ってください。ただし、復学できるのは原則として学期の始めです。詳細については事務部に問い合わせてください。

手続きの方法

- ①事務部で「復学願」を受け取る。
- ②学生アドバイザーと面談をする。
- ③「復学願」に本人と保証人が自署捺印をする。
- ④「復学願」と「学費振込領収書」を事務部に提出する。
- ⑤復学許可通知が郵送される。

(3) 退学

病気・ケガ、その他やむを得ない理由により、退学を希望する場合は、「退学願」を提出してください。詳細については事務部に問い合わせてください。

手続きの方法

- ①事務部で「退学願」を受け取る。
- ②学生アドバイザーと面談をする。
- ③「退学願」に本人と保証人が自署捺印をする。
- ④「退学願」と学生証を事務部に提出する。(病気・ケガの場合は、医師の診断書が必要)
- ⑤退学許可通知が郵送される。

(4) 除籍

次のいずれかに該当する者は、除籍となります。

- ①最長在学年数（8年）をこえた者 ※
- ②通算3年の休学期間をこえてなお復学しない者
- ③正当な理由がなく、無届で、ひき続き3ヶ月以上欠席した者
- ④前学期分については7月15日、後学期分については12月15日までに学費を納入しない者

- ・学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者も除籍の対象となる場合があります。
- ・著しく大学の名誉を傷つける行為を行った者も除籍の対象となる場合があります。

※編入学、転入学、再入学者は、在学すべき年数の2倍に相当する年数となります。

(5) 転学部

主に進路変更等の理由により転学部を願い出た場合、受け入れ先の学科・学系の定員に余裕があり、学業上も正当な理由があると判断された場合に限り、選考の上、許可するこ

とがあります。11月から12月末までに学生アドバイザーや学科長、事務部に相談してください。

なお、転学部を希望する場合の出願資格は次の通りです。

第2年次編入

第1年次終了時に36単位以上修得見込みであること。

第3年次編入

第2年次終了時に60単位以上修得見込みであること。

また、希望する学部（学科）において、単位修得済みの指定科目がある場合は、それを修得済みであること（掲示等を参照のこと）。

（6）コース変更

所属コースの変更は、学業上の正当な理由により願い出た上で、適切と認められた場合に限り、許可することがあります。安易なコース変更は認められません。学期開始時の履修指導の際に、学生アドバイザーに相談してください。

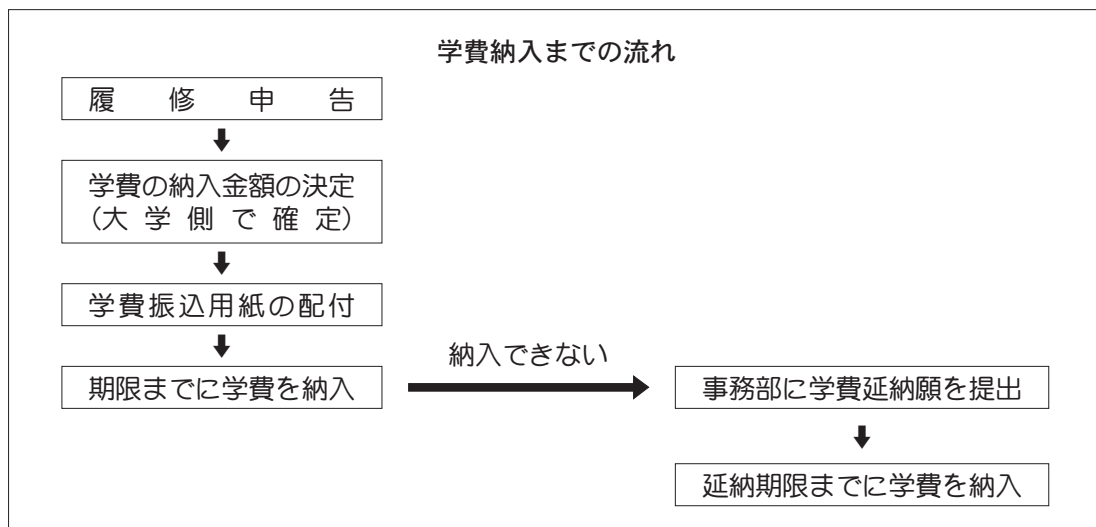
（7）再入学

本学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがあります。詳細は入試センター（東京千住キャンパス・TEL 03-5284-5151）に相談してください。

なお、懲戒による退学者は再入学が認められません。

学 費

本学部の学費は、履修する単位数によって納入金額が決まる単位従量制となっています。以下の学費納入までの流れを理解して、手続きをしてください。



(1) 「学費振込用紙」の配付方法

宛 先：経理部より保証人（父母等）宛に郵送します。

時 期：在学生については、前学期分を5月中旬、後学期分を10月中旬に郵送します。

(2) 納入金額

下表のとおり本学部の学費は、授業料（基礎額及び履修単位従量額）並びに教育充実費からなっています。履修単位従量額は、履修する単位数に応じた金額を納入するため、学生個々で納入金額が異なります。

※この他に受託諸会費が必要になります。

前 学 期			後 学 期		
授業料	基 礎 額	274,500	授業料	基 礎 額	274,500
	履修単位従量額	15,700×単位数		履修単位従量額	15,700×単位数
教 育 充 実 費		141,250	教 育 充 実 費		141,250

(3) 納入方法

学費は、経理部から送付される本学所定の「学費振込用紙」により、銀行等から振り込むことになっています。学費は前学期・後学期ごとに一括して納入します。

- 重要**

 - 「学費振込用紙」を使用し、銀行等から振り込む
 - 前学期・後学期ごとに一括納入する

※ATMやネットバンキングからの振込は、必ず「学籍番号」「学生カナ氏名」「金額」を正確に入力して下さい。

(4) 納入期限

学費の納入期限は、下表のとおりです。

区 分	前 学 期	後 学 期
納入期限	5 月末日※ 1	10月末日※ 1
備 考	新入生は入学時納入済※ 2	

※ 1 納入期限が金融機関の休日にあたる場合には、翌営業日が納入期限となります。

※ 2 履修単位従量額を除く。

(5) 延納手続

経済的理由および特別な理由により学費を期限内に納入できない場合は、以下の方法で「学費延納願」に記載の提出期限までに手続きを行ってください。部分的な金額（授業料基礎額のみ、2 単位分の金額のみなど）の延納は認めておりません。なお、延納が許可される期限は前学期が 6 月末日、後学期が 11 月末日までです。

手続きの方法

- ①事務部にて、「学費延納願」を受け取る。
 - ②「学費延納願」に、延納の具体的事由、延納金額、本人と保証人の署名・捺印後、事務部に提出する。「学費延納願」に記載の提出期限厳守。
↓ 延納が許可される期限は、前学期が 6 月末日、後学期が 11 月末日まで。
延納期限までに、学費を納入する。

(6) その他の注意

- 学費が所定の手続きを経ず未納の場合は、学則により除籍となりますので、十分注意してください。（関連 P. 194参照）
- 休学者については、各学期ごとに在籍料（60,000円）の納入が必要となります。（関連 P. 193参照）
- 「学費振込用紙」は予め印字されています。印字されている保証人（父母等）の住所・氏名等は、入学手続の際、提出された書類に基づいています。保証人の住所・氏名等に

変更が生じた場合、振込用紙が正しく送付されませんので、必ず変更届を事務部に提出してください。(関連 P. 159参照)

- 「学費振込用紙」を紛失した場合は、経理部（会計担当）で再交付の手続きをとってください。

※「学費振込用紙」の再交付は、電子メールでの手続きが可能です。

⇒経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

第2章

学 修 案 内

2 卒業までの学修

第2章
学修案内

※本項目は、入学年度毎の部分（卒業の要件・授業科目配当表）と共通部分に分かれていますので、注意してください。

■入学年度毎の部分

2016（平成28）年度～2011（平成23）年度入学生

- 卒業の要件
 - ・2016（平成28）年度～2011（平成23）年度入学生……P. 23～P. 26
- 授業科目配当表
 - ・2016（平成28）年度～2011（平成23）年度入学生用……P. 27～P. 42
- カリキュラムマップ……P. 43～P. 50

2010（平成22）年度以前入学生

- 卒業の要件……P. 53～P. 56
- 授業科目配当表……P. 57～P. 65

■共通部分……P. 69～P. 74

2 卒業までの学修（入学年度別）

2016(平成28)年度～ 2011(平成23)年度入学生用

- 卒業の要件
 - ・ 2016（平成28）年度～2011（平成23）年度入学生
- 授業科目配当表
 - ・ 2016（平成28）年度～2011（平成23）年度入学生用
- カリキュラムマップ

卒 業

1 卒業の要件

本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみたすことが必要です。

(1) 卒業条件

- ①卒業するために必要な下記の単位数（卒業所要単位数）以上を修得していること。
- ②合計4年以上（8年以内、但し、休学期間は除く）在学していること。
（4年未満で卒業する早期卒業生に対しては、早期卒業のページで説明します。）
- ③卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
- ④卒業判定時に休学していないこと。
- 情報環境学部においては、次の条件を満たし、124単位以上を履修し、修得しなければならない。

卒業所要単位数

区	分	単 位 数
共 通 教 育 科 目	導 入 ・ リ テ ラ シ ー 科 目	2単位
	素 養 科 目	36単位
	英 語 科 目 ※1	
専 門 教 育 科 目	基 礎 基 幹 科 目 ※2	74単位
	コ ー ス 基 幹 科 目 ※3	
	コ ー ス 一 般 科 目	
	数 学 系 科 目	
	演 習 ・ プ ロ ジ ェ ク ト 科 目	
任 意 に 選 択 し、 修 得 し た 科 目		12単位
合 計		124単位

- ※1 英語科目は、8単位以上修得しなければならない。
- ※2 基礎基幹科目は、14単位以上修得しなければならない。
- ※3 コース基幹科目は、各コースに設定された複数の科目群のうち、少なくとも2つの科目群において、各8単位以上修得しなければならない。

自由科目の単位は算入されません。

(2) 学位の授与

情報環境学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

情報環境学科 …………… 学士（情報環境学）

2 単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の1単位は、45時間（授業時間および自学自修の時間を合わせて）の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。

各授業科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により定めます。

1. 講義および演習については、15時間の授業をもって1単位としています。
2. プロジェクト及び実験・実習科目については、30時間の授業をもって1単位としています。
3. 卒業研究等については、学修の効果を考慮して単位数を定めています。

3 科目区分

[1] 共通教育科目

(1) 導入・リテラシー科目

入学年次の学生に対し、約1週間の「カリキュラム計画」（担当教員と学生が個々に相談しながら、各セメスター、および卒業までのセメスターの履修計画を立てていく）、「ワークショップ」（物の安全性、機能性、経済性、審美性などを考慮し、もの作りの喜びを体得する）を実施し、各々の学生が本学部へ入学した意義、目標、学習方法などを明確にします。「カリキュラム計画」と「ワークショップ」の2つの科目を合わせて「導入教育科目」と呼んでいます。また、専門分野の学習に不可欠な「コンピュータリテラシー」「技術日本語表現法（平成26（2014）年度以降入学学生のみ）」が用意されています。この導入・リテラシー科目から最低2単位を履修し、修得しなければなりません。

(2) 素養科目

「人文科学」「社会科学」「自然科学」等の分野から構成されています。社会人として必要な教養を身につけ広い視野と柔軟な思考力を養う分野、技術者として必須となる実用的な内容を含んだ知識を身につけるための分野、また工学を学ぶ最も基礎となる分野などの授業を行います。

(3) 英語科目

技術者にとって、国際社会で情報収集・情報発信するために英語の重要性は増えています。英語によるコミュニケーション能力の養成のため、実用的な英語能力（読む・書く・話す・聞く）の向上を目的とした授業を行います。

「素養科目」と「英語科目」を合わせて36単位以上、そのうち「英語科目」は8単位以上履修し、修得しなければなりません。

〔2〕専門教育科目

（1）基礎基幹科目

全コース共通の科目です。本学部の教育の基礎として必要な科目、および各コースの専門科目の履修の前提として履修すべき科目です。情報処理に関する基礎的な内容、コンピュータの構成、プログラミングの基礎からある程度の応用まで、学修が進むにしたがって必要となる専門基礎的な内容の授業を行います。

（2）コース基幹科目

各コースで設定が異なります。コースにおいて専門的に学修すべき科目で構成されており、各コースが目指す人材を養成することを目的とした授業を行います。コース基幹科目には、専門分野において系統だった履修を支援するため、複数の科目群が設定されています。

●ネットワーク・コンピュータ工学コース

ネットワーク工学、コンピュータ工学、プログラミング等に係る情報工学・情報基盤系の分野の科目を配当することにより、専門性の高い技術者の育成を目指します。

科目群：「ネットワーク科目群」「コンピュータ科目群」「プログラミング科目群」

●デジタル情報工学コース

デジタル情報を活用し、音響・画像システム、医用・福祉システム等を設計開発する分野の科目を配当することにより、専門性の高い技術者の育成を目指します。

科目群：「音響・画像科目群」「バーチャルリアリティ科目群」「システム・医用科目群」

●建築デザインコース

建物や街を設計する実体のある建築づくりを学ぶ科目と、建築やものづくりにも活用されるバーチャルリアリティ技術を学ぶ科目を配当することにより、リアルとバーチャルの両面におけるデザインの専門技能を身につけた専門性の高い技術者の育成を目指します。

科目群：「建築計画科目群」「建築技術科目群」「バーチャルリアリティ科目群」

●コミュニケーション工学コース

分かりやすいデザイン科学、人と機械をつなぐインタフェース技術、人間の心理や社会についての人間科学の分野の科目を配当することにより、広い視野を持った専門性の高い技術者の育成を目指します。

科目群：「人間科学科目群」「メディア処理科目群」

（3）コース一般科目

各コースで設定が違います。専門性に特化した「コース基幹科目」に関連する専門知識として、また「情報環境学」の分野において学修することが望ましい専門科目で構成されています。

（4）数学系科目

情報処理を学修する上で重要な数学の科目で構成されており、「情報数学」「離散数学」等の授業を行います。

(5) 演習・プロジェクト科目

プロジェクト形式で幾つかの専門分野に関連する専門知識の吸収と実際の経験を積むことを目的とした科目で構成されています。

通常の講義のほか、徹底した演習、ディスカッションでの創作作業、さらに実験や演習などのレポート作成、プレゼンテーションなど、実学としての工学を身に付けるための授業を行います。

「専門教育科目」は、74単位以上履修し、修得しなければなりません。

ただし、「基礎基幹科目」は14単位以上、「コース基幹科目」は各コースに設定された複数の科目群のうち、少なくとも2つの科目群において、各8単位以上修得しなければなりません。

4 卒業判定と判定結果に基づく取扱いについて

【卒業判定】

卒業要件を満たした学生は「卒業判定合格者」として認定され、当該セメスターをもって卒業となります。

卒業判定は、当該セメスターの終了時（2月および8月）に行い、卒業判定の合格者を教育棟1階の掲示により発表します。※UNIPAでは公開しません。

《学業継続願》

卒業判定に合格した者が、引続き本学部の学生として学業の継続を希望する場合は、保証人と連署・押印の上、「学業継続願」を所定の期日までに提出し、学部長の許可を得ることにより、最長在学年限（8年）を限度に在籍することができます。

学業継続願は、定められた期間内に提出しなければなりません。

※学費の支払い義務が発生しますので、保証人と十分に相談し、希望を決定して下さい。

※平成32年8月の卒業判定時をもって、受付を終了します。

《卒業延期》

卒業判定の結果、条件を満たさなかった者は卒業延期となり、卒業条件を満たすまで、引続き学業に専念しなければなりません。

卒業条件を満たせず8年を超える場合は除籍となります。

5 通学キャンパスについて

本学では、千葉ニュータウンキャンパスに設置している大学院・大学（学部）を平成30年度4月より「東京千住キャンパス〔北千住駅東口駅前〕」へ移転する計画を進めております。従って、平成30年度4月以降に情報環境学部 に在籍する学生の通学キャンパスは、「東京千住キャンパス〔北千住駅東口駅前〕」となります。本キャンパス移転に伴う実施計画は、決定後、お知らせすることとなります。

2017(平成29)年度 情報環境学部 情報環境学科
授業科目配当表
(2016(平成28)年度入学生～2011(平成23)年度入学生用)

- 共通教育科目28
- ネットワーク・コンピュータ工学コース30
専門教育科目
- デジタル情報工学コース33
専門教育科目
- 建築デザインコース36
専門教育科目
- コミュニケーション工学コース39
専門教育科目

共通教育科目

区 分	授 番 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	自 由 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	備 考
					1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
リテラシー科目	I001	カリキュラム計画	1	○								(開講せず)	集中講義	
	I002	ワークショップ	1	○								(開講せず)	集中講義	
	I003	コンピュータリテラシー	2	○	○							【前学期】上野洋一郎、大島直樹	今年度後学期開講せず	
	I004	技術日本語表現法	2	○	○							【前学期】中野てい子	今年度後学期開講せず	
素 養 科 目	C001	自己表現法	2			前学期・後学期開講						川邊孝		
		自己表現法（留学生のみ）	2			後学期開講						興津正信、工藤理恵、松島調	留学生のみ対象	
	C002	歴史Ⅰ	2			前学期開講						佐藤純子		
	C003	歴史Ⅱ	2			後学期開講						佐藤純子		
		歴史Ⅱ（英語）	2			後学期開講						(開講せず)		
	C004	異文化理解	2			前学期開講						川邊孝		
		異文化理解（英語）	2			後学期開講						パロース・ジェイソン		
	C005	国際関係論	2			前学期・後学期開講						【前学期】小高康照	今年度後学期開講せず	
		国際関係論（英語）	2			後学期開講						小高康照		
	C006	人間と文化	2			前学期・後学期開講						佐藤純子		
	C007	欧米・アジア事情	2			前学期・後学期開講						笠井信幸		
		欧米・アジア事情（英語）	2			後学期開講						(開講せず)		
	C008	技術と経営	2					後学期開講				小松原進		
	C009	国際経営論	2			前学期・後学期開講						()		
	C010	時事問題	2					前学期・後学期開講				【前・後学期】佐藤純子 【後学期】川邊孝		
		時事問題（英語）	2					後学期開講				小高康照		
	C011	日本の経済事情と産業構造	2			前学期・後学期開講						【後学期】小高康照	今年度前学期開講せず	
	C012	都市文化	2				○						滋賀秀貴	
	C013	教育社会学	2					後学期開講				吉野剛弘		
	C014	国際経済学	2						後学期開講				笠井信幸	
	C015	中国語Ⅰ	2			前学期・後学期開講						晨熙		
	C016	中国語Ⅱ	2			後学期開講						晨熙		
	C017	情報化社会と職業	2					前学期開講				吉野剛弘、石田厚子 他		
	C018	法学（日本国憲法を含む）	2			後学期開講						頼松謙生、高田久実		
	C019	社会情報メディア論	2			前学期開講						田中雅子		
	C020	政治学	2			前学期開講						小高康照		
	C021	哲学	2			前学期開講						飯野由美子		
	C022	論理学	2					後学期開講				飯野由美子		
	C023	マーケティング論	2					後学期開講				()		
	C024	環境と経済	2					前学期開講				笠井信幸		
	C025	アジアの文化と社会	2					前学期・後学期開講				笠井信幸		
	C052	倫理学	2	○			○			○			飯野由美子	
	C026	心と体	2			後学期開講						加藤知己		
	C027	物理学A（力学）	2	○									宮原一紀	
	C028	物理学B（電気）	2		○								渡邊祐子	
	C029	トリムスポーツⅠ	2			前学期開講						木村憲		
	C030	トリムスポーツⅡ	2			後学期開講						木村憲		
	C031	ボランティア活動	2										根本幾	受付随時
	C033	東京電機大学で学ぶ	1	○									(開講せず)	e-Campus科目
	C034	基礎数学	3	○	○								【前学期】原民夫	今年度後学期開講せず
	C035	確率統計	3		○								鈴木秀一、塚田真、原民夫	
	C036	微分積分学	4	○	○								原民夫	事前履修条件 基礎数学
		微分積分学（英語）	4		○								(開講せず)	事前履修条件 基礎数学
	C037	線形代数	4	○	○								【後学期】根本幾	今年度前学期開講せず
		線形代数（英語）	4	○									(開講せず)	
	C038	図形プログラミング	2				○						新津靖	
	C039	日本語中級AⅠ（文法・語彙）	1	○									興津正信	留学生のみ
	C040	日本語中級AⅡ（文法・語彙）	1		○								(開講せず)	留学生のみ

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	自 由 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	備 考
					1 年 目		2 年 目		3 年 目		4 年 目			
					学生推奨	後学期	学生推奨	後学期	学生推奨	後学期	学生推奨	後学期		
素 養 科 目	C041	日本語中級BⅠ（聴解・口語表現）	1	○									（開講せず）	留学生のみ
	C042	日本語中級BⅡ（聴解・口語表現）	1		○								興津正信	留学生のみ
	C043	日本語中級CⅠ（読解）	1	○									（開講せず）	留学生のみ
	C044	日本語中級CⅡ（読解）	1		○								興津正信、松島調	留学生のみ
	C045	日本事情Ⅰ	2		○								興津正信	留学生のみ
	C046	日本語上級Ⅰ（文章表現）	1			○							興津正信	留学生のみ
	C047	日本語上級Ⅱ（文章表現）	1				○						松島調	留学生のみ
	C048	日本事情Ⅱ	2			○							興津正信	留学生のみ
	C049	日本事情Ⅲ	2				○						工藤理恵	留学生のみ※
	C051	日本事情Ⅳ	2					○					興津正信	留学生のみ※
（自由科目）	自由科目	幾何学Ⅰ	(2)										越川浩明	集中講義 隔年開講
	自由科目	幾何学Ⅱ （今年度開講せず）	(2)										越川浩明	集中講義 隔年開講
	自由科目	幾何学Ⅲ	(2)										田澤義彦	隔年開講 事前履修条件 基礎数学、線形代数
英 語 科 目	E001	基礎英語Ⅰ	2	○		○							相羽千州子	
	E002	基礎英語Ⅱ	2		○		○						相羽千州子	
	E014	初級英語Ⅰ	2	○		○							山村嘉雄	
	E015	初級英語Ⅱ	2		○		○						山村嘉雄	
	E016	中級英語Ⅰ	2			○		○					相羽千州子、ボシュ・エリック	
	E017	中級英語Ⅱ	2				○		○				相羽千州子、ボシュ・エリック	
	E009	技術英語	2			○	○	○	○	○	○		宮添輝美	
	E010	実践英語	2										【後学期】相羽千州子	
	E011	海外英語研修A	2										穴戸真	集中講義
	E012	海外英語研修B	2										穴戸真	集中講義
	E013	海外英語研修C	2										穴戸真	集中講義
	E018	上級英語Ⅰ	2			○		○		○			ボシュ・エリック	
	E019	上級英語Ⅱ	2				○		○		○		ボシュ・エリック	
	E020	初級英会話Ⅰ	2	○									相羽千州子	
	E021	初級英会話Ⅱ	2		○								相羽千州子	
	E022	中級英会話Ⅰ	2			○							相羽千州子	
	E023	中級英会話Ⅱ	2				○						相羽千州子	
	E024	初級英作文Ⅰ	2	○									宮添輝美、山村嘉雄	
	E025	初級英作文Ⅱ	2		○								宮添輝美、山村嘉雄	
	E026	中級英作文Ⅰ	2			○							バローズ・ジェイソン	
	E027	中級英作文Ⅱ	2				○						バローズ・ジェイソン	
	E028	上級英会話	2						○				（開講せず）	隔年開講
	E029	上級英作文	2						○				（開講せず）	隔年開講
	C003	歴史Ⅱ（実践英語）	2										（開講せず）	
	C004	異文化理解（実践英語）	2										バローズ・ジェイソン	
	C005	国際関係論（実践英語）	2										小高康熙	
	C007	欧米・アジア事情（実践英語）	2										（開講せず）	
	C010	時事問題（実践英語）	2										小高康熙	
	C036	微分積分学（技術英語）	2		○								（開講せず）	事前履修条件 基礎数学
	C037	線形代数（技術英語）	2	○									（開講せず）	

【注意事項】

- ・「技術日本語表現法」は平成26年度以降入学生のみ履修が可能です。平成25年度以前入学生は履修できません。
- ・自由単位(自由科目)は卒業所要単位数に含まれません。教職課程履修者は教職ガイダンスの指示に従って履修して下さい。
- ・科目名最後にある(英語)(実践英語)(技術英語)は、「英語で開講する素養科目の取扱について」を参考にして下さい。
- ・「ボランティア活動」の受付は随時となります。詳細は別途掲示します。
- ・「微分積分学」の事前履修条件科目は「基礎数学」です。ただし、入学時の数学基礎学力調査で一定以上の成績を修めた学生については、事前履修条件を満たしているものとします。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示等に注意して下さい。
- ・海外英語研修は、研修回数に応じて、1回目の研修が「海外英語研修A」、2回目の研修が「海外英語研修B」、3回目の研修が「海外英語研修C」に単位認定されます。なお、すでに大学名の入った科目名で単位認定されている場合は、個別対応します。
- ・※「日本事情Ⅲ」「日本事情Ⅳ」は、平成27年度以前入学者のみ配当する。

ネットワーク・コンピュータ工学コース 専門教育科目

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件	
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨				
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期			
基 礎 基 幹 科 目	K001	情報処理の基礎	2	○	○							【前学期】 築山俊史	今年度後学期開講せず	
	K002	コンピュータプログラミングA	4		○	※○						【前学期】 堤智昭	今年度後学期開講せず	
	K003	コンピュータプログラミングB	4			○	※○					【前・後学期】 大島正毅 【前学期】 土肥紳一、宮川治、 小濱隆司、堤智昭	コンピュータプログラミン グA	
	K004	システムプログラム／OS	3			○						酒井元気		
	K005	エレクトロニクスA	4		○							上野洋一郎		
	K006	エレクトロニクスB	3			○						宮原一紀、川勝真喜	微分積分学、物理学B	
	K007	ディジタル信号処理	3				○	○				【前学期】 島田尊正 【後学期】 斎藤博人	情報数学Ⅰ、線形代数	
	K008	空間表現法・演習	4	○								伊藤俊介、江川香奈		
	K009	CAD	4			○						遠藤義則		
	K010	コミュニケーションデザイン概論	2	○								武川直樹、青木良輔		
	K011	社会心理学	3		○							日根恭子		
	K013	情報倫理と技術者倫理	2	○		○						石田厚子		
	コ ー ス 基 幹 科 目	ネット ワーク 科目群	S001	情報通信リテラシー	2	○	○						【前学期】 佐野裕康	今年度後学期開講せず
S003			インターネット総論A	2			○						小林浩、佐野香	情報処理の基礎
S004			インターネット総論B (情報倫理と知的財産)	2				○					小林浩、佐野香	インターネット総論Aまた はコンピュータネットワーク
S007			コンピュータネットワーク	3				○					宮保憲治、八横博史	情報通信リテラシー
S009			ネットワークセキュリティ	3				○					小川猛志、八横博史	情報通信リテラシー
S014			情報圧縮	2					○				武川直樹	情報処理の基礎、情報数学Ⅰ
S018			モバイルコンピューティング	2						○			小林浩、佐野香	インターネット総論Bまた はコンピュータネットワーク
S002			アセンブリ言語	2		○							大島直樹	
コンピ ュータ 科目群		S006	コンピュータ構成	2			○						上野洋一郎、福岡久雄	情報処理の基礎
		S010	データベースシステム	3				○					大山実、和田雄次、石田厚子	情 報 処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA
		S013	並列処理	2					○				平山秀昭	コンピュータプログラミン グA、情報数学Ⅰ
		S017	高度データベースシステム	2					○				和田雄次	データベースシステム
		S019	分散リアルタイムシステム	3				○					福岡久雄	コンピュータプログラミン グA
		S034	ニューラルネットワーク	2						○			島田尊正	情報数学Ⅲ
		S005	データ構造とアルゴリズム	2			○						金子博、林善士	情報処理の基礎
プロセ ッシング 科目群		S008	離散数学	2				○					金子博	計算機数学
		S011	C言語システムプログラミング	3				○					冬瓜成人、堤智昭、紫合治	コンピュータプログラミン グA
		S012	ヒューマンインタフェース	2					○	○			【前学期】 大山実 【前・後学期】 徳永弘子	コンピュータプログラミン グA
		S015	データマイニング	2					○				和田雄次	データベースシステム
		S016	オブジェクト指向設計	2					○				宮川治	コンピュータプログラミン グB
		S020	ソフトウェア工学	2						○			阿部清彦	情 報 処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA
	S021	ディジタル計測工学	3				○					宮原一紀	エレクトロニクスB	
	S022	生体情報工学	2				○					根本幾	微分積分学、確率統計、物 理学B	
コ ー ス 一 般 科 目	S023	シミュレーション	2			○						斎藤博人	微分積分学、コンピュ ータプログラミングA	
	S024	生体計測工学	2					○				鈴木真	エレクトロニクスB	
	S025	センサー工学	2					○				中田毅	線形代数、エレクトロニク スB	
	S026	コンピュータグラフィックス	2					○				柴田滝也	コンピュータプログラミン グA、線形代数	
	S027	遠隔システムと制御	3					○				中田毅	線形代数、エレクトロニク スB	
	S028	音響工学A	3					○				渡邊祐子	物理学A	
	S029	音響工学B	2						○			伊勢史郎	ディジタル信号処理	
	S030	感性工学	2			○						渡邊祐子		

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目		2 年 目		3 年 目		4 年 目			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
コ ー ス 一 般 科 目	S060	視覚のデジタル処理	3						○		武川直樹	デジタル信号処理または 情報圧縮	
	S032	信号処理応用	2					○			斎藤博人	デジタル信号処理	
	S033	医療情報工学	2						○		鈴木真	コンピュータプログラミング A	
	S035	人工知能	2						○		築山俊史	情報処理の基礎、離散数学、 コンピュータプログラミング A	
	S036	バーチャルリアリティ	2						○		遠藤義則		
	S037	基礎マルチメディア工学	3				○				渡邊祐子	情報処理の基礎	
	S038	ヒューマンメディア	2						○		柴田滝也		
	S039	C Gアニメーション	4							○	遠藤義則	C A D	
	S040	建築C A D 演習	4		○						遠藤義則	空間表現法・演習	
	S041	都市居住と環境	2				○				伊藤俊介		
	S042	構造システムと安全 A	2				○				立花正彦		
	S043	構造システムと安全 B	2					○			木村秀樹	構造システムと安全 A	
	S044	構造システムと材料・実験	4						○		深澤協三、溝淵匠	構造システムと安全 A	
	S045	インテリジェント環境システム	3				○				吉村彰、桑谷佳容、溝淵匠		
	S046	まちづくりの環境デザイン	2						○		吉村彰		
	S047	高齢社会と環境	2					○			大崎淳史、江川香奈		
	S048	ネットワーク医療福祉システム	2						○		江川香奈		
	S049	人工環境制御	2						○		大鎌征四郎		
	S050	人工環境づくりの実際	3							○	久保田滋		
	S051	ランドスケープと環境	2							○	柴田滝也		
	S052	建築材料	2					○			大澤悟		
	S053	建築法規	1						○		大崎淳史	集中講義	
	S054	建築工法・生産	2							○	溝淵匠	集中講義 事前履修条件：構造システ ムと材料・実験	
	S055	人間中心デザイン・認知心理	2				○				大島直樹		
	S056	ユーザビリティ評価法	2					○			大島直樹		
	S057	情報心理学	2					○			今野紀子		
	S058	言語・非言語コミュニケーション	3						○		日根恭子		
	S059	I Tコミュニケーションと社会	2							○	日根恭子		
数 学 系 科 目	M001	計算機数学	2			○	○				【後学期】石田厚子 【前学期】紫合治		
	M002	情報数学Ⅰ（応用解析学）	3				○	○			【前・後学期】伊勢史郎 【前学期】根本幾、田澤義彦	微分積分学	
	M003	情報数学Ⅱ（確率・統計）	3				○				鈴木秀一		
	M004	情報数学Ⅲ（応用幾何）	3				○	○			田澤義彦	線形代数	
	M005	情報数学Ⅳ（代数学）	3					○			鈴木秀一、塚田真		
	M006	情報数学Ⅴ（多変量統計解析）	3				○				鈴木秀一		
演 習 ・ プ ロ ジ エ ク ト 科 目	P001	環境計画演習 A	4				○				柴田滝也、大崎淳史、安田博道、 吉村彰	技術日本語表現法 ★	
	P002	環境計画演習 B	4					○			柴田滝也、大崎淳史、遠藤義則、 永田賢一郎	技術日本語表現法 ★	
	P003	情報環境プラクティス A	2				○				宮川治、島田尊正、築山俊史、 新津靖、八橋博史、福岡久雄、 斎藤博人、冬爪成人、渡邊祐子、 日根恭子、大島直樹、堤智昭、 遠藤義則、佐野香	技術日本語表現法 ★	
	P004	情報環境プラクティス B	2					○			宮川治、小川猛志、島田尊正、 鈴木真、新津靖、根本幾、 八橋博史、福岡久雄、斎藤博人、 冬爪成人、渡邊祐子、日根恭子、 大島直樹、堤智昭、遠藤義則、 佐野香	技術日本語表現法 ★	
	P005	環境パフォーマンス A	4						○		伊藤俊介、江川香奈、溝淵匠	技術日本語表現法 ★	
	P006	環境パフォーマンス B	4							○	伊藤俊介、江川香奈、溝淵匠	技術日本語表現法 ★	
	P007	インターンシップ	2						○	○	情報環境学科長		
	P008	基礎プロジェクト A	4						○	○	小濱隆司 他	技術日本語表現法 ★	
	P009	基礎プロジェクト B	4						○	○	小濱隆司 他	基礎プロジェクト A	

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
演 習 ・ プ ロ ジ エ ク ト 科 目	P022	卒業研究A・開発型プロジェクトA	4							○	○	情報環境学科長 他	技術日本語表現法 ★
	P023	卒業研究B・開発型プロジェクトB	4							○	○	情報環境学科長 他	卒業研究A・開発型プロジェクトA
	P014	年次縦断型PBL①	1									情報環境学部長 他	
	P015	年次縦断型PBL②	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL①
	P016	年次縦断型PBL③	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL②
	P017	年次縦断型PBL④	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL③
	P018	年次縦断型PBL⑤	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL④
	P019	年次縦断型PBL⑥	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑤
	P020	年次縦断型PBL⑦	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑥
	P021	年次縦断型PBL⑧	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑦

【注意事項】

- ・★の事前履修条件科目は、平成26年度以降入学生のみ対象です。
- ・※の配当は、再履修者のみ対象です。
- ・情報環境プラクティスA、情報環境プラクティスBは、講義・演習 1 単位、実験・実習 1 単位の合計 2 単位です。
- ・前学期、後学期共に○印がある科目は、いずれの学期にも開講する科目を表します。
- ・カリキュラム変更に伴う事前履修条件科目の読み替えに注意して下さい。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。

デジタル情報工学コース 専門教育科目

区 分	授業 番号 科目 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件	
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨				
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期			
基 礎 基 幹 科 目	K001	情報処理の基礎	2	○	○							【前期】 築山俊史	今年度後学期開講せず	
	K002	コンピュータプログラミングA	4		○	※○						【前期】 堤智昭	今年度後学期開講せず	
	K003	コンピュータプログラミングB	4			○	※○					【前・後学期】 大島正毅 【前期】 土肥紳一、宮川治、 小濱隆司、堤智昭	コンピュータプログラミン グA	
	K004	システムプログラム／OS	3			○						酒井元氣		
	K005	エレクトロニクスA	4		○							上野洋一郎		
	K006	エレクトロニクスB	3			○						宮原一紀、川勝真喜	微分積分学、物理学B	
	K007	デジタル信号処理	3				○	○				【前期】 島田尊正 【後学期】 斎藤博人	情報数学Ⅰ、線形代数	
	K008	空間表現法・演習	4	○								伊藤俊介、江川香奈		
	K009	CAD	4			○						遠藤義則		
	K010	コミュニケーションデザイン概論	2	○								武川直樹、青木良輔		
	K011	社会心理学	3		○							日根恭子		
	K013	情報倫理と技術者倫理	2	○		○						石田厚子		
	高 審 ・ 画 像 科 目 群	S014	情報圧縮	2					○				武川直樹	情報処理の基礎、情報数学Ⅰ
S028		音響工学A	3					○				渡邊祐子	物理学A	
S029		音響工学B	2						○			伊勢史郎	デジタル信号処理	
S060		視覚のデジタル処理	3						○			武川直樹	デジタル信号処理または 情報圧縮	
S032		信号処理応用	2					○				斎藤博人	デジタル信号処理	
S037		基礎マルチメディア工学	3				○					渡邊祐子	情報処理の基礎	
コ ー ス 基 幹 科 目		S012	ヒューマンインタフェース	2						○	○		【前期】 大山実 【前・後学期】 徳永弘子	コンピュータプログラミン グA
		S026	コンピュータグラフィックス	2						○			柴田滝也	コンピュータプログラミン グA、線形代数
		S030	感性工学	2				○					渡邊祐子	
		S036	バーチャルリアリティ	2						○			遠藤義則	
		S038	ヒューマンメディア	2						○			柴田滝也	
		S039	CGアニメーション	4							○		遠藤義則	CAD
		S021	デジタル計測工学	3				○					宮原一紀	エレクトロニクスB
		S022	生体情報工学	2				○					根本幾	微分積分学、確率統計、 物理学B
		S023	シミュレーション	2				○					斎藤博人	微分積分学、コンピュータ プログラミングA
		S024	生体計測工学	2						○			鈴木真	エレクトロニクスB
シ ス テ ム ・ 医 療 科 目 群		S025	センサー工学	2						○			中田毅	線形代数、エレクトロニク スB
		S027	遠隔システムと制御	3						○			中田毅	線形代数、エレクトロニク スB
		S033	医療情報工学	2							○		鈴木真	コンピュータプログラミン グA
		S034	ニューラルネットワーク	2							○		島田尊正	情報数学Ⅲ
		S035	人工知能	2							○		築山俊史	情報処理の基礎、離散数学 コンピュータプログラミン グA
	コ ー ス 一 般 科 目	S001	情報通信リテラシー	2	○	○							【前期】 佐野裕康	今年度後学期開講せず
		S002	アセンブリ言語	2		○							大島直樹	
		S003	インターネット総論A	2				○					小林浩、佐野香	情報処理の基礎
		S004	インターネット総論B (情報倫理と知的財産)	2					○				小林浩、佐野香	インターネット総論Aまた はコンピュータネットワー ク
		S005	データ構造とアルゴリズム	2				○					金子博、林善士	情報処理の基礎
S006		コンピュータ構成	2				○					上野洋一郎、福岡久雄	情報処理の基礎	
S007		コンピュータネットワーク	3				○					宮保憲治、八横博史	情報通信リテラシー	
S008		離散数学	2					○				金子博	計算機数学	
S009		ネットワークセキュリティ	3					○				小川猛志、八横博史	情報通信リテラシー	
S010		データベースシステム	3					○				大山実、和田雄次、石田厚子	情報処理の基礎、コン ピュータプログラミングA	
S011		C言語システムプログラミング	3					○				冬瓜成人、堤智昭、紫合治	コンピュータプログラミン グA	

区 分	授 業 番 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
コ ー ス 一 般 科 目	S013	並列処理	2					○				平山秀昭	コンピュータプログラミングA、情報数学Ⅰ
	S015	データマイニング	2					○				和田雄次	データベースシステム
	S016	オブジェクト指向設計	2					○				宮川治	コンピュータプログラミングB
	S017	高度データベースシステム	2					○				和田雄次	データベースシステム
	S018	モバイルコンピューティング	2						○			小林浩、佐野香	インターネット総論B または コンピュータネットワーク
	S019	分散リアルタイムシステム	3				○					福岡久雄	コンピュータプログラミングA
	S020	ソフトウェア工学	2						○			阿部清彦	情報処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA
	S040	建築CAD演習	4		○							遠藤義則	空間表現法・演習
	S041	都市居住と環境	2				○					伊藤俊介	
	S042	構造システムと安全A	2			○						立花正彦	
	S043	構造システムと安全B	2					○				木村秀樹	構造システムと安全A
	S044	構造システムと材料・実験	4						○			深澤協三、溝刈匠	構造システムと安全A
	S045	インテリジェント環境システム	3				○					吉村彰、桑谷佳容、溝刈匠	
	S046	まちづくりの環境デザイン	2					○				吉村彰	
	S047	高齢社会と環境	2					○				大崎淳史、江川香奈	
	S048	ネットワーク医療福祉システム	2						○			江川香奈	
	S049	人工環境制御	2						○			大鎌征四郎	
	S050	人工環境づくりの実際	3							○		久保田滋	
	S051	ランドスケープと環境	2							○		柴田滝也	
	S052	建築材料	2						○			大澤悟	
	S053	建築法規	1							○		大崎淳史	集中講義
	S054	建築工法・生産	2								○	溝刈匠	集中講義 事前履修条件：構造システ ムと材料・実験
	S055	人間中心デザイン・認知心理	2				○					大島直樹	
	S056	ユーザビリティ評価法	2				○					大島直樹	
	S057	情報心理学	2					○				今野紀子	
	S058	言語・非言語コミュニケーション	3						○			日根恭子	
	S059	ITコミュニケーションと社会	2								○	日根恭子	
数 学 系 科 目	M001	計算機数学	2		○	○						【後学期】石田厚子 【前学期】紫合治	
	M002	情報数学Ⅰ（応用解析学）	3			○	○					【前・後学期】伊勢史郎 【前学期】根本幾、田澤義彦	微分積分学
	M003	情報数学Ⅱ（確率・統計）	3			○						鈴木秀一	
	M004	情報数学Ⅲ（応用幾何）	3			○	○					田澤義彦	線形代数
	M005	情報数学Ⅳ（代数学）	3				○					鈴木秀一、塚田真	
	M006	情報数学Ⅴ（多変量統計解析）	3			○						鈴木秀一	
演 習 ・ プ ロ ジ ェ ク ト 科 目	P001	環境計画演習A	4			○						柴田滝也、大崎淳史、安田博道、 吉村彰	技術日本語表現法 ★
	P002	環境計画演習B	4				○					柴田滝也、大崎淳史、遠藤義則、 永田賢一郎	技術日本語表現法 ★
	P003	情報環境ブラクティスA	2				○					宮川治、島田尊正、築山俊史、 新津靖、八橋博史、福岡久雄、 斎藤博人、冬川成人、渡邊祐子、 日根恭子、大島直樹、堤智昭、 遠藤義則、佐野香	技術日本語表現法 ★
	P004	情報環境ブラクティスB	2					○				宮川治、小川猛志、島田尊正、 鈴木真、新津靖、根本幾、 八橋博史、福岡久雄、斎藤博人、 冬川成人、渡邊祐子、日根恭子、 大島直樹、堤智昭、遠藤義則、 佐野香	技術日本語表現法 ★
	P005	環境パフォーマンスA	4					○				伊藤俊介、江川香奈、溝刈匠	技術日本語表現法 ★
	P006	環境パフォーマンスB	4						○			伊藤俊介、江川香奈、溝刈匠	技術日本語表現法 ★
	P007	インターンシップ	2					○	○			情報環境学科長	
	P008	基礎プロジェクトA	4					○	○			小濱隆司 他	技術日本語表現法 ★
	P009	基礎プロジェクトB	4					○	○			小濱隆司 他	基礎プロジェクトA

区 分	授業科目番号	授 業 科 目 名	選択単位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学期	後 学期	前 学期	後 学期	前 学期	後 学期	前 学期	後 学期		
演習・プロジェクト科目	P022	卒業研究A・開発型プロジェクトA	4							○	○	情報環境学科長 他	技術日本語表現法 ★
	P023	卒業研究B・開発型プロジェクトB	4							○	○	情報環境学科長 他	卒業研究A・開発型プロジェクトA
	P014	年次縦断型PBL①	1									情報環境学部長 他	
	P015	年次縦断型PBL②	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL①
	P016	年次縦断型PBL③	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL②
	P017	年次縦断型PBL④	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL③
	P018	年次縦断型PBL⑤	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL④
	P019	年次縦断型PBL⑥	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑤
	P020	年次縦断型PBL⑦	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑥
	P021	年次縦断型PBL⑧	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑦

【注意事項】

- ・★の事前履修条件科目は、平成26年度以降入学生のみ対象です。
- ・※の配当は、再履修者のみ対象です。
- ・情報環境プラクティスA、情報環境プラクティスBは、講義・演習1単位、実験・実習1単位の合計2単位です。
- ・前学期、後学期共に○印がある科目は、いずれの学期にも開講する科目を表します。
- ・カリキュラム変更に伴う事前履修条件科目の読み替えに注意して下さい。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。

建築デザインコース 専門教育科目

区 分	授 番 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件		
				1 年 目		2 年 目		3 年 目		4 年 目					
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期				
基 礎 基 幹 科 目	K001	情報処理の基礎	2	○	○							【前学期】 築山俊史	今年度後学期開講せず		
	K002	コンピュータプログラミングA	4		○	※○						【前学期】 堤智昭	今年度後学期開講せず		
	K003	コンピュータプログラミングB	4			○	※○					【前・後学期】 大島正毅 【前学期】 土肥紳一、宮川治、 小濱隆司、堤智昭	コンピュータプログラミン グA		
	K004	システムプログラム／OS	3			○						酒井元気			
	K005	エレクトロニクスA	4		○							上野洋一郎			
	K006	エレクトロニクスB	3			○						宮原一紀、川勝真喜	微分積分学、物理学B		
	K007	ディジタル信号処理	3				○	○				【前学期】 島田尊正 【後学期】 斎藤博人	情報数学Ⅰ、線形代数		
	K008	空間表現法・演習	4	○								伊藤俊介、江川香奈			
	K009	CAD	4			○						遠藤義則			
	K010	コミュニケーションデザイン概論	2	○								武川直樹、青木良輔			
	K011	社会心理学	3		○							日根恭子			
	K013	情報倫理と技術者倫理	2	○		○						石田厚子			
コ ス 基 幹 科 目	建築・国土・都市 社会	S040	建築CAD演習	4		○						遠藤義則	空間表現法・演習		
		S041	都市居住と環境	2				○				伊藤俊介			
		S045	インテリジェント環境システム	3				○				吉村彰、桑谷佳容、溝渕匠			
		S046	まちづくりの環境デザイン	2					○			吉村彰			
		S047	高齢社会と環境	2					○			大崎淳史、江川香奈			
		S048	ネットワーク医療福祉システム	2						○		江川香奈			
	建築・技術・社会 科	S051	ランドスケープと環境	2							○		柴田庵也		
		S042	構造システムと安全A	2			○						立花正彦		
		S043	構造システムと安全B	2					○				木村秀樹	構造システムと安全A	
		S044	構造システムと材料・実験	4						○			深澤協三、溝渕匠	構造システムと安全A	
		S049	人工環境制御	2						○			大鎌征四郎		
		S050	人工環境づくりの実験	3							○		久保田滋		
		S052	建築材料	2					○				大澤 悟		
		S053	建築法規	1						○			大崎淳史	集中講義	
		S054	建築工法・生産	2							○		溝渕匠	集中講義 事前履修条件：構造システ ムと材料・実験	
		バーチャルリアリ ティ・社会科	S012	ヒューマンインタフェース	2					○	○			【前学期】 大山実 【前・後学期】 徳永弘子	コンピュータプログラミン グA
			S026	コンピュータグラフィックス	2					○				柴田庵也	コンピュータプログラミン グA、線形代数
			S030	感性工学	2				○					渡邊祐子	
S036	バーチャルリアリティ		2						○			遠藤義則			
S038	ヒューマンメディア		2						○			柴田庵也			
S039	CGアニメーション		4							○		遠藤義則	CAD		
コ ス 一 般 科 目	S001		情報通信リテラシー	2	○	○							【前学期】 佐野裕康	今年度後学期開講せず	
	S002		アセンブリ言語	2		○							大島直樹		
	S003		インターネット総論A	2			○						小林浩、佐野香	情報処理の基礎	
	S004	インターネット総論B (情報倫理と知的財産)	2				○					小林浩、佐野香	インターネット総論Aまた はコンピュータネットワーク		
	S005	データ構造とアルゴリズム	2			○						金子博、林善士	情報処理の基礎		
	S006	コンピュータ構成	2			○						上野洋一郎、福岡久雄	情報処理の基礎		
	S007	コンピュータネットワーク	3			○						宮保憲治、八横博史	情報通信リテラシー		
	S008	離散数学	2				○					金子博	計算機数学		
	S009	ネットワークセキュリティ	3				○					小川猛志、八横博史	情報通信リテラシー		
	S010	データベースシステム	3				○					大山実、和田雄次、石田厚子	情 報 処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA		
	S011	C言語システムプログラミング	3				○					冬瓜成人、堤智昭、紫合治	コンピュータプログラミン グA		
	S013	並列処理	2					○				平山秀昭	コンピュータプログラミン グA、情報数学Ⅰ		
	S014	情報圧縮	2					○				武川直樹	情報処理の基礎、情報数学Ⅰ		
	S015	データマイニング	2					○				和田雄次	データベースシステム		

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
コ ミ ュ ニ カ シ ョ ン 学 科 一 般 科 目	S016	オブジェクト指向設計	2					○			宮川治	コンピュータプログラミングB	
	S017	高度データベースシステム	2					○			和田雄次	データベースシステム	
	S018	モバイルコンピューティング	2						○		小林浩、佐野香	インターネット総論Bまたはコンピュータネットワーク	
	S019	分散リアルタイムシステム	3				○				福岡久雄	コンピュータプログラミングA	
	S020	ソフトウェア工学	2						○		阿部清彦	情報処理の基礎、コンピュータプログラミングA	
	S021	デジタル計測工学	3				○				宮原一紀	エレクトロニクスB	
	S022	生体情報工学	2				○				根本幾	微分積分学、確率統計、物理学B	
	S023	シミュレーション	2				○				斎藤博人	微分積分学、コンピュータプログラミングA	
	S024	生体計測工学	2					○			鈴木真	エレクトロニクスB	
	S025	センサー工学	2					○			中田毅	線形代数、エレクトロニクスB	
	S027	遠隔システムと制御	3					○			中田毅	線形代数、エレクトロニクスB	
	S028	音響工学A	3					○			渡邊祐子	物理学A	
	S029	音響工学B	2						○		伊勢史郎	デジタル信号処理	
	S060	視覚のデジタル処理	3						○		武川直樹	デジタル信号処理または情報圧縮	
	S032	信号処理応用	2					○			斎藤博人	デジタル信号処理	
	S033	医療情報工学	2						○		鈴木真	コンピュータプログラミングA	
	S034	ニューラルネットワーク	2						○		島田尊正	情報数学Ⅲ	
	S035	人工知能	2						○		築山俊史	情報処理の基礎、離散数学 コンピュータプログラミングA	
	S037	基礎マルチメディア工学	3				○				渡邊祐子	情報処理の基礎	
	S055	人間中心デザイン・認知心理	2				○				大島直樹		
	S056	ユーザビリティ評価法	2					○			大島直樹		
S057	情報心理学	2					○			今野紀子			
S058	言語・非言語コミュニケーション	3					○			日根恭子			
S059	ITコミュニケーションと社会	2							○	日根恭子			
数 学 系 科 目	M001	計算機数学	2		○	○					【後学期】石田厚子 【前学期】紫合治		
	M002	情報数学Ⅰ（応用解析学）	3			○	○				【前・後学期】伊勢史郎 【前学期】根本幾、田澤義彦	微分積分学	
	M003	情報数学Ⅱ（確率・統計）	3				○				鈴木秀一		
	M004	情報数学Ⅲ（応用幾何）	3				○	○			田澤義彦	線形代数	
	M005	情報数学Ⅳ（代数学）	3					○			鈴木秀一、塚田真		
	M006	情報数学Ⅴ（多変量統計解析）	3				○				鈴木秀一		
演 習 ・ フ ロ ン ト ン ・ 研 究 会	P001	環境計画演習A	4				○				柴田滝也、大崎淳史、安田博道、 吉村彰	技術日本語表現法 ★	
	P002	環境計画演習B	4					○			柴田滝也、大崎淳史、遠藤義則、 永田賢一郎	技術日本語表現法 ★	
	P003	情報環境プラクティスA	2				○				宮川治、島田尊正、築山俊史、 新津靖、八幡博史、福岡久雄、 斎藤博人、冬爪成人、渡邊祐子、 日根恭子、大島直樹、堤智昭、 遠藤義則、佐野香	技術日本語表現法 ★	
	P004	情報環境プラクティスB	2					○			宮川治、小川猛志、島田尊正、 鈴木真、新津靖、根本幾、 八幡博史、福岡久雄、斎藤博人、 冬爪成人、渡邊祐子、日根恭子、 大島直樹、堤智昭、遠藤義則、 佐野香	技術日本語表現法 ★	
	P005	環境パフォーマンスA	4					○			伊藤俊介、江川香奈、溝刈匠	技術日本語表現法 ★	
	P006	環境パフォーマンスB	4						○		伊藤俊介、江川香奈、溝刈匠	技術日本語表現法 ★	
	P007	インターンシップ	2						○	○	情報環境学科長		
	P008	基礎プロジェクトA	4						○	○	小濱隆司 他	技術日本語表現法 ★	
	P009	基礎プロジェクトB	4						○	○	小濱隆司 他	基礎プロジェクトA	

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
演 習 ・ プ ロ ジ エ ク ト 科 目	P022	卒業研究A・開発型プロジェクトA	4							○	○	情報環境学科長 他	技術日本語表現法 ★
	P023	卒業研究B・開発型プロジェクトB	4							○	○	情報環境学科長 他	卒業研究A・開発型プロジェクトA
	P014	年次縦断型PBL①	1									情報環境学部長 他	
	P015	年次縦断型PBL②	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL①
	P016	年次縦断型PBL③	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL②
	P017	年次縦断型PBL④	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL③
	P018	年次縦断型PBL⑤	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL④
	P019	年次縦断型PBL⑥	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑤
	P020	年次縦断型PBL⑦	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑥
	P021	年次縦断型PBL⑧	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑦

【注意事項】

- ・★の事前履修条件科目は、平成26年度以降入学生のみ対象です。
- ・※の配当は、再履修者のみ対象です。
- ・情報環境プラクティスA、情報環境プラクティスBは、講義・演習 1 単位、実験・実習 1 単位の合計 2 単位です。
- ・前学期、後学期共に○印がある科目は、いずれの学期にも開講する科目を表します。
- ・カリキュラム変更に伴う事前履修条件科目の読み替えに注意して下さい。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。

第2章
学修案内

2016
(平成28)
年度～
2011
(平成23)
年 度

コミュニケーション工学コース 専門教育科目

区 分	授 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件		
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨					
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期				
基 礎 基 幹 科 目	K001	情報処理の基礎	2	○	○							【前期】 築山俊史	今年度後学期開講せず		
	K002	コンピュータプログラミングA	4		○	※○						【前期】 堤智昭	今年度後学期開講せず		
	K003	コンピュータプログラミングB	4			○	※○					【前・後学期】 大島正毅 【前期】 土肥紳一、宮川治、 小濱隆司、堤智昭	コンピュータプログラミン gA		
	K004	システムプログラム／OS	3			○						酒井元気			
	K005	エレクトロニクスA	4		○							上野洋一郎			
	K006	エレクトロニクスB	3			○						宮原一紀、川勝真喜	微分積分学、物理学B		
	K007	ディジタル信号処理	3				○	○				【前期】 島田尊正 【後学期】 斎藤博人	情報数学Ⅰ、線形代数		
	K008	空間表現法・演習	4	○								伊藤俊介、江川香奈			
	K009	CAD	4			○						遠藤義則			
	K010	コミュニケーションデザイン概論	2	○								武川直樹、青木良輔			
	K011	社会心理学	3		○							日根恭子			
	K013	情報倫理と技術者倫理	2	○		○						石田厚子			
こ ー ス 基 幹 科 目	人間科学科目群	S012	ヒューマンインタフェース	2				○	○			【前期】 大山実 【前・後学期】 徳永弘子	コンピュータプログラミン gA		
		S030	感性工学	2				○					渡邊祐子		
		S055	人間中心デザイン・認知心理	2				○					大島直樹		
		S056	ユーザビリティ評価法	2				○					大島直樹		
		S057	情報心理学	2				○					今野紀子		
		S058	言語・非言語コミュニケーション	3					○				日根恭子		
		S059	ITコミュニケーションと社会	2							○		日根恭子		
		S014	情報圧縮	2					○				武川直樹	情報処理の基礎、情報数学Ⅰ	
		S026	コンピュータグラフィックス	2					○				柴田滝也	コンピュータプログラミン gA、線形代数	
	メディア処理科目群	S028	音響工学A	3					○				渡邊祐子	物理学A	
		S029	音響工学B	2						○			伊勢史郎	ディジタル信号処理	
		S060	視覚のディジタル処理	3						○			武川直樹	ディジタル信号処理または 情報圧縮	
		S032	信号処理応用	2					○				斎藤博人	ディジタル信号処理	
		S037	基礎マルチメディア工学	3					○				渡邊祐子	情報処理の基礎	
		S038	ヒューマンメディア	2							○		柴田滝也		
		こ ー ス 一 般 科 目	S001	情報通信リテラシー	2	○	○							【前期】 佐野裕康	今年度後学期開講せず
			S002	アセンブリ言語	2		○							大島直樹	
			S003	インターネット総論A	2				○					小林浩、佐野香	情報処理の基礎
			S004	インターネット総論B （情報倫理と知的財産）	2					○				小林浩、佐野香	インターネット総論Aまたは コンピュータネットワーク
			S005	データ構造とアルゴリズム	2				○					金子博、林善士	情報処理の基礎
S006	コンピュータ構成		2				○					上野洋一郎、福岡久雄	情報処理の基礎		
S007	コンピュータネットワーク		3				○					宮保憲治、八横博史	情報通信リテラシー		
S008	離散数学		2					○				金子博	計算機数学		
S009	ネットワークセキュリティ		3					○				小川猛志、八横博史	情報通信リテラシー		
S010	データベースシステム		3					○				大山実、和田雄次、石田厚子	情 報 処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA		
S011	C言語システムプログラミング		3					○				冬爪成人、堤智昭、紫合治	コンピュータプログラミン gA		
S013	並列処理		2						○			平山秀昭	コンピュータプログラミン gA、情報数学Ⅰ		
S015	データマイニング	2						○			和田雄次	データベースシステム			
S016	オブジェクト指向設計	2						○			宮川治	コンピュータプログラミン gB			
S017	高度データベースシステム	2						○			和田雄次	データベースシステム			
S018	モバイルコンピューティング	2							○		小林浩、佐野香	インターネット総論Bまたは コンピュータネットワーク			
S019	分散リアルタイムシステム	3					○				福岡久雄	コンピュータプログラミン gA			
S020	ソフトウェア工学	2							○		阿部清彦	情 報 処 理 の 基 礎、コン ピュータプログラミングA			

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
コ ー ス 一 般 科 目	S021	ディジタル計測工学	3				○					宮原一紀	エレクトロニクスB
	S022	生体情報工学	2				○					根本幾	微分積分学、確率統計、物理学B
	S023	シミュレーション	2			○						斎藤博人	微分積分学、コンピュータプログラミングA
	S024	生体計測工学	2					○				鈴木真	エレクトロニクスB
	S025	センサー工学	2					○				中田毅	線形代数、エレクトロニクスB
	S027	遠隔システムと制御	3					○				中田毅	線形代数、エレクトロニクスB
	S033	医療情報工学	2						○			鈴木真	コンピュータプログラミングA
	S034	ニューラルネットワーク	2						○			島田尊正	情報数学Ⅲ
	S035	人工知能	2							○		築山俊史	情報処理の基礎、離散数学、コンピュータプログラミングA
	S036	バーチャルリアリティ	2						○			遠藤義則	
	S039	C Gアニメーション	4							○		遠藤義則	C A D
	S040	建築C A D演習	4		○							遠藤義則	空間表現法・演習
	S041	都市居住と環境	2				○					伊藤俊介	
	S042	構造システムと安全A	2			○						立花正彦	
	S043	構造システムと安全B	2					○				木村秀樹	構造システムと安全A
	S044	構造システムと材料・実験	4						○			深澤協三、溝淵匠	構造システムと安全A
	S045	インテリジェント環境システム	3				○					吉村彰、桑谷佳容、溝淵匠	
	S046	まちづくりの環境デザイン	2						○			吉村彰	
	S047	高齢社会と環境	2					○				大崎淳史、江川香奈	
	S048	ネットワーク医療福祉システム	2						○			江川香奈	
	S049	人工環境制御	2						○			大鎌征四郎	
	S050	人工環境づくりの実際	3							○		久保田滋	
	S051	ランドスケープと環境	2							○		柴田庵也	
	S052	建築材料	2					○				大澤悟	
	S053	建築法規	1							○		大崎淳史	集中講義
	S054	建築工法・生産	2								○	溝淵匠	集中講義 事前履修条件：構造システムと材料・実験
数学系科目	M001	計算機数学	2		○	○						【後学期】石田厚子 【前学期】紫合治	
	M002	情報数学Ⅰ（応用解析学）	3			○	○					【前・後学期】伊勢史郎 【前学期】根本幾、田澤義彦	微分積分学
	M003	情報数学Ⅱ（確率・統計）	3			○						鈴木秀一	
	M004	情報数学Ⅲ（応用幾何）	3			○	○					田澤義彦	線形代数
	M005	情報数学Ⅳ（代数学）	3				○					鈴木秀一、塚田真	
	M006	情報数学Ⅴ（多変量統計解析）	3			○						鈴木秀一	
演習・プロジェクト科目	P001	環境計画演習A	4			○						柴田庵也、大崎淳史、安田博道、吉村彰	技術日本語表現法 ★
	P002	環境計画演習B	4				○					柴田庵也、大崎淳史、遠藤義則、永田賢一郎	技術日本語表現法 ★
	P003	情報環境プラクティスA	2			○						宮川治、島田尊正、築山俊史、新津靖、八橋博史、福岡久雄、斎藤博人、冬爪成人、渡邊祐子、日根恭子、大島直樹、堤智昭、遠藤義則、佐野香	技術日本語表現法 ★
	P004	情報環境プラクティスB	2				○					宮川治、小川猛志、島田尊正、鈴木真、新津靖、根本幾、八橋博史、福岡久雄、斎藤博人、冬爪成人、渡邊祐子、日根恭子、大島直樹、堤智昭、遠藤義則、佐野香	技術日本語表現法 ★
	P005	環境パフォーマンスA	4					○				伊藤俊介、江川香奈、溝淵匠	技術日本語表現法 ★
	P006	環境パフォーマンスB	4						○			伊藤俊介、江川香奈、溝淵匠	技術日本語表現法 ★
	P007	インターンシップ	2					○	○			情報環境学科長	
	P008	基礎プロジェクトA	4					○	○			小濱隆司 他	技術日本語表現法 ★
	P009	基礎プロジェクトB	4					○	○			小濱隆司 他	基礎プロジェクトA

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件
				1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
				前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
演習・プロジェクト科目	P022	卒業研究A・開発型プロジェクトA	4							○	○	情報環境学科長 他	技術日本語表現法 ★
	P023	卒業研究B・開発型プロジェクトB	4							○	○	情報環境学科長 他	卒業研究A・開発型プロジェクトA
	P014	年次縦断型PBL①	1									情報環境学部長 他	
	P015	年次縦断型PBL②	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL①
	P016	年次縦断型PBL③	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL②
	P017	年次縦断型PBL④	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL③
	P018	年次縦断型PBL⑤	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL④
	P019	年次縦断型PBL⑥	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑤
	P020	年次縦断型PBL⑦	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑥
	P021	年次縦断型PBL⑧	1									情報環境学部長 他	年次縦断型PBL⑦

【注意事項】

- ・★の事前履修条件科目は、平成26年度以降入学生のみ対象です。
- ・※の配当は、再履修者のみ対象です。
- ・情報環境プラクティスA、情報環境プラクティスBは、講義・演習1単位、実験・実習1単位の合計2単位です。
- ・前学期、後学期共に○印がある科目は、いずれの学期にも開講する科目を表します。
- ・カリキュラム変更に伴う事前履修条件科目の読み替えに注意して下さい。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。

カリキュラム変更に伴う再履修・事前履修条件・履修履歴について

カリキュラム 変更年度	カリキュラム変更前担当 旧科目(X)		カリキュラム変更後担当 新科目(Y)		〔1〕 (X)を単位修得済の場合 の(Y)の履修	〔2〕 (Y)が他科目の事前履修 条件となっている場合	〔3〕 (X)が不合格で、(Y) を再履修した場合
	科目名	単位数	科目名	単位数			
2012 (平成24) 年度	視覚と画像処理	3	視覚のディジタル処理	3	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	卒業研究A	4	卒業研究A・ 開発型プロジェクトA	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	卒業研究B	4	卒業研究B・ 開発型プロジェクトB	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	開発型プロジェクトA	4	卒業研究A・ 開発型プロジェクトA	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	開発型プロジェクトB	4	卒業研究B・ 開発型プロジェクトB	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
2013 (平成25) 年度	英語理解Ⅰ	2	初級英語Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語理解Ⅱ	2	初級英語Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	総合英語Ⅰ	2	中級英語Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	総合英語Ⅱ	2	中級英語Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
2014 (平成26) 年度	情報倫理	2	情報倫理と技術者倫理	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語表現Ⅰ	2	初級英会話Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語表現Ⅱ	2	初級英会話Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	フレッシュマンゼミ	2	対応科目なし				

履 修 条 件

カリキュラム 変更年度	科目名	履 修 条 件
2011 (平成23) 年度	基礎英語Ⅰ	英語理解Ⅰ（初級英語Ⅰ）、英語理解Ⅱ（初級英語Ⅱ）、総合英語Ⅰ（中級英語Ⅰ）、総合英語Ⅱ（中級英語Ⅱ）、技術英語、実践英語、上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱを修得済の場合、履修不可 ※（ ）は、2013年度から科目名称変更となる科目
	基礎英語Ⅱ	英語理解Ⅰ（初級英語Ⅰ）、英語理解Ⅱ（初級英語Ⅱ）、総合英語Ⅰ（中級英語Ⅰ）、総合英語Ⅱ（中級英語Ⅱ）、技術英語、実践英語、上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱを修得済の場合、履修不可 ※（ ）は、2013年度から科目名称変更となる科目

新 設 科 目

カリキュラム 変更年度	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
2014 (平成26) 年度	初級英作文Ⅰ	2	初級英作文Ⅱ	2	中級英会話Ⅰ	2	中級英会話Ⅱ	2
	中級英作文Ⅰ	2	中級英作文Ⅱ	2	上級英会話	2	上級英作文	2
	技術日本語表現法	2						

カリキュラムマップ

カリキュラムは、前述の授業科目配当表に記載されています。

カリキュラム（授業科目配当表）には、卒業までに必要な科目がSemester毎に配当されています。

本来、学年制であれば履修する科目は、自分の在籍している学年に配当されている科目を履修することになりますが、本学部は、Semester制を導入しているため、履修する科目は、ある程度自由に選択することが可能です。

しかし、無計画に履修せずに、卒業までの履修を体系立てて計画する必要があります。

本カリキュラムマップは、カリキュラム（授業科目配当表）に連動し、履修計画の一助となる表となっていますので、活用してください。

平成29年度より、「開講せず」科目には網掛けを付しており、履修計画立案の際、充分に参照してください。

ネットワーク・コンピュータ工学コース カリキュラムマップ

セメスター・年次相当		セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位
区分		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
導入・リテラシー	コンピュータリテラシー	2							
	ワークショップ	1							
	カリキュラム計画	1							
	技術日本語表現法※	2	(技術日本語表現法)※	2					
数学系科目およびコースに関連する素養科目	基礎数学	3	計算機数学 2 (基礎数学)	情報数学I (応用解析学) 3 (計算機数学) 2	情報数学IV (代数学) 3				
	線形代数	4	線形代数 4	情報数学II (確率・統計) 3					
	微分積分学	4	微分積分学 4	情報数学III (応用幾何) 3	(情報数学III (応用幾何)) 3				
	確率統計	3	確率統計 3	情報数学V (多変量統計解析) 3					
	物理学A (力学)	2	物理学B (電気)	2					
	情報処理の基礎	2	(情報処理の基礎) 2						
基礎基幹科目	コンピュータプログラミングA	4	コンピュータプログラミングB 4						
	システムプログラミング/OS	3	システムプログラミング/OS 3						
	エレクトロニクスA	4	エレクトロニクスB 3						
	空間表現法・演習	4		デジタル信号処理 3	(デジタル信号処理) 3				
	コミュニケーションデザイン概論	2		CAD 4					
	社会心理学	3		(情報倫理と技術者倫理) 2					
ネットワーク科目群	情報通信リテラシー	2	(情報通信リテラシー) 2	コンピュータネットワーク 3					
				インターネット総論A 2	インターネット総論B (情報倫理と知的財産) 2	モバイルコンピューティング 2			
				ネットワークセキュリティ 3	情報圧縮 2				
	アセンブリ言語	2	コンピュータ構成 2						
				分散リアルタイムシステム 3	並列処理 2				
				データベースシステム 3	高度データベースシステム 2	ニューラルネットワーク 2			
プログラミング科目群				データ構造とアルゴリズム 2	オブジェクト指向設計 2	ソフトウェア工学 2			
				離散数学 2					
				C言語システムプログラミング 3	ヒューマンインタフェース 2	(ヒューマンインタフェース) 2			
					データマイニング 2				
演習・プロジェクト科目				情報環境プラクティスA 2	情報環境プラクティスB 2	基礎プロジェクトA/B 4	(基礎プロジェクトA/B) 4	卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB 4	(卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB) 4
						インターンシップ 2	(インターンシップ) 2		

- (科目名) は、同じ科目の複数回開講を示す
 ○ 素養科目と英語科目は、他コースと共通であるため、ここでは記載していない
 ○ ※技術日本語表現法は、平成26年度以降入学生のみ対象
 ○ 縦掛けの科目は、2017 (平成29) 年度は開講せず

デジタル情報工学コース カリキュラムマップ

セメスター・年次相当		セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位
区分		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
導入・リテラシー	コンピュータリテラシー	2							
	ワークショップ	1							
	カリキュラム計画	1							
	技術日本語表現法※	2	(技術日本語表現法)※ 2						
数学系科目およびコースに関連する素養科目			計算機数学 2	情報数学I(応用解析学) 3	情報数学IV(代数学) 3				
	基礎数学	3	(基礎数学) 3	(計算機数学) 2					
	線形代数	4	(線形代数) 4	情報数学II(確率・統計) 3					
	微分積分学	4	(微分積分学) 4	情報数学III(応用幾何) 3	(情報数学III(応用幾何)) 3				
			確率統計 3	情報数学V(多変量統計解析) 3					
	物理学A(力学) 2		物理学B(電気) 2						
基礎基幹科目		情報処理の基礎 2	(情報処理の基礎) 2						
			コンピュータプログラミングA 4	コンピュータプログラミングB 4					
				システムプログラミング/OS 3					
			エレクトロニクスA 4	エレクトロニクスB 3					
	空間表現法・演習 4			デジタル信号処理 3	(デジタル信号処理) 3				
	コミュニケーションデザイン概論 2			CAD 4					
	情報倫理と技術者倫理 2			(情報倫理と技術者倫理) 2					
コア基幹科目	音響・画像科目群				基礎マルチメディア工学 3	音響工学A 3 情報圧縮 2 信号処理応用 2	音響工学B 2 視覚のデジタル処理 3		
	バーチャルリアリティ科目群					ヒューマンインタフェース 2 コンピュータグラフィックス 2	(ヒューマンインタフェース) 2 ヒューマンメディア 2 バーチャルリアリティ 2	CGアニメーション 4	
	システム・医用科目群			シミュレーション 2	生体情報工学 2 デジタル計測工学 3	生体計測工学 2 センサー工学 2 遠隔システムと制御 3	医療情報工学 2 人工知能 2 ニューラルネットワーク 2		
演習・プロジェクト科目				情報環境プラクティスA 2 環境計画演習A 4	情報環境プラクティスB 2 環境計画演習B 4	基礎プロジェクトA/B 4 環境パフォーマンスA 4 インターンシップ 2	(基礎プロジェクトA/B) 4 環境パフォーマンスB 4 (インターンシップ) 2	卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB 4	(卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB) 4

第2章
学修案内

- (科目名) は、同じ科目の複数回開講を示す
 ○ 素養科目と英語科目は、他コースと共通であるため、ここでは記載していない
 ○ ※技術日本語表現法は、平成26年度以降入学生のみ対象
 ○ 網掛けの科目は、2017(平成29)年度は開講せず

建築デザインコース カリキュラムマップ

セメスター・年次相当 区分		セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位	
		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
導入・リテラシー		コンピュータリテラシー	2							
		ワークショップ	1							
		カリキュラム計画	1							
		技術日本語表現法※	2	(技術日本語表現法)※	2					
数学系科目およびコースに関連する素養科目		基礎数学	3	(基礎数学)	3					
		線形代数	4	(線形代数)	4	情報数学II(確率・統計)	3			
		微分積分学	4	(微分積分学)	4					
		確率統計			3	情報数学V(多変量統計解析)	3			
基礎基幹科目		物理学A(力学)	2							
		空間表現法・演習	4		CAD	4				
		コンピュータプログラミングA	4	コンピュータプログラミングB	4					
		エレクトロニクスA	4	エレクトロニクスB	3					
		情報処理の基礎	2	(情報処理の基礎)	2	システムプログラミング/O S	3			
		コミュニケーションデザイン概論	2			ディジタル信号処理	3	(ディジタル信号処理)	3	
コース基幹科目		社会心理学		3						
		情報倫理と技術者倫理	2		(情報倫理と技術者倫理)	2				
		建築計画科目群		建築CAD演習	4	都市居住と環境	2			
		建築技術科目群			構造システムと安全A	2	インテリジェント環境システム	3	まちづくりの環境デザイン	2
コース基幹科目						高齢社会と環境	2	ネットワーク医療福祉システム	2	
						構造システムと安全B	2	構造システムと材料・実験	4	
						建築材料	2	建築法規	1	
								人工環境制御	2	
コース基幹科目					感性工学	2	コンピュータグラフィックス	2		
						ヒューマンインタフェース	2	(ヒューマンインタフェース)	2	
								ヒューマンメディア	2	
								バーチャルリアリティ	2	
演習・プロジェクト科目										
					環境計画演習A	4	環境計画演習B	4	卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB	4
							基礎プロジェクトA/B	4	(基礎プロジェクトA/B)	4
							インターンシップ	2	(インターンシップ)	2

- (科目名) は、同じ科目の複数回開講を示す
 ○ 素養科目と英語科目は、他コースと共通であるため、ここでは記載していない
 ○ ※技術日本語表現法は、平成26年度以降入学生のみ対象
 ○ 網掛けの科目は、2017 (平成29) 年度は開講せず

コミュニケーション工学コース カリキュラムマップ

セメスター・年次相当		セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位
区分		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
導入・リテラシー		コンピュータリテラシー 2							
		ワークショップ 1							
		カリキュラム計画 1							
		技術日本語表現法※ 2	(技術日本語表現法) ※ 2						
数学系科目およびコースに関連する素養科目			計算機数学 2	情報数学I(応用解析学) 3	情報数学IV(代数学) 3				
		基礎数学 3	(基礎数学) 3	(計算機数学) 2					
		線形代数 4	(線形代数) 4	情報数学II(確率・統計) 3					
		微分積分学 4	(微分積分学) 4	情報数学III(応用幾何) 3	(情報数学III(応用幾何)) 3				
			確率統計 3	情報数学V(多変量統計解析) 3					
		物理学A(力学) 2	物理学B(電気) 2						
基礎基幹科目		情報処理の基礎 2	(情報処理の基礎) 2						
			コンピュータプログラミングA 4	コンピュータプログラミングB 4					
				システムプログラミング/OS 3					
			エレクトロニクスA 4	エレクトロニクスB 3					
		空間表現法・演習 4		デジタル信号処理 3	(デジタル信号処理) 3				
		コミュニケーションデザイン概論 2		CAD 4					
コミュニケーション工学基幹科目	人間科学科目群			人間中心デザイン・認知心理 2	ユーザビリティ評価法 2			ITコミュニケーションと社会 2	
					情報心理学 2	ヒューマンインタフェース 2	(ヒューマンインタフェース) 2		
						言語・非言語コミュニケーション 3			
					感性工学 2				
	メディア処理科目群				基礎マルチメディア工学 3	音響工学A 3	音響工学B 2		
						情報圧縮 2	ヒューマンメディア 2		
演習・プロジェクト科目				情報環境プラクティスA 2	情報環境プラクティスB 2	基礎プロジェクトA/B 4	(基礎プロジェクトA/B) 4	卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB 4	(卒業研究A・開発型プロジェクトA/卒業研究B・開発型プロジェクトB) 4
				環境計画演習A 4	環境計画演習B 4	環境/パフォーマンスA 4	環境/パフォーマンスB 4		
						インターンシップ 2	(インターンシップ) 2		

○ (科目名)は、同じ科目の複数回開講を示す

○ 素養科目と英語科目は、他コースと共通であるため、ここでは記載していない

○ ※技術日本語表現法は、平成26年度以降入学生のみ対象

○ 縦掛けの科目は、2017(平成29)年度は開講せず

導入・リテラシー科目、素養科目 カリキュラムマップ

	分野	科目名	単位
導入・リテラシー科目	<導入・リテラシー>	コンピュータリテラシー	2
		ワークショップ	1
		カリキュラム計画	1
		技術日本語表現法※	2
素 養 科 目	幅広い教養	歴史Ⅰ	2
		歴史Ⅱ	2
		人間と文化	2
		政治学	2
		法学(日本国憲法を含む)	2
		時事問題	2
		教育社会学	2
		都市文化	2
		情報化社会と職業	2
		社会情報メディア論	2
	実務的知識 (経営学・経済学)	国際経営論	2
		技術と経営	2
		マーケティング論	2
		国際経済学	2
		環境と経済	2
		日本の経済事情と産業構造	2
	論理的思考力・コミュニケーション力	哲学	2
		論理学	2
		倫理学	2
		自己表現法	2
	国際対応力	国際関係論	2
		欧米・アジア事情	2
		異文化理解	2
		アジアの文化と社会	2
		中国語Ⅰ	2
		中国語Ⅱ	2
	スポーツ	心と体	2
		トリムスポーツⅠ・Ⅱ	2
	キャリア教育	東京電機大学で学ぶ	1
		ボランティア活動	2
		インターンシップ※	2

○ * 演習・プロジェクト科目

○ ※ 技術日本語表現法は、平成26年度以降入学生のみ対象

○ 網掛けの科目は、2017（平成29）年度は開講せず

数学科目・物理科目 カリキュラムマップ

セメスター・ 年次相当	セメスター 1	セメスター 2	セメスター 3	セメスター 4	セメスター 5以降
区分	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期	
素養科目	基礎数学 3 線形代数 4 微分積分学 4	基礎数学 3 線形代数 4 微分積分学 4 確率統計 3	図形プログラミング 2		
< 数学科目 >		計算機数学 2	計算機数学 2 情報数学Ⅰ(応用解析学) 3 情報数学Ⅱ(確率・統計) 3 情報数学Ⅲ(応用幾何) 3 情報数学Ⅳ(多変量統計解析) 3	離散数学* 2 (情報数学Ⅲ(応用幾何)) 3 情報数学Ⅳ(代数学) 3	
物理科目	物理学A(力学) 2	物理学B(電気) 2			

○ * 専門教育科目

○ 網掛けの科目は、2017(平成29)年度は開講せず

英語科目 カリキュラムマップ

セメスター・ 年次相当	セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位	備考
区分	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期	3 年次前期	3 年次後期	4 年次前期	4 年次後期	
基礎的な英語能力養成 (入門レベル学生のみ対象) 語彙・文法力の強化	基礎英語Ⅰ＊ 2	基礎英語Ⅱ＊ 2	(基礎英語Ⅰ) 2	(基礎英語Ⅱ) 2					
総合的な英語能力養成 語彙・文法力の向上 読解・聴解力の強化	初級英語Ⅰ＊ 2	初級英語Ⅱ＊ 2	中級英語Ⅰ＊ (初級英語Ⅰ)＊ 2	中級英語Ⅱ＊ (初級英語Ⅱ)＊ 2	上級英語Ⅰ＊ (中級英語Ⅰ)＊ 2	上級英語Ⅱ＊ (中級英語Ⅱ)＊ 2			
英語発信能力養成 発話・作文能力の向上	初級英会話Ⅰ＊ 2 初級英作文Ⅰ＊ 2	初級英会話Ⅱ＊ 2 初級英作文Ⅱ＊ 2	中級英会話Ⅰ＊ 2 中級英作文Ⅰ＊ 2	中級英会話Ⅱ＊ 2 中級英作文Ⅱ＊ 2	上級英会話＊ 2 上級英作文＊ 2				
「実用英語」 情報系技術英語			技術英語 2	(技術英語) 2	(技術英語) 2	(技術英語) 2	(技術英語) 2	(技術英語) 2	
T O E I C 受験対策		実践英語 2		(実践英語) 2		(実践英語) 2		(実践英語) 2	
集中	海外英語研修A 2 海外英語研修B 2 海外英語研修C 2								

- (科目名) は、同じ科目の複数回開講を示す
○ ＊ 習熟度別クラス編成
○ 網掛けの科目は、2017 (平成29) 年度は開講せず

6 セメスター終了時
卒業見込み判定
英語科目 6 単位以上必要 (素養科目と英語科目で31単位以上のうち)

7 セメスター終了時
半年後卒業見込み判定
英語科目 6 単位以上必要
(素養科目と英語科目で33単位以上のうち)

卒業所要単位中
英語科目 8 単位以上必要
(素養科目と英語科目で36単位以上のうち)

英語科目 習熟度別カリキュラムマップ

セメスター・ 年次相当	セメスター1 単位	セメスター2 単位	セメスター3 単位	セメスター4 単位	セメスター5 単位	セメスター6 単位	セメスター7 単位	セメスター8 単位	備考
区分	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期	3 年次前期	3 年次後期	4 年次前期	4 年次後期	
入門レベル 8 単位以上取得	基礎英語Ⅰ 2	基礎英語Ⅱ 2	初級英語Ⅰ＊ 2 (初級英会話Ⅰ) ＊	初級英語Ⅱ＊ 2 (初級英会話Ⅱ) ＊					
初級レベル～上級レベル 8 単位～20 単位以上取得	初級英語Ⅰ＊ 2 初級英会話Ⅰ＊ 2	初級英語Ⅱ＊ 2 初級英会話Ⅱ＊ 2	中級英語Ⅰ＊ 2 (初級英語Ⅰ) ＊ 2 技術英語 2 (初級英会話Ⅰ) ＊	中級英語Ⅱ＊ 2 (初級英語Ⅱ) ＊ 2 (技術英語) 2 (初級英会話Ⅱ) ＊ 2 (実践英語) 2	上級英語Ⅰ 2 (中級英語Ⅰ) 2	上級英語Ⅱ 2 (中級英語Ⅱ) 2	(技術英語) 2	(技術英語) 2 (実践英語) 2	

- 注 1: 「基礎英語」以外のすべてのクラスを修得すると、36 単位となる。
注 2: 「基礎英語Ⅰ」4 クラス・「初級英語Ⅰ」8 クラスのクラス分けは4 月入学後実施の Placement test の結果に基づき行う。入門レベル約100 名程度は「基礎英語Ⅰ」へ配属される。
注 3: 「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」は「初級英会話Ⅰ・Ⅱ」「初級英作文Ⅰ・Ⅱ」以外の上記各クラスを修得済みの場合履修できない。
注 4: 「初級英語Ⅱ」→「初級英語Ⅰ」「初級英会話Ⅱ」→「初級英会話Ⅰ」「初級英作文Ⅱ」→「中級英語Ⅰ」の順に履修することも可能。「Ⅰ」は「Ⅱ」の事前履修条件とはならない。

2 卒業までの学修（入学年度別）

2010(平成22)年度以前入学生用

- 卒業の要件
- 授業科目配当表

卒 業

1 卒業の要件

本学部を卒業するためには、次のすべての条件をみたす必要があります。

(1) 卒業条件

- ①卒業するために必要な下記の単位数（卒業所要単位数）以上を修得していること。
- ②合計4年以上（8年以内、但し、休学期間は除く）在学していること。
（4年未満で卒業する早期卒業生に対しては、早期卒業のページで説明します。）
- ③卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
- ④卒業判定時に休学していないこと。

- 情報環境学部においては、次の条件を満たし、124単位以上を履修し、修得しなければならない。

卒業所要単位数

区 分	単 位 数
一 般 教 育 科 目	導 入 ・ リ テ ラ シ ー 科 目
	素 養 科 目
専 門 教 育 科 目 / 専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目
	専 門 科 目
任意に選択し、修得した科目	
合 計	
	2単位
	40単位
	60単位
	22単位
	124単位

※ 自由科目の単位は算入されません。

(2) 学位の授与

情報環境学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

情報環境学科 …………… 学士（情報環境学）

2 単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の1単位は、45時間（授業時間および自学自修の時間を合わせて）の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。

各授業科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により

定めます。

1. 講義および演習については、15時間の授業をもって1単位としています。
2. プロジェクト及び実験・実習科目については、30時間の授業をもって1単位としています。
3. 卒業研究等については、学修の効果を考慮して単位数を定めています。

3 科目区分

[1] 一般教育科目

(1) 導入・リテラシー科目

入学年次の学生に対し、約1週間の「カリキュラム計画」(担当教員と学生が個々に相談しながら、各セメスター、および卒業までのセメスターの履修計画を立てていく)、「ワークショップ」(物の安全性、機能性、経済性、審美性などを考慮し、もの作りの喜びを体得する)を実施し、各々の学生が本学部へ入学した意義、目標、学習方法などを明確にします。「カリキュラム計画」と「ワークショップ」の2つの科目を合わせて「導入教育科目」と呼んでいます。また、専門分野の学習に不可欠な「コンピュータリテラシー」が用意されています。この導入・リテラシー科目から最低2単位を履修し、修得しなければなりません。

(2) 素養科目

語学系(英語)、人文社会系、自然科学系等から構成され、英語によるコミュニケーション能力から、異文化理解、心身を健全にする上で不可欠な体育や健康管理に関する分野、さらには工学を学ぶ上で最も基礎となる「基礎数学」「確率統計」「微分積分学」「線形代数」等の授業を行います。これらの科目は、専門教育の履修の前提として、全学生に共通の基礎科目となります。この素養科目から各々の目標に応じて最低40単位を履修し、修得しなければなりません。

[2] 専門教育科目

情報環境学科

(1) 専門基礎科目

情報処理に関する基礎的な内容、コンピュータの構成、プログラミングの基礎からある程度の応用まで、さらに情報処理を学んでいく上で重要な情報数学、離散数学など、学修が進むにしたがって必要となる専門基礎的な内容を効率良く、かつ、原理まで深く理解できるように構成されています。

(2) 専門科目

①『演習・プロジェクト科目』

プロジェクト形式で幾つかの専門分野に関連する専門知識の吸収と実際の経験を積むことを目的としています。この On the Job Training による生きた教育が本学部最大の特徴であり、通常の講義のほか、徹底した演習、ディスカッションでの創作作業、さらに実験や演習などのレポート作成、プレゼンテーションと、次々に実学としての工学を身に付けていくことができます。特に、企業から提案される多くの課題を個人あるいはグループで解決することを通して、実社会の問題に触れることは一種のインハウス型インターンシップ（実社会体験型学修）と考えることもでき、将来、技術者になる上で貴重な体験となるでしょう。

②『共通専門科目』

各コース・コアに共通の専門科目群として、人工知能、コンピュータグラフィックス（CG）、デジタル信号処理、データ構造とアルゴリズムなどの情報を基礎とした科目を配当し、さらに専門的な学問領域へ進むための基礎となるよう配慮してあります。

③『専門科目』

- (1) ネットワーク・コンピュータ工学コースでは、ネットワーク工学、コンピュータ工学、プログラミング等に係る情報工学・情報基盤系の分野の専門教育科目を配置することにより、専門性の高い技術者の養成を目指します。
- (2) 先端システム設計コースでは、ウェブシステム、マルチメディアシステム、ロボティクス等に係る先端的なシステム情報系の分野の専門教育科目を配置することにより、専門性の高い技術者の養成を目指します。
- (3) メディア・人間環境デザインコースでは、医療・福祉工学、映像・音響メディア、建築・都市デザイン等に係る人間情報学・人間環境学系の分野の専門教育科目を配置することにより、専門性の高い技術者の養成を目指します。
- (4) コミュニケーション工学コース・コミュニケーションデザインコースでは、分りやすさのデザイン工学、人と機械をつなぐインタフェース技術、人間の心理や社会についての人間科学の分野の専門教育科目を配置することにより、広い視野を持ち、専門性の高い技術者の養成を目指します。

以上の専門教育科目から最低60単位を履修し、修得しなければなりません。

4 卒業判定と判定結果に基づく取扱いについて

【卒業判定】

卒業要件を満たした学生は「卒業判定合格者」として認定され、当該セメスターをもって卒業となります。

卒業判定は、当該セメスターの終了時（2月および8月）に行い、卒業判定の合格者を教育棟1階の掲示により発表します。※UNIPAでは公開しません。

《学業継続願》

卒業判定に合格した者が、引続き本学部の学生として学業の継続を希望する場合は、保証人と連署・押印の上、「学業継続願」を所定の期日までに提出し、学部長の許可を得ることにより、最長在学年限（8年）を限度に在籍することができます。

学業継続願は、定められた期間内に提出しなければなりません。

※学費の支払い義務が発生しますので、保証人と十分に相談し、希望を決定して下さい。

※平成32年8月の卒業判定時をもって、受付を終了します。

《卒業延期》

卒業判定の結果、条件を満たさなかった者は卒業延期となり、卒業条件を満たすまで、引続き学業に専念しなければなりません。

卒業条件を満たせず8年を超える場合は除籍となります。

5 通学キャンパスについて

本学では、千葉ニュータウンキャンパスに設置している大学院・大学（学部）を平成30年度4月より「東京千住キャンパス〔北千住駅東口駅前〕」へ移転する計画を進めております。従って、平成30年度4月以降に情報環境学部 に在籍する学生の通学キャンパスは、「東京千住キャンパス〔北千住駅東口駅前〕」となります。本キャンパス移転に伴う実施計画は、決定後、お知らせすることとなります。

2017(平成29)年度 情報環境学部 情報環境学科 授業科目配当表(2010(平成22)年度以前の入学生用)

- 一般教育科目58
- 専門教育科目60

一般教育科目

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	自 由 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	備 考
					1 年 目 学生推奨		2 年 目 学生推奨		3 年 目 学生推奨		4 年 目 学生推奨			
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
専 門 入 学 科 目	I001	カリキュラム計画	1		○								(開講せず)	集中講義
	I002	ワークショップ	1		○								(開講せず)	集中講義
	I003	コンピュータリテラシー	2		○	○							【前学期】上野洋一郎、大島直樹	今年度後学期開講せず
素 養 科 目	C001	自己表現法	2				前学期・後学期開講					川邊孝		
		自己表現法（留学生のみ）	2				後学期開講					興津正信、工藤理恵、松島調	留学生のみ対象	
	C002	歴史Ⅰ	2				前学期開講					佐藤純子		
		歴史Ⅱ	2				後学期開講					佐藤純子		
	C003	歴史Ⅱ（英語）	2				後学期開講					(開講せず)		
		歴史Ⅱ（実践英語）	2				後学期開講					(開講せず)		
	C004	異文化理解	2				前学期開講					川邊孝		
		異文化理解（英語）	2				後学期開講					パロース・ジェイソン		
		異文化理解（実践英語）	2				後学期開講					パロース・ジェイソン		
	C005	国際関係論	2				前学期・後学期開講					【前学期】小高康照	今年度後学期開講せず	
		国際関係論（英語）	2				後学期開講					小高康照		
		国際関係論（実践英語）	2				後学期開講					小高康照		
	C006	人間と文化	2				前学期・後学期開講					佐藤純子		
		欧米・アジア事情	2				前学期・後学期開講					笠井信幸		
	C007	欧米・アジア事情（英語）	2				後学期開講					(開講せず)		
		欧米・アジア事情（実践英語）	2				後学期開講					(開講せず)		
	C008	技術と経営	2								後学期開講		小松原進	
	C009	国際経営論	2				前学期・後学期開講					()		
	C010	時事問題	2						前学期・後学期開講			【前・後学期】佐藤純子 【後学期】川邊孝		
		時事問題（英語）	2						後学期開講			小高康照		
		時事問題（実践英語）	2						後学期開講			小高康照		
	C011	日本の経済事情と産業構造	2				前学期・後学期開講					【後学期】小高康照	今年度前学期開講せず	
	C012	都市文化	2				○						滋賀秀實	
	C013	教育社会学	2						後学期開講				吉野剛弘	
	C014	国際経済学	2								後学期開講		笠井信幸	
	C015	中国語Ⅰ	2				前学期・後学期開講					農照		
	C016	中国語Ⅱ	2				後学期開講					農照		
	C017	情報化社会と職業	2						前学期開講			吉野剛弘、石田厚子 他		
	C018	法学（日本国憲法を含む）	2						後学期開講			頼松誕生、高田久実		
	C019	社会情報メディア論	2						前学期開講			田中雅子		
	C020	政治学	2						前学期開講			小高康照		
	C021	哲学	2						前学期開講			飯野由美子		
	C022	論理学	2						後学期開講			飯野由美子		
	C023	マーケティング論	2						後学期開講			()		
	C024	環境と経済	2						前学期開講			笠井信幸		
	C025	アジアの文化と社会	2						前学期・後学期開講			笠井信幸		
	C052	倫理学	2		○		○		○		○		飯野由美子	
	C026	心と体	2						後学期開講			加藤知己		
	C027	物理学A（力学）	2		○								宮原一紀	
	C028	物理学B（電気）	2			○							渡邊祐子	
	C029	トリムスポーツⅠ	2				前学期開講					木村憲		
	C030	トリムスポーツⅡ	2				後学期開講					木村憲		
	C031	ボランティア活動	2										根本幾	受付随時
	C033	東京電機大学で学ぶ	1		○								(開講せず)	e-Campus科目
	C034	基礎数学	3		○	○							【前学期】原民夫	今年度後学期開講せず
	C035	確率統計	3			○							鈴木秀一、塚田真、原民夫	
	C036	微分積分学	4		○	○							原民夫	事前履修条件 基礎数学
		微分積分学（英語）	4			○							(開講せず)	事前履修条件 基礎数学
		微分積分学（技術英語）	2			○							(開講せず)	事前履修条件 基礎数学

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	自 由 単 位	2017年度開講科目								担当教員名	備 考
					1 年 目		2 年 目		3 年 目		4 年 目			
					学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨	学 生 推 奨		
			前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期				
素 養 科 目	C037	線形代数	4	○	○							【後学期】 根本幾	今年度前学期開講せず	
		線形代数（英語）	4	○								（開講せず）		
		線形代数（技術英語）	2	○								（開講せず）		
	C038	図形プログラミング	2			○						新津靖		
	C039	日本語中級 AⅠ（文法・語彙）	1	○								興津正信	留学生のみ	
	C040	日本語中級 AⅡ（文法・語彙）	1		○							（開講せず）	留学生のみ	
	C041	日本語中級 BⅠ（聴解・口語表現）	1	○								（開講せず）	留学生のみ	
	C042	日本語中級 BⅡ（聴解・口語表現）	1		○							興津正信	留学生のみ	
	C043	日本語中級 CⅠ（読解）	1	○								（開講せず）	留学生のみ	
	C044	日本語中級 CⅡ（読解）	1		○							興津正信、松島調	留学生のみ	
	C045	日本事情Ⅰ	2		○							興津正信	留学生のみ	
	C046	日本語上級Ⅰ（文章表現）	1			○						興津正信	留学生のみ	
	C047	日本語上級Ⅱ（文章表現）	1				○					松島調	留学生のみ	
	C048	日本事情Ⅱ	2			○						興津正信	留学生のみ	
	C049	日本事情Ⅲ	2				○					工藤理恵	留学生のみ※	
	C051	日本事情Ⅳ	2					○				興津正信	留学生のみ※	
	E001	基礎英語Ⅰ	2	○		○						相羽千州子		
	E002	基礎英語Ⅱ	2		○		○					相羽千州子		
	E014	初級英語Ⅰ	2	○		○						山村嘉雄		
	E015	初級英語Ⅱ	2		○		○					山村嘉雄		
	E016	中級英語Ⅰ	2			○		○				相羽千州子、ボッシュ・エリック		
	E017	中級英語Ⅱ	2				○		○			相羽千州子、ボッシュ・エリック		
	E009	技術英語	2				○	○	○	○	○	○	宮添輝美	
	E010	実践英語	2										【後学期】 相羽千州子	
	E011	海外英語研修 A	2										穴戸真	集中講義
	E012	海外英語研修 B	2										穴戸真	集中講義
	E013	海外英語研修 C	2										穴戸真	集中講義
	E018	上級英語Ⅰ	2				○		○		○		ボッシュ・エリック	
	E019	上級英語Ⅱ	2					○		○		○	ボッシュ・エリック	
	E020	初級英会話Ⅰ	2	○									相羽千州子	
	E021	初級英会話Ⅱ	2		○								相羽千州子	
	E022	中級英会話Ⅰ	2				○						相羽千州子	
	E023	中級英会話Ⅱ	2					○					相羽千州子	
	E024	初級英作文Ⅰ	2	○									宮添輝美、山村嘉雄	
	E025	初級英作文Ⅱ	2		○								宮添輝美、山村嘉雄	
	E026	中級英作文Ⅰ	2				○						パローズ・ジェイソン	
	E027	中級英作文Ⅱ	2					○					パローズ・ジェイソン	
	E028	上級英会話	2						○				（開講せず）	隔年開講
	E029	上級英作文	2						○				（開講せず）	隔年開講
(自由科目)	自由科目	幾何学Ⅰ	(2)									越川浩明	集中講義 隔年開講	
		幾何学Ⅱ （今年度開講せず）	(2)									越川浩明	集中講義 隔年開講	
		幾何学Ⅲ	(2)									田澤義彦	隔年開講 事前履修条件 基礎数学、線形代数	

【注意事項】

- ・自由単位(自由科目)は卒業所要単位数に含まれません。教職課程履修者は教職ガイダンスの指示に従って履修して下さい。
- ・科目名最後にある(英語)(実践英語)(技術英語)は、「英語で開講する素養科目の取扱について」を参考にして下さい。
- ・「ボランティア活動」の受付は随時となります。詳細は別途掲示します。
- ・「微分積分学」の事前履修条件科目は「基礎数学」です。ただし、入学時の数学基礎学力調査で一定以上の成績を修めた学生については、事前履修条件を満たしているものとします。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示等にご注意して下さい。
- ・海外英語研修は、研修回数に応じて、1回目の研修が「海外英語研修A」、2回目の研修が「海外英語研修B」、3回目の研修が「海外英語研修C」に単位認定されます。なお、すでに大学名が入った科目名で単位認定されている場合は、個別対応します。
- ※「日本事情Ⅲ」「日本事情Ⅳ」は、平成27年度以前入学者のみ配当する。

専門教育科目

区 分	授 番 業 科 目 号	授業科目名	選 択 単 位	2017年度開講科目										担当教員名	事前履修条件						
				JNコース	JAコース	JMコース	J C コ ー ス	1 年 目 学生推奨	2 年 目 学生推奨	3 年 目 学生推奨	4 年 目 学生推奨										
専 門	K001	情報処理の基礎	2	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	○	○					築山俊史	今年度後学期開講せ ず	
	S002	アセンブリ言語	2		●	●			●					○					大島直樹		
	S006	コンピュータ構成	2	▲	●	●	▲			●				○					上野洋一郎、 福岡久雄	情報処理の基礎	
	K004	システムプログラム/ OS	3	●	●	●	▲	▲	●					○					酒井元気		
	K002	コンピュータプログラ ミングA	4	●	●	●	●	●	●	●	●	●		○	※ ○				【前学期】 堤智昭	今年度後学期開講せ ず	
	K003	コンピュータプログラ ミングB	4	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●		○	※ ○			【前・後学期】 大島正毅 【前学期】 土肥紳一、 宮川治、小濱隆司、 堤智昭	コンピュータプログ ラミングA	
	S001	情報通信リテラシー	2	●	▲	▲	●	▲						○	○				【前学期】 佐野裕康	今年度後学期開講せ ず	
	S042	構造システムと安全A	2												○				立花正彦		
	S043	構造システムと安全B	2														○		木村秀樹	構造システムと安全 A	
	K008	空間表現法・演習	4								●	▲	○							伊藤俊介、江川香奈	
基 礎	M001	計算機数学	2	●	●	●	▲	▲	●					○	○				【後学期】 石田厚子、 【前学期】 紫合治		
	M002	情報数学Ⅰ (応用解析学)	3	○	●	▲	▲	●	●	○	●	▲	●			○	○		【前・後学期】 伊勢史郎 【後学期】 根本幾、 田澤義彦	微分積分学	
	M003	情報数学Ⅱ (確率・統計)	3	○	●	△	△	▲		○	▲				○				鈴木秀一		
	M004	情報数学Ⅲ(応用幾何)	3	△	●			●	●	○	●	▲			○	○			田澤義彦	線形代数	
	M005	情報数学Ⅳ(代数学)	3	△	●	▲		▲		○	▲					○			鈴木秀一、塚田真		
	M006	情報数学Ⅴ (多変量統計解析)	3	▲	▲	△	△	●		▲	●				○				鈴木秀一		
	S008	離散数学	2	●	●	●	▲	▲	●		▲					○			金子博	計算機数学	
	K010	コミュニケーションデ ザイン概論	2										●	○					武川直樹、青木良輔		
	S056	ユーザビリティ評価法	2										●			○			大島直樹		
	S055	人間中心デザイン・認 知心理	2										●			○			大島直樹		
科 目	K011	社会心理学	3									●		○					日根恭子		
	K013	情報倫理と技術者倫理	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○		○			石田厚子		
	P022	卒業研究A・開発型プ ロジェクトA	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	情報環境学科長 他	*	
	P023	卒業研究B・開発型プ ロジェクトB	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	情報環境学科長 他	卒業研究A・開発型 プロジェクトA *
	P008	基礎プロジェクトA	4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●				○	○	小濱隆司 他	*
	P009	基礎プロジェクトB	4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●				○	○	小濱隆司 他	基礎プロジェクトA *
	S044	構造システムと材料・ 実験	4															○		深澤協三、溝淵匠	構造システムと安全 A
	P005	環境パフォーマンスA	4										○					○		伊藤俊介、江川香奈、 溝淵匠	
	P006	環境パフォーマンスB	4										○					○		伊藤俊介、江川香奈、 溝淵匠	
	P001	環境計画演習A	4								●	○			○					柴田滝也、大崎淳史、 安田博道、吉村彰	
専 門	P002	環境計画演習B	4								●	○					○			柴田滝也、大崎淳史、 遠藤義則、 永田賢一郎	

区 分	授 番 業 科 目 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	JNコース	JAコース	JMコース	JC コース	2017年度開講科目								担当教員名	事前履修条件						
				ネット ワーク	コン ピ ュ ー タ フ ロ グ ラ ミ ン グ	ウ ェ ブ シ ス テ ム		マル チ メ デ ィ ア シ ス テ ム	ロ ボ テ ィ ク ス	医 療 ・ 福 祉 工 学	映 像 ・ 音 響 ・ デ ザ イ ン	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン	1 年 目 学 生 推 奨	2 年 目 学 生 推 奨	3 年 目 学 生 推 奨			4 年 目 学 生 推 奨					
				前 学 期	後 学 期	前 学 期		後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期									
専 門 科 目	P003	情報環境プラクティスA	2	●	▲	●	●	●	●	●	●	○			○					宮川治、島田尊正、 築山俊史、新津靖、 八幡博史、福岡久雄、 斎藤博人、冬爪成人、 渡邊祐子、日根恭子、 大島直樹、堤智昭、 遠藤義則、佐野香			
	P004	情報環境プラクティスB	2	●	●	●	●	●	●	●	●	○			○					宮川治、小川猛志、 島田尊正、鈴木真、 新津靖、根本幾、 八幡博史、福岡久雄、 斎藤博人、冬爪成人、 渡邊祐子、日根恭子、 大島直樹、堤智昭、 遠藤義則、佐野香			
	K005	エレクトロニクスA	4	●	●	●	▲	●	●	●	●	▲	●		○					上野洋一郎			
	K006	エレクトロニクスB	3	▲				●	●	●	●	▲	●			○				宮原一紀、川勝真喜	微分積分学、物理学B		
	S021	デジタル計測工学	3	▲				○	●	●						○				宮原一紀	エレクトロニクスB		
	S034	ニューラルネットワーク	2		●					●								○		島田尊正	情報数学Ⅲ		
	S027	遠隔システムと制御	3	▲				●	●								○			中田毅	線形代数、エレクトロニクスB		
	K009	CAD	4									●				○				遠藤義則			
	S035	人工知能	2		●				●										○		築山俊史	情報処理の基礎、離散数学、コンピュータプログラミングA	
	S036	バーチャルリアリティ	2					▲	▲		▲	▲	●	●					○		遠藤義則		
	S023	シミュレーション	2		▲				●	▲	▲					○					斎藤博人	微分積分学、コンピュータプログラミングA	
	S026	コンピュータグラフィックス	2			▲	●	●	▲	▲	●	●	●					○			柴田庵也	コンピュータプログラミングA、線形代数	
	K007	デジタル信号処理	3	▲				▲	○	●	●	●	▲	●			○	○			【前学期】 島田尊正 【後学期】 斎藤博人	情報数学Ⅰ、線形代数	
	S005	データ構造とアルゴリズム	2	▲	●	●	▲	▲	▲	▲	▲					○					金子博、林善士	情報処理の基礎	
	S003	インターネット総論A	2	●	●	●	●	▲	▲	●	▲					○					小林浩、佐野香	情報処理の基礎	
	S004	インターネット総論B (情報倫理と知的財産)	2	●	●	●	●			▲	▲						○				小林浩、佐野香	インターネット総論Aまたはコンピュータネットワーク	
	S012	ヒューマンインタフェース	2			●	●	▲	●	▲	●	●	●	●				○	○		【前学期】 大山実 【前・後学期】 徳永弘子	コンピュータプログラミングA	
	S049	人工環境制御	2																○		大鎌征四郎		
	S050	人工環境づくりの実際	3																	○	久保田滋		
	S057	情報心理学	2				▲					●	▲	●			○					今野紀子	
	S040	建築CAD演習	4									●				○						遠藤義則	空間表現法・演習
S039	CGアニメーション	4									●								○		遠藤義則	CAD	
S037	基礎マルチメディア工学	3	●			●	●		▲	●		●				○					渡邊祐子	情報処理の基礎	
S038	ヒューマンメディア	2				▲	●			●	▲							○			柴田庵也		
P007	インターンシップ	2															○	○			情報環境学科長		
P014	年次縦断型PBL①	1																			情報環境学部部長 他		
P015	年次縦断型PBL②	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL①	
P016	年次縦断型PBL③	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL②	
P017	年次縦断型PBL④	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL③	
P018	年次縦断型PBL⑤	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL④	
P019	年次縦断型PBL⑥	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL⑤	
P020	年次縦断型PBL⑦	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL⑥	
P021	年次縦断型PBL⑧	1																			情報環境学部部長 他	年次縦断型PBL⑦	

区 分	授 業 番 号	授 業 科 目 名	選 択 単 位	2017年度開講科目																担 当 教 員 名	事 前 履 修 条 件	
				JNコース ネット ワーク	JAコース プログラ ミング ウェ ブシ ステ ム	JMコース ロボ ティ クス	J C コ ー ス	1 年 目 学 生 推 奨	2 年 目 学 生 推 奨	3 年 目 学 生 推 奨	4 年 目 学 生 推 奨											
専 門 科 目	情 報 通 信	S007	コンピュータネットワーク	3	●	●	▲	▲							○					宮保憲治、八横博史	情報通信リテラシー	
		S009	ネットワークセキュリティ	3	●			●							○					小川猛志、八横博史	情報通信リテラシー	
		S018	モバイルコンピューティング	2	●		▲										○			小林浩、佐野香	インターネット総論Bまたはコンピュータネットワーク	
	分 散 処 理	S019	分散リアルタイムシステム	3	●	●	●	●	●	●					○					福岡久雄	コンピュータプログラミングA	
		S013	並列処理	2	●	●	▲									○				平山秀昭	コンピュータプログラミングA、情報数学Ⅰ	
	デ ー タ ベ ー ス	S010	データベースシステム	3	▲	●	●	●			▲				○					大山実、和田雄次、石田厚子	情報処理の基礎、コンピュータプログラミングA	
		S014	情報圧縮	2	●	●		▲	●	▲		●				○				武川直樹	情報処理の基礎、情報数学Ⅰ	
		S015	データマイニング	2	▲	●	●	●					▲			○				和田雄次	データベースシステム	
		S017	高度データベースシステム	2	●	●	●	▲	▲							○				和田雄次	データベースシステム	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ	S011	C言語システムプログラミング	3	▲	▲	●			●	●				○					冬瓜成人、堤智昭、紫合治	コンピュータプログラミングA	
		S016	オブジェクト指向設計	2	▲	▲	●	●								○				宮川治	コンピュータプログラミングB	
		S020	ソフトウェア工学	2			●	●									○			阿部清彦	情報処理の基礎、コンピュータプログラミングA	
	人 間 環 境 イ ン タ フ ェ ー ス	S030	感性工学	2			●	▲		▲	●	▲				○				渡邊祐子		
		S025	センサー工学	2					▲	●	▲					○				中田毅	線形代数、エレクトロニクスB	
		S060	視覚のデジタル処理	3				▲	●	●	●	●	▲	●			○			武川直樹	デジタル信号処理または情報圧縮	
		S032	信号処理応用	2	▲			●		▲	●	●	●			○				斎藤博人	デジタル信号処理	
		S028	音響工学A	3	▲			●		▲	●	▲				○				渡邊祐子	物理学A	
		S029	音響工学B	2	▲			●		▲	●	▲					○			伊勢史郎	デジタル信号処理	
		S058	言語・非言語コミュニケーション	3										●			○			日根恭子		
		S059	ICTコミュニケーションと社会	2	▲	▲	▲	▲				▲	●					○		日根恭子		
		医 療 情 報 環 境	S033	医療情報工学	2						●							○			鈴木真	コンピュータプログラミングA
			S048	ネットワーク医療福祉システム	2						●		▲	▲					○		江川香奈	
	S024		生体計測工学	2						●							○			鈴木真	エレクトロニクスB	
	S022		生体情報工学	2					▲	●	●		▲				○			根本幾	微分積分学、確率統計、物理学B	
	環 境 デ ザ イ ン	S046	まちづくりの環境デザイン	2								●	▲				○			吉村彰		
		S047	高齢社会と環境	2						▲		●					○			大崎淳史、江川香奈		
		S045	インテリジェント環境システム	3									●	▲			○			吉村彰、桑谷佳容、溝淵匠		
		S051	ランドスケープと環境	2								●						○		柴田竜也		
		S041	都市居住と環境	2								●	▲				○			伊藤俊介		
		S052	建築材料	2								●						○		大澤悟		
		S053	建築法規	1								●							○	大崎淳史	集中講義	
		S054	建築工法・生産	2								●							○	溝淵匠	集中講義 事前履修条件：構造システムと材料・実験	

【注意事項】

- ・＊は前学期・後学期同一科目を開講する。
- ・※の配当は、再履修者のみ対象です。
- ・情報環境プラクティスA、情報環境プラクティスBは、講義・演習1単位、実験・実習1単位の合計2単位です。
- ・前学期、後学期共に○印がある科目は、いずれの学期にも開講する科目を表します。
- ・カリキュラム変更に伴う事前履修条件科目の読み替えに注意して下さい。
- ・内容は変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。

【情報環境学部情報環境学科コース制について】

①JNコース：ネットワーク・コンピュータ工学コース

②JAコース：先端システム設計コース

③JMコース：メディア・人間環境デザインコース

④JCコース：コミュニケーション工学コース

※1：各コースの内、●は各コアの履修推奨科目（○は、択一履修推奨科目）

※2：各コースの内、▲は各コアの希望に応じて履修する科目（△は、希望に応じて履修する科目の内どちらか履修する科目）

【1級建築士／2級・木造建築士受験資格条件について】

- ・2008年度以前の入学生は、「建築デザインコース」を修了する必要があります。
- ・2009年度以降の入学生は、「建築士試験指定科目」を修得する必要があります。

カリキュラム変更に伴う再履修・事前履修条件・履修履歴について

カリキュラム 変更年度	カリキュラム変更前配当 旧科目(X)		カリキュラム変更後配当 新科目(Y)		〔1〕 (X)を単位修得済の場合 の(Y)の履修	〔2〕 (Y)が他科目の事前履修 条件となっている場合	〔3〕 (X)が不合格で、(Y) を再履修した場合
	科目名	単位数	科目名	単位数			
2005 (平成17) 年度	日本の教育と社会	3	教育社会学	3	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	基礎数学A	3	基礎数学	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	基礎数学B	3	確率統計	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理A	4	微分積分学	4	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理B	4	線形代数	4	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理A(英語)	4	微分積分学(英語)	4	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理A(技術英語)	2	微分積分学(技術英語)	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理B(英語)	4	線形代数(英語)	4	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	数学と物理B(技術英語)	2	線形代数(技術英語)	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	スポーツと科学	3	トリムスポーツⅠ	2	春学期のスポーツと科学を単位修得済の場合は、トリムスポーツⅠの履修は不可		(X)の履修履歴を削除
	スポーツと科学	3	トリムスポーツⅡ	2	秋学期のスポーツと科学を単位修得済の場合は、トリムスポーツⅡの履修は不可		(X)の履修履歴を削除
	コンピュータの構成	3	コンピュータ構成	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	コンピュータの構成	3	アセンブリ言語	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	情報数学A	3	情報数学Ⅰ (応用解析学)	3	【学生ポータルサイトの履修は不可】 情報数学Ⅰまたは情報数学Ⅱのいずれか一方のみ履修可 履修希望科目の担当教員に申し出ること	(X)でも可能	(Y)の内、いずれか一方を再履修すれば、(X)の履修履歴削除
			情報数学Ⅱ (確率統計)	3			
	情報数学B	3	情報数学Ⅲ (応用幾何)	3	【学生ポータルサイトの履修は不可】 情報数学Ⅲまたは情報数学Ⅳのいずれか一方のみ履修可 履修希望科目の担当教員に申し出ること	(X)でも可能	(Y)の内、いずれか一方を再履修すれば、(X)の履修履歴削除
			情報数学Ⅳ (代数学)	3			
	情報環境プラクティスA	4	情報環境プラクティスA	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	情報環境プラクティスB	4	情報環境プラクティスB	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	インターネット総論	2	インターネット総論A	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	ヒューマンインタフェース設計	4	ヒューマンインタフェース	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	モバイルコンピューティング概論	2	インターネット総論B (情報倫理と知的財産)	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	分散処理	3	分散リアルタイムシステム	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	データベース	2	データベースシステム	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	JAVAプログラミング	4	オブジェクト指向設計	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	プログラム工学	3	ソフトウェア工学	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	構造システムと安全	2	構造システムと安全A	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	構造システムと安全Ⅱ	2	構造システムと安全B	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	基礎プロジェクトC	4	構造システムと材料・実験	4	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	生体工学	2	生体計測工学	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	情報と社会	3	対応科目無し				
	情報と社会(英語)	3	対応科目無し				
	情報と社会(実践英語)	2	対応科目無し				
	日本の教育と社会(英語)	3	対応科目無し				
	日本の教育と社会(実践英語)	2	対応科目無し				
2006 (平成18) 年度	コンピュータグラフィックス	2	コンピュータグラフィックスA	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	高齢化社会と環境	2	高齢社会と環境	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
2008 (平成20) 年度	(自由科目) 情報と職業	自由 2	情報化社会と職業	選択 3	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	(自由科目) 日本国憲法	自由 2	法学 (日本国憲法を含む)	選択 3	履修不可		(X)の履修履歴を削除

カリキュラム 変更年度	カリキュラム変更前配当 旧科目(X)		カリキュラム変更後配当 新科目(Y)		〔1〕 (X)を単位修得済の場合の(Y)の履修	〔2〕 (Y)が他科目の事前履修 条件となっている場合	〔3〕 (X)が不合格で、(Y) を再履修した場合
	科目名	単位数	科目名	単位数			
2010 (平成22) 年度	聴覚と音響処理	4	音響工学A	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	聴覚と音響処理	4	音響工学B	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	マルチメディア工学	4	基礎マルチメディア工学	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	対応科目なし		ヒューマンメディア	2			
	対応科目なし		建築CAD演習	4			
2011 (平成23) 年度	対応科目なし		CGアニメーション	4			
	コンピュータグラフィックスA	2	コンピュータグラフィックス	2	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	コンピュータグラフィックスB	2	対応科目なし				
	対応科目なし		建築法規	1			
	対応科目なし		建築材料	2			
	対応科目なし		建築工法・生産	2			
	対応科目なし		言語・非言語コミュニケーション	3			
	対応科目なし		ITコミュニケーションと社会	2			
	対応科目なし		情報倫理	2			
	対応科目なし		計算機数学	2			
	対応科目なし		図形プログラミング	2			
2012 (平成24) 年度	対応科目なし		高度データベースシステム	2			
	社会心理学 (一般教育科目)	3	社会心理学 (専門教育科目)	3	履修不可	(X)でも可能	(X)の履修履歴を削除
	視覚と画像処理	3	視覚のデジタル処理	3	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	卒業研究A	4	卒業研究A・ 開発型プロジェクトA	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	卒業研究B	4	卒業研究B・ 開発型プロジェクトB	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	開発型プロジェクトA	4	卒業研究A・ 開発型プロジェクトA	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
2013 (平成25) 年度	開発型プロジェクトB	4	卒業研究B・ 開発型プロジェクトB	4	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語理解Ⅰ	2	初級英語Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語理解Ⅱ	2	初級英語Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	総合英語Ⅰ	2	中級英語Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	総合英語Ⅱ	2	中級英語Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
2014 (平成26) 年度	情報倫理	2	情報倫理と技術者倫理	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語表現Ⅰ	2	初級英会話Ⅰ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	英語表現Ⅱ	2	初級英会話Ⅱ	2	履修不可		(X)の履修履歴を削除
	フレッシュマンゼミ	2	対応科目なし				

履 修 条 件

2011 (平成23) 年度	科目名	履修条件
	基礎英語Ⅰ	英語理解Ⅰ(初級英語Ⅰ)、英語理解Ⅱ(初級英語Ⅱ)、総合英語Ⅰ(中級英語Ⅰ)、総合英語Ⅱ(中級英語Ⅱ)、技術英語、実践英語、上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱを修得済の場合、履修不可 ※()は、2013年度から科目名称変更となる科目
2011 (平成23) 年度	基礎英語Ⅱ	英語理解Ⅰ(初級英語Ⅰ)、英語理解Ⅱ(初級英語Ⅱ)、総合英語Ⅰ(中級英語Ⅰ)、総合英語Ⅱ(中級英語Ⅱ)、技術英語、実践英語、上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱを修得済の場合、履修不可 ※()は、2013年度から科目名称変更となる科目

新 設 科 目

カリキュラム 変更年度	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
2014 (平成26) 年度	初級英作文Ⅰ	2	初級英作文Ⅱ	2	中級英会話Ⅰ	2	中級英会話Ⅱ	2
	中級英作文Ⅰ	2	中級英作文Ⅱ	2	上級英会話	2	上級英作文	2
	技術日本語表現法	2						

2 卒業までの学修（共通部分）

卒業見込み・早期卒業・飛び級

- ・ 卒業見込み
- ・ 早期卒業
- ・ 飛び級について

試験と成績

- ・ 試験
- ・ 不正行為
- ・ 成績
- ・ G P A 制度
- ・ 退学予備勧告・退学勧告

卒業見込み・早期卒業・飛び級

1 卒業見込み

【卒業見込判定】

本学部において3年（以上）在学し、所定の条件を満たした者は「卒業見込者」として認定します。卒業見込者は4月および9月に掲示により発表します。

① 6セメスター終了した時点での基準

平成23(2011)～平成28(2016)年度入学生 11 J K～16 J K	平成17(2005)～平成22(2010)年度入学生 05 J K～10 J K
自由科目を除く総取得単位104単位以上 修得し、かつ以下の条件を満たすこと。 ・導入・リテラシー科目2単位以上修得 ・素養科目と英語科目で合計31単位以上修得 ※ただし、英語科目は、6単位以上修得	自由科目を除く総取得単位104単位以上 修得し、かつ以下の条件を満たすこと。 ・導入・リテラシー科目2単位以上修得 ・素養科目35単位以上修得

→2セメスター後（1年後）の卒業見込みを認定

② 7セメスター以上、終了した時点での基準

平成23(2011)～平成28(2016)年度入学生 11 J K～16 J K	平成17(2005)～平成22(2010)年度入学生 05 J K～10 J K
自由科目を除く総取得単位116単位以上 修得し、かつ以下の条件を満たすこと。 ・導入・リテラシー科目2単位以上修得 ・素養科目と英語科目で合計33単位以上修得 ※ただし、英語科目は、6単位以上修得	自由科目を除く総取得単位116単位以上 修得し、かつ以下の条件を満たすこと。 ・導入・リテラシー科目2単位以上修得 ・素養科目37単位以上修得

→1セメスター後（半年後）の卒業見込みを認定

ただし、2セメスター後（1年後）の卒業見込み認定は、上記①6セメスター終了した時点での基準を適用する。

《卒業見込証明書》

卒業見込者には、就職活動等に必要な「卒業見込証明書」を発行します。

「卒業見込証明書」は、4月と9月の卒業見込者の教育棟1階掲示発表後、証明書発行機より発行します。

なお、卒業見込者として認定されなかった者が、就職活動を希望する場合には、学生アドバイザーと学科長が了承の上、例外的に「卒業見込証明書」を発行する場合がありますので学生アドバイザーに申し出て下さい。

2 早期卒業

※平成31（2019）年度前学期末の早期卒業をもって、運用を終了します。

（1）概要

本学部に3年以上在学して、卒業要件として学部の定める単位を優秀な成績で修得し、かつ学部の早期卒業審査委員会の審査に合格した学生は、3年以上4年未満で早期卒業することができます。早期卒業の時期は、6セメスター（3年）終了時、または7セメスター（3年半）終了時の3月または8月とします。

この制度は、意欲ある優秀な学生や、特定の分野に優れた能力を有する学生に、4年を待たずに社会に出て早くからその能力を発揮する機会を与えること、あるいは大学院へ進学して早期に専門分野の研究に着手し、大学入学から5年で修士課程を修了する機会を与えることが目的です。

早期卒業は、在学期間が4年未満であるにも関わらず、本来4年で習得すべき知識と応用力を十分習得したと見なされる学生について認定されるもので、学内のみならず、学外から見ても納得できるものでなければなりません。したがって所定の単位を修得し、そのGPAが所定の値に達しているというだけで条件を満たしていると考えてはいけません。それに加えて、たとえば特定の分野に特筆すべき能力を有することを示さなければなりません。あるいは、全般的に成績が極めて優秀であること（たとえばGPAが所定の値を遥かに超えているなど）を示さなければなりません。それらの判定を行うのが早期卒業審査委員会の評価で、これはいくつかの項目について客観的な評価を行い、それを総合的に見て行われます。つまり、早期卒業審査委員会における評価は早期卒業認定に極めて重要な部分であることを予め認識しておく必要があります。

（2）早期卒業希望の申請

早期卒業対象学生

早期卒業の対象となる学生は、以下の項目に該当するものとします。

- ①卒業を希望する最終セメスターの1つ前のセメスター終了時に、卒業要件に含まれる科目100単位以上を修得し、GPAが以下の基準以上であること。

平成24(2012)～平成28(2016)年度入学生 12 J K～16 J K	平成17(2005)～平成23(2011)年度入学生 05 J K～11 J K
3.500	3.850

- ②卒業研究A・開発型プロジェクトA、卒業研究B・開発型プロジェクトB、環境パフォーマンスA/Bの4科目のうち1科目以上を修得していること。

（3）早期卒業希望申請の時期

上記に該当し、早期卒業を希望する学生は、卒業を希望する最終セメスターの1つ前のセメスター終了時までに学生アドバイザーに申し出て、その指示による所定の申請手続きを行って下さい。

(4) 早期卒業の認定

早期卒業の認定は次の条件に基づいて行われます。

①卒業要件に含まれる科目124単位以上を修得し、G P Aが以下の基準以上であること。

平成24(2012)～平成28(2016)年度入学生 12 J K～16 J K	平成17(2005)～平成23(2011)年度入学生 05 J K～11 J K
3.500	3.850

②卒業研究A・開発型プロジェクトA、卒業研究B・開発型プロジェクトB、環境パフォーマンスA/Bの4科目のうち2科目以上を修得していること。

③早期卒業審査委員会の審査に合格すること。

早期卒業審査委員会は、学生の早期卒業希望申請に基づいて、教員数名により構成されます。審査は、上記項目②に関する学生のプレゼンテーションとそれに対する質疑応答、および情報環境学一般に関する口頭試問からなります。

上記3つの条件を満たして早期卒業の認定を受けた学生は、早期卒業審査委員会の推薦を受け、本学部教授会の承認を経て早期卒業が許可されます。

3 飛び級について

※平成31(2019)年度前学期末(平成31年9月飛び級入学)をもって、運用を終了します。

情報環境学部を基礎とする情報環境学研究科では、学部との連携を強化する目的から、「飛び級」による学生を受入れています。受入れについての基準は下記のとおりです。

受入れ基準について

下記①および②を満たしていること。

①6セメスター(3年次相当)終了時において修得単位数が110単位以上で、かつG P Aが以下の基準以上の者。あるいは、7セメスター(3年次半相当)終了時において、修得単位数が120単位以上で、かつG P Aが以下の基準以上の者。

平成24(2012)～平成28(2016)年度入学生 12 J K～16 J K	平成17(2005)～平成23(2011)年度入学生 05 J K～11 J K
3.500	3.750

②研究科入学直前のセメスター終了時点で、卒業研究A・開発型プロジェクトA、卒業研究B・開発型プロジェクトB、環境パフォーマンスA/Bの4科目のうち1科目を修得していること。

試験と成績

1 試験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための方法として、中間試験、期末試験、小テスト、レポート、プレゼンテーション等が行われます。科目によっては、これらの一部のみが実施されることもあります。本学部の特徴の一つとして自主・自立的にその科目に取り組んだ結果を総合的に評価します。科目によっては創造性を強く求められることもありますし、スキルを求められることもあります。各科目の評価の方法はシラバスの中に明確に述べられていますから、不明な点があれば必ず担当教員に質問してください。

本学部では、各科目の担当教員の指示で授業時間内あるいは他の時間を利用して種々の試験が行われます。したがって、授業に出席することが単位を修得する上で重要であることを認識してください。但し、本学部では出席さえしていればある程度の点になる「出席点」という考えは存在しません。全期間授業に出席していても、総合的に評価した結果、不合格となることもあります。多くの教員が出席をとるという事はせず、皆さんの自主性に任せる場合が多いので、安易な科目履修は避けなければなりません。

2 不正行為

上記したように、本学部の成績評価は中間試験、期末試験、小テスト、レポート、プレゼンテーション等によりますが、レポートのコピーあるいは試験中のカンニングなどは、学生の本分に反する卑劣な行為です。このような場合には原則として当該セメスターのすべての科目（試験）が無効となり、GPAの評価は0となります。また、学則により停学・退学等の処分となります。

3 成績

（1）単位認定と成績評価

総合評価の結果は科目担当教員が採点し、評点が与えられます。60点以上の評点が与えられるとき、その授業科目は合格とされ、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から単位認定、学生側から単位修得といいます。（ただし、評点は一切公表されません。）

単位修得した授業科目は、履修の修了が認定されたわけですから再履修は認められません。

評価	評点 (100点法)	合否	成績評価基準	当該科目の ポイント (GP) (～11JK)	当該科目の ポイント (GP) (12JK～)
S	90点～100点	合格 (単位修得)	講義・実験・実習内容を十分に理解し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。	4	4
A	80点～89点		講義・実験・実習内容を理解し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。	4	3
B	70点～79点		講義・実験・実習内容を知識として身につけ、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。	3	2
C	60点～69点		シラバスに記載されている達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識を応用し、より高度な内容に進むためには、十分な自己学習を要する。	2	1
R	認定		(他大学等の単位を認定した場合)	対象外	対象外
D	40～59点	不合格 (単位未修得)	シラバスに記載の達成目標を満たしていない。	0	0
E	0～39点				

その他の評価

P	履修科目の保留の扱い（病気等の理由により授業の履修が不可能な場合）
※	履修中（現在履修中の場合）

(2) 単位認定の時期

履修中の授業科目が終わるセメスターの終了時点でその科目の単位認定が行われます。

但し、夏期・冬期集中講義やボランティア科目等は次セメスターの扱いになる場合があります。

(3) 成績評価問合せ

各学期の成績発表の際に、成績が自己評価と相違がある場合には、当該科目の担当教員に成績評価について確認をする期間があります。問合せができるのは、当該セメスターに履修申告した科目であり、期間外の受付はできませんので、注意してください。

4 GPA制度 (Grade Point Average)

各科目の評価（S、A、B、C、D、E）にポイント（GP）を与え、それに科目の単位数を掛けます。これを各セメスター終了時に、当該セメスターにおいて履修（登録）したすべての科目について求め、それらの総和を計算します。その結果を履修（登録）した科目の総単位数で割ったものがGPAです。評点とポイント（GP）の関係は次頁のようになっています。

$$GPA = \frac{\text{（各科目の単位数} \times \text{当該科目で得たポイント）の合計}}{\text{「履修登録したすべての科目」の総単位数}}$$

注1. 成績証明書のように学外に提出する成績表には、D・Eの評価は記載されません。

注2. GPAの値は小数点第4位を四捨五入した値です。

注3. 自由科目（卒業要件とならない科目）、および、正規履修以外の単位認定科目（R）はGPAの計算の対象となりません。成績通知書に記載されている評価が確定した科目を対象とする。

GPAが4.000点ということは履修したすべての科目の成績評価がSであったということです。このように定義したGPAを用いて皆さんの学修状況を把握し、それに応じたメッセージを送ります。履修した科目を放棄すると、評点は0点となり、GPAを下げることになります。場合によっては履修制限を勧告されます。これらについては履修計画のところで詳しく説明してあります。

※GPA (Grade Point Average) とは、履修した全ての科目から平均して1単位あたりの成績がどの程度かを示す指数のことです。

5 退学予備勧告・退学勧告

当該セメスターのGPAが以下の基準で、その原因が、学修意欲の欠如と判断された者に対し、口頭での教育的指導を行うとともに、退学予備勧告を行います。

2セメスター続いてGPAが以下の基準で学修意欲が認められないと判断された場合は、教授会の審議の上、退学が勧告されることがあります。

平成24(2012)～平成28(2016)年度入学生 12JK～16JK	平成17(2005)～平成23(2011)年度入学生 05JK～11JK
0.600以下	1.000未満

第2章

学 修 案 内

3 授業と履修

第2章
学修案内

授 業

授業などの年間スケジュールは学生ポータルサイト若しくは学内掲示板（以下「掲示等」という。）を参照してください。

変更などの通知はすべて掲示等により行うので、必ず掲示等を確認してください。

1 授業時間

本学部の授業時間は50分です。昼休みの時間は特に定めていません。なお、授業の開始・終了のチャイムは鳴らしません（担当教員の指示に従ってください）ので、注意してください。

時限と時間

時限	1	2	3	4	5	6	7	8
時間	9 : 30	10 : 30	11 : 30	12 : 30	13 : 30	14 : 30	15 : 30	16 : 30
	10 : 20	11 : 20	12 : 20	13 : 20	14 : 20	15 : 20	16 : 20	17 : 20

2 休講・補講・授業予備日

(1) 休講

①授業担当教員の止むを得ない事情により授業が休講になる場合は、基本的には前日まで担当教員から連絡、または掲示等で知らせます。

②学校行事を行う場合の休講は、掲示等で知らせます。（年間行事日程参照）

③交通ストライキ等の場合の授業の取扱い

以下の通り、首都圏ＪＲ各線、北総線、都営浅草線、京成押上線、京浜急行線、東武野田線（アーバンパークライン）、新京成線が、ストライキや事故により不通と報道され、千葉ニュータウンキャンパスへの登校・下校に支障を来していると判断された場合、休講とする場合があります。

休講とする場合、学生ポータルサイト・掲示等で休講する旨が周知されます。

I 午前6時のNHKニュースにおいて不通の場合は、午前中の授業を休講とする場合があります。

II 午前9時のNHKニュースにおいても不通の場合は、終日休講とする場合があります。なお、地震、台風などの自然災害により不測の事態が発生した場合は、休講とする場合があります。休講とする場合、学生ポータルサイト・掲示等で休講の旨が周知されます。

④自然災害発生時等の授業の取扱い（台風等による暴風警報が発令された場合）

以下の通り、印西市を含む千葉県北西部に暴風警報が発令され、千葉ニュータウンキャンパスへの登校・下校に支障を来すと判断された場合、休講とする場合があります。休講とする場合、学生ポータルサイト・掲示等で休講する旨が周知されます。

I 午前6時において暴風警報が解除された場合は、平常通りの授業を行います。

II 午前9時において暴風警報が解除された場合は、1～3時限の授業は休講とし、4時限（12時30分）以降は平常通りに授業を行う場合があります。

III 午前9時において暴風警報が解除されない場合は、終日休講とする場合があります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。

学生ポータルサイト・掲示等に掲載の大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始後に暴風警報が発令され、下校に支障を来す状況となった場合は、学生ポータルサイト・掲示等で授業措置の情報を発信します。

なお、地震などの自然災害により不測の事態が発生した場合は、休講等になる場合があります。その場合も、学生ポータルサイト・Webページ等に掲載の大学発表の情報を必ず確認してください。

（2）補講

補講授業を行う場合は、担当教員や掲示等により事前に指示があります。

（3）授業予備日

本学部で定めた授業回数を確保するため、前・後学期終了前の数日、授業予備日を設けています。2016年度は下記のとおりです。授業予備日に実施される授業時間割は掲示等によりお知らせします。

（前学期）7月18日（火）～19日（水） （後学期）1月10日（水）～11日（木）

3 授業への出席／欠席届

履修した科目の授業には毎回出席することが必要です。当学期における多くの授業は、積み重ねにより目標を達成するように構成されていますから、安易に授業を欠席することは、履修の目的に反することになります。止むを得ない理由で授業を欠席しなければならない場合には、担当教員、クラスメイト、学生ポータルサイト等により欠席した授業内容を早めに補完せねばなりません。

なお、授業に欠席した場合は、「欠席届」を提出してください。

- ・ 短期間…欠席した授業科目担当教員に直接提出してください。

- ・長期間および入院…医師の診断書を添付の上、保証人の欄に記入捺印し、事務部へ提出してください。

4 授業担当教員

授業を担当する教員には常勤教員と非常勤教員がいます。非常勤教員は、原則として担当科目が行われる時のみ大学に来校します。用事がある場合は、直接、授業の教室へ行くか、教育棟1階事務部内の講師室まで訪ねてください。

常勤教員は学会あるいは公務による出張等がない限りキャンパス内にいます。皆さんは、オフィス・アワー（教員が指定した時間であればアポイントなしに自由に質問できる制度）や電子メールによるアポイント等により、授業に関する質問や相談を受けることができます。質問等は積極的に行うことが大切です。

教員の一覧表やオフィス・アワーはシラバス等で参照できます。

5 クラスと学生アドバイザー

本学部は学年制を採用しておりませんので、通常の学年によるクラスは存在しません。皆さんにとってクラスに代わるものは、入学年によるグループ、あるいは基礎プロジェクトや環境パフォーマンスのグループ、卒業研究・開発型プロジェクトのグループなど、科目履修により成立する学修集団がクラスとなります。つまり多様な学修集団のクラスが成立し、幅広い交流が生まれる可能性を秘めています。

ただし、学修上あるいはその他の相談のためのアドバイザー担当として、入学年による学生アドバイザーを設置し、卒業するまでクラスのアドバイザーとして、クラスで行う行事や各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学修上の問題や個々の悩みなどの相談に応じます。

学生アドバイザーについては4月以降掲示等でお知らせします。

6 オフィス・アワー

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。皆さんは、オフィス・アワーには自由に教員に質問や相談をするために教員室を訪れることができます。

オフィス・アワーはすべての学生に公開されています。多くの教員の話聞く良い機会です。幅広い見識を身につけるためにも、情報環境学のみでなく種々の専門の教員と話し合うことは重要です。

なお、オフィス・アワーは個人だけのものではありません。すべての学生に開かれたものであり、学生が長時間、教員室で過ごすための時間ではありません。話したいことを事前にまとめ、短時間で適切な相談や話し合いができるように心がけましょう。

また、オフィス・アワーは各教員によって異なります。これらはシラバスや掲示等に掲載されています。

7 配当期

(1) 前学期（春セメスター）

4月1日～8月31日までを前学期（春セメスター）といいます。前学期期間中に授業が行われる科目を前学期科目（春セメスター科目）といいます。これらの科目は中間・期末試験、レポート、小テスト、プレゼンテーション等の総合評価により単位が認定されます。

(2) 後学期（秋セメスター）

9月1日～翌年3月31日までを後学期（秋セメスター）といいます。後学期期間中に授業が行われる科目を後学期科目（秋セメスター科目）といいます。これらの科目も中間・期末試験、レポート、小テスト、プレゼンテーション等の総合評価により単位が認定されます。

8 集中講義・エクステンションプログラム科目

(1) 導入教育

導入教育とは、大学生活を始めるに当たり、入学したセメスターに約1週間をかけ、連続して大学で学ぶ心構え（自らのカリキュラム設計する）を教員と一緒に考える授業です。

これまで小学校から高校まで学んだ知識を基に、皆さん個々の特性や興味、関心を更に膨らませ、より高度な学問追求のできる能力を磨き、発見する場が大学です。

皆さんは、明確な目的意識とやる気（モチベーション）を高め、自らの夢と希望を実現しなければなりません、その導入部に位置づけられているのがこの導入教育科目です。

(2) 集中講義科目

夏季・冬季・春季の休業中の一定期間、連続集中して授業がおこなわれる科目です。集中講義科目の時間割は掲示等で発表されます。

(3) エクステンションプログラム科目

エクステンションプログラムとは、毎年、後学期（秋セメスター）の1月下旬・3月の講義休業期間を利用し、基礎学力の増進、応用・実践力の強化、各種公的資格取得の準備、就職活動支援等を目的として実施されるプログラムです。

実施日時、時間割等の具体的な内容については、前年の11～12月にWeb上および掲示等で発表します。自分自身のさらなる能力開発のために、このプログラムを積極的に活用してください。

履 修

1 履修計画

本学部に入學した学生が最初に行うことは、集中講義の「カリキュラム計画」を受講し、各自の卒業までの履修計画を立てることです。これは一見無謀なことのように思えますが、大学に入學した目標を明確にするという観点から考えれば自然なことです。大学に入學したとき皆さんは何か希望を持っているはずで、たとえそれがおぼろげなものであったとしても、それに向かって進むためには何をどのように学修すべきかを知らなければなりません。カリキュラムマップ(P.43～50)を参考に、皆さんが将来の目標を掲げる(決める)ために必要な科目を系統的に学んでください。無理のない順序でそれらを学修することにより、その目標に向かって専門性を高めることができます。1年程度学修を進めると、皆さんが立てた目標を修正したいということが生じます。その場合を想定して毎年、学期(セメスター)の始めに自己の目標を再確認し、それを新たな目標として更なる学修に取り組むことを、卒業の1年前まで続けてください。絶えず目標を持って学修することにより皆さんの能力は何倍にも高められるでしょう。

履修申告(登録)をして授業に出席することを「授業科目を履修する」といい、その科目を「履修科目」と呼びます。

(1) 履修計画のたてかた

各自によって異なりますが、次のことを参考に履修計画を進めてください。

- ①「カリキュラムマップ」を参考に、卒業までの履修科目の見通しをたてます。
- ②授業科目配当表と授業時間割を参照し、卒業までの時間割を作成します。入学時の第1セメスターでの履修は最大限19単位に抑え、自分のペースをつかむ導入セメスターと考えると良いでしょう。この作業は「カリキュラム計画」という科目の中で多くの教員によるサポートのもとに実施されます。
- ③2年目以降の学生は学期始めに目標の見直しを行います。前の年に提出した時間割とその目標に変更が無いかどうかを検討します。例えば、履修した結果、成績評価や自分の特性に合った履修計画となっていたか総合的に判断し、改めて今後の目標を再考し、修正すべき箇所があれば修正します。この作業は卒業の前の年まで続けられます。
- ④科目配当表に示すように、科目には4ケタの科目番号が付けられています。3ケタの数字の前に、アルファベットの記号、I(導入・リテラシー科目)、C(素養科目)、E(英語科目)、K(基礎基幹科目)、S(コース基幹科目・コース一般科目)、M(数学系科目)、P(演習・プロジェクト科目)が付けられています。
- ⑤通常は、1セメスターに21単位が履修できる上限の単位数ですが、直前のセメスターでGPA2.950以上(平成23年度以前入学生)、2.200以上(平成24年度以降入学生)の成績を取ると、25単位まで履修できます(P.84参照)。後に説明する「評価の保留」とした科目を履修する場合も、原則25単位まで履修できます。「評価の保留」の適用を受

ける場合は、学科長と授業担当教員の許可を受ける必要があります。

⑥当該セメスターで履修しようとする科目については、シラバスによりその内容をつかむようにしてください。シラバスには科目の内容のみでなく、評価の仕方やレポートの提出方法などが詳細に示されています。

⑦所属する学部以外（他学部・他大学）の科目も一定の条件内で履修でき、60単位までの修得単位を卒業要件に含めることができます。

2 履修申告、履修申告の流れ

（1）履修申告

各自がどの授業に出席し、どの科目を修得しようとしているのかをあらかじめ届け出ることを履修申告（登録）といいます。授業科目を履修するには、必ず履修申告をしなければなりません。原則として履修申告していない科目の授業には出席することはできません。

○履修申告は各学期ごとに実施します。

（カリキュラム計画で考えた4年分の履修計画を参考にしてください）

①履修科目の抽選（履修申告期間前）

各学期の最初の授業時に授業担当教員が出席学生数により、教育効果の観点から人数を制限する必要があると判断した場合には、次の授業で抽選を実施します。**最初の授業には、必ず出席するようにしてください。**

②履修申告の期間

履修申告の期間は、春セメスターでは4月中旬、秋セメスターでは9月中旬とセメスターによって異なります。詳細につきましては掲示等でお知らせしますので、必ず履修申告期間内に手続きを済ませてください。

③履修申告の方法

履修申告は、原則各自がパソコンで**履修申告の期間毎**に学生ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）から入力します（素養科目の一部（掲示等で指示）、e-Campus科目、教職課程の科目、他学部履修は除く）。時間割の構成が適切になっているかどうか、例えば、登校、昼休み、下校等のスケジュールが各自に無理のない構成になっているかを確認してから履修申告を始めてください。科目によってはクラスを少人数に分割する関係で、各自の思い通りに履修ができない場合もありますから、十分に工夫することが必要です。クラス分割する科目は“英語”と“数学”および“プログラミング”関係の科目などです。

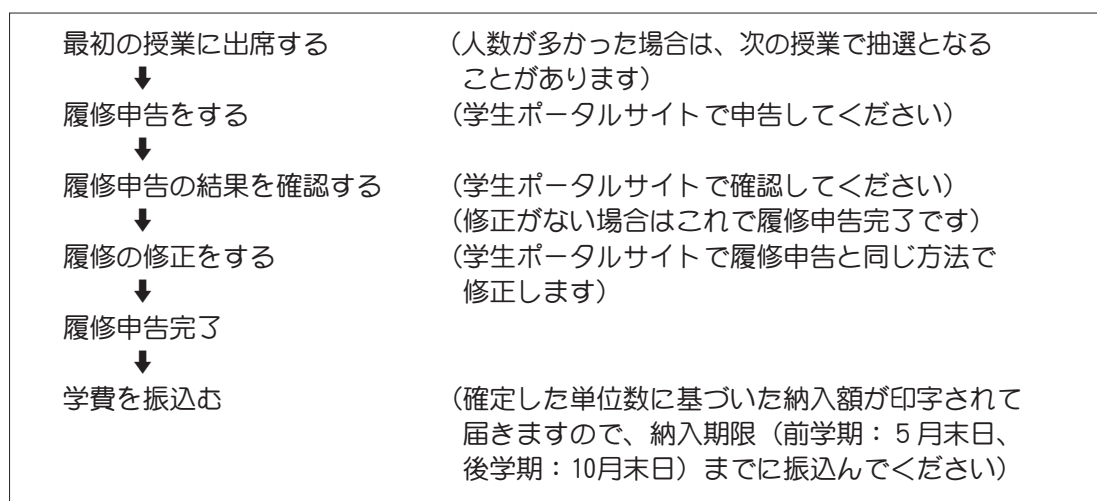
クラス分割については担当教員から指示（掲示等）があります。クラス分割の概要は、次のとおりです。

英語のクラス分割：「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」、「初級英語Ⅰ・Ⅱ」のクラス分割はプレースメントテストの結果により行われます。1クラス30人前後のクラス編成が原則です。実用的な英語力を付けることに力点を置き、1セメスターでTOEICのスコアを50点向上させるということを目指して授業が進められます。

数学科目、コンピュータプログラミング等のクラス分割：「微分積分学」「線形代数」「基礎数学」「確率統計」および「コンピュータプログラミングA・B」等は50～60人程度のクラス編成になります。履修申告前に科目担当教員より、クラス分けの一覧表が掲示されます。それに従い履修申告を申請します。なお、線形代数・基礎数学については、プレースメントテストの結果を考慮したクラス分けを行っています。

ほとんどの場合、クラスが変更になっても支障無く時間割が組めるようになっていますが、英語のプレースメントテストの結果によるクラス分けを最優先して時間割を組むと、やり易いでしょう。

(2) 履修申告の流れ



(3) 「ボランティア活動」について

履修申告は随時受付ますが、**卒業を希望するセメスターでは履修できません**。また、履修申し込み前の奉仕活動は評価の対象外で、単位認定は1活動のみです。なお、本科目は履修上限単位数には含めず、単位従量額算出の対象外です。

3 履修制限について

むやみに多くの科目を履修すると、十分な理解が得られず結果的には実力の付かないことになる場合があります。そこで本学部は1セメスターで平均的に適切な履修単位数の上限を21単位と定めています。したがって、原則的に1セメスターでこれ以上の単位履修はできません。これについては例外事項もありますから履修制限に対する種々の条件を下記に示しておきます。

(2017(平成29)年度在学者の「通常の1セメスターあたりの上限単位数」を21単位へ見直しをおこないました。)

〈2016(平成28)～2012(平成24)年度入学生〉

通常の1セメスターあたり上限履修単位数	21単位まで履修可能
前セメスターのGPAが2.200以上の場合	25単位まで履修可能
履修保留科目の履修を含む場合	25単位まで履修可能 ※1

〈2011(平成23)年度以前入学生〉

通常の1セメスターあたり上限履修単位数	21単位まで履修可能
前セメスターのGPAが2.950以上の場合	25単位まで履修可能
履修保留科目の履修を含む場合	25単位まで履修可能 ※1

※1. 学科長と授業担当教員の許可を必要とします。

※2. GPAの値は小数点第4位を四捨五入した値です。

※3. 編入学者、転入学者、転学部者、復学者の最初のセメスターは、21単位まで履修可能。

4 科目履修における事前履修条件

ある分野の専門家になるためには、学修しておかなければならない重要な科目がいくつかあります。情報環境学は基礎から徐々に専門性を深め、高度な分野へ進んでいくことが必要です。無秩序に科目を履修してしまうと、ほとんど理解できない結果に終わってしまうことになりかねません。そこで、ある科目を履修するために事前に学修しておかなければならない科目を明確にしておくことで、履修の計画を立て易くする必要があります。そのような目で作られたものが事前履修条件です。

事前履修条件

※平成27（2015）年度の履修申告より、事前履修条件の基準が変更となりました。
平成27（2015）年度の履修申告から、事前履修条件の科目の成績評価がS・A・B・C判定およびR認定（P. 73参照）の単位修得の場合のみをクリア条件として認めます。
履修する時点でD判定でのクリアは認めません。

（例）「コンピュータプログラミングB」を履修したい場合

※次年度以降にカリキュラム変更があり、事前履修条件が変更された場合は、
学生要覧等の指示に従うこと。

【平成27（2015）年度以降】

- ・事前履修条件「コンピュータプログラミングA」の最新の成績が「D判定」
→ コンピュータプログラミングBを履修できない。
（履修する時点における事前履修条件科目の最新の成績がS・A・B・Cでない
と履修出来ません）

なお、転学部・編入学した学生に限り、指定された科目を履修していなくても、十分な知識を修得していると授業担当教員が判断した場合には、履修が認められます。履修しようとしている科目に事前履修条件が設定されている場合には、授業担当教員に申し出てください。

5 「基礎プロジェクト」科目の着手条件

「基礎プロジェクト」科目を履修するには、学期初めに実施する履修ガイダンスへの出席ならびに修得単位数（68単位を修得済み）の条件を満たす必要があります。詳細は、履修ガイダンスで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。

6 「卒業研究・開発型プロジェクト」科目の着手条件

〈平成23年度以降入学生〉

「卒業研究・開発型プロジェクト」科目を履修するには104単位を修得済みで、その中に導入・リテラシー科目2単位、素養科目と英語科目で合計31単位以上（ただし英語科目は6単位以上）を含んでいることが必要です。さらに研究室により固有の追加条件が課せられます。履修に当たってはシラバスの内容を十分に確認してください。

〈平成22年度以前入学生〉

「卒業研究・開発型プロジェクト」科目を履修するには104単位を修得済みで、その中に導入・リテラシー科目2単位、素養科目の35単位以上を含んでいることが必要です。さらに研究室により固有の追加条件が課せられます。履修に当たってはシラバスの内容を十分に確認してください。

ただし、早期卒業または大学院への飛び級入学を希望する成績優秀者は、学科長に申し出て履修許可を得れば、上記着手条件を満たさなくても「卒業研究・開発型プロジェクト」を履修することができます。

7 再履修・他学部等の履修

〔1〕再履修

履修した授業科目の単位を修得できず、もう一度その科目の履修をやり直すことを「再履修」といいます。再履修科目の履修申告・受講等については、新規履修の場合と同様ですが、過去の履修履歴は削除されます。

単位修得済みの科目については再履修できません。

〔2〕他学部・他大学・大学院履修

（1）他学部科目の履修

自分の所属する学部配当がなく、システムデザイン工学部、未来科学部、工学部、工学部第二部、および理工学部の他の学部配当されている科目について履修を希望する学生は、履修申告期間開始前に、学生アドバイザー・学科長と履修計画を相談し、了解を得てください。了解を得た後、授業科目担当の承認を受けることにより履修することができます。（但し、同一の科目名や授業内容が同一または類似している場合は認められません。）

なお、他学部の科目を履修する時も単位従量制により必要な金額を支払わなければなりません。ただし履修登録は学生ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）での登録ではなく、所定用紙での登録となります。

また、修得した単位のうち、教授会等が教育上有益と認めたものは、本学部における授業科目の履修により修得したものとみなします。

（2）東京理工系4大学の単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の4大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の3大学の科目を受講することが可能となり、単位を修得することができれば、単位従量制により必要な金額を支払った上で、卒業所要単位数に加えることができます。

（大学によっては、受講を制限する科目および受講者数を制限する科目がありますので、

申請しても必ず履修できるとはかぎりません)

履修方法・履修可能科目などについては、事務部へ問い合わせてください。

(3) 大学院科目の先取り履修

学部在籍中に大学院情報環境学研究科の開講科目の履修を認める制度(先取り履修制度)があります。(但し、学部在籍中には当該科目の単位認定は不可、単位認定は大学院入学後)

先取り履修科目に事前履修条件となる科目が設定されている場合がありますので、掲示等で確認して履修してください。

履修方法等詳細については、事務部へ問い合わせてください。

転学部・編入学・再入学者等の特別履修

単位認定の関係上等の理由により、事前履修条件を考慮しない履修など、通常外の履修を希望する時は、事務部へ問い合わせてください。

在学中における修学活動等

本学部の授業科目について、十分な知識を修得していると考えられ、教授会が教育上有益と認めた場合、他の大学等で修得した科目の単位を認定する場合があります。単位認定を希望する場合は、「単位認定申告書」に、成績証明書および講義要目を添付し、単位修得直後のセメスター開始時(履修申告開始前)までに事務部へ申し出てください。また、休学中に海外等で修得した科目の単位認定についても同様です。

8 履修科目の保留の扱い(科目保留)

履修の途中で、病気あるいは事故等により長期にわたり授業を欠席する場合には、その授業の履修を、次セメスターあるいは次年度の同一セメスターまで保留することができます。既に述べたように、授業は原則50分週2回ないし3回で短時間集中的に行われます。科目によっては2週間程度の欠席で単位の修得が難しくなります。そのような場合、現在行っている授業科目の履修を一時的に取りやめ、その科目の履修を次セメスターあるいは次年度のセメスターに限って再度履修することができるようにする救済措置があります。もちろん、この場合の単位従量制による授業料は、既に支払われ保留した分をあてることとなります。

※ 履修科目保留願は、学生自身が事務部に願い出て申請するものです。(やむを得ない場合は保証人が申請を代理することができます)

詳細は、次頁に記載します。

2週間以上授業を欠席し、その授業の保留を申請する場合には、授業担当教員と相談した上で、

(1)「履修科目保留願」(授業担当教員・学科長の承認が必要)

(2)「診断書」または「欠席の理由書」

以上2点を申請者自身または保証人が事務部に提出することにより、1年以内(休学期間は期間に含まず、以後2セメスター以内に再度単位従量額を納めず履修可能)の条件で評価を保留することができます。

(提出しても、認められない場合がありますので、事務部窓口で確認してください。)

申請期間は原則として履修した学期内とします。

なお、休学により履修時期を変更したい場合は別途手続きが必要となります。

また、保留する科目は履修した科目から本人が選ぶことができます。

(単位修得が困難な科目のみを保留にすることも可能)

【注意】

- ・悪用が発覚した場合は、履修した全ての科目を不合格とするだけでなく、学則により処罰する場合があります。
- ・保留科目を1年以内(休学期間を除く)に履修しなかった場合は、当該科目の評価はE評価となります(時間割変更等により履修できなくなった場合を含む)。なお、平成24年度中に所定の手続きをとりながら、評価を保留扱いとした科目を1年以内(休学期間を除く)に履修しなかった科目、または既に1年以内(休学期間を除く)に履修しなかった科目がある場合(Pと表記)は、卒業や退学・除籍となった際にE評価となります。

〈保留科目の履修方法について〉

保留科目に関しては、学生ポータルサイトで履修申告することはできません。

(単位従量額が加算されてしまいます)

履修期間内に事務部で手続きを行ってください。

第2章

学 修 案 内

4 その他・学修に関すること

第2章
学修案内

学習サポートセンター

1 学習サポートセンター

本学部の教育理念は「自主・自立」です。自分で考え、行動できる人材を育成しようという考えに基づき、自ら学ぼうとする学生のために「学習サポートセンター」を設置しています。教員・大学院生への相談や自習スペースとして活用して下さい。

1. 開館時間

月～金 8 : 00 ～ 19 : 00
土 8 : 00 ～ 16 : 00

2. 設置場所

教育棟 1 階（事務部前）

3. 個別相談

以下の科目について、授業などでわからないことなどについて学習サポートセンター員（非常勤教員）や副手（大学院生）が相談に応じてくれます。

数学、英語、情報（PCデスク）

4. 情報系ゼミ

プログラミングや情報系基礎科目について、学習サポートセンター員（非常勤教員）と副手（大学院生）が丁寧に教えてくれます。

5. 実施曜日・時間（予定）

数学：月～金（14 : 30～17 : 30）（前学期のみ、金曜日は12 : 30～17 : 30となります）

英語：金（14 : 45～17 : 15）

情報（PCデスク）：月～金（12 : 00～17 : 00）

情報系ゼミ：水・金（16 : 30～18 : 10）

時間・担当者は学習サポートセンター前の掲示板に適宜掲示します。

6. 自習スペース利用期間

キャンパスに立ち入れる期間は自由に利用することができます。

（利用できない場合は予め掲示等で周知します。）

7. 学習相談

個別相談以外にも、授業担当教員が日時を決めて授業等について相談に応じます。

8. その他

学習サポートセンター内は飲食厳禁です。

飲食や友人同士でくつろぐ場合は学生食堂を利用してください。

厚生棟 1 階の学生食堂は10:00～17:00まで利用可能です。（営業時間は11 : 00～14 : 00）

英語で開講する素養科目の取扱について

【履修について】

- ①日本語で開講する科目を履修し合格した後、英語で開講している同じ名称の科目で（実践英語）と（技術英語）とある科目を履修することは可能です。合格した場合は、「実践英語」もしくは「技術英語」に振り替えることができます。
- ②最初に英語で開講する科目を履修することも可能です。
ただし、英語で開講する科目を履修し合格した後は、日本語で開講している同じ名称の科目を履修することはできません。
- ③最初に英語で開講する科目を履修し合格した後、もう一度、同科目の「実践英語」もしくは「技術英語」を履修することはできません。

【具体例】

- ①日本語で開講する科目「国際関係論」を履修し合格した後、英語で開講している科目「国際関係論（実践英語）」を履修することは可能です。合格した場合、「実践英語」に振り替えることができます。（ただし、「国際関係論（英語）」を履修することはできません。）
- ②英語で開講する科目「国際関係論（英語）」を最初に履修することも可能です。ただし、合格した後は、日本語で開講している科目「国際関係論」を履修することはできません。
- ③英語で開講する科目「国際関係論（英語）」を履修し合格した後、「国際関係論（実践英語）」を履修することはできません。

【科目標記の例】

「国際関係論」	⇒	日本語で開講することを意味します。
「国際関係論」（英語）	⇒	英語で開講することを意味します。
「国際関係論」（実践英語）	⇒	英語で開講しますが、すでに日本語で開講している科目を履修し合格している場合のみ、こちらを履修します。合格した場合に「実践英語」に振り替えられます。

ただし、「実践英語」または「技術英語」に振り替えられるのは各々1回（1科目）のみです。

詳細は次頁で確認して下さい。

	履修する科目 (A) (在学中に成績表等に表示される科目)	事前履修条件	(A) を修得済の場合は履修不可 (A) と同時履修は不可	卒業後に成績証明書に 表示される科目名
① 実 践 英 語	歴史Ⅱ	なし	歴史Ⅱ (英語)	歴史Ⅱ
	歴史Ⅱ (英語)	なし	歴史Ⅱ	
	歴史Ⅱ (実践英語)	歴史Ⅱ	歴史Ⅱ (英語) 実践英語 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	異文化理解	なし	異文化理解 (英語)	異文化理解
	異文化理解 (英語)	なし	異文化理解	
	異文化理解 (実践英語)	異文化理解	異文化理解 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	国際関係論	なし	国際関係論 (英語)	国際関係論
	国際関係論 (英語)	なし	国際関係論	
	国際関係論 (実践英語)	国際関係論	国際関係論 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	欧米・アジア事情	なし	欧米・アジア事情 (英語)	欧米・アジア事情
	欧米・アジア事情 (英語)	なし	欧米・アジア事情	
	欧米・アジア事情 (実践英語)	欧米・アジア事情	欧米・アジア事情 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
	時事問題	なし	時事問題 (英語)	時事問題
	時事問題 (英語)	なし	時事問題	
	時事問題 (実践英語)	時事問題	時事問題 (英語) 実践英語 歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語)	実践英語
	実践英語	なし	歴史Ⅱ (実践英語) 異文化理解 (実践英語) 国際関係論 (実践英語) 欧米・アジア事情 (実践英語) 時事問題 (実践英語)	実践英語
② 技 術 英 語	微分積分学	基礎数学	微分積分学 (英語)	微分積分学
	微分積分学 (英語)	基礎数学	微分積分学	
	微分積分学 (技術英語)	基礎数学 微分積分学	微分積分学 (英語) 技術英語 線形代数 (技術英語)	技術英語
	線形代数	なし	線形代数 (英語)	線形代数
	線形代数 (英語)	なし	線形代数	
	線形代数 (技術英語)	線形代数	線形代数 (英語) 技術英語 微分積分学 (技術英語)	技術英語
	技術英語	なし	微分積分学 (技術英語) 線形代数 (技術英語)	技術英語

①実践英語、②技術英語として単位修得ができるのは、各1科目のみです。

TOEIC高得点学生に対する単位認定

「初級英語Ⅰ」「初級英語Ⅱ」については、TOEICで以下のスコアを取得した学生に対する単位認定制度があります。

「初級英語Ⅰ」「初級英語Ⅱ」を履修申告し、当該セメスターのTOEIC試験においてスコアが550点取得で「初級英語Ⅰ」（2単位）、600点取得で「初級英語Ⅱ」（2単位）の評価を「S」認定します。

詳細については、授業担当教員へ問合せてください。

第2章

学 修 案 内

5 免許・資格

教職課程の履修を希望する学生へ

この項目は、教育職員免許状の取得を希望する学生を対象として、その履修方法などについての記載がされてます。ここでは教員志望の学生や将来的に有効な資格として教育職員免許状を取得しておきたい学生に対して、どのような勉強をしたらよいのか、またどのような姿勢が求められるのかが記されています。

教育職員免許状を取得するには、教職課程を修了せねばなりません。教職課程は本学部に在籍している学生であれば、誰でも履修することができます。教職課程では、専門分野はもちろんのこと、教員として求められる資質を身につけるために必要な科目の履修が課されます。それらの科目を計画的に履修することで免許状の取得が可能となります。夏季・冬季の集中講義などもありますので、それなりの大変さはありますが、その分、得るものも大きいと思います。

現在、文部科学省は、児童生徒への「生きる力」「確かな学力」の育成を重視した教育のあり方を目標とし、子どもの実態や個性に応じた柔軟かつ多様な教育を目指しています。そのため児童生徒を指導する教員には教科に関する専門的知識はもとより、教育者としての使命感や豊かな人間性、人への深い理解などの姿勢が求められています。教職課程を履修する皆さんには、大学生活全般を通してさまざまな経験をし、人間的にも大いに成長してほしいと思います。

「教える」ことは自らと向かい合うことでもあります。教職課程を履修することにより、自らの視野や可能性を広げ、より人間的な幅を持ち、スケールの大きな人間として社会に羽ばたけるよう願っています。

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて教育職員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるよう設置された課程です。

本学部では、高等学校「情報」および「数学」の免許を取得するための課程を設置しています。

教職課程の履修希望者には、教員としての適格性、教職関係科目を十分に修得する能力、将来教職に就きたいという意味が要求されます。

教職課程を修めようとする者は、本学部設置された共通教育科目および専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修しなければなりません。

また、教職課程履修希望者は、教職課程ガイダンス等に必ず出席し、教職課程掲示板や、メール等の連絡にも注意してください。

履修案内

1 免許状取得資格・必要単位数

教育職員免許状を取得しようとする人は、次の表に掲げる所定の単位を取得しなければなりません。

【平成23年度以降入学生用】

免許状の種類	基礎資格	要修得単位数		
		①共通教育科目	②教職に関する科目	③教科に関する科目
高等学校教諭 1種免許状 (情報) (数学)	学士の 称号を 有する こと	日本国憲法 2 体育 2 外国語 2 情報 2	27	32

【平成20年度以降入学生用】

免許状の種類	基礎資格	要修得単位数		
		①共通教育科目	②教職に関する科目	③教科に関する科目
高等学校教諭 1種免許状 (情報) (数学)	学士の 称号を 有する こと	日本国憲法 2 体育 2 外国語 2 情報 2	28	31

※平成22年度以前の入学者が、教育社会学を平成23年度以降に修得した場合は2単位となるため、【平成23年度以降入学生用】の単位数に従って下さい。

①共通教育科目

免許法施行規則に定める科目及び単位数		該当科目 () 内は単位数
日本国憲法	2	○法学(日本国憲法を含む)(2)※ ※平成22年度までに修得した分は、3単位となります。
体 育	2	トリムスポーツⅠ(2) } 一科目選択 トリムスポーツⅡ(2) }
外国語コミュニケーション	2	英語表現Ⅰ・初級英会話Ⅰ (2) 英語表現Ⅱ・初級英会話Ⅱ (2) 英語理解Ⅰ・初級英語Ⅰ (2) 英語理解Ⅱ・初級英語Ⅱ (2) 総合英語Ⅰ・中級英語Ⅰ (2) 総合英語Ⅱ・中級英語Ⅱ (2) 技術英語 (2) 実践英語 (2) 基礎英語Ⅰ (2)※1 基礎英語Ⅱ (2)※1 上級英語Ⅰ (2) 上級英語Ⅱ (2) 中級英会話Ⅰ・中級英会話Ⅱ (2)※2 上級英会話 (2)※2 } 一科目選択
情報機器の操作	2	○コンピュータリテラシー(2)

※1 平成25年度修得分から適用

※2 平成26年度修得分から適用

②教職に関する科目（必修科目）（平成22年度以降の入学者用）

免許法上の区分			最低修得単位	授業科目名	単位数	
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教職概論（平成22年度修得分まで） 教職入門（平成23年度修得分から）	2 ※いずれか一科目	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				
		進路選択に資する各種の機会の提供等				
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理（平成23年度修得分まで） 教育学概論（平成24年度修得分から）	2 ※いずれか一科目	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学		2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学（平成22年度修得分まで） 教育社会学（平成23年度修得分から）		3 2
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	6	教育課程論	2	
		特別活動の指導法		特別活動論	1	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術	2	
		各教科の指導法		情報科教育法 （「情報」の免許について必修）	4	
				数学科教育法 （「数学」の免許について必修）	4	
第五欄	生徒指導、進路指導等に関する科目	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	教育相談	2	
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
		進路指導の理論及び方法				
第五欄	実習	教育	3	教育実習セミナー	2	
				教育実習Ⅰ	2	
第六欄	実践	教職実	2	教職実践演習（高）	2	

②教職に関する科目（必修科目）（平成21年度以前の入学者用）

免許法上の区分			最低修得単位	授業科目名	単位数	
第一欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	教職概論（平成22年度修得分まで） 教職入門（平成23年度修得分から）	2 ※いずれか一科目	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				
		進路選択に資する各種の機会の提供等				
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理（平成23年度修得分まで） 教育学概論（平成24年度修得分から）	2 ※いずれか一科目	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学		2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学（平成22年度修得分まで） 教育社会学（平成23年度修得分から）		3 2
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	6	教育課程論	2	
		特別活動の指導法		特別活動論	1	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術	2	
		各教科の指導法		情報科教育法 （「情報」の免許について必修）	4	
				数学科教育法 （「数学」の免許について必修）	4	
第五欄	生徒指導、進路指導等に関する科目	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	教育相談	2	
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
		進路指導の理論及び方法				
第五欄	総合演習	2	総合演習	2		
第六欄	教育実習		3	教育実習セミナー	2	
				教育実習Ⅰ	2	

③教科に関する科目

高校１種・数学の免許状を取得するために必要な最低修得単位数

【情報環境学科】

免許法施行規則 に定める科目群	最低修得 単位数	科 目 名	単位数	必修 科目数
①代数学	1	○情報数学Ⅳ（代数学）	3	1
		線形代数	4	
②幾何学	1	○情報数学Ⅲ（応用幾何）	3	1
		幾何学Ⅰ	2	
		幾何学Ⅱ	2	
		幾何学Ⅲ	2	
③解析学	1	○微分積分学	4	1
		基礎数学	3	
		情報数学Ⅰ（応用解析学）	3	
④「確率論、統計学」	1	○確率統計	3	1
		情報数学Ⅱ（確率・統計）	3	
		情報数学Ⅴ（多変量統計解析）	3	
⑤コンピュータ	1	離散数学	2	1
		○データ構造とアルゴリズム	2	
		情報通信リテラシー	2	
		C言語システムプログラミング	3	

○印の科目を必ず修得すること。（○印は包括的内容を含む科目）

平成20年度以降の入学生は、上記科目から31単位以上修得すること。

平成23年度以降の入学生は、上記科目から32単位以上修得すること。

③教科に関する科目

高校1種・情報の免許状を取得するために必要な最低修得単位数

【情報環境学科】

免許法施行規則に定める科目群	最低修得単位数	科目名	単位数	必修科目数
①情報社会及び情報倫理	1	○インターネット総論B(情報倫理と知的財産)	2	1
		○コミュニケーションデザイン概論	2	
②コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	1	○情報処理の基礎	2	2
		○コンピュータ構成	2	
		○コンピュータプログラミングA	4	
		○コンピュータプログラミングB	4	
		○エレクトロニクスA	4	
		並列処理	2	
③情報システム(実習を含む)	1	○ヒューマンインタフェース	2	2
		○データベースシステム	3	
		分散リアルタイムシステム	3	
		インテリジェント環境システム	3	
		システムプログラム/OS	3	
		データマイニング	2	
		エージェント技術(平成22年度まで)	2	
④情報通信ネットワーク(実習を含む)	1	○コンピュータネットワーク	3	2
		ニューラルネットワーク	2	
		インターネット総論A	2	
		○遠隔システムと制御	3	
		デジタル信号処理(平成22年度修得分まで)	4	
		デジタル信号処理(平成23年度修得分から)	3	
		ネットワークセキュリティ	3	
⑤マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	1	○コンピュータグラフィックス(平成23年度から)	2	2
		or		
		○コンピュータグラフィックスA(平成22年度まで)	2	
		○マルチメディア工学(平成21年度まで)	4	
		or		
		○基礎マルチメディア工学(平成22年度から)	3	
		コンピュータグラフィックスB(平成22年度まで)	2	
		CAD	4	
		バーチャルリアリティ	2	
		シミュレーション	2	
		情報圧縮	2	
		聴覚と音響処理(平成21年度まで)	4	
		音響工学A(平成22年度から)	3	
		音響工学B(平成22年度から)	2	
⑥情報と職業	1	○情報化社会と職業		1
		※平成22年度までに修得した分は、3単位となります。	2※	

○印の科目を必ず修得すること。(○印は包括的内容を含む科目)

平成20年度以降の入学生は、上記科目から31単位以上修得すること。

平成23年度以降の入学生は、上記科目から32単位以上修得すること。

■ 教職課程の登録手順（①～③）と教職課程科目の履修方法（④）

① 教職課程履修願（用紙は教職課程ガイダンスで配付）の提出



② 教職課程履修費（10,000円）の納入



③ 教職課程履修券の発行（教員免許状交付時まで必要となります。）

④ 自由科目（科目配当表P 105～110参照）の履修届提出

学生ポータルサイトによる履修申告とは別の形式で行なうので注意してください。

履修届用紙を情報環境学部事務部に提出することによって、開講される科目の履修を行います。学生ポータルサイトによる履修申告をした場合は、単位従量制によって履修費を納入しなければならないので十分注意してください。

※教職課程の登録は、在学中に一度行なうだけで完了となります。

■ 教職課程履修費

教職課程を履修するものは、10,000円の履修費を納入しなければなりません。

履修費は、情報環境学部事務部に現金で納入してください。一旦納入された教職課程履修費はいかなる理由があっても返還されませんので注意してください。（途中で教職課程の履修をやめても返還されません。）

教職課程履修費の納入によって、自由科目（P 105の科目）の履修が可能になります。これらの科目は上限履修単位数には含まれません。また、卒業所要単位数にも含まれません。

P 100、101の②「教職に関する科目」の内、「教育社会学」は、単位従量制により、履修費の振込み及び学生ポータルサイトによる履修申告が必要となります。なお、選択科目ですので、上限履修単位数に含まれ、卒業所要単位に含まれます。

注意：「教育社会学」は情報環境学部の授業科目配当表では選択科目ですが、教職課程においては、免許を取得する上で必ず修得する科目（必修科目）です。

自由科目一覧表

教職入門	2 単位	教職概論	2 単位
教育学概論	2 単位	教育原理	2 単位
教育心理学	2 単位		
教育課程論	2 単位		
特別活動論	1 単位		
教育の方法と技術	2 単位		
情報科教育法	4 単位		
数学科教育法	4 単位		
教育相談	2 単位		
生徒・進路指導論	2 単位		
総合演習	2 単位		
教育実習セミナー	2 単位		
教育実習Ⅰ	2 単位		
教職実践演習(高)	2 単位		
幾何学Ⅰ	2 単位		
幾何学Ⅱ	2 単位		
幾何学Ⅲ	2 単位		

(一覧表の右側に記載している科目は、名称等が変更前の科目です。)

4 履修上の注意

(1) 科目配当表

情報環境学部では学年制を採用していませんが、教職課程の履修にあたっては、「教職に関する科目」の全科目は、教育的配慮のため形式上学年および学期によって履修すべき科目が配当されています（P 108からの2012年度以降入学用者の授業科目配当表を参照。2011年度以前入学者については、教職課程担当教員に問い合わせてください）。科目配当表に従って履修してください。その他の科目については、学生要覧の授業科目配当表を参照して各自履修計画を立ててください。

(2) カリキュラム変更に伴う留意事項

カリキュラム変更があった場合、「共通教育科目」・「教職に関する科目」・「教科に関する科目」の該当科目には、旧科目と新科目の両方が該当する場合があります。つまり、いずれか一方を修得していれば、該当単位数としてカウントします。

(3) 平成23(2011)年度以降の「教職概論」の履修について

「教職概論」の履修について、2010年度以前の入学者が、2011年度以降に「教職概論」を再履修、および新たに履修する場合は、「教職入門」を修学することで、「教職概論」の単位として認定します。

(4) 平成24(2012)年度以降の「教育原理」の履修について

「教育原理」の履修について、2010年度以前の入学者が、2012年度以降に「教育原理」を再履修、および新たに履修する場合は、「教育学概論」を修学することで、「教育原理」の単位として認定します。

(5) 平成23(2011)年度以降の「教育社会学」「法学(日本国憲法を含む)」・「情報化社会と職業」の履修について

標記科目は平成22(2010)年度までに修得した分は3単位、平成23(2011)年度以降に修得した分は2単位となります。

(6) 「数学科教育法」の履修についての注意

数学の教員免許を取得するためには教科内容（高校の数学）について十分理解していることが必要です。この観点から、「基礎数学」「線形代数」「微分積分学」は、「数学科教育法」の事前履修条件になってはませんが、これら科目の単位を修得していない場合、「数学科教育法」の単位を取ることは極めて難しいです。よって、「数学科教育法」の履修にあたっては、十分注意して履修して下さい。

(7) 「教育課程論」の履修について

2012年度から2014年度入学者で、2016年度に「教育課程論」を履修する場合の配当期は、2年次後学期となります。

(8) 履修カルテについて(平成22年度以降入学者より対象)

平成22年度入学者から、「教職実践演習(高)」が教職に関する科目の4年次後学期に配当されています。当科目では、「履修カルテ」を用いて授業を行います。「履修カルテ」とは、これまで単位修得した「教職に関する科目」について、学習を振り返って、自己評価と自己診断を記録しておくものです。「履修カルテ」の作成については、教職課程ガイダンス(4月の授業開始前に実施)における担当教員の説明に従ってください。

5 平成29（2017）年度 教職課程カリキュラム（授業科目配当表・時間割）
（2012～2014年度入学者用）

区 分	免許法上の区分	授業科目名	単位数		配 当 期								担当教員名	備考
			選 択	自 由	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次			
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
教 職 に 関 する 科 目	第二欄	教職入門		2		○							吉野 剛弘	必修科目
	第三欄	教育学概論		2			○						吉野 剛弘	必修科目
		教育心理学		2	○								今野 紀子	必修科目
		教育社会学	2					○					吉野 剛弘	必修科目
	第四欄上	教育課程論		2			○						吉野 剛弘	必修科目 随時
		教育の方法と技術		2					○				吉野 剛弘	必修科目
		特別活動論		1					○				今野 紀子	必修科目 随時
		情報科教育法		4					○				土肥 紳一	必修科目
		数学科教育法		4			○						見正 野口 秀彦 健太	必修科目
	第四欄下	教育相談		2				○					今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
		生徒・進路指導論		2				○					今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
	第五欄	教育実習セミナー		2						○			今野 紀子 吉野 剛弘 広石 英記	必修科目 随時
		教育実習Ⅰ		2							○		今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 随時
	第六欄	教職実践演習（高）		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 集中

平成29（2017）年度 教職課程カリキュラム（授業科目配当表・時間割）
 （2015年度入学者用）

区 分	免許法上の区分	授業科目名	単位数		配 当 期								担当教員名	備考
			選 択	自 由	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
教 職 に 関 す る 科 目	第二欄	教職入門		2		○							吉野 剛弘	必修科目
	第三欄	教育学概論		2			○						吉野 剛弘	必修科目
		教育心理学		2	○								今野 紀子	必修科目
		教育社会学	2					○					吉野 剛弘	必修科目
	第四欄上	教育課程論		2				○					吉野 剛弘	必修科目
		教育の方法と技術		2					○				吉野 剛弘	必修科目
		特別活動論		1					○				今野 紀子	必修科目 集中
		情報科教育法		4					○				土肥 紳一	必修科目
		数学科教育法		4				○					見正 野口 秀彦 健太	必修科目
	第四欄下	教育相談		2				○					今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
		生徒・進路指導論		2					○				今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
	第五欄	教育実習セミナー		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘 広石 英記	必修科目 随時
		教育実習Ⅰ		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 随時
	第六欄	教職実践演習（高）		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 集中

平成29（2017）年度 教職課程カリキュラム（授業科目配当表・時間割）
 （2016年度入学者用）

区 分	免許法上の区分	授業科目名	単位数		配 当 期								担当教員名	備考
			選 択	自 由	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次			
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
教 職 に 関 する 科 目	第二欄	教職入門		2		○							吉野 剛弘	必修科目
	第三欄	教育学概論		2			○						吉野 剛弘	必修科目
		教育心理学		2	○								今野 紀子	必修科目
		教育社会学	2					○					吉野 剛弘	必修科目
	第四欄上	教育課程論		2					○				吉野 剛弘	必修科目
		教育の方法と技術		2						○			吉野 剛弘	必修科目
		特別活動論		1					○				今野 紀子	必修科目 集中
		情報科教育法		4					○				土肥 紳一	必修科目
		数学科教育法		4			○						見正 野口 秀彦 健太	必修科目
	第四欄下	教育相談		2				○					今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
		生徒・進路指導論		2				○					今野 紀子	必修科目 エクステンション期間集中
	第五欄	教育実習セミナー		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘 広石 英記	必修科目 随時
		教育実習Ⅰ		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 随時
	第六欄	教職実践演習（高）		2								○	今野 紀子 吉野 剛弘	必修科目 集中

6 「平成28年度入学者用」教職課程履修モデル

「平成28年度入学者用」：教職課程履修計画表

このモデルは時間割等を考慮してはありますが、あくまでも一例です。実際の履修にあたっては各コースのコース基幹科目などを考慮して、各人で入念に計画を立てた上で履修してください。

(教科に関する科目の見方)

○は必修科目（包括的内容を含む科目）、斜体は選択科目

△は事前履修条件のため履修が必要になる科目

「情報」のみ：上段のみを参照。必修科目を修得し、選択科目から8単位以上修得すること。（斜体は一例）

「数学」のみ：下段のみを参照。必修科目を修得し、選択科目から17単位以上修得すること。（斜体は一例）

「数学」・「情報」：上記の情報の要件と数学の要件を双方ともに満たすこと。

学年	共通教育科目（単位数）	教職に関する科目（単位数）	教科に関する科目（単位数）	合計 （単位数）
1	コンピュータリテラシー（前期） 初級英語Ⅰ（前期）	2 2	教育心理学（前期） 教職入門（後期） 【情報】 ○情報処理の基礎（前期） コンピュータプログラミングA（後期） エレクトロニクスA（後期） △物理学B（後期） （△情報通信リテラシー（後期））※ 【数学】 ○微分積分学（後期） ○確率統計（後期） 基礎数学（前期） 線形代数（前期） 情報通信リテラシー（後期）	2 2 2 4 4 2 (2) 4 3 3 4 2
2	トリムスポーツⅠ or Ⅱ 法学（日本国憲法を含む） （後期）	2 2 教育社会学（後期） 教育相談（後期） 生徒・進路指導論（後期）	2 4 2 2 2 【情報】 ○コンピュータネットワーク（前期） ○情報化社会と職業（前期） △エレクトロニクスB（前期） ○インターネット総論B（後期） ○基礎マルチメディア工学（後期） 【数学】 ○データ構造とアルゴリズム（前期） ○情報数学Ⅲ（後期） 情報数学Ⅰ（前期） 幾何学Ⅰ（隔年・集中） 幾何学Ⅲ（隔年）	2 4 2 2 2 3 2 3 3 2 2
3		教育課程論（前期） 特別活動論（前期） 情報科教育法（通年） （「情報」の免許のみ必修） 教育の方法と技術（後期）	2 1 4 2 【情報】 ○コンピュータグラフィックス（前期） ○遠隔システムと制御（前期） ○ヒューマンインタフェース（前期） ○コンピュータ構成（前期） ○データベースシステム（後期） 【数学】 ○情報数学Ⅳ（後期） 幾何学Ⅱ（隔年・集中）	2 1 4 2 2 3 2 2 3 3 2
4		教育実習セミナー（随時） 教育実習Ⅰ（随時） 教職実践演習（高）（後期）	— 2 2	— —

※数学の教科に関する科目ですが、「コンピュータネットワーク」の事前履修条件となっています。

7 教育実習

教育実習は、4年次生のとき、2週間以上の教育活動（教壇実習および生徒指導）に参加することによって行われます。

（1）教育実習の履修条件

- ① 原則として教職概論（教職入門）・教育原理（教育学概論）・教育心理学・教育実習セミナー・情報科教育法（情報の免許状取得希望者のみ）・数学科教育法（数学の免許状取得希望者のみ）の単位を修得していること。
- ② 教育実習を行う年度の、前年度の前期終了時点で、原則、自由科目を除く総取得単位が83単位以上であること。ただし、編入学者・転入学者・転学部者・9月入学者については、単位の取得状況を加味して決定する。
- ③ 教育職員免許状取得見込み確実で教職に就く強い意思があり、卒業後教職に就くことが適当であると教職担当教員が判断した者のうち、教職課程小委員会の承認を得た者。
- ④ 伝染の恐れのある疾病もしくは教育実習を行う上で妨げとなる機能上の欠陥または精神障害がないこと。
- ⑤ 学校の正常な教育活動を妨げないこと。

（2）教育実習校の決定

自分の出身高等学校など縁故のある公立・私立校で、個人交渉により教育実習を受入れてくれる学校を決めて下さい。実習日時・教科が内定したら「教育実習ファイル」に記入の上、情報環境学部事務部に連絡して下さい。（提出期間：3年次4・5月）

その連絡に基づいて、本学部で作成する教育実習依頼状などを、実習校の校長に提出します。

（3）教育実習の手続

教育実習ファイルの提出（用紙は4月のガイダンスにて配付）（3年次前期）



教育実習校へ文書にて受入れについて照会（情報環境学部事務部より教育実習校宛）



教育実習校より内諾の報告（3年次前期）



教職課程小委員会の承認（3年次後期）



教育実習費の納入 ※教育実習校から指定のあった場合のみ
（4年次前期）



下記の書類を用意（実習生が実習校へ携行）

- ① 教育実習評価表

- ② 教育実習終了証明
- ③ 教育実習日誌（出勤簿も含む）

（４）教育実習上の注意

実習期間中は、将来教壇に立つのにふさわしい態度で真剣に実習に臨んで下さい。

教育実習終了後はすみやかに、③教育実習日誌を情報環境学部事務部へ提出してください。
実習生は実習校へ礼状をかかすことのないよう十分留意してください。

教育実習のために通常の授業を欠席する場合には、教育実習日誌にある専用の欠席届に教職課程担当教員の承認印を受けた上で、各科目ごとに授業担当教員へ事前に提出してください。（但し、その扱いは担当教員に任されます。）

（５）教育実習実施予定者の麻疹の抗体検査について

教育実習は学外での実習です。万一、本学の麻疹の感染者が教育実習を行った場合、実習校の児童・生徒へ麻疹が感染するおそれがあります。このような事態を避けるため、教育実習に参加する学生は、各自、責任を持って麻疹の抗体検査もしくはワクチン接種を受けてください。（抗体検査の結果、麻疹抗体価が低い場合は、ワクチン接種が必要となります。ワクチン接種後に、再度抗体検査をする必要はありません。）

教育実習受入れ校によっては、医療機関の診断結果を求められることがあるので、事前に確認してください。

麻疹（はしか）全般についての問い合わせ先

千葉ニュータウンキャンパス 健康相談室

☎ 0476-46-8001（直通 9 時 20 分～17 時 00 分）

■ 8 教育職員免許状の申請・証明 等

（１）免許状の申請

教育職員免許状の授与権者は各都道府県教育委員会ですが（教育職員免許法第 5 条第 6 項）、その授与申請には個人申請と一括申請の 2 つの方法があります。

個人申請

卒業後（4 月中旬以降）、個人で直接、居住内の都道府県教育委員会で免許状の交付を受ける方法です。

一括申請

授与申請は上記の個人申請が原則ですが、卒業式当日に免許状交付を必要とする者については、情報環境学部事務部でその事務を代行し、千葉県教育委員会に一括申請を行います。教育職員免許状の交付は、卒業式当日の学位記交付終了後となります。その際、教職課程履修券の提示が必要となりますので、紛失しないよう注意してください。

(2) 免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際必要となる免許状取得見込証明書（発行手数料500円）は、現在履修中の授業科目も取得見込として情報環境学部事務部で発行します。

(3) 免許状取得証明書

卒業後、免許状取得証明書が必要になったときには、千葉県教育委員会（一括申請の場合）へ請求することができますが、免許状の再発行は行っておりません。

(4) 大学院で取得できる「専修免許状」について

大学院では、自分の所属する専攻の「教科に関する科目」を24単位以上修得し課程を終了すれば「情報」の「専修免許状」が取得できます。

そのためには、学部において「1種免許状」を取得するか、またはそれに必要な科目・単位を修得していることが必要です。

9 その他の注意事項

- ・教職課程の履修に関する伝達事項等は、「教職課程掲示板」に掲示します。掲示を見落としただために不都合が生じて、大学側は責任を負いませんので、十分注意して下さい。
- ・履修に際しては途中で安易に放棄することのないよう努力して下さい。履修上困難なことが生じた時には、教職課程担当教員が情報環境学部事務部の教職課程担当職員に相談して下さい。

10 教職課程担当教員

情報環境学科	教授	今野 紀子	教育棟 5階511室
情報環境学科	講師(教育)	吉野 剛弘	教育棟 5階512室

建築士の受験資格・インテリアプランナーについて

1 建築士の受験資格

1級建築士、2級・木造建築士試験を受検するためには、一定の条件を満たして単位を修得して卒業した後、定められた年数以上の実務経験を経なければなりません。

【2009（平成21）年度以降の入学生】

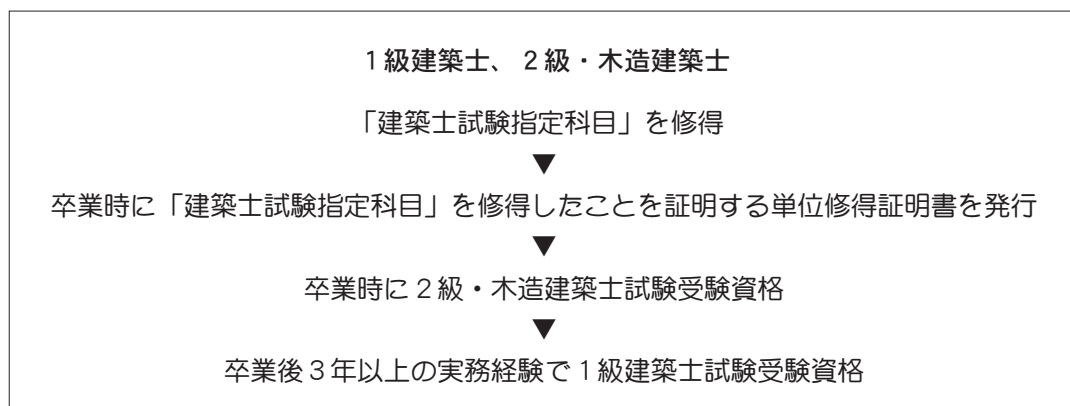
● 1級建築士

1級建築士試験の受験資格を得るためには情報環境学科において「建築士試験指定科目」を修得する必要があります。「建築士試験指定科目」を修得した場合、3年以上の実務経験の後に1級建築士試験の受験資格が得られます。

● 2級・木造建築士

2級・木造建築士試験の受験資格を得るためには情報環境学科において「建築士試験指定科目」を修得する必要があります。「建築士試験指定科目」を修得した場合、2級・木造建築士試験の受験資格が得られます。

1級建築士、2級・木造建築士の受験資格は、次ページに定められた「建築士試験指定科目」を修得する以外、得られません。注意して履修計画を立てて下さい。



● 「建築士試験指定科目」の修得条件

次にあげる条件をすべて満たして卒業した者は、建築士試験指定科目を修得したことを証明する単位修得証明書を発行しますので、事務部に相談するようにして下さい。

なお、次ページは1級建築士試験の受験資格の取得の条件となります。2級・木造建築士試験の受験資格の取得のみを考える者は、事務部に相談するようにして下さい。

(1)次にあげる科目をすべて修得すること

人工環境づくりの実際 人工環境制御 構造システムと安全 A
 構造システムと安全 B 構造システムと材料・実験
 建築材料 建築工法・生産 建築法規

(2)次にあげる科目から合計32単位以上修得し、かつ「建築設計製図」の区分から7単位以上、「建築計画」の区分から7単位以上修得すること。

「建築設計製図」

空間表現法・演習 環境計画演習 A 環境計画演習 B
 環境パフォーマンス A 環境パフォーマンス B

「建築計画」

インテリジェント環境システム 高齢社会と環境 都市居住と環境
 ネットワーク医療福祉システム まちづくりの環境デザイン

「その他」

CAD ランドスケープと環境 都市文化 建築CAD演習

【参考】「建築士試験指定科目」一覧表

区 分	科 目 名	単位数	区 分	科 目 名	単位数
①建築設計製図 (7単位以上)	空間表現法・演習	4	⑤構 造 力 学 (4単位以上)	構造システムと安全A	2
	環境計画演習A	4		構造システムと安全B	2
	環境計画演習B	4		単 位 数 小 計	4
	環境パフォーマンスA	4	⑥建築一般構造 (3単位以上)	構造システムと材料・実験	4
	環境パフォーマンスB	4		単位数小計	4
	単 位 数 小 計	20	⑦建 築 材 料 (2単位以上)	建築材料	2
②建 築 計 画 (7単位以上)	インテリジェント環境システム	3	単 位 数 小 計	2	
	高齢社会と環境	2	⑧建 築 生 産 (2単位以上)	建築工法・生産	2
	都市居住と環境	2		単位数小計	2
	ネットワーク医療福祉システム	2	⑨建 築 法 規 (1単位以上)	建築法規	1
	まちづくりの環境デザイン	2		単 位 数 小 計	1
	単 位 数 小 計	11	⑩そ の 他 (適 宜)	CAD	4
③建築環境工学 (2単位以上)	人工環境制御	2	ランドスケープと環境	2	
	単位数小計	2	都市文化	2	
④建 築 設 備 (2単位以上)	人工環境づくりの実際	3	建築CAD演習	4	
	単 位 数 小 計	3	単 位 数 小 計	12	

※(1)・(2)の条件を満たし、かつ上記一覧表記載の全ての科目(要件60単位以上)を修得した場合、実務経験は2年以上となります。

【2008（平成20）年度以前の入学生】

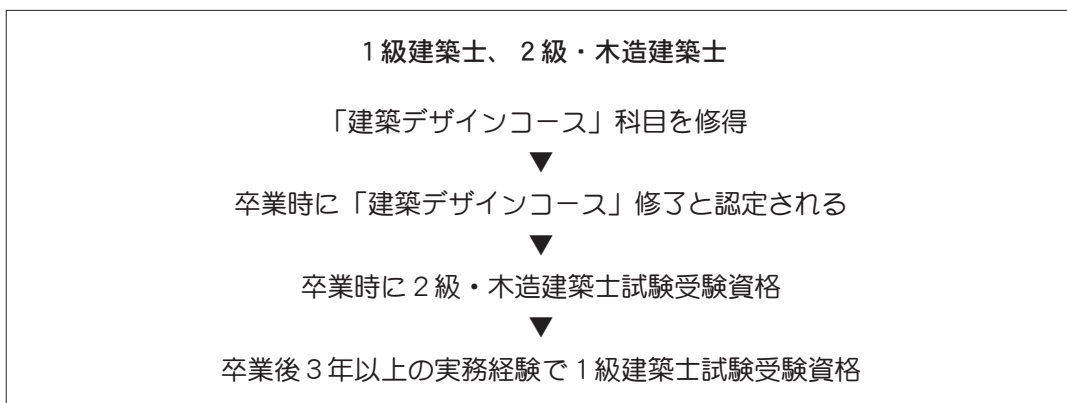
● 1級建築士

1級建築士試験の受験資格を得るためには情報環境学科において「建築デザインコース」を修了する必要があります。「建築デザインコース」を修了した場合、3年以上の実務経験の後に1級建築士試験の受験資格が得られます。

● 2級・木造建築士

2級・木造建築士試験の受験資格を得るためには情報環境学科において「建築デザインコース」を修了する必要があります。「建築デザインコース」を修了した場合、2級・木造建築士試験の受験資格が得られます。

1級建築士、2級・木造建築士の受験資格が得られるのは「建築デザインコース」を修了した場合だけです。



● 「建築デザインコース」修了条件

次にあげる条件をすべて満たして卒業した者は、「建築デザインコース」を修了したものと認定し、学位記（卒業証書）および卒業証明書に明記します。

（1）次にあげる科目をすべて修得すること【建築デザイン必修科目】

空間表現法・演習	構造システムと安全 A	構造システムと安全 B
構造システムと材料・実験	環境計画演習 A	環境計画演習 B
環境パフォーマンス A	環境パフォーマンス B	人工環境制御
人工環境づくりの実際	都市居住と環境	まちづくりの環境デザイン
高齢社会と環境	インテリジェント環境システム	ランドスケープと環境
都市文化		

（2）次にあげる科目から合計20単位以上修得し、かつ「卒業研究A」「卒業研究B」「開発型プロジェクトA」「開発型プロジェクトB」から4単位以上修得すること。【建築デザ

イン関連科目】

情報演習 A (H21年度まで開講)	情報演習 B (H21年度まで開講)	基礎プロジェクト A
基礎プロジェクト B	卒業研究 A	卒業研究 B
開発型プロジェクト A	開発型プロジェクト B	CAD
バーチャルリアリティ	コンピュータグラフィックス A (H22年度まで開講)	コンピュータグラフィックス B (H22年度まで開講)
感性工学	センサー工学	聴覚と音響処理 (H21年度まで開講)
視覚と画像処理	医療情報工学	ネットワーク医療福祉システム
ヒューマンインタフェース	マルチメディア工学 (H21年度まで開講)	情報心理学
音響工学 A (H22年度以降開講)	音響工学 B (H22年度以降開講)	基礎マルチメディア工学 (H22年度以降開講)
建築 CAD 演習 (H22年度以降開講)		

2 インテリアプランナー資格

● インテリアプランナー

インテリアプランナー資格を得るには、(財) 建築技術教育普及センターが実施する「インテリアプランナー試験」に合格し、所定のインテリアに関する実務経験年数を経て、登録を行うことが必要です。

情報環境学科において、次ページ記載の条件を満たして卒業した場合、必要とされる実務経験年数は 0 年 (不要) となります。

「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」を発行しますので、希望者は事務部において申請を行ってください。(申請後、2 日後発行)

なお、「インテリアプランナー」制度の詳細については、(公財) 建築技術教育普及センターへ問い合わせください。

● 「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」発行条件

- (1) 次にあげる「インテリア関連科目」および「インテリア専門科目」から合計 36 単位以上修得すること。
- (2) 「インテリア専門科目」から合計 24 単位以上修得すること。
- (3) 「環境計画演習 A」「環境計画演習 B」から 4 単位以上修得すること。

インテリア関連科目

まちづくりの環境デザイン 視覚と画像処理／視覚のデジタル処理※ 1
情報環境プラクティス A 情報環境プラクティス B
都市文化 ランドスケープと環境

インテリア専門科目

高齢社会と環境 インテリジェント環境システム 情報心理学
人工環境制御 都市居住と環境

聴覚と音響処理／音響工学A 音響工学B ※2

構造システムと材料・実験 構造システムと安全A 構造システムと安全B
人工環境づくりの実際 空間表現法・演習 CAD バーチャルリアリティ

コンピュータグラフィックス／コンピュータグラフィックスA ※2コンピュータグラフィックスB ※3

環境パフォーマンスA 環境パフォーマンスB 建築CAD演習
環境計画演習A 環境計画演習B

- ※1「視覚と画像処理」（H23年度まで開講）を修得していない場合、「視覚のデジタル処理」（H24年度以降開講）をインテリア関連科目の修得科目とすることができる。
- ※2「聴覚と音響処理」（H21年度まで開講）を修得していない場合、「音響工学A」と「音響工学B」（いずれもH22年度以降開講）のいずれか、あるいは両方をインテリア専門科目の修得単位とすることができる。
- ※3「コンピュータグラフィックスA」「コンピュータグラフィックスB」（いずれもH22年度まで開講）の両方を修得していない場合、「コンピュータグラフィックス」（H23年度以降開講）をインテリア専門科目の修得単位とすることができる。

第3章

学 生 生 活

第3章

学 生 生 活

1 学生生活について

1 学生生活について

(1) 掲示板・学生ポータルサイト等の確認

キャンパス内の掲示板または学生ポータルサイト等を通じて大学から学生の皆さんへ重要なお知らせを行います。これらを定期的に確認する習慣を身につけることはとても大切です。

詳しくは、第3章2 インフォメーション「1. 大学から学生への連絡・通知」(P. 153)を参照して下さい。

(2) 守って欲しいこと

●住所等が変わったら、忘れずに変更届を提出してください。

次の事項に変更が生じたときは、速やかに事務部へ届け出てください。変更届の提出を怠っていると、大学からの事務連絡や緊急時の連絡が伝わらず、不利益を被ることになります。(関連 P. 159)

- ・現住所（電話番号含む）
- ・携帯電話番号
- ・保証人の変更
- ・保証人住所（電話番号含む）
- ・改氏名

●無届けの「掲示」「印刷物の配布」等は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得なければなりません。意見・主張などを書いたパンフレット、ビラなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に事務部に届けてください。

●良識を持って行動しましょう

- ・授業中の私語、居眠り
- ・授業中の携帯電話等の使用
- ・レポートの丸写し
- ・遅刻、早退
- ・ゴミ、空カン等の放置
- ・音の出る履物（下駄に類するもの）
- ・Web上等での中傷、改ざん

その他、マナーに反することは禁止します。

●キャンパス内は分煙を行っています

指定の喫煙場所（灰皿設置）以外では禁煙です。歩行喫煙、タバコの投げ捨ては厳禁です。また、医学上、喫煙は有害であることがわかっていますので、健康管理のうえでも喫煙はやめましょう。

●情報システム利用上の留意点

本学部の情報システムは、インターネットに接続していますので、電子メールを介して世界中の誰とでも情報交換したり、インターネット上に公開された様々なWebサイトにアクセスしたり、また自分のホームページから世界に向けて自分の意見を自由に発信したりすることができます。快適なインターネット環境は、それぞれの利用者の適切な利用と、絶え間ない技術革新によって実現されます。皆さんは、インターネットの利用者として、また情報環境技術の専門家として、自覚と責任を持って本学部の情報システムを利用しなければなりません。

本学では、「東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン」(P. 220参照)を策定し、学生がコンピュータ、携帯情報端末やネットワークを利用するに当たって遵守すべき事項をまとめています。

セキュリティガイドラインの内容を十分に理解し、情報システムを適正かつ安全に利用するようにしてください。

以下は、利用に当たっての基本ルールです。

①自己責任

インターネットを介して情報を発信したり受信するときは、それによって生じるリスクや社会的責任、法的責任を自分自身が負わなければなりません。

②言葉を選ぶ

表現上のちょっとした不備や文化の違いから、思わぬ誤解や争いを招くことがあります。メールやホームページから情報発信するときは、言葉を選び、相手を傷つけないよう注意しましょう。

③真実を見分ける

最近、意図的に間違った内容や、ゆがんだ情報を流すヘイトサイトが散見されます。受信した情報をうのみにせず、真実を見分ける力を身につけましょう。

④セキュリティ

パスワードの管理は、あなた自身のプライバシーを守るだけでなく、システムへの不正アクセスを防ぐ上でも重要です。システムの安定かつ安全な運用に協力しましょう。

⑤専門能力の向上

情報システムは、より快適な情報環境の実現を試す場(テストベッド)として利用することもできます。たえず専門能力の向上に努め、情報環境技術がもたらす社会やユーザーへの影響に配慮し、最善を尽くしてシステムの開発と評価に当るよう心掛けましょう。

⑥不法行為の禁止

他人の著作物を無断で複製したり転載する行為、データを改ざんしたりサービスを妨害する不正アクセス行為、相手の中傷したりプライバシーを侵害する行為、わいせつ書画の掲載やねずみ講行為など、いかなる不法行為も、決してしてはいけません。

セキュリティガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコン

ピュータやネットワーク利用を停止する場合があります。さらに悪質な場合には学則により処罰されることがあります。

(3) 気をつけて欲しいこと

●盗難に注意

大学キャンパスは公共的色彩の強い施設であり、学外者の出入りも比較的自由である反面、盗難事件の発生が懸念されますので、各自財布やノートパソコン等の貴重品を含めた所持品は常に携帯するよう心掛けてください。財布やノートパソコン等の貴重品を置いたままの状態での場を離れるようなことはしないでください。

もし盗難にあった場合は、速やかに事務部に申し出てください。特に、キャッシュカードなどを紛失した場合には、カード発行元への連絡も忘れないでください。

●「金融ローン」の利用は注意してください

「学生証だけで低利融資します」というこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、家族にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などとよく相談してください。

●悪徳商法に注意してください

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話教材などの割賦販売のなかにもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いと、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、その内容について時間を置いて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる「クーリング・オフ制度」があることも知っておいてください。

また、営利目的ではない不審な団体から、入会の勧誘を受けることもあります。物品を無料で差し出されたり、会合に参加する誘いを受けた時には、毅然とした態度で対応してください。

●新手の詐欺に注意してください

オレオレ詐欺、振込め詐欺、ねずみ講、マルチ商法等における消費者トラブルが多発していますので十分注意してください。家族とも十分話し合っておいてください。

2 通学について

●通学定期乗車券について

通学定期乗車券（電車・バス）の購入方法は、次のとおりです。

①鉄道の場合の購入方法

各鉄道会社の指定駅で、駅備えつけの「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証といっしょに駅窓口にて提出して購入してください。

②バスの場合の購入方法

大学の通学証明書を必要とするバス会社の場合は、事務部で通学証明書を発行します。通学証明書を必要としないバス会社の場合は、学生証のみで通学定期券を購入することができます。

●スクールバスについて

「JR成田線木下駅～千葉ニュータウンキャンパス間」「京成勝田台駅～千葉ニュータウンキャンパス間」に、スクールバスを運行しています。運行日程は、ホームページ、学生ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）、並びに掲示板を参照してください。

なお、基本的に、日曜日・祝祭日・各休業期間中・土曜日の勝田台ルートは運行されません。
※運行本数に限りがありますので、公共の交通機関を優先的に利用して下さい。
※交通事情による遅延・早着によって生じた被害について、大学は一切の責任を負いません。

●千葉ニュータウンキャンパスにおける自動車・オートバイ等の車両通学

（※平成30年4月からの東京千住キャンパス移転先での車両通学は認められておりません。）

①公共の交通機関を利用して通学することが困難な者で、車両通学を希望する場合は、願い出により車両通学を許可することがあります。

許可条件など、願い出に必要な事項は、事務部に問い合わせてください。なお、新年度のオリエンテーション期間中に安全運転講習会を開催しますので、車両通学希望者は、必ず出席してください（車両通学を予定する学生も含む）。安全運転講習会に出席しなかった学生には、原則として車両通学を許可しません。

②無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令や学内諸規定に違反し、大学の指示に従わない時は、学則第51条により、退学を含む厳しい処分をとります。

③無許可で車両通学をして、交通事故等で負傷した場合、「学生教育研究災害傷害保険」は適用されません。

④車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。駐車許可証は、四輪車の場合には常にフロントに提示し、自動二輪・原付・自転車はステッカーを貼付してください。（ステッカーは目に付きやすいところに貼付してください。ステッカーのない自転車は放置自転車とみなし処分します）

⑤自動車・オートバイ・自転車などの車両は必ず、指定の場所に駐車してください。

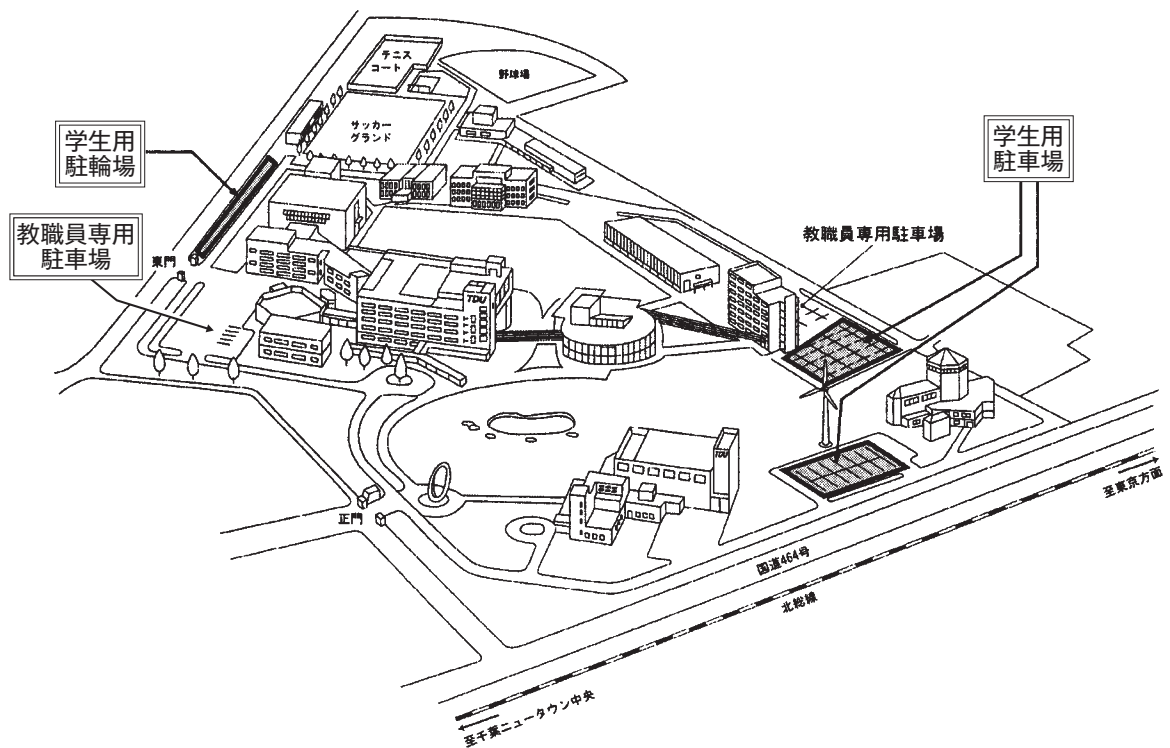
学生駐車場・駐輪場以外に駐車した場合には駐車違反となりますので注意してください。

- ⑥盗難および事故に関して、大学は一切の責任を負いません。
- ⑦駐車場利用者同士のトラブル等は、双方で解決してください。また、破損等に関して、大学は一切の責任を負いません。
- ⑧駐車場に設置された機器・備品等に接触、衝突事故による損害は、運転者の責任として損害賠償を請求いたします。
- ⑨車両通学に関して大学の指示に従わないときは、車両通学の禁止および車両を撤去していただきます。

手続きの方法

- ①新年度のオリエンテーション期間中に、安全運転講習会に参加する。
- ②車両通学願に本人と保証人が自署・捺印し、必要書類とともに、事務部に提出する。
必要書類：車両通学願、任意保険（四輪・自動二輪）・自賠責保険（原付）の確認できるコピー、学生証（安全講習会参加済の印があること）
- ③駐車許可証（自動二輪、原付、自転車はステッカー）を受け取る。

駐車場（車）・駐輪場（バイク・自転車）



3 奨学金

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、日本学生支援機構をはじめ各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は事務部で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡は、学生ポータルサイト及び奨学金専用掲示板でおこないますので、見落とすことのないよう十分注意してください。なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する場合は、随時、事務部に相談してください。

主な奨学金制度には次のものがあります。

(1) 本学独自の奨学金

●特別奨学金

故桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付金および学校法人東京電機大学からの積立金を基金として設立された奨学金です。

資 格	本学の2～4年生に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者（応募に当たっては家計基準があります。）
募集時期	5～6月
採用者数 平成28年度実績	情報環境学部 3名（年間280,000円／人）

●東京電機大学学生応急奨学金

本学への特定の寄付金をもって設置された奨学金です。本学の学生で人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して給付されます。

資 格	学部 に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者
給 付 額	50万円の範囲内で決定
募集時期	定期的な募集は行っていません。1年以内に家計急変があり学費支弁が困難な者で、他奨学金の貸与状況・家計急変状況・学費延納状況等から総合的に判断し、応急奨学金の趣旨に相応しい人物を採用します。
採用者数 平成28年度実績	応募者なし

●東京電機大学学生サポート給付奨学金

東京電機大学学生サポート募金（奨学金使途指定）への寄付をもって設置された奨学金です。

本学の学生で、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して在学期間中1回に限り給付されます。

資 格	学部にて在学し、過去1年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支弁が困難な者（応募に当たっては家計基準及び成績基準があります。）
給 付 額	25万円
募集時期	4月と7月の年2回
採用者数 平成28年度実績	1名

●大学院進学特別奨学金

本学学部成績優秀者の本学大学院修士課程への進学促進のため、経済的に修学困難な学生への支援策として、学内推薦入試の合格者を対象に奨学金の給付を行う制度です。

資 格	学内推薦入試で合格した学部生のうち、成績ならびに人物が優秀な者 本学学部生で本学大学院修士課程の9月入学者および入学後に休学、留年をしたことがある学生は対象外です。 また、大学院修士課程入学初年次において、学内外に関わらず他の給付奨学金と本奨学金を併用することはできません。
給 付 額	年間授業料相当額（大学院初年次のみ）
給付期間	1年
募集時期	9～10月
採用者数 平成28年度実績	情報環境学科 2名

●東京電機大学学生救済奨学金

保証人（家計支持者）の経済的事由が急変したために、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。在籍期間中1回に限り貸与されます。

資 格	大学院・学部にて在籍する学生（卒業年次生優先）
貸 与 額	該当セメスター分の学費相当額
募集時期	4月と9月の年2回
返 還	無利子・卒業後5年間（退学した場合は一括返還が必要）
採用者数 平成28年度実績	応募者なし

●東京電機大学学生支援奨学金

本学主催の海外英語短期研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。在学期間中1回に限り貸与されます。

資 格	大学院・学部在籍学生
貸 与 額	30万円以内にて査定
募集時期	随時
返 還	無利子・最長卒業後5年間
採用者数 平成28年度実績	1名

●東京電機大学校友会奨学金

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した奨学金で、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生に対して在籍期間中1回に限り奨学金が貸与されます。

主に卒業年次生の学生を対象にしています。

資 格	本学学生
貸 与 額	1回に納入する学費等の相当額
募集時期	随時。但し、学費に充当するため、学費納入期限以前の応募が望ましい
返 還	無利子・卒業後5年間（退学した場合は一括返還が必要）
採用者数 平成28年度実績	応募者なし

（2）日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構は、国の奨学事業をおこなっている機関です。優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に対して貸与される奨学金で、「第一種奨学金（無利子）」と「第二種奨学金（有利子）」とがあります。

①成績基準

第一種奨学金（無利子） 学科の上位1/3以内の成績であること。

第二種奨学金（有利子） 学科の1/2以内の成績であり、かつ本人が奨学金借用に
あたって適確な意識を持っていること。

＊併用貸与 第一種奨学金の貸与のみでは学業継続が困難な者に対しては、第二種奨学金をあわせて貸与することがあります。

②貸与額（平成29年度の月額）

（第一種）

（単位：円）

入学年度	学 年	自 宅	自宅外
平成28年	2 年	30,000又は54,000	30,000又は54,000又は64,000
平成27年	3 年	30,000又は54,000	30,000又は54,000又は64,000
平成26年	4 年	30,000又は54,000	30,000又は54,000又は64,000

（第二種奨学金）

月額3万円・5万円・8万円・10万円・12万円の中から選択。

③貸与期間

最短修業年限（4年）の終期までです。卒業が延期になった場合でも、5年目以降の貸与はありません（休学した場合を除く）。奨学生として適格性を失ったとき（単位修得状況やGPAが不良の場合など）は、貸与が停止または取消される場合があります。

④募集時期

原則として4月上旬の1回限り

⑤情報環境学部奨学生数（平成28年度）

種 類	第一種奨学金	第二種奨学金	合 計
貸与者数	136	296	432

（3）各種団体による奨学金

地方公共団体、その他民間育英団体の奨学金は各種あります。詳しい内容は、募集の依頼があり次第掲示します。ほとんどの奨学金が4月～5月上旬に募集を行いますので、掲示を見逃さないように注意して下さい。このほかに大学を通さずに募集される場合もありますので、直接、各団体等に問い合わせることも必要です。

4 こんなときどうする

(1) 事故にあったとき

● 学生教育研究災害傷害保険

「学生教育研究災害傷害保険」は、正課および課外活動中または通学途中などに発生した不慮の災害事故によって身体の障害をこうむった者を救済する制度です。

本学の学生は、保険料を入学手続き時に納入していますから、全員、入学後4年間は、この保険の加入者となっています。

この保険の加入・受付などの事務は事務部でおこなっています。

【卒業延期等で保険期間が切れた場合】

4月中に事務部において継続加入の手続きをしてください。(追加の保険料が必要です。) 保険料：1年間1,000円

学内外を問わず、事故にあったときは、必ず事務部へ連絡してください。

① 保険金が支払われる場合

- 1) 正課中の事故
- 2) 学校行事中の事故
- 3) 1)、2)以外で、学校施設内にいる間の事故
- 4) 学校施設外で大学に届け出て課外活動をおこなっている間の事故
- 5) 正課・学校行事・課外活動のために住居と学校施設間の移動中、もしくは学校施設と学校施設間の移動中の事故

② 保険金の種類・金額

担保範囲 \ 保険金金額	死亡	後遺障害	医療	入院 (日額)
正課中・学校行事中	2,000万円	120万～3,000万円	0.3万～30万円	4,000円
上記以外で 学校施設内にいる間	1,000万円	60万～1,500万円	3万～30万円	
学校施設以外で 大学に届出た課外活動中	1,000万円	60万～1,500万円	3万～30万円	
住居と学校施設間または 学校施設と学校施設間の移動中	1,000万円	60万～1,500万円	0.6万～30万円	

(注) 1) 医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なります。

2) 正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が1日以上の場合に支払われます。学校施設内にいる間の事故・課外活動中の事故は、実治療日数が14日以上の場合に支払われます。また、移動中の事故は、実治療日数が4日以上の場合に支払われます。

③保険金が支払われない場合

故意、闘争行為、犯罪行為、疾病、地震、噴火、津波、戦争、暴動、放射線・放射能などによる傷害、無資格運転、酒酔い運転による傷害などには保険金は支払われません。
※大学に車両通学の許可を得ていない場合の通学途中での事故については、保険金は支払われません。

④保険料・保険期間

保険期間	保険料適用区分
	昼 間 部
1 年間	1,000円
2 年間	1,750円
3 年間	2,600円
4 年間	3,300円

(注) 1) 保険期間は所定の修業年限です。

2) そのほか詳しいことは「学生教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

●学研災付帯賠償責任保険

「学研災付帯賠償責任保険」は、教育実習、インターンシップ、ボランティア活動およびその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことによりこうむる法律上の損害賠償を補償する保険です。

上記の活動（ただし、大学が認めた活動に限ります）に参加する場合は加入が必要ですので、事務部で加入手続きをしてください。（保険料：1年間210円）

この保険を申し込むためには、学生教育研究災害傷害保険に加入していることが義務づけられています。

(2) 学生への連絡

家族・知人などから大学へ、電話による学生の呼び出しを依頼されることがありますが、大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、呼び出しには応じません。あらかじめ承知しておいてください。

また、電話による学生の住所、成績、個人情報などの問い合わせには一切応じません。

(3) 学割証（学生旅客運賃割引証）

●学割証の発行条件

学生生活の上で修学のための旅行や、正課、課外教育活動、就職活動等のために遠距離の乗り物を利用する場合、乗車区間が片道100kmをこえる時にこの学割証が利用できます。

証明書自動発行機で交付します。（無料）

※原則、年間1人10枚まで。

●学割証利用上の注意

①学割証の使用は、記名人以外は使用できません。（不正使用をすると追徴金が科せられ以後発行停止になります。）

- ②必ず学生証を携帯してください。
- ③学割証の有効期間は発行日から3ヶ月間です。

(4) 短期貸付金

短期貸付金制度は、学生諸君が緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度で、事務部で取り扱っています。

この貸付制度は、同窓会の先輩の皆さんが設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用されています。

貸付金額	10,000円以内
貸付期間	1ヵ月以内（1ヵ月を経過した場合は1ヵ月毎に遅滞手数料として、貸付額の2%を徴収します。）

※貸付金を述べ6ヵ月以上滞納した学生、返済状況が3回以上滞った学生、また、情報環境学部が悪質なケースであったと認識した場合は、原則として在学期間中貸付を禁止します。

(5) 貸ロッカー（有料）

学生のために、委託会社と4月中旬～翌年1月中旬までの年間契約で貸出されるものです。申込み方法等は事務部で確認してください。

- ・鍵を紛失した場合は、事務部で受け付けます。（有料）
- ・鍵を忘れた場合は、大学側で鍵を開けることはできません。（自己責任）

(6) 遺失物・拾得物

遺失物・拾得物

遺失物……情報環境学部事務部で確認してください。

拾得物……本学構内で拾ったときは事務部に届け出てください。

《連絡方法》

持ち主が明らかな物……学生呼出掲示板で呼出し（教育棟1階）

持ち主不明な物………「落とし物」陳列棚（教育棟1階）

なお、一定期間を経過しても受取りに来ないときは、処分します。

教科書など名前を記入できるものはできるだけ名前を書きましょう。

(7) アルバイト

本学ではアルバイトを希望する学生にその紹介をおこなっております。しかし学生の本分である学業がおろそかになってはなりません。教育的配慮と事故防止の観点から時期と職種を制限しています。

●取扱窓口

情報環境学部事務部（教育棟1階）

●求人票公開

アルバイト専用掲示板（教育棟1階）

●職種の制限

以下の制限職種一覧表を見てください。

●申込方法

掲示されている求人票に連絡先が記載されているので、直接求人先に応募してください。

なお、採否結果は必ず事務部窓口に出してください。

●勤務上の注意

①労働内容、条件などが求人票に記載されている内容と著しく異なる場合には、事務部窓口まで申し出てください。

②病気、急用、その他突発的事項の理由で遅刻・欠勤などする場合には、必ず勤務先へ連絡してください。安易な行動は勤務先へ多大な迷惑をかけるばかりでなく、自分の信用を落とすこととなりますので特に注意してください。

●学生アルバイト情報ネットワークの利用について

WEB上で「学生アルバイト情報ネットワーク」を利用し、アルバイト求人情報を取得できます。下記のHPより、ログインIDとパスワードを取得して利用してください。

尚、当システムは、学外のシステムとなります。当システムを利用し、紹介を受ける場合、職種の制限や問い合わせ先が異なりますので、注意してください。詳しくは、下記URLを参照してください。

【学生アルバイト情報ネットワーク】<https://www.aines.net/dendai>

制限職種一覧表

	具 体 例	理由および参考事項
危険を伴うもの	プレス、ボール盤、施盤、裁断機などの自動機械の操作	危険事故が伴う。 (例外…理工系でその専攻に役立つもの)
	高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ刑事責任まで負うことになる。
	線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	土木・水道工事現場作業	
	建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	2階以上の高所での屋外作業（硝子ふき、器具取り付け等）	
	ヘルメット着用が必要とされる作業	
	警備員	会場整理、誘導、受付は除く。

有害な体にも	農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	特に高温・低温度の作業	
	塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法20条参照
	営利職業斡旋業者への仲介あっ旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	マルチ・ねずみ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法27条参照
	募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	
教育的に好ましくないもの	街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	バー、キャバレー、マージャン、パチンコなどの風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	夜間作業	
	選挙の応援に関する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
望ましくない求人	スパイ行為、興信所業務に類する調査	
	人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	人員の限定を条件とするもの	例えば10人中1でもかけると他の9人を不採用とするようなもの。
	学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしば繰り返されるもの	
	大学の判断により好ましくないもの	

（８）賃貸アパートの紹介

千葉ニュータウンキャンパスへの通学に適した地域の賃貸アパートを、本学指定業者に委託して斡旋しています。本学指定業者の斡旋を希望する学生は、事務部窓口にて相談ください。なお、平成30年4月からの移転先である東京千住キャンパスは、直接斡旋はしていませんが、大学生協等で取扱業者の案内をしています。

（９）課外活動

大学の課外活動の目的は、団体の活動に参加することによって、自主性を養い、協調精神を身につけ秩序を知り、自己の人間形成に役立てることにあります。しかし、課外活動に必要な以上のエネルギーを費やし学生の本分である勉強がおろそかになるようであってはなりません。本学部では、平成14年度に自治会が設立され、委員会、部、サークルなどの学生団体が活動しています。今後、先輩達と共にサークルの充実に向けて活動していくこととなります。諸君は、課外活動のこの趣旨目的を十分に把握した上で各自の個性に合った部やサークルを選び、意義ある学生生活を過してください。

課外活動をおこなう上での諸手続や遵守事項の概要は次の通りですが、詳しくは「学生生活についての規程」を参照してください。

●学外活動をおこなう場合

学生の団体が学外で活動する場合は、「学外活動要領」に基づき「学外活動願」に記入の上、活動開始の1週間前までに事務部に届け出なければなりません。学外活動終了後はすみやかに「学外活動報告書」を提出してください。

※届け出がない場合は、学生教育研究災害傷害保険の適用外となります。

●学内集会をおこなう場合

学生の団体が学内で集会をおこなう場合は、「学内集会要領」に基づき「学内施設使用願」に記入の上、事務部に届け出なければなりません。

また、学生の団体が、サークル棟もしくはパティオ・インで宿泊する場合、「サークル棟宿泊申込書」と「宿泊者名簿」に記入の上、利用料金を添えて申し込んでください。

●施設利用

施設利用については、以下の学内集会要領に基づいて手続をしてください。

学内集会要領

■教室及び手続（「学内集会願」は情報環境学部事務部窓口にあります）

使用教室	枚数	手 続 方 法
普通教室	1	事務部窓口で、空教室を確認して「学内集会願」を提出
108教室	1	普通教室と同じ
体育館	1	事務部窓口で、空状況を確認して「学内集会願」及び「体育施設個人利用者名簿」を提出
食堂1階	1	事前に生協に確認・許可を得た上で、事務部に「要望書」(*)を提出
食堂2階	1	事前に錦電サービスに確認・許可を得た上で、事務部に「要望書」(*)を提出
福田ホール	1	事務部で確認・許可を得た上で、「要望書」(*)を提出
屋外	1	体育館と同じ

注1：利用優先順位は、①授業関係・大学行事関係 ②学生団体 ③個人 となる。

注2：本項目における「個人」とは、「学生団体」以外で利用する者をいう。

注3：最低利用人数は安全配慮のため2人以上とする。

(※) 情報環境学部事務部長宛で、学生団体名・代表者の学籍番号・氏名を記入、それに部印・代表者印を捺印し、目的や依頼事項を具体的に記入したもの。

■ 利用時間

（下表において＜＜ ＞＞は「学生団体」にのみ適用する事項、【 】内は「個人」にのみ適用する事項であることを表す。）

使用教室	利用時間（平日）	利用時間（土曜日）	利用時間（日曜日・祝日） 【個人は終日利用不可】
普通教室	＜＜16:30～21:00＞＞	＜＜9:30～19:00＞＞	＜＜9:30～19:00＞＞
108教室	＜＜16:30～21:00＞＞	不 可	不 可
体 育 館 （アリーナ・柔道場・剣道場・卓球場・トレーニングルーム）	＜＜16:30～21:00、 （体育授業日 17:30～21:00）＞＞ 【13:30～16:30、16:30～21:00、 （体育授業日 17:30～21:00）】	＜＜9:30～19:00＞＞ 【9:30～16:30】	＜＜9:30～19:00＞＞
食堂 1 階	＜＜17:00～21:00＞＞	不 可	不 可
食堂 2 階	＜＜17:00～21:00＞＞	不 可	不 可
福田ホール	＜＜16:30～21:00＞＞	不 可	不 可
屋 外 （サッカーグラウンド・野球場・テニスコート）	＜＜16:30～21:00＞＞ 【13:30～16:30、16:30～21:00】	＜＜9:30～19:00＞＞ 【9:30～16:30】	＜＜9:30～19:00＞＞

注 1：大音量を出す場合は、部屋の中で行い、19時30分を限度とする。

注 2：利用時間等は変更になる場合があります。

■ 利用上の注意

- 1) 学内集会の申込みは、原則として使用開始の 1 週間前までに「学内集会願」を提出すること。なお、3 週間先を限度に申し込むことができる。
- 2) 教職員において臨時に使用される場合、当該教室の学内集会を変更または中止の指示をすることがある。
- 3) 学外者を伴う場合は、事前に事務部に確認をして許可を得た上で、「学内集会願」と「学外者名簿」を提出する。（関連 P. 159 参照）
- 4) 各休業中の学内集会については、各自治会間での協議（折衝）の上、別途定める。
- 5) 以上の学内集会要領に違反して使用した団体・個人は、その後の施設の利用は一切認めない。

(10) 学生団体（平成29年2月現在）

学生団体名		活 動 内 容	顧 問
委員会	1 自治会執行委員会	自治会の運営、学生大会の開催、部活動間の調整、予算配付、他大学との交流	なし
	2 卒業アルバム制作委員会	卒業アルバムの制作、販売と謝恩会の企画、運営	川邊 孝
	3 秋葉祭実行委員会	秋葉祭の企画、運営、管理を目的とする	小濱 隆司
部	4 バスケットボール部	技能向上	川勝 真喜
	5 蹴球部	サッカーを通して、部員の体力向上及び技術の向上	近藤 通朗
	6 図工部	整った創作環境による創作活動を行う。また展示の機会を作ることで部員の創作意欲向上を目的とする	小林 浩
	7 鉄道研究部	鉄道に興味を持つ学生同士の親睦や、交流を深めることを主目的とし、学祭で展示をする鉄道模型のレイアウトの作成や、近隣地域への鉄道を利用した旅行など多岐にわたる活動を実施する。千住キャンパスの鉄道研究部の活動とも連携を行う。	土肥 紳一
	8 ダンス部	秋葉祭での発表、ハロウィンパーティの企画・運営・発表	川邊 孝
	9 サイクリング部	サイクリング、自転車を通して交流を広げ親睦を深め、サイクリングやレースにより心身ともに健康かつ、大学生活を有意義なものとするため	川勝 真喜
	10 マジック倶楽部	マジックの練習・習得	今野 紀子
	11 演劇部	・学内での年4回の公演、外部公演 ・公演に向けての演劇の練習、裏方作業 等	川邊 孝
	12 バドミントン部	試合形式など大会に向けての練習・千葉県大学春季・秋季リーグ出場	宮川 治
	13 バイク部	オートバイをメンテナンス・カスタム・整備などを通して、二輪車・工業製品への理解を深め、ツーリングや講習を通してライディング技術や安全意識の向上に繋げる。	伊藤 俊介
	14 ジャズ部	音楽を通して他学年との交流を図るとともに秋葉祭や不定期のライブをすることによって、ジャズの良さを多くの人に知ってもらうため福田ホールで日々演奏技術を向上させている。また、吹奏楽の曲やアコースティック学期による編成の曲など様々な曲を演奏する。	川勝 真喜
	15 モノカキ創作部	小説・漫画・イラスト等、文学的作品を創作し、部誌という形で発行、配布を行うことにより創造性を高めること。及び、部誌製作の過程における学生間の交流や各々の創作に対する技術の向上を主な活動目的としている。	川邊 孝
	16 現代視覚文化研究部	漫画、アニメ、イラスト、ライトノベル、コンピュータゲーム、トレーディングカード等のサブカルチャーを通してあそぶ。	冬瓜 成人
	17 軽音楽部	音楽を通して価値観・個性を共有しあえる仲間を作る。また技術や雰囲気先輩から後輩に継承し、音楽の良さ・楽しさを後輩の代まで広く伝える。	川邊 孝
	18 D T M部	D T M (Desk Top Music) の名の下パソコンで制作した打ち込み音楽を主体とした音楽制作を行い、秋葉祭やM3などの同人イベントでCD頒布による制作楽曲の発表を目的としている。また、学生間で他大学の作曲系部活と積極的な交流も行っている。	川邊 孝
	19 競技麻雀部鳳白	賭け事の要素を廃した競技としての麻雀を皆で楽しみます。普段の活動や他校との交流を通じ、実力の向上や大会での入賞を目指します。	冬瓜 成人
	20 テニス部	テニスを通じ、技術と体力の向上し、大会での入賞を目指す。また、夏休みなど長期休暇の時に千住のソフトテニス部またはテニス部と合同で合宿を行う。	穴戸 真
サークル	21 卓球同好会	卓球の練習を通じて技術の向上と心身の充実を図ることを目的とする。	川邊 孝
	22 G. O. G団	ドミノオン、TRPG、テーブルゲームなどを通じてプレイヤー間でコミュニケーションを取り合親睦を深める。	冬瓜 成人
	23 Girls Federationサークル	女子生徒同士の活動、親睦を深める。雑貨の作成や料理をする。	小林 浩
	24 サバイバルゲームサークル	サバゲーと同じ趣味を通して、学内交流を深めるとともに他校の同団体とも交流を深めていくこと。	見正 秀彦
	25 自動車同好会	主な交通手段であり、日々の生活に欠かせなくなった自動車の安全な運用方法やルールについて理解を深め、安全運転への意識を高める。さらに、自動車の仕組みについても学び、日々の保守点検・修繕などの一部を自身で行えるようにし、故障や事故を未然に防ぐ。仮に故障が起きた場合でも応急処置等を行って修理工場等まで安全に素早く持ち込めるようにする。また、各自の車両を法律の範囲内でカスタムしてイベントに参加し、学外の方々と交流、情報交換を目的とする。また、サーキット等でのモータースポーツを通して、人間性を高めることを目的とする。	川邊 孝
	26 軟式野球	野球を通して心と礼儀を鍛える。また、先輩後輩の壁をなくし仲良くなり、大学生活を楽しく笑って過ごせるようにする。	大崎 淳史
	27 板物同好会	交友関係を深めながらスケードボード、スノーボードの技術向上を目指す。また、仲間同士で互いに刺激し合うことで、いっそうの技術の向上を促す。	宮保 憲治

5 学生相談・健康管理

健康を保持することは日常生活上欠くことのできない大切なことです。本学では皆さんの保健・精神衛生・健康管理について十分配慮していますが、学生諸君も食事・運動・睡眠などバランスの取れた規則的な生活を心がけ、自分自身で日ごろから健康の保持・増進に努めることが大切です。

(1) 学生相談

学生相談室では学業上の問題はもとより、人生・経済・就職などさまざまな悩みについて相談に応じています。また、精神衛生上の問題、たとえば不眠・無力感・過敏・自信喪失・注意散漫・劣等感・不安感などに悩まされ、一人で解決が難しいときは、専門家によるカウンセリングが受けられます。ご家族からの相談にも応じています。

相談者のプライバシーは保護されます。悩みが深刻にならないうちに、気軽に相談室を利用してください。

詳細につきましては、掲示等や、「学生相談室利用のご案内」を参照してください。またメールでの予約も受け付けていますので、ご利用ください。

E-mail : jyo-gakuso@dendai.ac.jp

カウンセラーと開室時間

相談員	曜日・時間
今野 紀子 (情報環境学科教授) (臨床心理士)	月曜日(14:30～17:30) 火曜日(13:30～16:30)
田中 千穂 (非常勤カウンセラー) (臨床心理士)	水曜日(10:30～16:30)
中村 久美 (非常勤カウンセラー) (臨床心理士)	木曜日(10:30～16:30) 金曜日(10:30～16:30)

(2) 健康相談

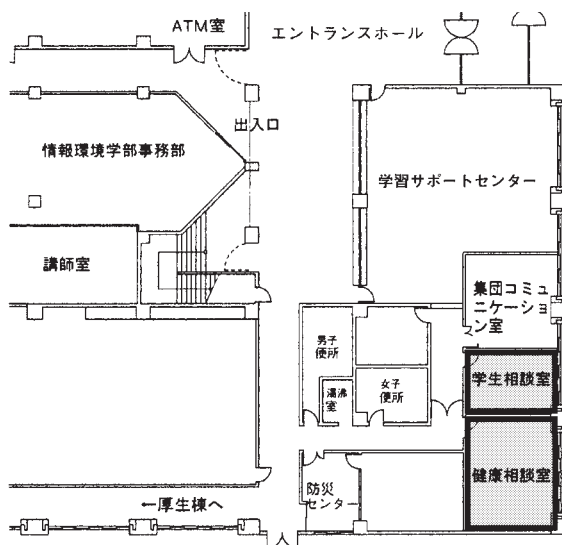
授業中や課外活動中などに学内で気分が悪くなったり、ケガをしたようなときは、すぐに健康相談室に来室し手当を受けてください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師が応急の処置にあたっています。その他、平常の健康相談にも応じています。また、障害のある方や様々な支援を希望する方の相談にも応じますので、遠慮なく来室してください。(右図参照)

なお、開室時間については、健康相談室入口の掲示で確認して下さい。

(3) 健康診断

① 定期健康診断

本学では、毎年度始めに全学生を対象に、「定期健康診断」を実施して



います。これは、法に基づいたもので、学校が集団生活の場である事と、学生の疾病の予防と早期発見、健康の保持増進を目的としています。これを受けないと、就職や進学、奨学生推薦やアルバイト等で健康診断証明書を必要とした時に発行できません。また、体育の授業、英語短期研修、その他の実習等にも影響します。全員必ず受診してください。

〔定期健康診断実施項目〕

- 1 胸部レントゲン撮影
- 2 身体測定（身長・体重・視力）
- 3 内科検診（診察・検尿・血圧）
- 4 心電図検査 ※医師より検査の指示があった学生のみ

②健康診断証明書の発行

証明書自動発行機で発行されますが、定期健康診断を受けていない場合や、再検査を受けていない場合は発行できません。

料金：1通200円

6 留学・海外研修

本学では、学生諸君が海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3週間程度の語学研修から1年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

（1）留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば、「海外英語研修」の単位として認定されます。

- 1) コロラド大学ボルダー校（米国）：8月に実施（約3週間）、募集は5月頃
- 2) シドニー大学（オーストラリア）：3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

②その他の海外語学研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修を実施しています。

- 1) 韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8月に実施（約3週間）、募集は5月頃
- 2) 中国語研修：中原大学（台湾）にて、3月に実施（約3週間）、募集は10月頃
- 3) イギリス英語短期研修：語学学校（英国）にて、3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターにお問い合わせください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

＊本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意してください。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL (Test of English as a Foreign Languageなど) の受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から1年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科および情報環境学部事務部（教務担当）の履修指導を受けてください。

7 国際センターについて

国際センター千葉ランチ（場所：1号館5階0529号室 月～金／10時～17時）

「国際センター千葉ランチ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

8 校友会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を目にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

(1) 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへの支援も行っております。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

(2) 校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校、電機学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や公認団体として、職域電機会（同じ職種や企業内同窓会）があります。将来、これら支部組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。

（３）東京電機大学校友会奨学金

この奨学金制度は、各学期の学費納入期限までに募集しています。学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた場合に、書類審査及び面接により校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは事務部（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の1/2相当額

返 還：卒業後半年据え置いた後、5年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済（一括返済可・無利息）

（４）大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後のOB／OG会やクラス会の開催はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約11万名に達しております。

また、在学生の就職進路におけるキャリア支援事業に対しても支援しています。

大学同窓会では学園と協力して「仕事研究セミナー」を開催及び、産業界で活躍している先輩方による就職進路相談などの行事に対しても協力しています。社会の第一線で活躍する卒業生による「仕事」に対してのアドバイスは、就職活動中の学生には好評を得ています。さらに、各キャンパスにおいて学園祭に合わせて「OB交歓会」を開催しています。開催日同日には、優秀な学生団体に対して丹羽賞及び、同窓会奨励賞の授与式を実施するなど、卒業生と在学生との交流を図る行事を開催しています。

①丹羽賞

初代学長の丹羽保次郎先生が、生前に同窓会に寄せられた基金を基に創設されたものです。在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去1年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体を表彰します。

②同窓会奨励賞

昭和60年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を続けている団体を表彰します。

（５）校友会を訪ねてください

校友会の事務室は、東京千住キャンパス1号館2階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたら気軽に相談ください。

一般社団法人 東京電機大学校友会

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番 東京電機大学東京千住キャンパス1号館2階1203室

TEL：03-5284-5140 E-mail：kouyukai@jim.dendai.ac.jp

FAX：03-5284-5187 URL：http://www.tduaa.or.jp/

業務時間 9：00～17：00

（６）情報環境学部同窓会〔士維（SIE）の会〕について

情報環境学部開設15周年記念事業の一環として、卒業生を会員とした情報環境学部同窓会〔士維（SIE）の会〕（メールアドレス：sie-dosokai@jim.dendai.ac.jp）が平成28年11月19日に設立され、現在活動を行っています。

9 後援会

(1) 後援会とは

後援会は、学生の父母（または保証人）と教職員を会員としており、会員・学生のためのさまざまな事業を行っています。その運営費用は、会員の皆様からの会費によって賄われています。

後援会の事業は会員の中から選出された後援会役員により運営されています。

(2) 後援会の事業

●父母懇談会の開催

各キャンパス及び全国各地で父母懇談会を開催し、ご父母の皆様は大学の現況を報告するとともに、学生の成績、就職等について教員や専門の職員と直接面談する機会を設けています。父母懇談会は父母同士の意見交換の場でもあり、毎年多くの方にご出席いただいています。

●会誌「学苑」の発行

会誌「学苑」を夏・秋・冬の年3回発行し、会員に郵送しています。

「学苑」には、

- ・後援会からのお知らせ
- ・父母からの投稿と意見交換等
- ・学生生活の報告、大学で行われている教育・事業に関する報告、大学からのお知らせ等
- ・先生方の研究・教育活動に関する報告等

が掲載されています。

●学生のクラブ活動への補助

学生のクラブ活動を援助するために、委員会、クラブ、同好会に、補助金を出しています。

●学園祭・体育祭への補助

恒例の秋葉祭（千葉ニュータウンキャンパス）、旭祭（東京千住キャンパス）、鳩山祭（埼玉鳩山キャンパス）および、全学一同に集う合同体育祭に補助金を出しています。

●学生の国際交流への補助

留学生と本学学生との交流をはかるため、補助を行っています。

●その他

学生と本学卒業生が懇談し、卒業生の活躍状況を聞くと同時に将来計画について相談を行う就職セミナーに補助金を出しています。

後援会のホームページ

http://www.soe.dendai.ac.jp/gakusei/G_supporter_association/supporter_association.html

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。そのためには、すべての学生・教職員が教育・研究などの諸活動を進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において、相手を差別したり、性的な対象として心理的・身体的に傷つけたりすることは絶対にあってはならないことです。

千葉ニュータウンキャンパスでは、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント防止委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を設置して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。



TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY
情報環境学部

千葉ニュータウンキャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。

詳細は専用パンフレットで確認してください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。

教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の2つに分けられます。

対 価 型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環 境 型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ノードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの?」、「子供はまだなの?」と聞く。



アカデミック・ハラスメントとは*

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。

拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身が ハラスメントを受けていると 感じたら*

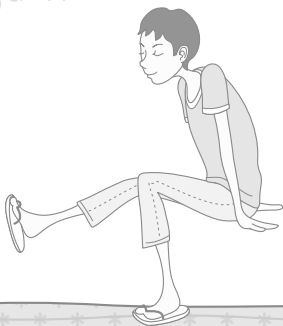
- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に 居合わせたなら*

周りの人にも
できることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いいじゃない」とはっきり言いましょ。
- 被害にあっている人の相談にのりましょ。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょ。

加害者にならないために*



私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

第3章

学 生 生 活

2 インフォメーション

1. 大学から学生への連絡・通知

本学部では、大学から皆さんへの連絡・通知は全て掲示板への掲示によって行われます。連絡事項は多岐に亘りますが、重要な通知や皆さんにとって有益な情報も数多く含まれているため、必ず掲示板の情報を定期的に確認してください。

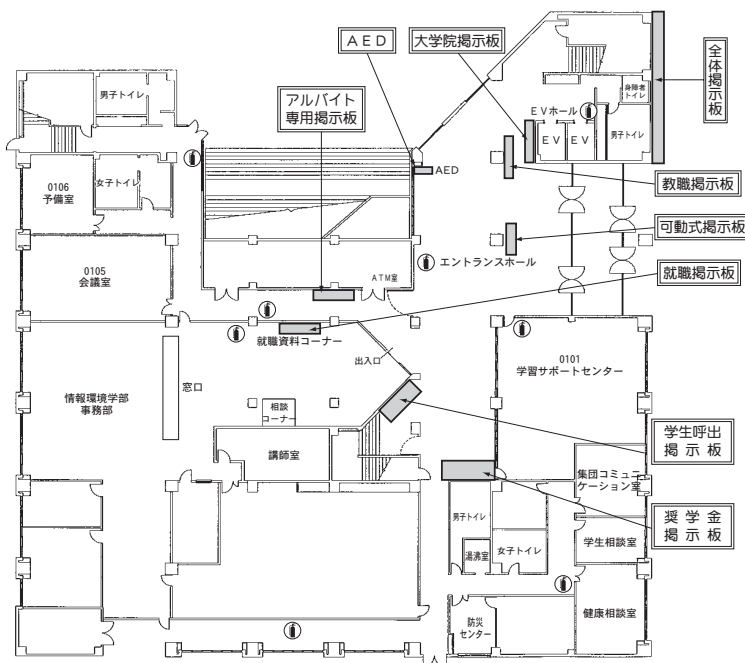
また、予備的な連絡手段として学生ポータルサイトでも情報を発信します。連絡手段をまとめると下表のとおりとなります。

連絡手段	連絡事項	場 所
掲 示 板	全ての事項	下図参照
学生ポータルサイト	一部の事項（次頁参照）	https://portal.sa.dendai.ac.jp/

掲示を見落としたために受ける不利益は、全て学生本人の責任になります。登校時・下校時には必ず掲示板を、また、随時学生ポータルサイトを見る習慣をつけるよう心がけてください。電話での問合せには緊急の場合を除いて一切対応できません。

1 揭示板

大学からの連絡に使われる各種の掲示板は、全て教育棟1階にあります。配置は右図のとおりです。



①全体掲示板

主な情報が掲示されるメインの掲示板です。学部共通、教務、休講・補講、学生厚生、スクールバス、就職等に関する情報が掲示されます。

②可動式掲示板

教育棟1階エントランスホールに可動式掲示板を出して掲示することがあります。特に注意を要する事項や連絡を急いでいる場合などがあります。

③学生呼出掲示板

大学から学生を窓口呼び出す場合に、学籍番号と用件を掲示します。

④教職掲示板

教職課程に関する情報を掲示します。

⑤奨学金掲示板

奨学金の募集・返還など、奨学金に関する情報を掲示します。

⑥就職掲示板

求人票など、就職に関する情報を掲示します。

⑦大学院掲示板

大学院生のための掲示板です。

2 学生ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）

①学生ポータルサイトの機能

学生ポータルサイトは、インターネットを通じて、大学内のさまざまな情報を提供し、学生の大学生活を支援するWebサービスシステムです。

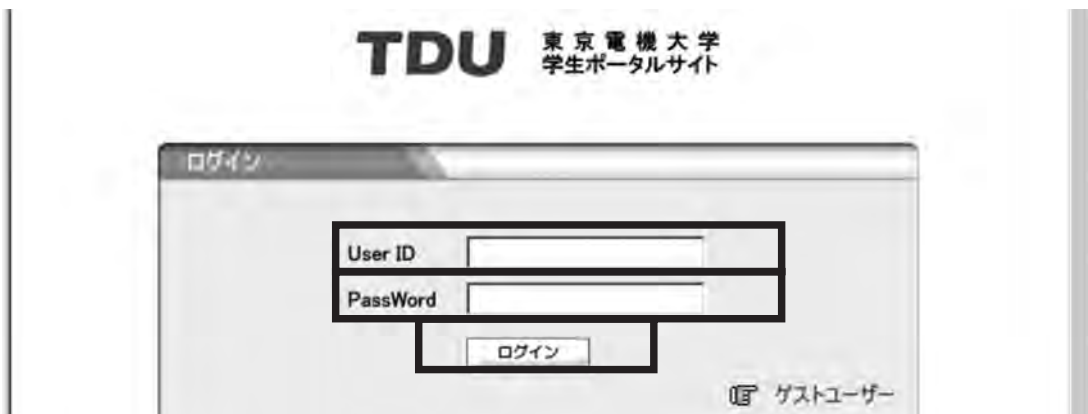
学生ポータルサイトには、以下の機能があります。詳しくはオリエンテーション等で説明があります。

機 能	内 容
大学からの連絡・通知事項の確認	大学からの「重要な連絡」、「授業に関するお知らせ」、「休講・補講連絡」、「キャリア・就職関連情報」等が確認できます。一部の情報は、設定をすれば指定したアドレスへのEメールでも受取ることができます。
個人情報の確認	大学に登録されている自分の個人情報（氏名・住所・保証人等）の確認ができます。
履修登録	履修する授業科目を登録することができます。
時間割の閲覧	所属する学科の当期の授業時間割表および履修登録後の自分の授業時間割が閲覧できます。
シラバスの閲覧	各授業科目のシラバス（講義要目）を閲覧することができます。
成績の照会	自分のこれまでの成績の確認ができます。

②学生ポータルサイトログイン方法

下記のアドレスへアクセスし、ID（学籍番号）とパスワードを入力し、【ログイン】して下さい。

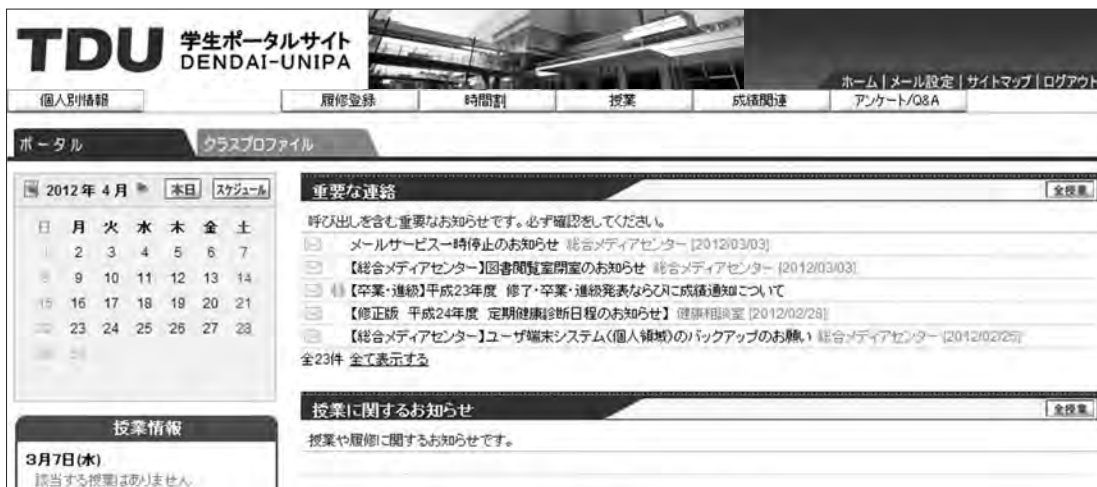
<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>



User ID : 学籍番号（JKは、大文字）

Password : 総合メディアセンターに登録されている認証用のパスワード
（メールシステム等で使用しているもの）

ログインすると次の画面が表示されます。



学生ポータルサイトはあくまで補助的な手段です。情報の一部を抜粋してお知らせしているにすぎません。普段は必ず掲示板を確認するようにしてください。

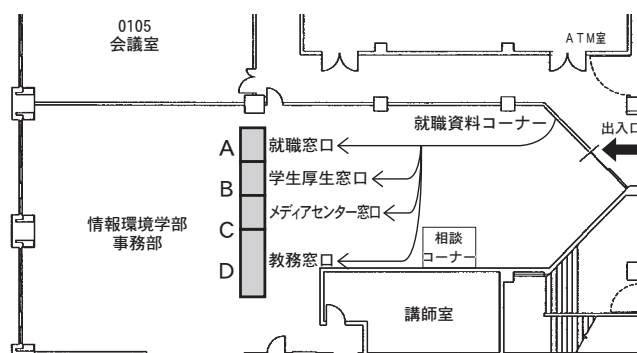
2. 情報環境学部事務部

1 窓口取扱

■教育棟 1階 情報環境学部事務部窓口案内

取扱時間

期 間	取 扱 時 間
授業期間 (含予備日) の 平 日	9 : 20 ~ 16 : 50
土曜日 授業期間以外の 平 日	10 : 00 ~ 16 : 00



主な取扱事項

	窓 口	取 扱 事 項
A	就職窓口 (就職に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ○就職相談 ○就職関連申請・届出 ○就職セミナー関係
B	学生厚生窓口 (学生生活に関すること) (学籍・学費に関すること) (施設利用に関すること) (国際交流に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ○課外活動関係 ○奨学金関係 ○遺失物・拾得物関係 ○アルバイト紹介 ○留学関係 ○学費納入・延納関係 ○退学・休学・復学関係 ○住所等変更届出 ○体育施設・宿泊施設・駐車場・駐輪場の使用申請 ○傷病応急処置・健康相談受付
C	メディアセンター窓口 (P Cに関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ○P C相談 ○P C貸出 ○ソフトウェア利用補助
D	教務窓口 (履修に関すること) (授業に関すること) (成績に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> ○履修登録関係 ○授業関係 ○成績・単位・卒業判定関係 ○副手・S A関係 ○転学部・転学科関係

2 証明書発行機

使用にあたっては、「学生証」と「交通系電子マネー」が必要となります。

使用可能な交通系電子マネーは、Suica、PASMO、Kitaca、manaca、TOICA、ICOCA、はやかけん、nimoca、SUGOCAの9種類です。(PiTaPaは使用できません。)

キャンパス内には、交通系電子マネーのチャージ機はありませんので、電子マネーの残額を確認の上、駅窓口などで、証明書発行に必要な金額をチャージしてください。

暗証番号	共通パスワード
設置場所	教育棟1階学習サポートセンター横
利用可能時間	月～土 9:30～17:00 (但し、事務部窓口停止期間および年度末・年度初めは使用できません)

3 各種証明書

<在学中に発行可能な証明書>

①通学等で必要となる証明書

学割証	乗車区間が片道100キロを超える場合、学割運賃適用のために必要	無料	○
通学証明書	学生証の提示で定期券等が購入できない場合(バス)、学割運賃適用のために必要	無料	☆

②就職活動・大学院進学等で必要となる証明書

卒業見込証明書	卒業見込発行基準(P.69参照)を満たしていることを証明	日本語	200円	○
		外国語(英文)	1,200円	△
成績証明書	3年以上在学までの成績を証明	日本語	300円	○
		外国語(英文)	1,500円	△
健康診断証明書	定期健康診断受診結果を証明	日本語	200円	○

③それ以外で必要となる証明書・申請書

在 学 証 明 書	本学情報環境学部生として在籍していることを証明	日本語	200円	○
		外国語 (英文)	700円	△
学 生 証 再 発 行 願	学生証紛失・破損により再発行が必要な場合の 申請書	日本語	2,000円	★

○：学生証を使用して、証明書発行機より出力

☆：事務部窓口にて申請、翌日発行

△：学生証を使用して、証明書発行機より「申請書」を出力して事務部窓口へ提出、7日後に発行（英文在学証明書のみ3日後）

★：証明書発行機より「証明書発行願」を出力して事務部窓口へ提出、翌日発行

<参考：卒業後に申請可能な証明書>

卒 業 証 明 書	日 本 語	500円	申請から2日後に発行
	外 国 語	1,200円	申請から7日後に発行
卒 業 成 績 証 明 書	日 本 語	500円	申請から2日後に発行
	外 国 語	2,000円	申請から7日後に発行
科 目 等 履 修 生 在 籍 証 明 書		200円	申請から2日後に発行
科 目 等 履 修 生 単 位 修 得 証 明 書		1,000円	申請から7日後に発行
教職課程における学力に関する証明書		1,000円	申請から7日後に発行

<<卒業後の申請方法>>・・・以下の2つの方法で申請してください。

・郵送での申請

次の4点を同封の上、情報環境学部事務部まで郵送してください。

- ①申請書類（記載必要事項：「氏名・生年月日・学籍番号・卒業年月・住所・電話番号・必要な証明書の種類と枚数」）
- ②手数料相当額の定額小為替証書（ゆうちょ銀行）
- ③返信用郵便切手
- ④身分証明書のコピー（運転免許証等公的機関発行のもの）

・証明書発行機での申請

証明書発行機で「申請書」を出力し、事務部窓口まで提出してください。

使用にあたっては、「交通系電子マネー」が必要となります。在学中に使用していた学生証は必要ありません。

4 届出および願出

書類は、事務部で受け取ってください。

①大学に届けている事項の変更届

「住所」・「氏名」・「連絡先（学生・保証人）」、および「保証人」が変更となった場合、提出の際に以下のものがが必要です。（「改姓」「保証人変更」の場合のみ捺印してください）

住所変更・・・学生証

氏名・・・戸籍抄本

②学内施設利用願

学内集会願	学生団体または個人が集会以普通教室・108教室・体育施設の使用を希望する場合 【必要添付書類】 体育施設利用者名簿（体育施設を利用する場合） 学外者名簿（学外者を伴う場合）	事務部窓口で空状況を確認し、利用の1週間前までに提出してください。3週間先まで申し込み可能です。
サークル棟・パティオイン宿泊願 ※1	課外活動などで、サークル棟又はパティオインに宿泊を希望する場合 【必要添付書類】 サークル棟・パティオイン宿泊者名簿	利用日の1週間前までに手続きを完了してください。 3週間先まで申し込み可能です。 最長利用日数：5泊6日 （但し、大学の長期休業期間中）
正課授業による閉館時間中の施設利用願 ※1	研究活動等で研究室や研究所を使用する（宿泊も含む）場合（利用許可時間：平日22：30～翌7：30、土・休・祭9：00～18：00）	当日の窓口時間内に提出してください。事情により提出不可の場合は防災センターへ。 ※2 ※3
授業時間外のクリエイションラボ利用願 ※1	（1階）ワークショップ（2階）R&D Lab・n-room・i-room・d-roomの使用希望する場合（平日9：00～21：00、土曜日9：30～17：00）	利用の前日までに提出してください。 機械の利用には、別途、利用許可が必要です。 ※2 ※3

※1 担当教員の許可印が必要です。

※2 夏季・冬季一斉休業期間中は、原則、利用できません。但し、特別な理由がある場合は、別途、担当教員・実施教員から情報環境学部事務部長宛に文書の提出が必要です。

※3 担当教員は少なくとも1名は実施場所にいないといけない。

車両通学願	車・バイクでの通学を希望する場合	安全運転講習会の受講を義務付けます。 任意保険（車・自動二輪）・自賠責保険（原付）の添付、および保証人・本人の捺印が必要です。
学外活動願	合宿・試合・発表会・コンサート等の催物で学外活動をする場合	学外活動参加者（学外者も含む）名簿を添付の上、提出してください。宿泊を伴う場合は計画書も添付してください。活動開始日の1週間前までに提出してください。

総合メディアセンター

総合メディアセンターは、15号館（千葉メディアセンター）にあり、各種図書資料・情報システム機器・多様な学習環境の利用の場であるとともに、学園全体に関わる情報システムとネットワークシステムの運用管理を行っているところでもあります。

学生・教職員のみなさんの学習と教育・研究に必要な図書をはじめ、新聞、雑誌、視聴覚資料などの収集・整備を行い、これらを効率的に活用するための環境を用意しています。また、Webサイトではネットワークを介して24時間提供される様々なサービスを利用できます。

情報の宝庫・発信基地として、総合メディアセンターを大いに活用してください。

利用にあたっての注意事項

- ・館内（1階学生ラウンジを除く）では、環境保持のため飲食物（ペットボトル等のふたのできる密閉容器に入った飲物を除く）の持ち込みを固くお断りしています。また、濡れた傘の持ち込みもできません。入り口付近の傘立に置いてください。
- ・資料や借用物、施設等は丁寧に扱ってください。
- ・館内では、スタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
- ・他の利用者の迷惑にならないようマナーを守って利用してください。

利用案内

【連絡・お知らせ】

図書の延滞や予約図書の到着など総合メディアセンターからの連絡は、メールで行っています。必要に応じて転送などの設定を行い、メールの確認を忘れないようにしてください。また、お知らせは総合メディアセンターのWebサイトにも掲載しています。

【ID／パスワード（総合メディアセンター 共通認証）】

利用者情報を一元管理することにより、総合メディアセンターの各システムは、認証の共通化を実現しています。総合メディアセンターの提供する各システムは、同一のパスワードで利用することができます。

○ユーザID

総合メディアセンターの各システムを利用するためのIDで、学籍番号（学科記号の部分は小文字）がユーザIDとなります。（例 16jk999）

○パスワード（共通パスワード）

パスワードは、総合メディアセンターのシステムを利用する上で大変大切な鍵です。パスワードの管理は、ご自身で確実に行ってください。パスワードの変更は総合メディアセンターのWebサイトから行うことができます。自分自身で忘れることなく、他人からは推測されにくいものにしてください。

【開館時間】

	15号館（千葉メディアセンター）	
	1階 図書閲覧室	1階 学生ラウンジ 2階 マルチメディアラボ
通常開館日 （授業期間の月～金）	9：30 ～ 19：00	8：00 ～ 23：30 （8：00～9：30, 19：00～23：30は ICカード入退室時間帯）
短縮開館日 （土曜日と休業期間の 月～金）	9：30 ～ 16：00	8：00 ～ 22：30 （8：00～9：30, 16：00～22：30は ICカード入退室時間帯）
休館日 （日曜、祝日、大学が 定めた休日）	休 館	9：30 ～ 19：00 （終日ICカード入退室時間帯）

※ICカード（学生証）入退室時間中は、各自のICカード（学生証）で鍵を開けて入室できます。自動で鍵がかかりますのでご注意ください。

※年末年始、夏季休暇、入試等で千葉NTキャンパスに立ち入り禁止の期間については、学生ラウンジ、マルチメディアラボもご利用できません。

※開館時間は、変更になることがあります。また日曜・祝日、大学が定めた休日以外に、臨時休館を設ける場合があります。最新の開館スケジュールはWebサイトや掲示をご覧ください。

※図書閲覧室の閉館時間帯に、学生ラウンジとマルチメディアラボに入退室する場合には、ICカード（学生証）が必要になります。

<ITサービス>

総合メディアセンターでは、ネットワーク、ユーザ端末システム（教育研究システム）、プリントシステム等のITサービスを提供しています。

各サービスの詳細や詳しい利用方法等は総合メディアセンターのWebサイトをご覧ください。

ITサービスの利用にあたっての注意事項

本学では、「東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン」(P. 220参照)を策定し、学生がコンピュータ、携帯情報端末やネットワークを利用するに当たって遵守すべき事項をまとめています。

セキュリティガイドラインの内容を十分に理解し、ITサービスを適正かつ安全に利用するようにしてください。

以下の行為は、厳禁です。

- ・法令や公序良俗に反するコンテンツの表示
- ・著作権などの第三者の知的財産権を侵害したり、侵害を助長する行為
- ・大学のサーバーやネットワークに負荷を生じさせる行為
- ・ネットワークの帯域を占有する行為
- ・ほかのコンピュータやネットワークに損害を与える行為
- ・研究、教育と全く関係の無い利用

特に、次の点に注意してください。

「P2Pタイプのファイル共有プログラムの利用厳禁」

「ネットワーク対戦ゲーム等の利用厳禁」

「電子メールでの大量ファイルの送受信厳禁」

ガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコンピュータやネットワーク利用を停止する場合があります。さらに悪質な場合には学則により処罰されることがあります。

【ネットワーク】

○無線LAN

千葉ニュータウンキャンパスでは、無線LANアクセスポイントをキャンパス内の各所に設置しており、多くの場所（特に校舎内やその周辺）で無線LANが利用できます。

○情報コンセント

教室や学生ラウンジなどキャンパスの随所に情報コンセントを設置しています。パソコンと有線LANケーブルで接続し、ネットワークにアクセスすることができます。



○VPN（学外からのネットワーク接続）

学外でインターネット接続が利用できる場合、VPN接続の設定を行うことで、学内ネットワークを学外から利用することができます。

【ユーザ端末システム（教育研究システム）】

教育・研究のための大学共通仕様の端末で、どのキャンパスからも同じ環境を利用することができます。教育・研究で利用される多くのソフトウェアを導入し、プリントシステ

ムなどがすぐに利用できる環境を提供しています。15号館（千葉メディアセンター）や1号館（教育棟）1階の学習サポートセンター、14号館（研究棟）2階の学部フォーラムに設置しています。

種 類	説 明
<p>シンククライアント 端末</p> 	<p>サーバ側でOSやソフトウェアを実行し、その画面情報を端末へ転送するシンククライアント方式の端末で、通常のパソコンと同じように利用ができます。</p> <p>ドライブ装置が搭載されていないため、CD/DVD等のメディアの利用はできませんが、USBメモリの利用は可能です。</p>
<p>メディア利用端末</p> 	<p>外部メディア（CD/DVDやmicroSD等の各種カード）を利用（読込/書込）するための専用のパソコンです。外部メディア利用のために最低限のソフトウェアのみがインストールされています。</p>

【リモートサービス】

学内LANに接続されているパソコン（情報コンセントや無線LAN、VPN接続等）から、ユーザ端末と同様の環境を24時間いつでも利用できるサービスです。



学外から利用する場合はVPN接続を行う必要があります。

【プリントシステム】

情報コンセントや無線LANを利用してノートパソコンや学内に設置している端末から利用できるオンデマンド方式の印刷環境です。カラー複合機とカラー大判プリンタの2種類の機器があります。

15号館（千葉メディアセンター）や1号館（教育棟）1階の学習サポートセンター、14号館（研究棟）2階の学部フォーラムに設置しています。

プリントシステムでは印刷ポイントによる出力管理を行っており、毎年度、各ユーザには規定のポイントが付与され、利用の度に利用種別に応じたポイントが消費されます。環境や資源を守るためにも、既定のポイントの範囲内で利用するように心がけてください。

種 類	説 明
カラー複合機 	パソコンやU S B メモリからの印刷の他、コピーやスキャナの利用もできます。 ポイント利用タイプと現金利用タイプ（現金・電子マネー専用：図書閲覧室に設置）があります。
カラー大判プリンタ 	大判用紙にカラー印刷ができ、ポスターの作成やC A D 図面等の印刷に活用できます。 ポイント利用タイプのみがあります。

【電子メール】

学生用メールサービスとしてW e b メール（DEEPMail）が利用できます。

メールアドレスは 学籍番号@ms.dendai.ac.jpとなります。

W e b ブラウザが利用できる環境であれば、パソコンやスマートフォンからメールが確認できます。メールの転送もW e b ブラウザから設定できます。

<図書サービス>

図書閲覧室は15号館（千葉メディアセンター）にあり、W e b サイトから電子ジャーナル、データベース、電子図書館等のサービスが利用できます。

入館および図書の貸出等には、学生証が必要です。学生証を忘れた時などは、カウンターに声をかけて入館してください。

（1）図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取り寄せて利用することができます。

■貸出冊数と貸出期間

対 象	貸出冊数	貸出期間
学部 1～3 年次相当生	5 冊	2 週間
卒業年次相当生	10冊	1 ヶ月
大学院生	10冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、または、図書WebページからIDとパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書資料を延滞した場合、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。なお、借用中の図書資料を紛失したり汚損したりした場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（DVDなど）
5	貴重書

※上記 1～4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は閲覧室内の複合機を利用してください。

著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第31条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。

図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

（2）図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書Webページから簡単に確認することができます。卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書Webページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書Webページから予約することができます。図書資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへ取りに来てください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住 ⇄ 埼玉鳩山・千葉NT 1～2日

埼玉鳩山 ⇄ 千葉NT 2～3日

※状況によって日数に変更になる場合があります。

(5) 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、OPACで検索ができます。図書館内の館内OPAC端末及び総合メディアセンターの図書Webページから利用してください。
当日貸出サービス	グループスタディの利用や、マルチACアダプター、USB扇風機などの貸出を行っています。

Webによるお知らせとサービス (<http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/>)

図書Webページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

- ・ 資料検索
- ・ 図書資料予約
- ・ 返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
- ・ 借用図書の貸出期間の更新
- ・ 文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
- ・ 図書購入依頼（購入希望図書の申込）
- ・ 新着図書情報

- ・ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
- ・オンラインジャーナル（IELOnline、ACMPortal、他多数）
- ・各種データベース
- ・電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号@ms.dendai.ac.jpです。

以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

- ・予約図書資料到着のお知らせ
- ・貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
- ・返却期限日のお知らせ（返却期限日の1日前に連絡）
- ・延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
- ・文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
- ・購入希望図書到着・却下のお知らせ

総合メディアセンター（千葉NT）Webサイト

総合メディアセンターのWebサイトには、総合メディアセンターからのお知らせの他、総合メディアセンターが提供する様々なサービスや設備等について、詳しい案内や利用手順（マニュアル等）を掲載しています。

Webサイトをよく確認して、総合メディアセンターのサービスを大いに活用してください。

URL <http://www.chiba.mrcl.dendai.ac.jp/>



お問い合わせ窓口

総合メディアセンターのサービス等について不明な点があれば、以下までお問い合わせください。

○図書に関すること

15号館（千葉メディアセンター）1階または2階の図書閲覧室カウンター

メール：c-library@mrcl.dendai.ac.jp

○図書以外に関すること

1号館（教育棟）1階 情報環境学部事務部窓口内の総合メディアセンタースタッフ

メール：chiba-info@mrcl.dendai.ac.jp

第3章

学 生 生 活

3 進路（就職・大学院への進学）

就 職

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。今は実感がないかもしれませんが、社会に出てグローバルに仕事をする時がやってくるでしょう。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

私達（情報環境学部事務部就職担当、学生支援センター、理工学部事務部学生厚生・就職担当）は、皆さんの就職までの活動を側面から支援するスタッフです。皆さんに「生きがいのある将来」を目指し、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問は遠慮なく、先生方や私達スタッフに相談してください。

目標のある生活

有意義な学生生活を過ごすために、大学に進学した理由や、学部、学科を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで将来に向けて次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…今しかできないことを楽しんで経験することは、就職という「点」だけではなく「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

キャリアcareerとは「経歴」「職業」の意で「人生」をさす言葉でもあります。キャリアについては社会へ出たあと、会社で異動があるとき、自分で事業を始めるときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になりたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。

皆さんの今後のステップとして、まず1、2年のうちから今後の「人生」を考え、3、4年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

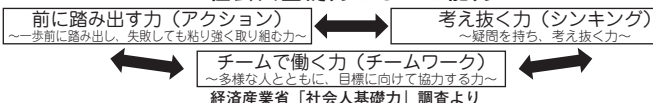
大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として下記を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

採用したい人物像 キーワード

- ・コミュニケーション能力があり、自分の考えを主張できる人（対人能力、思考力）
- ・学生時代に目的を持って行動し、成果を出した人（積極性）
- ・基礎学力をしっかりと身に付けている人（基礎学力、専門知識）
- ・ストレスに強く、環境変化に柔軟に対応できる人（適応力）

社会人基礎力の3つの能力



身につけよう！

今後の人生で直面する問題には「一つの決まった答え」というものはありません。

社会では、「自分で考え、行動を起こす能力」が求められています。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを挙げます。
できた項目の□をチェックしてみましょう。

Freshman 1年目

自己発見

充実した学生生活を送る

- ☐ 新しい目標を立てる
- ☐ 将来に向けて学生生活を設計する
- ☐ 読書、文章を書く習慣を身につける
- ☐ スポーツ、体力アップをはかる
- ☐ クラブ・課外活動に参加する
- ☐ 新しい仲間を作る

充実した学生生活をおくるためにフレッシュマンゼミに参加しよう

Sophomore 2年目

自分磨き

社会と自分の関係を考える

- ☐ 興味を掘り下げ得意科目をつくる
- ☐ 研究したいことを見つける
- ☐ 社会人基礎力を身につける
- ☐ 幅広い教養を深める
- ☐ アルバイトで社会体験を拡げる
- ☐ 社会奉仕活動（ボランティア）に参加する
- ☐ 英語力を向上させる
- ☐ 仲間をふやす

ガイダンスに参加しよう

4年間の設計図を描いていこう！

大学院進学

より高度な
研究者をめざして

Junior
3年目

社会への跳躍

コミュニケーション能力をつける

- ☐ 就職支援行事に積極的に参加する
- ☐ インターンシップに参加する
- ☐ 将来の目標となる人物像を抱く
- ☐ 特技や得意分野をさらに拡げる
- ☐ 主体的に計画や実験に関わり成果を出す
- ☐ 問題解決スキルを磨く
- ☐ 新聞を読む習慣をつける
- ☐ 文章による自己表現力を磨く
- ☐ 良き相談相手をもつ

仕事研究や就職支援行事が本格化
3年次末から就職活動開始

Senior
4年目

夢の実現へ

4年間の集大成

- ☐ 武器となる工学の専門知識を持つ
- ☐ 具体的なキャリアプランを立てる
- ☐ 誰にも負けないスキルを持つ
- ☐ 次世代技術についての知識を探究する
- ☐ プレゼンテーションスキルを向上させる
- ☐ 研究で成果を挙げる（積極的に学会等で発表をしよう）
- ☐ 社会人としての知識やマナーを身につける

進路が決まった
さあ、卒業まで最後の追い込みだ！

進路決定！
就職決定者は内定報告書を速やかに提出

公務員

公務員は、国または地方公共団体で公務を扱う国家公務員と地方公務員の大きく二つに分けられます。その中でも行政職、技術職など幅広い職務内容があり、公務員として採用されるには、公務員試験に合格しなければなりません。原則として、一次試験では「筆記試験」、二次試験では「人物試験」が行われます。

試験内容は「教養試験」と「専門試験」があり、「教養試験」では知能分野（数的処理、文章理解）と知識分野（自然科学、社会科学、人文科学）から出題されます。「専門試験」の【技術職】では、必須科目（数学・物理）と希望の分野により「選択解答制」（電気・電子・情報、機械、土木、建築、化学）となり、【行政職】では法律系、経済系、行政系、事情系から出題されます。どちらの試験も出題範囲や出題数が多く、早いうちから十分な対策が必要です。試験日程や内容については人事院や各自治体ホームページで公開されていますので、公務員志望者は早めに情報を確認するようにしてください。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座等を実施しています。各自が十分な学習や対策を講じるとともに、これらの講座に積極的に参加して実力を養うことを心がけてください。

学校教員

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門教科・面接、模擬授業、場面指導、集団討論等で構成されています。そのため、単に教科の専門的学力があるだけでは、不十分であり、広い教養や見識、誠実な人間性さらに周囲と協働して課題に取り組む実践力や主体性を持つ人物が求められています。

一方、私立学校の教員採用試験は学校により異なりますが、書類、筆記、論文、面接、模擬授業等、やはり多面的な評価の試験を経て採用となります。

平成24年8月に出された中央教育審議会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」に「これからの教員に求められる資質能力」が示されています。

- ① 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- ② 専門職としての高度な知識・技能
- ③ 総合的な人間力

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって様々な課題に主体的に取り組み、単に知識を詰め込むだけでなく、教師としての真の情熱と実力をも併せ持つ人材たるべく、日々研鑽を積んでください。

大学院への進学のおすすめ

大学院情報環境学研究科修士課程は情報環境学部を基礎とした大学院（修士課程）です。（詳細については P. 178～P. 180参照）本研究科は、学部レベルで学んだ基礎学力をさらに向上させ、高度な情報環境学関連の技術者としてグローバルかつ即戦力的に社会で活躍できる人材の養成を主目標として設立されました。

資源の乏しいわが国が技術立国としてこれまで努力し、経済大国とまで言われるようになりました。しかし、バブル崩壊後、多くの日本企業が経済競争力を失い、その建て直しのために種々の努力を続けております。このような現状の中、特に高度技術・先端分野の企業では、企業内教育は最小限に抑え、できる限り即戦力的人材の確保に努める方向へ進んでおり、求人対象も学部卒業者から大学院修士課程修了者へとシフトしております。

したがって、皆さんが、今後どのような社会で活躍して行こうと考えるかによって、学部卒かあるいは大学院進学かを真剣に考える必要があります。

大学院への進学も視野に入れるなら、カリキュラム計画あるいはそのバージョンアップ版を検討する段階で総合的な計画を練り、できる限り早い段階（できれば入学時点）から計画的に学習をすることを勧めます。

学部で3年以上在学し、早期卒業や飛び級によって大学院へ進学するための基準、あるいは学内推薦により大学院に進学するための基準も明確に定められています。

また、奨学制度や副手制度により、経済的負担が学部と比較し軽減されていることも本学大学院の特徴のひとつとなっています。

現在では、研究所やそれに類する研究機関を持っている企業も多く、大学院修了生の求人数も増加しています。特に公的研究機関に就職を希望する場合は大学院への進学を勧めます。

多くの学部在学学生が大学院進学を真剣に考えることを期待しています。

「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく他大学院推薦入試制度

「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」（協定校：芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学、本学）の一環として、4大学による大学院修士課程への特別推薦入試制度があります。

この制度は各大学の学部学生に対して各大学の各研究科各専攻が他大学から推薦された学生（出身大学内の学内推薦基準を満たしている学生）を1名ずつ受入れ、相互の交流をはかることを目的としております。

詳細については、事務部まで問い合わせてください。

1 情報環境学専攻（修士課程）

〈内容と特色〉

いつでも、どこでもコンピュータや情報と触れ合える情報環境の「基盤整備と資源活用
の高度化」、情報環境に存在するさまざまな資源を統合して、新しい学術的分野を創成する
「情報環境統合」という2つの基本コンセプトのもとで、より高度で専門的な教育・研究を
推進しています。高度な専門知識の習得と研究能力の育成はもとより、近年の技術のグ
ローバル化に即応できる国際技術者の育成、新しい視点からのビジネスの創生を担ってい
く独創性や創造性に富んだ起業家マインドの醸成を基本方針として、独自のカリキュラム
を取り入れています。

〈主要研究部門・対象分野〉

- 教育システム工学部門：センサ技術、ネットワーク技術およびソフトウェア技術を基盤
として、高い学習効果を上げられる理想的な教育システムに関わる研究・教育を行う。
さらに、教授者と学習者にとっても心理学的・生理学的に好ましい自然なヒューマンイ
ンタフェースの研究を行う。この研究分野では、ヒューマンインタフェースを含めた、
将来の教育分野の最先端技術を効果的に活用することが必須であり、特に教育コンテン
ツを含む実践的なシステムの構築法・分析手法を修得する。
- 情報ネットワーク工学部門：IP技術を中心としたネットワーク設計上の理論的な基礎
や応用技術を修得し、次世代ブロードバンド技術、ユビキタスネットワーク技術を支え
るネットワーク基盤の研究・教育を行う。具体的にはアドホック・センサーネットワーク、
可視光通信等の実験環境を活用して、ネットワークを安心・安全に利用するための高信
頼化技術、ネットワークセキュリティ技術、高速化アーキテクチャ技術に関わる高度な
専門技術を修得する。
- 知能情報工学部門：近未来の高度知能化社会を実現するため、知能情報に関する技術の
基礎から最新技術にいたるまでの研究・教育を行う。自らが知能情報システムを構築で
きる技術までの幅広い専門分野、具体的には人工知能技術、情報システム技術、デー
タベース技術、分散システム技術、高信頼IT技術、ソフトウェア技術に関する高度な専門
知識と研究能力を、最先端技術を結集した研究・教育環境の下で修得する。
- マルチメディア工学部門：人が安心し、便利で快適に暮らすために有用となる機器やシ
ステムを設計・開発するための専門技術の研究・教育を行う。具体的にはデジタル信
号処理技術を基盤にして、音声・音響・画像・ヒューマンインタフェースなど、人と機
器とを相互に信頼できる快適な状態で接続するために必要なソフトウェア技術とハード
ウェア技術の双方を研究対象とした研究指導を実践し、マルチメディアの発展に貢献す
る高度な専門技術を修得する。

- 医用福祉工学部門：生体情報計測・処理技術を基礎にして、脳機能、生体信号解析法、高齢者や乳幼児の工学的支援などの研究・教育を行う。具体的には本キャンパス内にある総合研究所千葉共同利用施設内の高度な研究設備を利用した研究活動を通じて、脳科学、生体医工学、人間工学、福祉工学などに関し、医用工学の技術者に必須となる基盤技術を修得する。さらに、情報工学一般の技術者にも有効に活用できる専門知識と方法論を修得する。
- 空間デザイン部門：高度に情報化され、しかも少子高齢化社会を迎えた私たちの生活空間を、いかに豊かで快適なものにデザインするかの研究・教育を行う。そのため、地域施設計画学をはじめ、生活環境学、生態学的心理学、ヒューマンメディア環境学等の思想や理念を学ぶとともに、創造的なアイデアを創出するオープンコンペに参画し、実践的な専門技術を修得する。
- コミュニケーション工学部門：複雑で高度な情報社会においてこそ密なコミュニケーションが重要となる。本部門では、人と人、人と機械の間の快適なコミュニケーションを実現するため、インタフェース工学、メディア工学、認知心理、社会心理など工学と人間科学の両方の学問の研究・教育を行う。特に、人間中心の考え方のもと未来の社会を支える視野の広いエンジニアを育成するための高度な専門技術を修得する。
- 情報科学部門：情報技術に理論的な基礎を与える本質的で重要な概念の修得を目的とし、様々な問題への数学的アプローチを中心とした研究・教育を行う。具体的にはセキュリティや通信の品質を保証する符号理論の基礎となる代数学、特に公開鍵暗号系の基礎となる整数論、人工知能における形式化された推論を扱う数理論理学に加え、3次元CADや図形プログラミングの応用技術を修得する。

〈開設科目〉

国際技術者英語ⅠA	リファクタリング特論
国際技術者英語ⅠB	教育工学特論
国際技術者英語ⅡA	教育システム工学特論
国際技術者英語ⅡB	インターネット工学特論
Practical English for Global Engineers	ネットワークセキュリティ工学特論
知的財産特論	ネットワーク工学特論
プロジェクトマネジメント特論	高信頼化アーキテクチャ
ヒューマンスキル特論	ユビキタスネットワークサービス設計学特論
MOT概論	データベース工学特論
情報環境学セミナーⅠA	分散システム技術特論
情報環境学セミナーⅠB	知能システム工学
情報環境学セミナーⅡA	言語処理特論
情報環境学セミナーⅡB	高信頼IT特論
情報環境学グループ輪講ⅠA	データベース設計工学
情報環境学グループ輪講ⅠB	複合機能システムのデザイン
情報環境学グループ輪講ⅡA	ソフトウェア工学特論
情報環境学グループ輪講ⅡB	情報処理ハードウェア概論
情報環境学創造型プロジェクトⅠA	現代信号処理
情報環境学創造型プロジェクトⅠB	社会音響学特論
情報環境学創造型プロジェクトⅡA	生体情報システムのデザイン
情報環境学創造型プロジェクトⅡB	生体計測と情報処理
情報環境学特別研究ⅠA	医用福祉システム特論
情報環境学特別研究ⅠB	脳情報工学特論
情報環境学特別研究ⅡA	地域施設の空間計画論
情報環境学特別研究ⅡB	生活環境学
情報環境学調査研究ⅠA	ヒューマンメディア環境論
情報環境学調査研究ⅠB	生態学的デザイン論
情報環境学調査研究ⅡA	建築構造学特論
情報環境学調査研究ⅡB	特別設計演習A
	特別設計演習B
	建築実務インターンシップA
	建築実務インターンシップB
	コミュニケーションインタフェース特論
	暗号理論
	記号論理
	整数論
	3次元CAD特論

〈情報環境学専攻教員一覧〉

氏 名	職 名	専 門 分 野
伊勢 史郎	教 授	音場再現、コミュニケーションの認知科学、音と身体との相互作用
伊藤 俊介 ☆	教 授	建築計画・設計、環境心理学／環境行動論
上野洋一郎	教 授	非同期システム設計手法
大山 実	教 授	情報通信サービス
小川 猛志	教 授	情報ネットワーク
小林 浩	教 授	インターネット工学、インターネットセキュリティ技術
近藤 通朗	教 授	数理論理学
穴戸 真	教 授	教育工学・英語教育学
柴田 滝也	教 授	感性情報処理、都市景観、バーチャル・リアリティ
島田 尊正	教 授	医用工学、ニューラルネットワーク、信号処理
鈴木 秀一	教 授	暗号理論、疑似乱数の生成と応用、代数幾何学の応用
鈴木 真	教 授	医療福祉工学、計測制御
築山 俊史	教 授	計算機による視覚情報処理
土肥 紳一	教 授	教育工学、工学教育
新津 靖	教 授	画像計測、コンピュータ援用教育、材料力学
根本 幾	教 授	バイオサイバネティックス
宮川 治	教 授	ソフトウェア設計
宮原 一紀	教 授	ディジタル回路設計
宮保 憲治	教 授	情報通信ネットワーク
武川 直樹 ★	教 授	画像認識、コンピュータビジョン、ヒューマンインタフェース
八槨 博史	教 授	情報セキュリティ、コンピュータネットワーク、分散人工知能
和田 雄次	教 授	データベース技術、情報推薦技術、SNSサイト構築技術
福岡 久雄	特任教授	教育工学、分散システム構築技術
阿部 清彦	准教授	ソフトウェア工学、画像解析、ユーザインタフェース
大崎 淳史	准教授	建築計画・設計、建築人間工学、バリアフリー環境
川勝 真喜	准教授	信号処理、脳科学、生体工学
小濱 隆司	准教授	エレクトロニクス、コンピュータ、信号処理
斎藤 博人	准教授	信号処理、会話インタフェース
酒井 元気	准教授	組み込みシステム、IoT、人間情報センシング
見正 秀彦	准教授	暗号理論、符号理論への整数論の応用
江川 香奈	助 教	建築計画・設計、インテリアデザイン、医療福祉施設
日根 恭子	助 教	認知科学、認知心理学、社会心理学、知覚心理学

★：研究科委員長

☆：専攻主任

科目等履修生

現役の学生の皆さんには直接関係ありませんが、皆さんが卒業後、何らかの理由で特定の科目を学修し、単位の修得等が必要になった場合に適用される制度です。詳細については、学則の第9章54条に規定されております。参考のために関係する部分を下記に示しておきます。

“本大学の学生以外の者で、本大学で開設している1または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。”

第4章

資 料

東京電機大学学則

第1章 総 則

(目的・使命)

第1条 本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道德的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

2 本大学は、第3条第1項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

(自己評価等)

第2条 本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3 本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 組 織

(学部・学科の組織)

第3条 本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部

電気電子工学科

電子システム工学科

応用化学科

機械工学科

先端機械工学科

情報通信工学科

工学部第二部

電気電子工学科

機械工学科

情報通信工学科

理工学部

理工学科

未来科学部
建築学科
情報メディア学科
ロボット・メカトロニクス学科
システムデザイン工学部
情報システム工学科
デザイン工学科

- 2 前項の各学科の入学定員、編入学定員および収容定員は、別表第1とする。
- 3 第1項に定める各学部・学科に学部規則を定める。
- 4 前項の学部規則に、次の事項を定める。
 - (1) 学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
 - (2) 学年・学期に関する事項
 - (3) 教育課程及び単位に関する事項
 - (4) 成績及び卒業に関する事項
 - (5) その他、大学則施行上の必要事項

(大学院)

第4条 本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

(総合メディアセンター・研究推進社会連携センター等)

第5条 本大学に、総合メディアセンターを置く。

- 2 本大学に、研究推進社会連携センターを置く。
 - (1) 研究推進社会連携センターに総合研究所を置く。
- 3 本大学に、国際センターを置く。
- 4 前3項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第3章 運営の機関及び教職員

(学長・副学長・学部長等)

- 第6条 本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。
- 2 本大学に、副学長を置くことができる。副学長は学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。
 - 3 副学長に関する規則は、別に定める。
 - 4 各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する校務をつかさどる。
 - 5 前4項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

(職員)

第7条 教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。

- 2 事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

(大学評議会)

第8条 大学に、大学評議会（以下、「評議会」という。）を置く。

- 2 評議会は、学長、理事若干名、副学長、学部長、研究科委員長、その他学長が必要と認めた者をもって組織する。
- 3 評議会は、学長が招集する。
- 4 評議会の運営その他は別に定める。

(学部教授会)

第9条 各学部に、教授会を置く。

- 2 教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。
- 3 教授会は、学部長が招集する。

(連合・合同教授会)

第10条 工学部及び工学部第二部については、その連合教授会を開くことができる。

- 2 学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。
- 3 教授会は、学長に全学部の合同教授会の開催を要請することができる。

(教授会の役割、審議事項)

第11条 教授会は、次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学・卒業に関する事項
- (2) 学位授与に関する事項
- (3) 前2号の他、大学に関する重要事項で、その学部の教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- 2 前項第3号の学長が教授会に意見を聴くと定める事項は、別に定める。
- 3 教授会は、第1項の他、学長及び学部長がつかさどる大学等に関する次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、意見を述べることができる。
 - (1) 学生の進級・休学・退学等に関する事項
 - (2) 教育課程及び授業に関する事項
 - (3) 履修・試験・成績等に関する事項
 - (4) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
 - (5) 学部規則の改正に関する事項
 - (6) 学部長候補者の推挙に関する事項
 - (7) 学科長等及び系列主任等の選定に関する事項
 - (8) 人事のうち教員の教育研究等の業績審査に関する事項
 - (9) その他大学に関する事項
- 4 教授会は、大学校務全般にわたる若しくは各学部に共通する次の事項について審議し、意見を述べることができる。ただし、必要があるときは、全学部の合同教授会においてこれを行う。
 - (1) 大学則の改正に関する事項
 - (2) 学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国際センター長、研究推進社会連携センター長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項

- (3) その他の重要な事項
- 5 教授会は、前4項の他、学長及び学部長が諮問した事項を審議する。
- 6 学長は、別に定める事項で通常の研究に関する教授会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第4章 修学期間及び授業

(修業年限)

第12条 修業年限は、4年とする。

(最長在学年限)

第13条 最長在学年限は、8年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数とする。

(学年・学期・授業期間)

第14条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

- 2 学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。
- 3 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。
- 4 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(休業日)

第15条 休業日は、次の通りとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

創立記念日 9月11日

夏季休業

冬季休業

春季休業

- 2 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。
- 3 必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。
- 4 休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

(授業の時)

第16条 工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第5章 教育課程及び単位

(教育課程の編成方針)

- 第17条 本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
- 2 教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。
- 3 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 4 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

(授業科目)

- 第18条 授業科目については、各学部規則において定める。
- 2 各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。
- 3 共通教育科目として、特定の主題について2以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

(履修の要件)

- 第19条 履修の要件については、各学部規則において定める。
- 2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。
- 3 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

(他学部等の科目履修)

- 第20条 本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

(教員の免許状授与の所要の資格の取得)

- 第21条 教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。
- 2 本大学において取得できる免許状の種類は別表第2とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。

(単位の算定基準)

- 第22条 各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。
- 2 授業科目の単位数の算定に当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位

数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習、製図及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第6章 試験、成績、進級、卒業及び学位授与

(履修届)

第23条 学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

(試験)

第24条 授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

(試験の方法・時期)

第25条 試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

- 2 試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

(受験資格)

第26条 学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

(成績評価・単位認定)

第27条 授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びDとし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。

- 2 試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。
- 3 本学は、第1項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

(他の大学等における授業科目の履修等)

第28条 本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第29条 本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業

科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第30条 本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(進 級)

第31条 本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

- 2 前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

(卒 業)

第32条 本大学は、4年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

- 2 本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として3年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

(学位の授与)

第33条 本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

- 2 前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工学部	電気電子工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	電子システム工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	応用化学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	先端機械工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
理工学部	理工学科	学士（理学）	（東京電機大学）
		学士（工学）	（東京電機大学）

未来科学部	建築学科	学士（情報学）	（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	ロボット・メカトロニクス学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	システムデザイン工学部	学士（工学）	（東京電機大学）
システムデザイン工学部	情報システム工学科	学士（工学）	（東京電機大学）
	デザイン工学科	学士（工学）	（東京電機大学）

第7章 入学、学籍の異動及び賞罰

（入学の時期）

第34条 入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）

第35条 本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- （1） 高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- （2） 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- （3） 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （4） 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- （5） 文部科学大臣の指定した者
- （6） 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- （7） 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者
- （8） その他、学校教育法及び学校教育法施行規則において規定されている入学資格を有する者

（入学志願手続）

第36条 入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

（入学者の選考）

第37条 本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

- 2 入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

（入学手続）

第38条 入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第3に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（保証人）

第39条 学生は、在学中、保証人がなければならない。

- 2 保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。
- 3 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

(変更の届)

第40条 学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

(編入学・転入学)

第41条 次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、工学部第二部においては、編入学定員に基づき、選考のうえ、許可する。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 短期大学を卒業した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 他の大学で1年以上を修了した者
 - (5) その他、学校教育法及び学校教育法施行規則において規定されている編入学資格を有する者
- 2 他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。
 - 3 前2項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。
 - 4 本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

(転学部・転学科)

第42条 本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

- 2 転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

(休 学)

第43条 傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き3ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

(休学期間)

第44条 休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

- 2 休学期間は、通算して3年をこえることができない。
- 3 休学期間は在学年数に算入しない。
- 4 工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、休学者は学期ごとに60,000円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに30,000円の在籍料を納入する。

(復 学)

第45条 休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出

て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

2 復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

(退 学)

第46条 傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

(除 籍)

第47条 次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

- (1) 最長在学年数をこえた者
- (2) 工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できない者
- (3) 学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者
- (4) 第44条第2項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者
- (5) 正当な理由がなく、無届で、ひき続き3ヶ月以上欠席した者
- (6) 工学部、理工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部において、前期分学費を7月末日までに、後期分学費を1月末日までに納入しない者

(再入学)

第48条 本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

(留 学)

第49条 本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

- 2 留学期間は1年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、1年未満であっても特別に留学を認めることができる。
- 3 前項により認められた留学期間については、1年を限度として第12条に定める修業年数に算入することができる。
- 4 留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

(表 彰)

第50条 学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲 戒)

第51条 本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがない者
 - (2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第8章 学費及びその他の費用

(学費及びその他の費用)

第52条 入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第3とする。

2 学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

3 学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4 すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

5 入学金を除く学費は分納することができる。

第9章 研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

(研究生・研究員)

第53条 本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2 本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

(科目等履修生)

第54条 本大学の学生以外の者で、本大学で開設している1または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2 科目等履修生については、別に定める。

(外国人留学生)

第55条 外国人で第35条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2 外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3 外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

(社会人特別学生)

第56条 社会人で第35条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2 社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人コース学生とする。

3 社会人特別学生についての事項は、別に定める。

(準 用)

第57条 前3条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第10章 改正及び雑則

(改正)

第58条 本学則の改正は、第11条第4項に定める教授会の意見を聴取し、評議会の議を経なければならない。

(施行細則その他)

第59条 本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

附 則

1 (施行期日)

(1)～(66) (略)

(67) 本学則は、平成28年3月8日に、第3条第1項、第3条第2項別表第1(学生入学定員および収容定員)、第16条、第33条第2項、第38条、第44条第4項、第47条、第52条第1項別表第3(学費及びその他の費用)を改正し、平成29年4月1日から施行する。

(東京電機大学工学部環境化学科及び情報環境学部情報環境学科の存続に関する経過措置)

東京電機大学工学部環境化学科および情報環境学部情報環境学科は、改正後の第3条第1項、第3条第2項別表第1、第16条、第33条第2項、第38条、第44条第4項、第47条、第52条第1項別表第3の規定にかかわらず、平成29年3月31日に当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(68) 本学則は、平成29年3月14日に、第21条別表第2、第35条、第41条を改正し、平成29年4月1日から施行する。

(東京電機大学工学部環境化学科及び情報環境学部情報環境学科の存続に関する経過措置)

東京電機大学工学部環境化学科および情報環境学部情報環境学科は、改正後の第21条別表第2の規定にかかわらず、平成29年3月31日に当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第1～3 (略)

東京電機大学情報環境学部規則

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第3条第3項に基づき、情報環境学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 本学部は、個々の学生がそれぞれの能力に応じ、それぞれの興味・関心を伸ばす「個別重視型教育」を通じて、将来にわたって情報技術の変遷に適応し、社会に貢献する能力を備えるための基礎学力と、本質を理解して広い視野に立って自らの進むべき方向を判断・選択する基礎能力を育成する。また、本学部は、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成する。

2 本学部の情報環境学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

情報環境学科は、情報、人間、システム、コミュニケーションの分野において専門性を十分に発揮できる情報技術に関する基礎能力を修得させることを目的とする。また、本学科は、急速な技術変革が常在化している情報社会において、技術の本質を見抜き、問題発見と解決能力を有し課題に的確に対処し、広い視野にたって21世紀に活躍できる情報に関する技術者を養成する。

第2章 組 織

(コース制)

第3条 本学部は、情報環境学科に、次のコースを置く。

ネットワーク・コンピュータ工学コース
デジタル情報工学コース
建築デザインコース
コミュニケーション工学コース

第3章 学年及び学期

(学年・学期)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2つの学期に分ける。

前学期 4月1日から8月31日まで

後学期 9月1日から翌年3月31日まで

第4章 教育課程及び単位

(授業科目)

第5条 授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第1のとおり開講する。

(履修の要件)

第6条 本学部における履修の要件については、別表第2のとおりとする。

(履修単位の制限)

第7条 本学部では、各学期に履修できる単位数を次のとおり定める。

1つ前の学期のGPA (小数点第4位を四捨五入)	履修登録上限単位数
2.200以上	25単位
2.199以下	21単位

2 第9条に基づき、履修科目を保留した者の次学期の履修単位については、学科長及び授業担当教員の許可を得た場合、25単位まで履修することができる。

(事前履修条件)

第8条 履修する科目のうち事前履修条件が付されている科目については、事前履修条件として指定された科目の単位を修得（単位認定を含む）していなければ履修することができない。

(履修科目の保留)

第9条 履修の途中で、やむを得ない理由により長期欠席する場合は、学科長及び当該授業科目の担当教員の許可を得た上で、所定の手続きをとることにより、履修する科目の評価を1年以内（休学期間を除く）に限り保留扱いにすることができる。

2 前項において評価を保留扱いとした科目を1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった場合は、E評価とする。

なお、保留扱いの期間内に卒業・退学・除籍となった場合についてもE評価とする。

(教員の免許状授与の所要の資格の取得)

第10条 本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第2とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第3とする。

第5章 成績及び卒業

(成績評価・単位認定)

第11条 本学部は大学則第27条に基づき、科目の成績評価を行う。

2 本学部における、成績評価及びGPA（Grade Point Average）ポイント（以下「GPA」という。）は、次の評点区分に基づき行う。

評 点	成 績 評 価	G P Aポイント
90～100	S	4
80～ 89	A	3
70～ 79	B	2
60～ 69	C	1
40～ 59	D	0
0 ～ 39	E	0
放 棄	—	0

- 3 G P Aの計算方法は次のとおりとし、G P Aの表記は小数点第4位を四捨五入して小数点第3位まで表示するものとする。なお、自由科目（卒業要件とならない科目）、履修を保留した科目、単位認定科目及び履修中の科目は計算の対象としない。

$$G P A = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得たポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した全ての科目の総単位数}}$$

(卒 業)

第12条 本学部は、4年以上在学し、第6条別表第2に規定する履修の要件に従い、合計124単位以上を修得した者を卒業と認定する。

- 2 本学部は、大学則第32条第2項に定める卒業の基準を別に定める。

(学業継続願い)

第13条 前条において卒業を認定された者が、所定の手続きにより期間を定めて学業継続を願い出て、学部長の許可を受けた場合は、引き続き本学部の学生として在籍することができる。ただし、学業継続の願い出は、平成32年8月末の卒業認定時を以て受付を終了する。

- 2 引き続き在籍できる期間は、大学則第13条に定める最長在学年限の範囲内かつ平成33年3月31日を越えない範囲とする。

(退学勧告等)

第14条 学科長は、当該学期のG P Aが0.600以下の者で、学修意欲が欠如していると判断した場合、口頭での教育的指導を行うとともに、退学予備勧告を行うことができる。

- 2 学部長は、退学予備勧告を受けた者が、連続した2つの学期においてG P Aが0.600以下で学修意欲が認められないと判断した場合、学部長は教授会の議を経て、退学を勧告することができる。

第6章 改 正

(改 正)

第15条 この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

附 則

- 1 (施行期日)

- (1) この規則は、平成22年4月1日から施行する。

- (2) この規則は、平成23年3月8日に第3条を追加し次条以下を繰り下げ、第5条、第5条別表第1（情報環境学部の授業科目及び単位数）、第6条別表第2（情報環境学部の履修の要件）、第7条別表第3（情報環境学部における教職課程の履修方法）を改正し、平成23年4月1日から施行する。
- (3) この規則は、平成24年3月13日に第7条、第8条、第9条を追加し、次条以下を繰り下げ、第11条を改正し、第13条、第14条を追加し、次条以下を繰り下げ、第5条別表第1を改正し、平成24年4月1日から施行する。

ただし、平成23年度以前に入学した者の各学期に履修できる単位数については、第7条第1項の定めにかかわらず次のとおりとする。

1つ前の学期のGPA (小数点第4位を四捨五入)	履修登録上限単位数
2.950以上	25単位
1.001以上 2.949以下	21単位
1.000以下	12単位

なお、平成23年度以前に入学した者の成績評価及びGPAの評点区分は、第11条第2項の定めにかかわらず、次のとおりとする。

評 点	成績評価	GPAポイント
90～100	S	4
80～89	A	4
70～79	B	3
60～69	C	2
40～59	D	0
0～39	E	0

また、平成23年度以前に入学した者の退学勧告等に係るGPAの基準値については、第14条第1項、第2項の定めにかかわらず、「1.000未満」とする。

- (4) この規則は、平成25年3月12日に第5条別表第1を改正し、第9条第2項を追加し、平成25年4月1日から施行する。

なお、第9条第2項の経過措置として、平成24年度に在学している者で、平成24年度中に第9条第1項に定める所定の手続きをとりながら、評価を保留扱いとした科目を1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった場合、または既に1年以内（休学期間を除く）に履修しなかった科目がある場合は、卒業・退学・除籍となった際にE評価とする。

- (5) この規則は、平成26年3月11日に第5条別表第1（情報環境学部の授業科目及び単位数）を改正し、平成26年4月1日から施行する。

- (6) この規則は、平成27年3月24日に第8条、第11条、第12条、第13条を改正し、平成27年4月1日から施行する。

なお、第8条の改正は、平成26年度以前に入学した者についても適用する。

- (7) この規則は、平成28年3月8日に第5条別表第1（情報環境学部の授業科目及び単位数）を改正し、平成28年4月1日から施行する。

なお、第5条別表第1の改正は、平成27年度以前に入学した者には適用しない。

また、平成28年度在学者のうち平成25（2013）年度以前に入学した者の各学期に履修できる単位数については、第7条第1項の定めにかかわらず次のとおりとする。

【平成23年度以前に入学した者】

1つ前の学期のG P A (小数点第4位を四捨五入)	履修登録上限単位数
2.950以上	25単位
通常の1学期あたりの上限単位数	21単位

なお、平成23年度以前に入学した者の成績評価及びG P Aの評点区分は、第11条第2項の定めにかかわらず、次のとおりとする。

評 点	成績評価	G P Aポイント
90～100	S	4
80～89	A	4
70～79	B	3
60～69	C	2
40～59	D	0
0～39	E	0

また、平成23年度以前に入学した者の退学勧告等に係るG P Aの基準値については、第14条第1項、第2項の定めにかかわらず、「1.000未満」とする。

【平成24～25年度に入学した者】

1つ前の学期のG P A (小数点第4位を四捨五入)	履修登録上限単位数
2.200以上	25単位
通常の1学期あたりの上限単位数	21単位

なお、平成24～25年度に入学した者の成績評価及びG P Aの評点区分は、第11条第2項の定めのとおりとする。

また、平成24～25年度に入学した者の退学勧告等に係るG P Aの基準値については、第14条の定めのとおりとする。

- (8) この規則は、平成29年3月14日に、第7条第1項（履修単位の制限）、第13条を改正し、平成29年4月1日から施行する。

また、平成29年度以降在学者のうち平成23年度以前に入学した者の各学期に履修できる単位数については、第7条第1項の定めにかかわらず次のとおりとする。

【平成23年度以前に入学した者】

1つ前の学期のG P A (小数点第4位を四捨五入)	履修登録上限単位数
2.950以上	25単位
2.949以下	21単位

なお、平成23年度以前に入学した者の成績評価及びG P Aの評点区分は、第11条第2項の定めにかかわらず、次のとおりとする。

評 点	成績評価	G P Aポイント
90～100	S	4
80～89	A	4
70～79	B	3
60～69	C	2
40～59	D	0
0～39	E	0

また、平成23年度以前に入学した者の退学勧告等に係るG P Aの基準値については、第14条第1項、第2項の定めにかかわらず、「1.000未満」とする。

学生生活についての規程

(目 的)

第1条 この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

(学生に対する通知・連絡)

第2条 学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて1週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

(学生証)

第3条 学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年4月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

- 2 学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。
- 3 学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。
- 4 学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

(保証人)

第4条 学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

(現住所及び連絡先)

第5条 学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

(学生による掲示)

第6条 学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

- 2 学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。
- 3 掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。
- 4 新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に

工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

- 5 期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

(学生による印刷物の発行・配布)

第7条 学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

(学生の学内集会)

第8条 学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

- ア 団体名
- イ 団体の責任者の氏名
- ウ 集会の目的
- エ 集会の場所
- オ 集会の日時
- カ 参加者の人数
- キ 学外者参加団体名及び人数
- ク その他

提出期限は原則として、開催日の1週間前とする。

- 2 集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。
- 3 集会は、東京千住キャンパスにおいては22時20分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては21時までとする。

ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

- 4 学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

- ア 団体名及び宿泊責任者の氏名
- イ 宿泊場所
- ウ 宿泊の目的
- エ 宿泊人数
- オ 宿泊する学生の氏名及び連絡先

カ 宿泊する学生の保証人の連絡先

- 5 本条で認められている事項は、第10条で定める手続きを行っている団体に適用される。
なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

(学生の学外における正課外活動)

第9条 学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の1週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

(団体の結成)

第10条 学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

- 2 団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

- 3 学生の団体の継続については、毎年5月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したものとみなす。

試験に関する細則

(目 的)

第1条 本細則は、大学及び大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

(試験の種類)

第2条 試験は学期末試験、中間試験、追試験とする。

- 2 学期末試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末又は学年末に履修終了の認定のために行う試験をいう。
- 3 中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。
- 4 追試験は急病等真にやむを得ない事情により、学期末試験又は中間試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。
- 5 第1項に定めるほか再試験を加えることができる。

(再試験)

第3条 再試験は前条第2項に定める試験の成績不良のため履修終了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもつて履修終了の認定にあてることができる。

(受験資格)

- 第4条 学期末試験又は中間試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修登録を行い、かつ、その授業に常時出席していなければならない。
- 2 第2条第1項に定める試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。
 - 3 追試験は学期末試験の受験資格をみだし、かつ、学部事務部が指定する期間内に所定の手続きをした学生につき考慮するものとする。なお、中間試験における追試験については科目担当者の指示によるものとする。

(追・再試験の手続き)

- 第5条 追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて追試験願を学部事務部に提出し、受験票の交付を原則受けなければならない。
- 2 特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続きをしなければならない。

(学生証、受験票の提示)

- 第6条 学期末試験の受験者は定刻までに試験室に入り、つねに学生証を机の上に置かなければならない。
- 2 追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければなら

い。

(遅刻及び退室)

第7条 受験者の遅刻は、試験開始後30分以内は認める。ただし、試験時間は延長しない。

2 受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから許可する。

3 前2項については、当該学部教授会または研究科委員会の議を経て、取扱いを変更することができる。

(試験監督者)

第8条 試験監督者は、当該試験実施について一切の権限を有する。

2 試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

3 試験監督者については、前2項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

(不正行為)

第9条 試験監督者は、試験中に不正行為を行つた学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

2 試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときは、その答案を取上げた上退室を命ずることができる。

3 前2項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

(不正行為に対する処置)

第10条 前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

(1) 当該試験の属する学期末試験の一部又は全部を無効とする。

(2) 当該試験を無効とする。

部室使用に関する内規

(目 的)

第1条 この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

(使用者)

第2条 部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

(施設等管理者及び指導)

第3条 部室の施設等管理者は、学生支援センター長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

2 前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部長も施設管理者となる。

3 施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

(遵守事項)

第4条 部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

- (1) 本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
- (2) 施設設備の改装等を行わないこと。
- (3) 整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
- (4) 建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
- (5) 活動上不必要な掲示を行わないこと。
- (6) 部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
- (7) 暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
- (8) 使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
- (9) 使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
- (10) その他学生としての良識に従って使用すること。

(使用期間)

第5条 部室を使用できる期間は1年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

(使用時間)

第6条 部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては学生支援センター、

埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部において別に定める。

（使用責任）

第7条 部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

（破損の修理）

第8条 施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

- | | |
|--------------------------|------------|
| (1) 東京千住キャンパスの施設、備品等 | 学生支援センター長 |
| (2) 埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等 | 理工学部事務部長 |
| (3) 千葉ニュータウンキャンパスの施設、備品等 | 情報環境学部事務部長 |

2 正規の使用途中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁償する。

（使用の禁止等）

第9条 部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

（内規の改廃）

第10条 本内規の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経て、学生支援センター長が決定する。

特別奨学生規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ、学費の支弁が困難な者に対し奨学金を給付することを目的とする。

(基金)

第2条 この奨学金の基金は次の各号の基金をもって構成する。

- (1) 桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金
- (2) その他の基金

(奨学金)

第3条 奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

2 奨学金の各校への配分は、当該年度の予算に計上して行う。

(給付額)

第4条 奨学金の給付額は、各学校の学則に定める当該年度の学費の一部若しくは全額とする。

2 給付金は、学費に充当しなければならない。

(奨学生の選考、決定、採用等)

第5条 奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

2 前項により奨学生を採用したときは、学校の長は遅滞なく理事長宛（総務部長経由）に文章をもって報告しなければならない。

(奨学生の資格の喪失)

第6条 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

- (1) 学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。
- (2) 成績不良若しくは素行不良のとき。
- (3) 学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2 奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済されることができる。

(事務)

第7条 奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

2 前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

(実施)

第8条 この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付 則（省略）

東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

(目的)

第1条 この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

(救済奨学資金)

第2条 この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

(救済奨学生の選考・決定等)

第3条 救済奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

- (1) 失業又は事業の倒産
- (2) 被災
- (3) 長期療養
- (4) 死亡
- (5) その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

2 救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

(救済奨学金の貸与額)

第4条 東京電機大学大学院、東京電機大学工学部第一部、工学部第二部（平成17年度以前入学者）、理工学部、未来科学部及び東京電機大学短期大学における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

2 東京電機大学工学部第二部（平成18年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

3 救済奨学金は学費に充当しなければならない。

(採用)

第5条 救済奨学生の採用は、原則として毎年4月又は10月とし、各校における在籍期間中1回とする。

(救済奨学生の資格停止)

第6条 救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与

した救済奨学金を返還させることができる。

(救済奨学生の資格取消)

第7条 救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

(救済奨学金の返還)

第8条 救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間とする。ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

(利子)

第9条 貸与した救済奨学金は無利子とする。

(褒賞金の給付・返還の免除)

第10条 次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

- (1) 卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。
- (2) 卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2 救済奨学生が死亡または不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

(事務)

第11条 救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

(実施)

第12条 この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

東京電機大学学生応急奨学生規程

(目的)

第1条 この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

(奨学金)

第2条 この奨学金は、学校法人東京電機大学への特定の寄付金をもって充当する。

(給付金)

第3条 奨学給付金は、本学の学則に定める当該年度の学費の一部とする。

2 給付金は、学費または学資に充当しなければならない。

(奨学生の選考、決定、採用等)

第4条 奨学生は、救済奨学金選考委員会の選考を経て、学長がこれを決定し、採用する。

2 前項により奨学生を採用したときは、学長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

(奨学生の資格の喪失)

第5条 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

- (1) 学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。
- (2) 成績不良若しくは素行不良のとき。
- (3) 提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2 奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

(事務)

第6条 奨学生に係る事務は学生支援センターが行う。

(実施)

第7条 この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付 則

この規程は、平成22年4月13日から施行する。

東京電機大学学生サポート給付奨学生規程

(目的)

- 第1条 この規程は、本学学部在学し、過去1年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支弁が困難な学生に対し、奨学金を給付することを目的とする。
- 2 本奨学金の名称は、「東京電機大学学生サポート給付奨学金（以下「奨学金」という。）」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

(奨学金)

- 第2条 奨学金は給付型とし、奨学金の原資は学校法人東京電機大学サポート募金（奨学金使途指定）への寄付をもって充当する。
- 2 奨学生の人数は、年間若干名とする。

(給付額)

- 第3条 奨学金の給付額は、25万円とする。なお、本奨学金の給付は本学学部の在学期間中1回に限る。
- 2 給付された奨学金は学費に充当しなければならない。

(奨学生の選考、決定、採用等)

- 第4条 奨学生の選考は以下のとおりとする。
- (1) 奨学金の給付を希望する者は、所定の願書を在学する学部の学生厚生担当へ提出する。
 - (2) 学生支援センターにおいて提出された願書について、本奨学生としての要件等を踏まえ書類選考を行う。
 - (3) 書類選考を通過した者に対し、各学部学生厚生担当において経済状況の確認、および修学意欲について面接による審査を行う。
 - (4) 学生支援センター長は面接による審査結果に基づき、各学部事務部長と協議の上、奨学生候補者を決定する。
 - (5) 学生支援センター長は奨学生候補者について、学生支援センター運営委員会の議を経て、学長に推薦する。
 - (6) 学長は、大学調整連絡会議の議を経て奨学生を決定する。
 - (7) 学長は、決定した奨学生を学校法人東京電機大学サポート募金委員会委員長へ報告する。

(奨学生の資格の喪失)

- 第5条 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、学生支援センター長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。
- (1) 学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。
 - (2) 給付を受ける年度において、休学をしたとき。

(3) 成績不良若しくは素行不良のとき。

(4) 学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

2 奨学生は前項各号の事由により、奨学生の資格を失ったときは、学生支援センター長と関係する学部長が協議し、学長が不適当と認めた場合は、給付された奨学金を遅滞なく大学に全額返還しなければならない。

(事務)

第6条 奨学生に係る事務は、学生支援センター及び各学部学生厚生担当において行う。

(実施)

第7条 この規程の実施についての必要事項は、別に定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、学生支援センター運営委員会の議を経なければならない。

付 則（平成28年4月19日決定）

この規程は、平成28年4月19日から施行する。

東京電機大学大学院進学特別奨学金規程

(目的)

第1条 この規程は、東京電機大学の学生であって、本学大学院修士課程へ進学する成績優秀な者に対して、経済的支援のために奨学金を給付することを目的とする。

2 本奨学金の名称は、「大学院進学特別奨学金（以下「奨学金」という。）」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

(奨学金)

第2条 奨学金の原資は、学校法人東京電機大学学術振興基金（第3号基本金）の奨学援助金をもって充当する。

2 奨学金の給付総額は、当該年度の予算の範囲内とする。

(給付金)

第3条 奨学金は、大学院修士課程入学初年次のみにおいて給付する。

2 奨学金は、本学大学院修士課程の授業料に充当しなければならない。

(給付額)

第4条 奨学金の給付額は、東京電機大学大学院学則に定める大学院入学初年次の授業料相当額（教育充実費を除く）とする。

(奨学生の選考、決定等)

第5条 奨学生の選考は以下のとおりとする。

- (1) 奨学金の給付を希望する者は、所定の願書を在学する学科長・学系長を経由して入学先の研究科委員長に提出する。
- (2) 研究科委員長は、当該研究科委員会の選考を経て奨学生候補者を学長に推薦する。
- (3) 学長は、学部長会の議を経て奨学生を決定する。
- (4) 学長は、決定した奨学生を理事長へ報告する。

(奨学生の資格の喪失)

第6条 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、学長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。

- (1) 大学院入学後、初年次に休学した者
- (2) 退学（除籍）、停学となった者
- (3) 学則に違反して処分を受けたとき
- (4) 成績不良若しくは素行不良のとき

2 奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金の全額を大学へ返納しなければならない。

(事務)

第7条 奨学生に係る事務は、学生支援センター及び各学部事務部が行う。

(実施)

第8条 この規程の実施についての必要事項は別に定める。

2 この規程は、平成27年度大学院修士課程入学者から適用する。

(規程廃止)

第9条 この規程は、奨学生がいなくなったことが確認できた時に廃止手続を行う。

付 則

この規程は、平成26年7月22日から施行する。

東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

(目的)

第1条 この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

(支援奨学資金)

第2条 この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

(支援奨学生の推薦・決定等)

第3条 支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在籍する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

- (1) 本学主催の海外英語短期研修に参加する者
- (2) 自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者
- (3) その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

2 支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 所定修業年限を超えて在学している者

3 支援奨学金の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長をこれを決定する。

(支援奨学金の貸与額)

第4条 支援奨学金の貸与額は、30万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

2 支援奨学金は前条第1項の各号に定める用途に充当しなければならない。

(採用)

第5条 支援奨学生の採用は、各校における在学期間中1回とする。

(支援奨学生の資格停止)

第6条 支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

(支援奨学生の資格取消)

第7条 支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。

- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
 - (3) 支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

(支援奨学金の返還)

第8条 支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

- 2 支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。
- 3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

(利子)

第9条 貸与した支援奨学金は無利子とする。

(事務)

第10条 支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

(実施)

第11条 この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン

(位置付け)

本ガイドラインは、学校法人東京電機大学情報戦略ポリシーに基づき、東京電機大学の学生が、コンピュータ、携帯情報端末やネットワークを利用するに当たって遵守すべき事項をまとめたものである。

(一般利用)

1. ネットワークの利用において、やりとりする情報の内容については、本学は基本的に関知せず、利用者が良識を持って判断しなければならない。
2. 利用者IDを他人に譲渡または貸与してはならない。また、他の利用者IDを用い、なりすましを行ってはならない。
3. 掲示板・SNS・Webページなどネットワーク上で学内から意見を表明するときは、関係者の人権やプライバシーを尊重すると共に、知的所有権（著作権、商標権、特許権など）に配慮しなければならない。
4. 大学設置の情報資産を本来の目的以外に使ってはならず、特に商業目的に使ってはならない。
5. 卒業等により利用資格を失った場合、それまで使用していた利用者IDを使用してはならない。

(電子メールの利用)

1. 第三者のプライバシーや知的所有権は十分尊重しなければならない。
2. ネズミ講やマルチ商法・チェーンメールなどに加担してはならない。
3. 送信先や転送先のメールアドレスは十分に確認しなければならない。
4. サイズの巨大（一般的に3MB以上）な添付ファイル付きメールを送信しないこと。大人数に対して大きいサイズの添付ファイル付きメールではなく、別の手段（Xythes等）を用いること。
5. 添付ファイルにマルウェアが内在する可能性を考慮しなければならない。
6. 安全を確保するためには暗号メールを必要に応じ使用することが望ましい。
7. メール中のURLを不用意にクリックしてはならない。
8. 送信元が不確かなメールは送信者へ確認するか無視しなければならない。

(Webサイトへのアクセス)

1. 不適切なサイトへのアクセスは行ってはならない。
信頼できないサイトへのアクセスは、取引時のトラブルなどに十分注意しなければならない。
2. 信頼できないサイトへ個人情報等の入力を行ってはならない。
3. WebブラウザやOSのアップデートを常に行い、最新の状態に保たなければならない。
4. サイトで禁止されている行為をしてはならない。
例えば、電子ジャーナル等のサイトでは機械的なダウンロードは禁止されていることがある。

(ソーシャルメディアの利用・情報の公開)

1. 第三者のプライバシーや知的所有権を十分尊重しなければならない。
2. 公序良俗に反する情報を発信してはならない。
3. 研究内容等を含む発信を行う際は十分注意し、機密が漏洩しないようにしなければならない。
4. 公開した情報は多くの人に閲覧されることを想定しなければならない。
5. 公開範囲を常に意識しなければならない。
6. 完全な匿名性は存在しないことを認識しなければならない。
7. 一度公開した内容を完全に削除できないことを認識しなければならない。
8. 情報は正確に記述するよう努め、誤解を招かないよう注意しなければならない。
9. サービス登録・利用時には利用規程を確認しなければならない。

(ファイルの扱い)

1. 知的所有権（著作権、商標権、特許権など）を犯すなど違法なファイルを取り扱ってはならない。
2. 法令により単純所持が禁止されているファイルを自己の意志に基づいて所持してはならない。
3. 出所が不明なファイルや内容に確証が持てないファイルをダウンロードしてはならない。
4. 大きなサイズのファイルをネットワークでやりとりするときは、他の利用者への影響を考慮しなければならない。

(パソコン、情報機器での注意)

1. ソフトウェアには常にセキュリティパッチを適用し最新の状態を保たなければならない。
2. 送信元が不確かなメールに含まれるWebサイトへのリンクや添付ファイルは開いてはならない。
3. マルウェア対策ソフトウェア（アンチウイルスソフト等）を適時使用しなければならない。対策ソフトウェアは常に最新の状態に保たなければならない。
4. 外部から取得した（ダウンロードやメールの添付・メディアでのコピー）ファイルは、マルウェア対策ソフトウェアなどでスキャンしてから使用しなければならない。
5. マルウェアの稼働を確認した場合は速やかに無効化し、無効化出来ない場合コンピュータをネットワークへ接続してはならない。
6. データの改ざんや破損に備え、重要な情報は常にバックアップを行わなければならない。
7. 他人の利用者IDを用いてネットワークへ接続してはならない。

(罰則)

このガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコンピュータやネットワーク利用を停止する場合がある。さらに悪質な場合には学則にのっとり処罰する場合がある。

(注意)

本ガイドラインは時代の変化と共に変更する場合があるので総合メディアセンターからの通達によく注意しておくこと。

[本ガイドラインの発行者：情報統括責任者、総合メディアセンター]

沿革

- 1907. 9. 11 (明治40年) 東京・神田に電機学校創立
- 1949. 4. (昭和24年) 東京電機大学開設<工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置>
- 1950. 4. (昭和25年) 東京電機大学短期大学部開設<電気科第二部設置>
- 1952. 4. (昭和27年) 工学部第二部開設<工学部第二部電気工学科設置>
- 1956. 2. (昭和31年) 東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
- 1958. 4. (昭和33年) 東京電機大学大学院(夜間)開設<工学研究科電気工学専攻(修士課程)設置>
- 1960. 4. (昭和35年) 工学部第一部電子工学科設置
- 1961. 4. (昭和36年) 工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
- 1961. 4. (昭和36年) 工学部第二部電気通信工学科設置
- 1962. 4. (昭和37年) 大学院工学研究科博士課程開設<電気工学専攻(博士課程)設置>
- 1962. 4. (昭和37年) 工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
- 1965. 4. (昭和40年) 工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
- 1975. 4. (昭和50年) 工学研究科電気工学専攻(修士課程)(昼間)設置
- 1977. 4. (昭和52年) 鳩山キャンパス開設、理工学部開設<数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置>
- 1981. 4. (昭和56年) 理工学研究科開設<数理学専攻(修士課程)・システム工学専攻(修士課程)・建設工学専攻(修士課程)・機械工学専攻(修士課程)設置>
総合研究所開設
- 1983. 4. (昭和58年) 理工学研究科博士課程開設<応用システム工学専攻(博士課程)設置>
- 1984. 4. (昭和59年) 理工学研究科数理学専攻(博士課程)設置
- 1986. 4. (昭和61年) 理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
- 1990. 4. (平成2年) 千葉ニュータウンキャンパス開設
工学研究科情報通信工学専攻(修士課程)・電子工学専攻(修士課程)設置
理工学研究科情報科学専攻(修士課程)・応用電子工学専攻(修士課程)設置
- 1991. 4. (平成3年) 工学研究科機械システム工学専攻(修士課程)・物質工学専攻(修士課程)設置
- 1992. 4. (平成4年) 工学研究科情報通信工学専攻(博士課程)・電子工学専攻(博士課程)、
建築学専攻(修士課程)設置
理工学研究科数理学専攻(博士課程)を数理科学専攻(博士課程)に名称変更
- 1993. 4. (平成5年) 工学研究科機械システム工学専攻(博士課程)、物質工学専攻(博士課程)設置
工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
- 1995. 4. (平成7年) 工学研究科建築学専攻(博士課程)設置
- 1997. 4. (平成9年) 超電導応用研究所、建設技術研究所設立
産官学交流センター設立
- 1997. 6. (平成9年) ハイテク・リサーチ・センター設立

1999. 4. (平成11年) 理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を智能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
フロンティア共同研究センター設立
2000. 4. (平成12年) 理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001. 4. (平成13年) 情報環境学部開設<情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置>
2001. 4. (平成13年) 大学院工学研究科機械工学専攻(博士課程・修士課程)、精密システム工学専攻(博士課程・修士課程)設置
2002. 4. (平成14年) 工学部第一部情報メディア学科設置
工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
理工学研究科生命工学専攻(修士課程)設置
理工学研究科数理科学専攻(博士課程)を数理・情報科学専攻(博士課程)、数理学専攻(修士課程)を数理科学専攻(修士課程)、システム工学専攻(修士課程)を情報システム工学専攻(修士課程)、機械工学専攻(修士課程)を智能機械工学専攻(修士課程)に名称変更
2003. 4. (平成15年) 理工学研究科応用電子工学専攻(修士課程)を電子情報工学専攻(修士課程)に名称変更
2004. 4. (平成16年) 情報環境学研究科(修士課程)開設<情報環境工学専攻(修士課程)、情報環境デザイン学専攻(修士課程)設置>
工学研究科情報メディア学専攻(修士課程・博士課程)設置
理工学研究科情報社会学専攻(修士課程)設置
超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005. 7. (平成17年) 東京電機大学短期大学廃止
工学研究科機械システム工学専攻(修士課程・博士課程)廃止
2006. 4. (平成18年) 先端科学技術研究科(博士課程(後期))開設<数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置>(※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止)
理工学研究科建設工学専攻(修士課程)を建設環境工学専攻(修士課程)に名称変更
情報環境学部情報環境学科設置(※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止)
2007. 4. (平成19年) 学園創立100周年(9月11日)
未来科学部開設<建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置>
工学部開設<電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置>(※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学

科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止)

理工学部理工学科設置< 4 学系体制:サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系>(※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止)

2008. 4. (平成20年) 工学部第二部電気電子工学科設置(※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止)

2009. 4. (平成21年) 未来科学研究科(修士課程)開設< 建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置>

工学研究科電気電子工学専攻(修士課程)設置(※工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)、精密システム工学専攻(修士課程)、情報メディア学専攻(修士課程)、建築学専攻(修士課程)の学生募集停止)

理工学研究科理学専攻(修士課程)、情報学専攻(修士課程)、デザイン工学専攻(修士課程)、生命理工学専攻(修士課程)設置(※理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、電子情報工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の学生募集停止)

情報環境学研究科情報環境学専攻(修士課程)設置(※情報環境学研究科情報環境工学専攻(修士課程)、情報環境デザイン学専攻(修士課程)の学生募集停止)

理工学部理工学科学系再編< 5 学系体制:理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編>

2010. 4. (平成22年) 工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)の廃止
理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の廃止

2010. 9. (平成22年) 工学研究科情報メディア学専攻(修士課程)の廃止

2011. 3. (平成23年) 建設技術研究所の廃止

2011. 4. (平成23年) 工学研究科精密システム工学専攻(修士課程)、理工学研究科電子情報工学専攻(修士課程)、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻(修士課程)の廃止

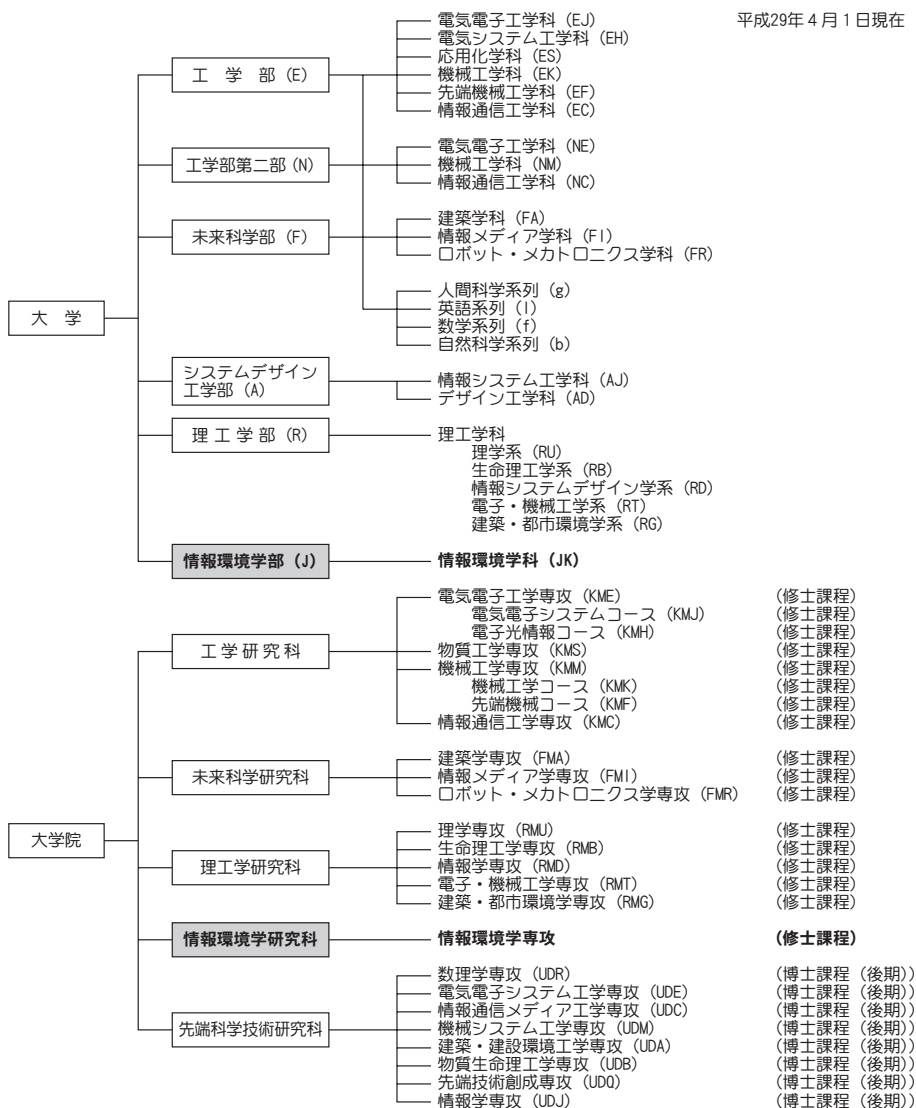
情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

2012. 4. (平成24年) 東京千住キャンパス(100周年記念キャンパス)開設(先端科学技術研究科(東京神田キャンパス所属)、工学研究科(修士課程)、未来科学研

- 究科(修士課程)、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転)
- 情報環境学研究科情報環境工学専攻(修士課程)の廃止
- 理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止
2012. 10. (平成24年) 研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立
2013. 4. (平成25年) 理工学研究科電子・機械工学専攻(修士課程)、建築・都市環境学専攻(修士課程)設置
- (※理工学研究科デザイン工学専攻(修士課程)の学生募集停止)
- 工学研究科建築学専攻(修士課程)の廃止
- 工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
- 理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止
2013. 9. (平成25年) 工学部第一部環境物質化学科の廃止
2014. 4. (平成26年) 工学部第一部電気工学科の廃止
- 理工学部生命工学科の廃止
2014. 8. (平成26年) インスティテューショナル リサーチ センター設立
2014. 9. (平成26年) 工学部第一部建築学科の廃止
- 理工学研究科デザイン工学専攻(修士課程)の廃止
2015. 4. (平成27年) 工学部第一部情報メディア学科の廃止
- 工学部第二部電気工学科の廃止
2015. 9. (平成27年) 工学部第一部機械工学科の廃止
2016. 4. (平成28年) 工学部第一部電子工学科の廃止
- 工学部第一部の廃止
2016. 6. (平成28年) 地域連携推進センター設立
2017. 4. (平成29年) 工学部電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科設置
- (※工学部環境化学科の学生募集停止)
- システムデザイン工学部開設<情報システム工学科、デザイン工学科設置>
- 情報環境学部情報環境学科の学生募集停止

大学の教育・研究組織

平成29年4月1日現在



※大学院修士課程の全専攻において、昼夜開講制を実施。

大学・学部・学科（大学院・専攻）の英文名称

東京電機大学	Tokyo Denki University
情報環境学部	School of Information Environment
情報環境学科	
Department of Information Environment	
情報環境学研究科	Graduate School of Information Environment
情報環境学専攻	
Information Environment Technology (Master's program)	

情報環境学部の教員組織

	氏 名	Email	号館	階	室番号	室 名
教 授	伊勢 史郎 イセ シロウ	iseshiro@mail.dendai.ac.jp	14	1 1	0103 0102	教員室 音響空間研究室
教 授	伊藤 俊介 イトウ シュンスケ	itoh_shun@mail.dendai.ac.jp	14	7 7	0704 0701	教員室 環境行動研究室
教 授	上野 洋一郎 ウエノ ヨウイチロウ	ueno416@mail.dendai.ac.jp	14	2 3 3	0201 0309 0302	学科長室 教員室 先端計算システム研究室
教 授	大山 実 オオヤマ ミノル	ohyama@mail.dendai.ac.jp	14	4 4	0411 0412	教員室 情報通信サービス研究室
教 授	小川 猛志 オガワ タケシ	t.ogawa@mail.dendai.ac.jp	14	3 3	0310 0301	教員室 情報ネットワーク研究室
教 授	川邊 孝 カワベ タカシ	kawabe@mail.dendai.ac.jp	14	5 5	0510 0505	教員室 国際理解教育研究室
教 授	小林 浩 コバヤシ ヒロシ	hirokoba@mail.dendai.ac.jp	14	3 3	0308 0303	教員室 ネットワークコンピューティング研究室
教 授	近藤 通朗 コンドウ ミチロウ	mkondo@mail.dendai.ac.jp	14	3 3	0307 0304	教員室 数理論理研究室
教 授	今野 紀子 コンノ ノリコ	nkonno@mail.dendai.ac.jp	1	5 5 1	0511 0503 0101C	教員室 情報心理研究室 学生相談室
教 授	穴戸 真 シシド マコト	shishido@mail.dendai.ac.jp	14 1	5 5	0506 0501	教員室 マルチメディア教育工学研究室
教 授	柴田 滝也 シバタ タツヤ	tshibata@mail.dendai.ac.jp	14	6 6	0606 0605	教員室 メディア環境デザイン研究室
教 授	島田 尊正 シマダ タカマサ	tshimada@mail.dendai.ac.jp	1	5 5	0523 0520	教員室 知能コンピューティング研究室
教 授	鈴木 秀一 スズキ シュウイチ	suzuky@mail.dendai.ac.jp	14	5 5	0508 0503	教員室 暗号システム研究室
教 授	鈴木 真 スズキ マコト	msuzuki@mail.dendai.ac.jp	1	5 5	0519 0517	教員室 医療福祉工学研究室
教 授	築山 俊史 ツキヤマ トシフミ	t-tsuki@mail.dendai.ac.jp	14	4 4	0407 0404	教員室 視覚システム研究室
教 授	土肥 紳一 ドヒ シンイチ	dohi@mail.dendai.ac.jp	14	5 5	0509 0502	教員室 オーサリング研究室
教 授	新津 靖 ニイツ ヤスシ	yniitsu@mail.dendai.ac.jp	1	5 5	0502B 0502A	教員室 3次元グラフィックス研究室
教 授	根本 幾 ネモト イク	nemoto@mail.dendai.ac.jp	14	1 1	0105 0106	教員室 音楽脳機能研究室
教 授	宮川 治 ミヤカワ オサム	miya@mail.dendai.ac.jp	14	6	0608 0612	教員室 ユニバーサル・ソフトウェア・デザイン研究室
教 授	宮原 一紀 ミヤハラ カズノリ	miyahara@mail.dendai.ac.jp	14	6 6	0609 0602	教員室 デジタル回路設計研究室
教 授	宮保 憲治 ミヤホ ノリハル	miyaho@mail.dendai.ac.jp	14	4 4	0410 0401	教員室 情報ネットワーク環境研究室

	氏 名	Email	号館	階	室番号	室 名
教 授	ムカフ ナオキ 武川 直樹	mukawa@mail.dendai.ac.jp	14	2 4 4	0202 0408 0403	研究科委員長室 教員室 インタラクシオン研究室
教 授	ヤマキ ヒロフミ 八槨 博史	yamakih@mail.dendai.ac.jp	14	4 4	0409 0402	教員室 情報安全技術研究室
教 授	フダ コウジ 和田 雄次	yujiwada@mail.dendai.ac.jp	14	2 5 5	0202 0507 0504	学部長室 教員室 データベース応用研究室
特別専任 教 授	イシダ アツコ 石田 厚子	a.ishida@mail.dendai.ac.jp	1	2	0204B	教員室
特別専任 教 授	フクオカ ヒサオ 福岡 久雄	fukuoka@mail.dendai.ac.jp	1	2	0204A	教員室
准 教 授	オオサキ アツシ 大崎 淳史	osaki@mail.dendai.ac.jp	14	7	0705 0706	教員室 バリアフリー環境研究室
准 教 授	カワカツ マサキ 川勝 真喜	kawakatu@mail.dendai.ac.jp	1	5 5	0527 0524	教員室 生体信号処理研究室
准 教 授	コハマ タカシ 小濱 隆司	kohama@mail.dendai.ac.jp	14	6 6	0610 0601	教員室 信号処理応用研究室
准 教 授	サイトウ ヒロト 斎藤 博人	h.saito@mail.dendai.ac.jp	14	6	0611 0603	教員室 信号処理研究室
准 教 授	タナカ マサコ 田中 雅子	m-tanaka@mail.dendai.ac.jp	14	5 5	0511 0505	教員室 Communication Management研究室
准 教 授	ミシヨウ ヒデヒコ 見正 秀彦	h_mishou@mail.dendai.ac.jp	14	6 6	0607 0604	教員室 数理代数学研究室
講 師	フユツメ ナリト 冬瓜 成人	fuyu@mail.dendai.ac.jp	14	3 3	0311 0312	教員室 インターネットテクノロジー研究室
講 師	フタナベ コウコ 渡邊 祐子	yukow@mail.dendai.ac.jp	14	1 1	0104 0102	教員室 音響情報研究室
講(教 育)	アイバ チズコ 相羽千州子	aiba@mail.dendai.ac.jp	1	5	0504	教員室
講(教 育)	エンドウ ヨシノリ 遠藤 義則	endoh@mail.dendai.ac.jp	1	5	0514	教員室
講(教 育)	バロズ ジェイン	jasonb@mail.dendai.ac.jp	1	5	0507	教員室
講(教 育)	ヨシノ タケヒロ 吉野 剛弘	tyoshino@mail.dendai.ac.jp	1	5	0512	教員室
助 教	エガフ カナ 江川 香奈	kanaegawa@mail.dendai.ac.jp	1	5	0513	教員室
助 教	コガ ヒロタカ 古賀 寛尚	koga@mail.dendai.ac.jp	千住 5	11	51101	教員室
助 教	ナカシマ ノリヒロ 中島 規博	nakashima@mail.dendai.ac.jp	千住 5	11	51101	教員室
助 教	ヒネ キョウコ 白根 恭子	hine@mail.dendai.ac.jp	1	5	515	教員室
助 教	オオシマ ナオキ 大島 直樹	sima@mail.dendai.ac.jp	1	2	0203A	教員室
助 教	ツツミ トモアキ 堤 智昭	t-tsutsumi@mail.dendai.ac.jp	1	5	0516	教員室
助 教	ノグチ ケンタ 野口 健太	noguchi@mail.dendai.ac.jp	千住 5	11	51101	教員室

千葉ニュータウンキャンパス施設案内

1 門扉

開扉時間

	正 門	正門通用口	東 門
授 業 期 間	7 : 00～22 : 30	7 : 00～23 : 30 土曜日は～22 : 30	7 : 00～17 : 00 土曜日は閉鎖
授業期間以外	8 : 00～21 : 00	8 : 00～22 : 30	7 : 00～17 : 00 土曜日は閉鎖
日曜・祝祭日	原則閉鎖	原則閉鎖	閉鎖

キャンパスへの出入りは、正門および通用口、ならびに東門（P. 230参照）から行います。
開扉時間以外の出入りについては特別な手続が必要になります。

2 教育研究施設

- 1号館・・・講義室、メディア教室、ネットクラスルーム、ゼミ室、小ゼミ室、実習室、
情報環境学部事務部、学習サポートセンター、教員室、研究室
- 13号館・・・ワークショップ、d-room、i-room、n-room
- 14号館・・・教員室、研究室、学部フォーラム
- 15号館・・・開架閲覧室、大教室、マルチメディアラボ、プレゼンテーションルーム
- その他・・・v-room（5号館内）、総合研究所千葉共同利用施設（7号館・11号館）、
建設技術研究施設（8号館）

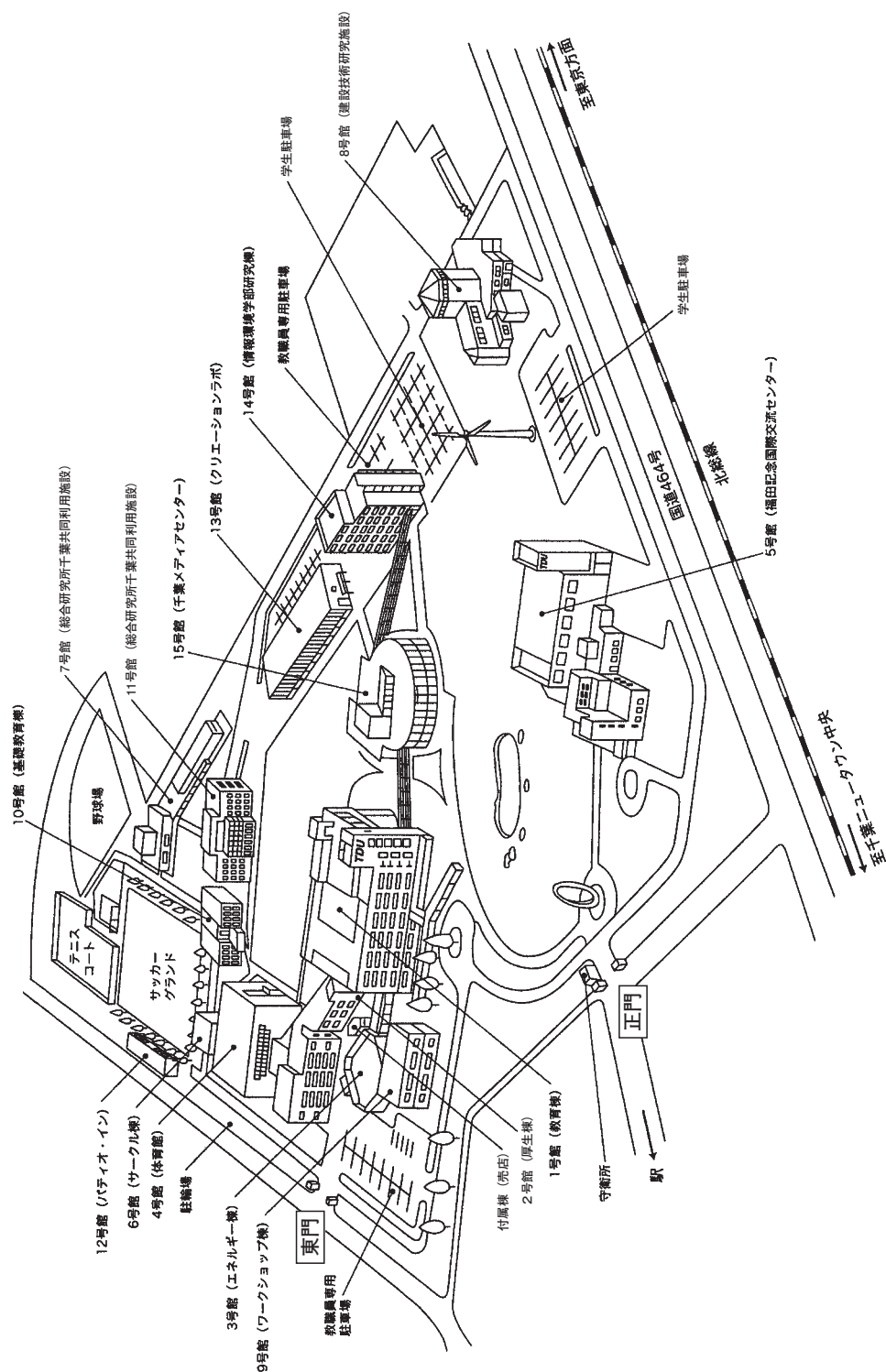
3 学生厚生施設

- 1号館・・・健康相談室、学生相談室、就職資料コーナー、銀行ATM
- 2号館・・・第一学生食堂、第二学生食堂、貸しロッカー
- 売店棟・・・売店、屋外ラウンジ、自動販売機コーナー
- 4号館・・・体育館アリーナ、柔剣道場、卓球場、トレーニングルーム
- 6号館・・・部室、研修室
- 12号館・・・宿泊室、オープンキッチン、サークル室、自治会執行委員会等学生団体室
- 運動場・・・サッカーグラウンド・野球場・テニスコート

4 その他の施設

福田ホール（5号館）、TDUいんざいイノベーション推進センター（5号館）、ワーク
ショップ棟（9号館）、基礎教育棟（10号館）

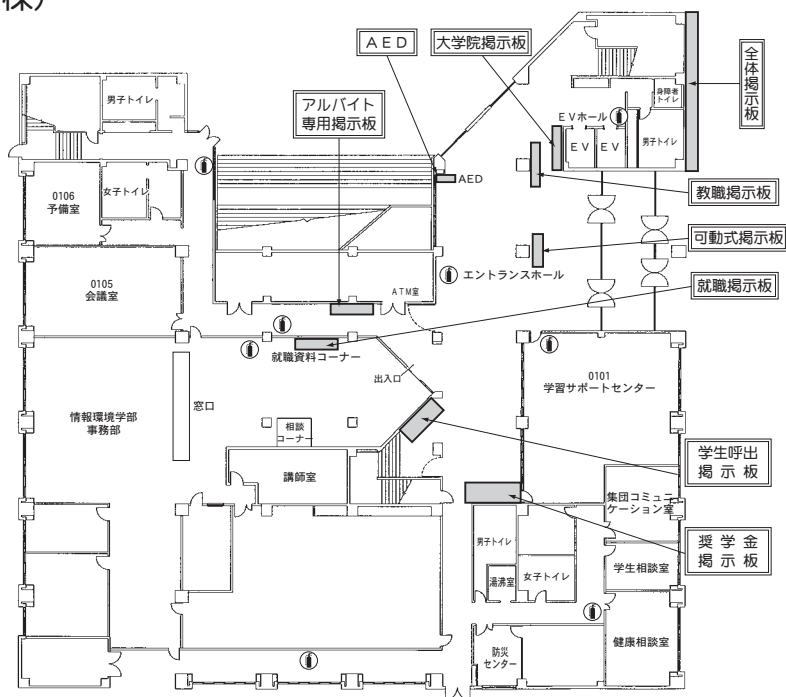
千葉ニュータウンキャンパス案内図



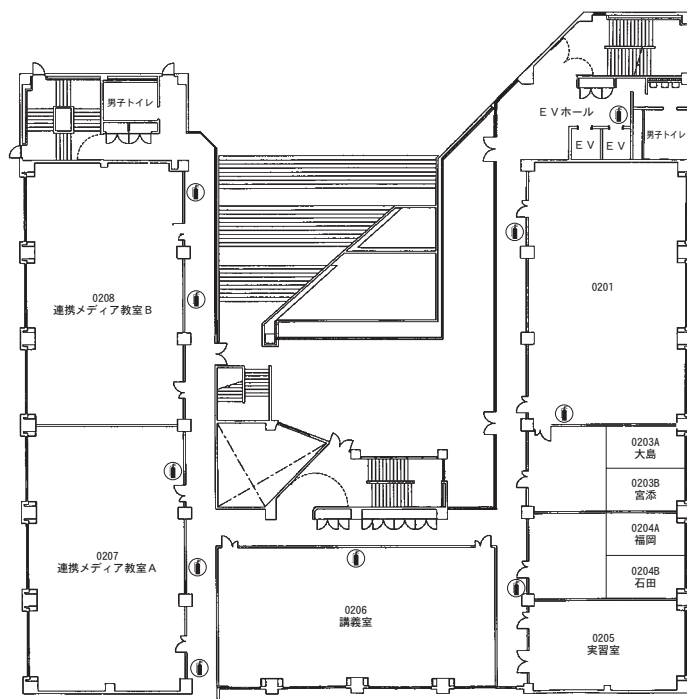
千葉ニュータウンキャンパス校舎平面図

1号館（教育棟）

< 1階 >



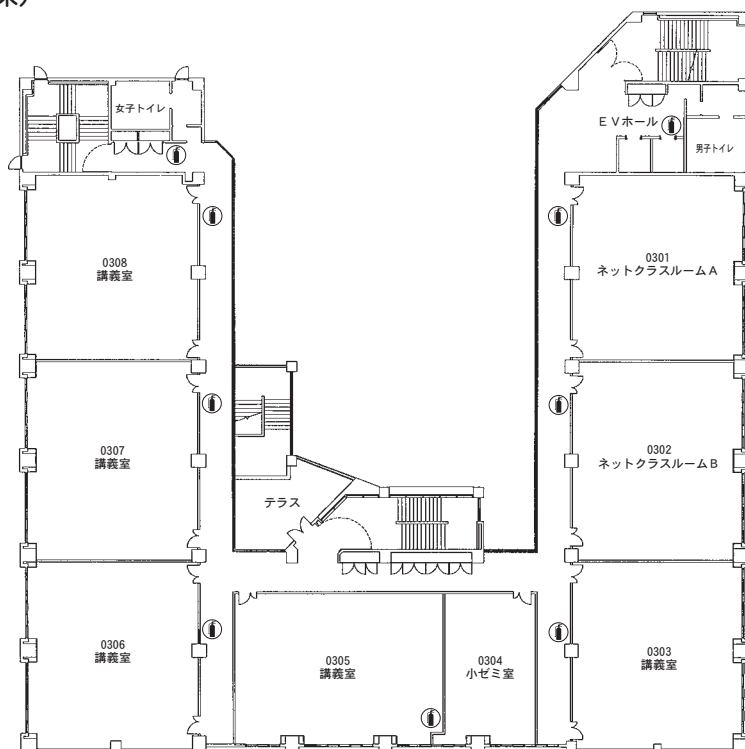
< 2階 >



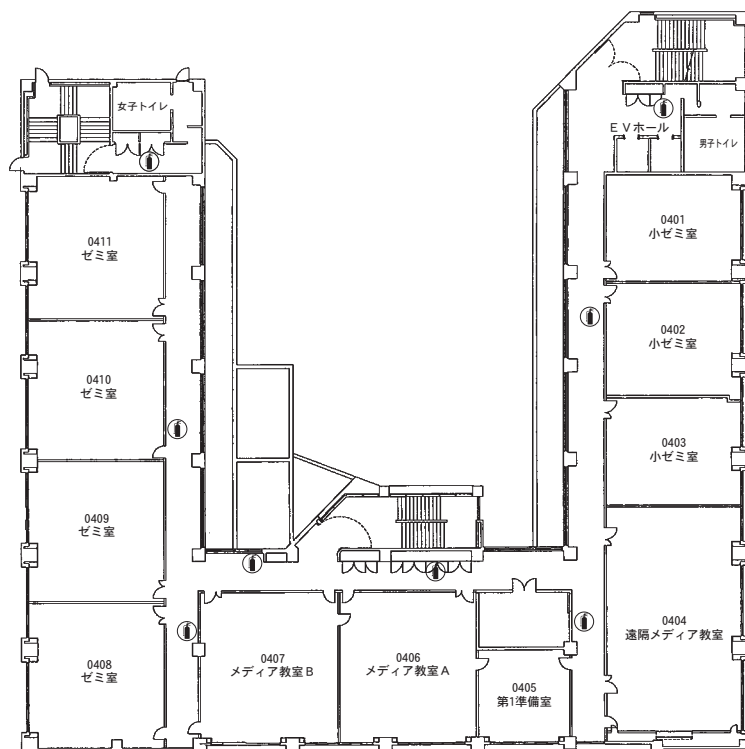
※①は消火器

1号館（教育棟）

< 3階 >



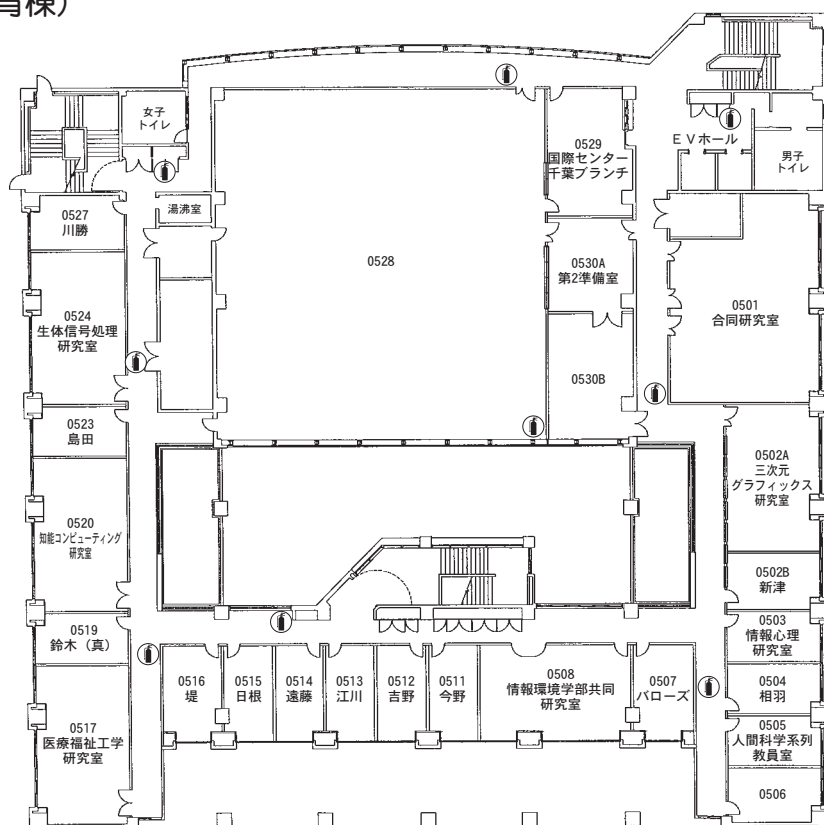
< 4階 >



※①は消火器

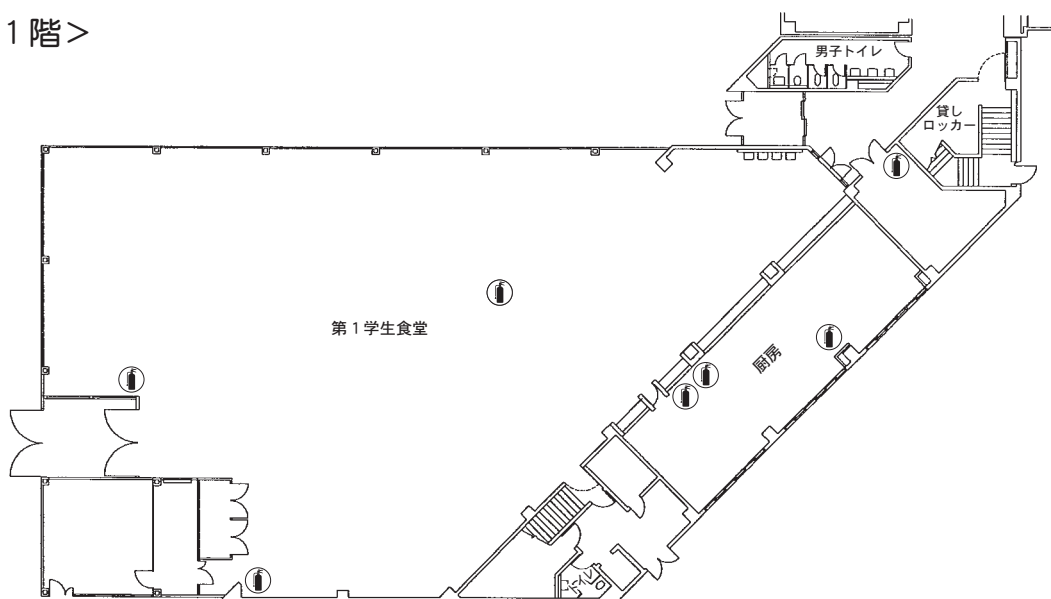
1号館（教育棟）

< 5階 >



2号館（厚生棟）

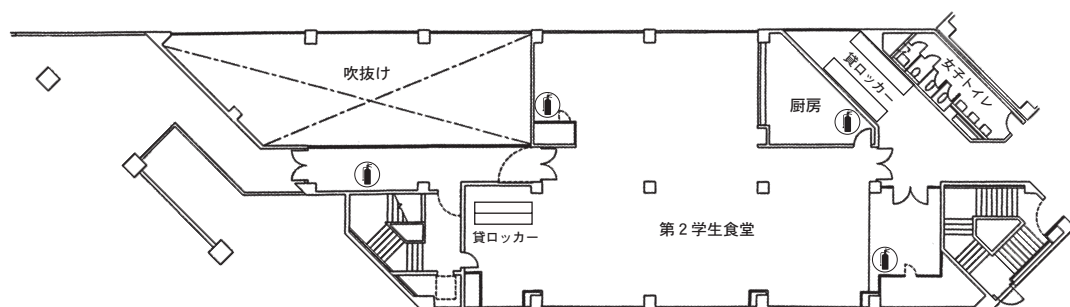
< 1階 >



※①は消火器

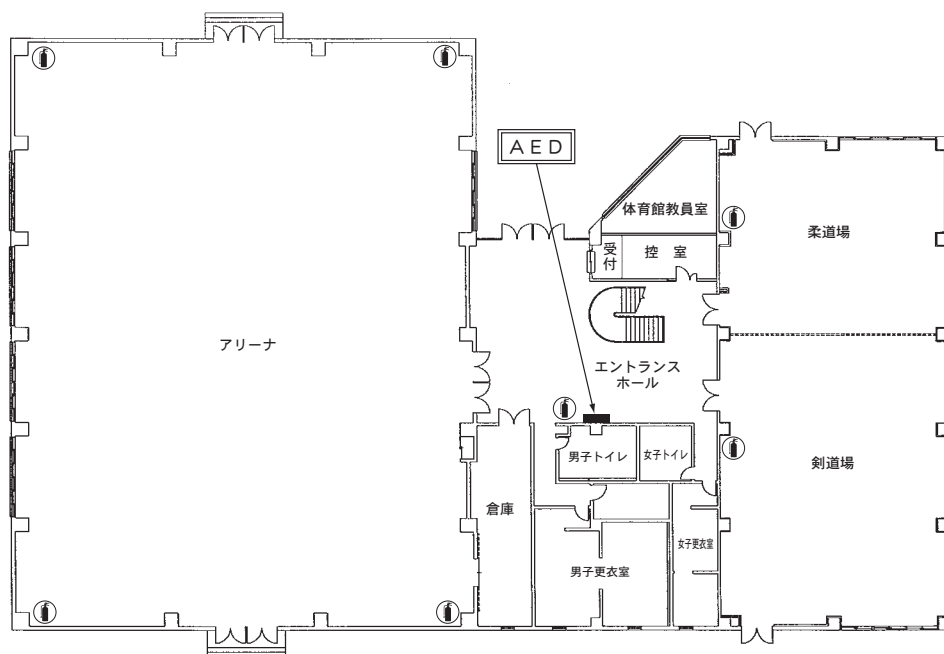
2号館（厚生棟）

< 2階 >



4号館（体育棟）

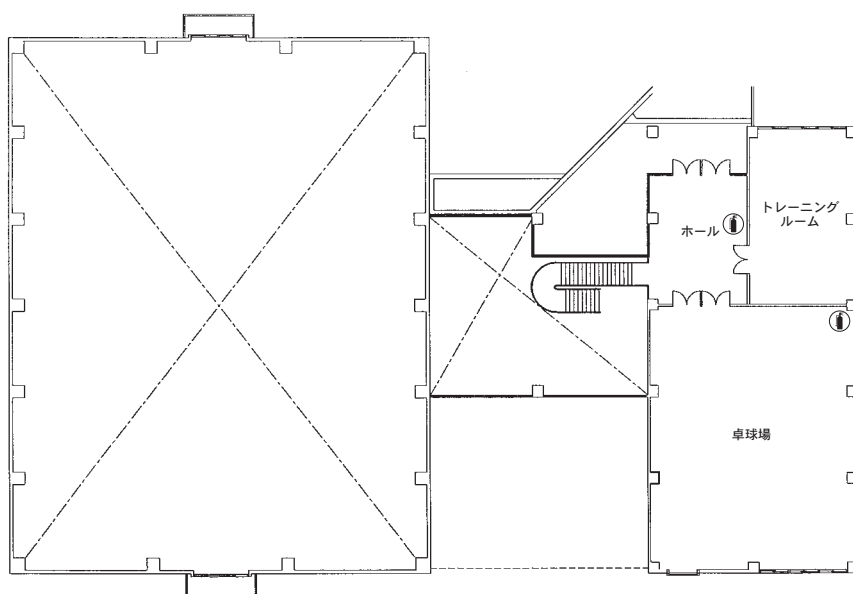
< 1階 >



※①は消火器

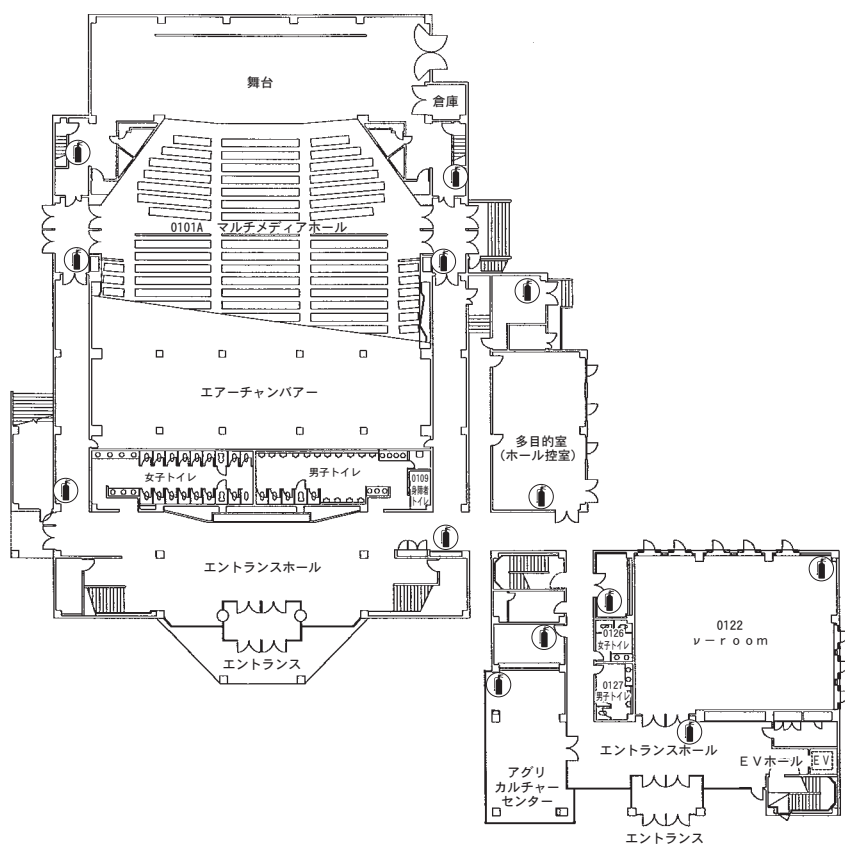
4号館（体育棟）

< 2階 >



5号館（福田記念国際交流センター）

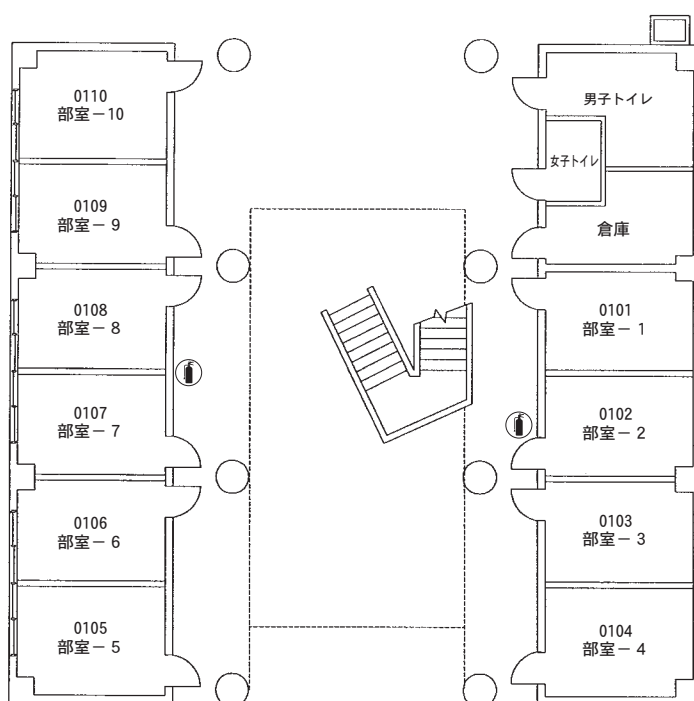
< 1階 >



※①は消火器

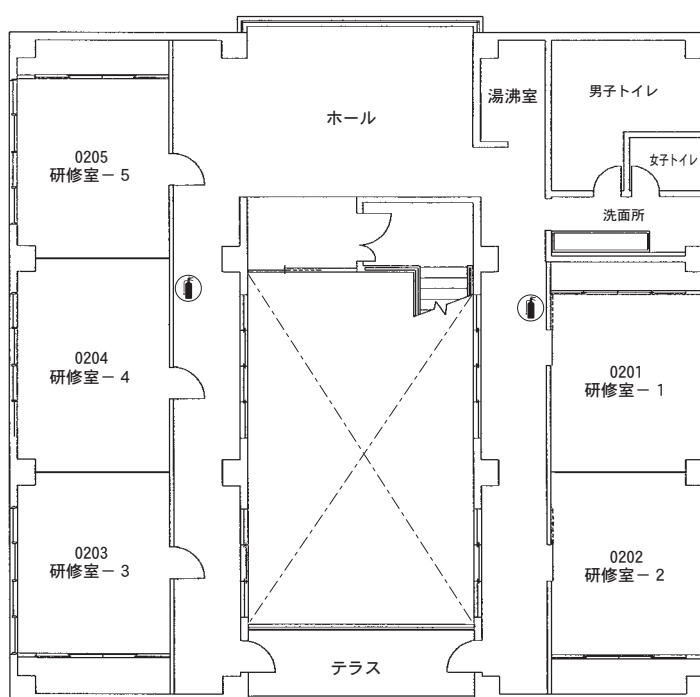
6号館（サークル棟）

< 1階 >



6号館（サークル棟）

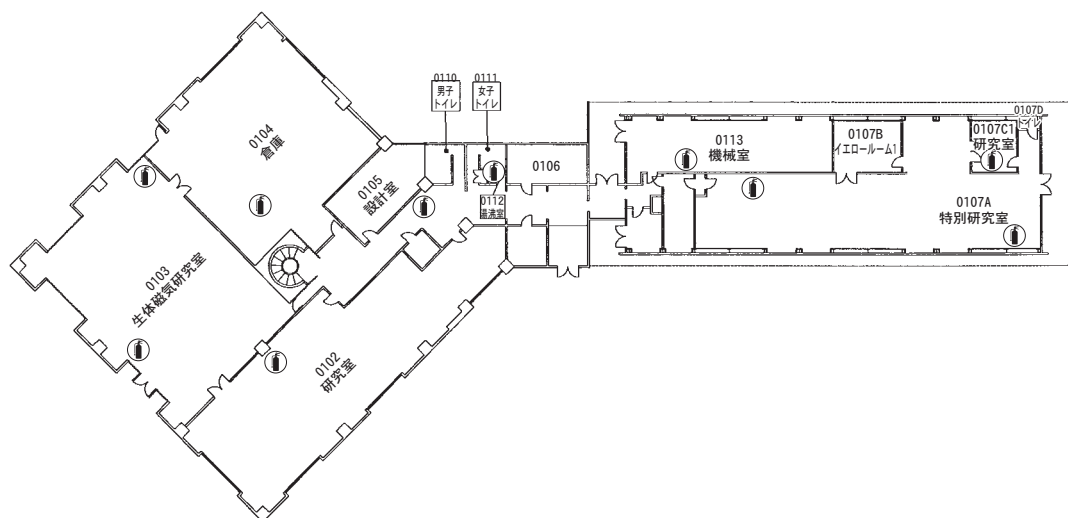
< 2階 >



※①は消火器

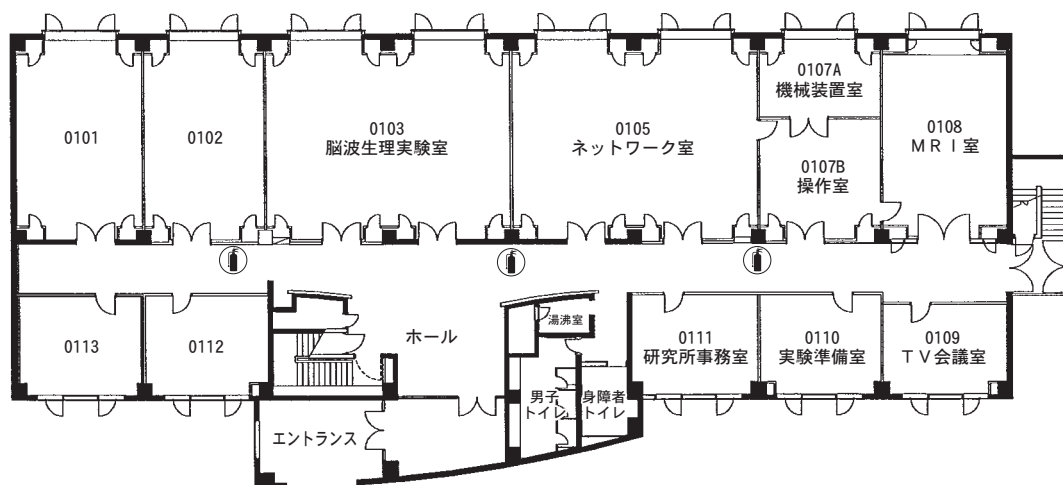
7号館（総合研究所千葉共同利用施設）

< 1階 >



11号館（総合研究所千葉共同利用施設）

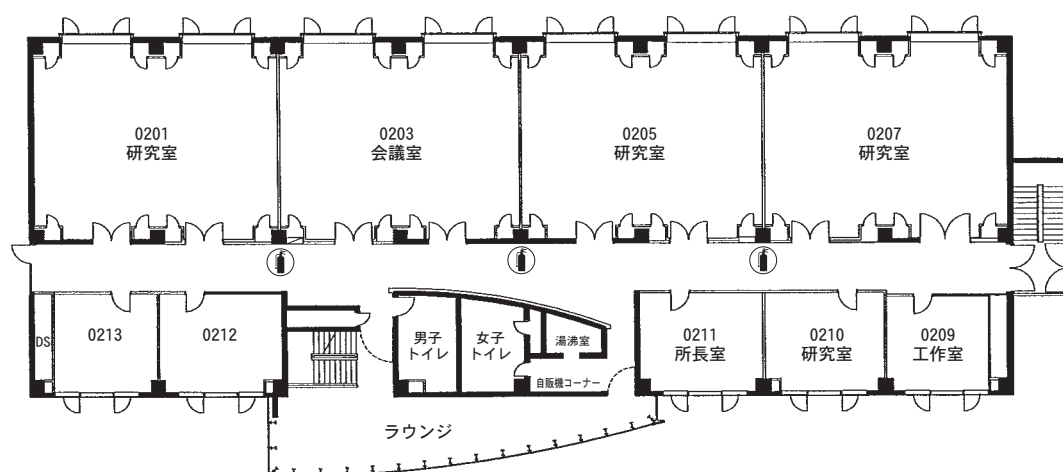
< 1階 >



※①は消火器

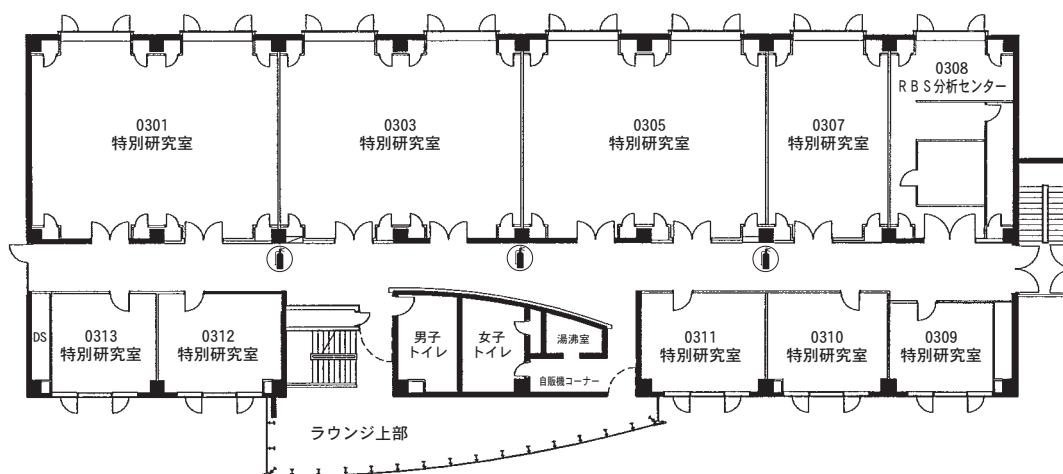
11号館（総合研究所千葉共同利用施設）

< 2 階 >



11号館（総合研究所千葉共同利用施設）

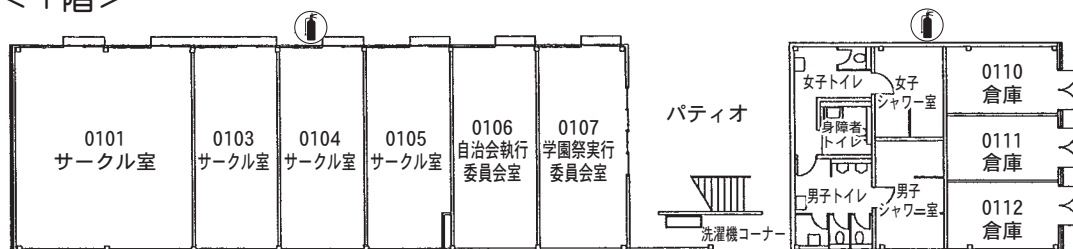
< 3 階 >



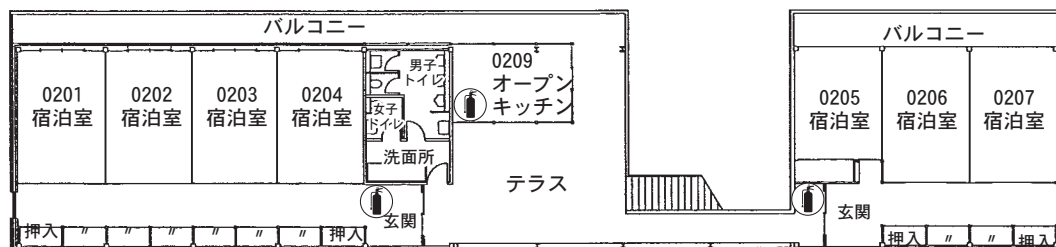
※①は消火器

12号館 (パティオ・イン)

< 1 階 >

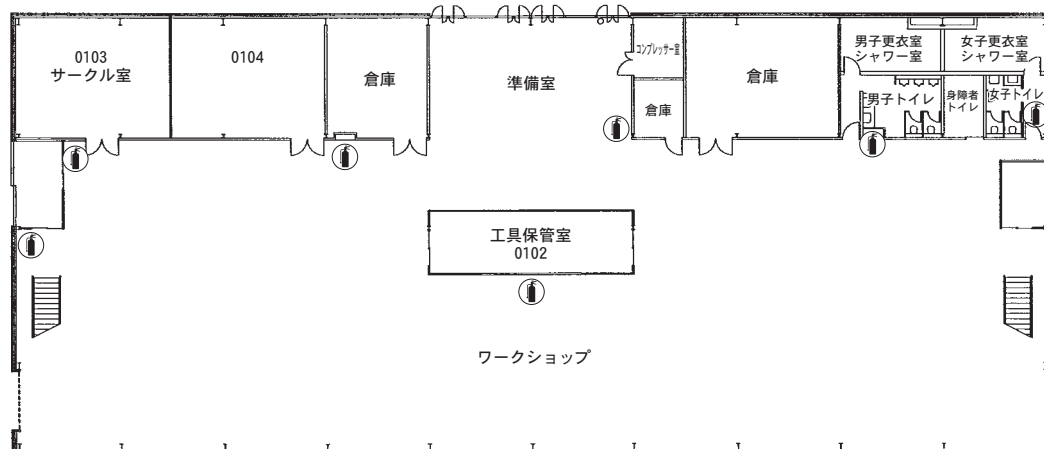


< 2 階 >



13号館 (クリエーションラボ)

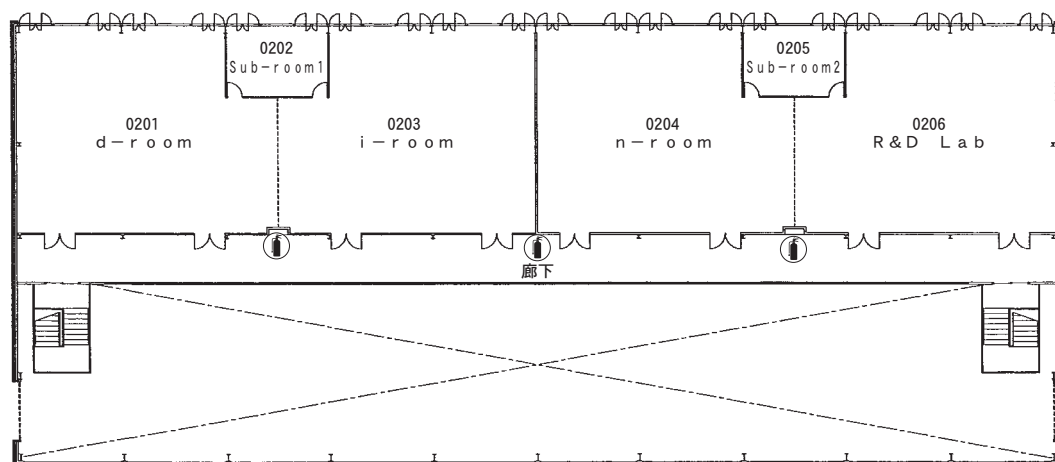
< 1 階 >



※①は消火器

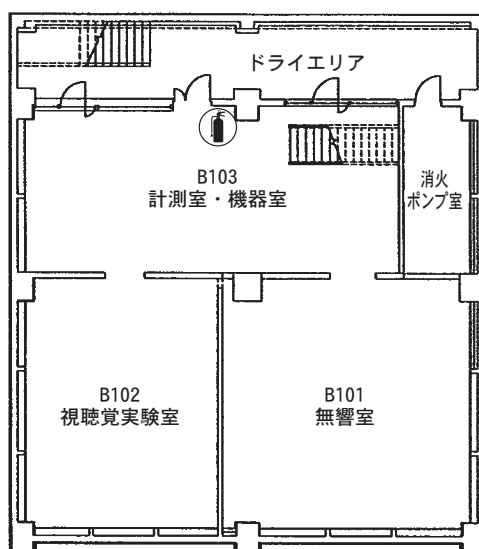
13号館（クリエーションラボ）

< 2 階 >

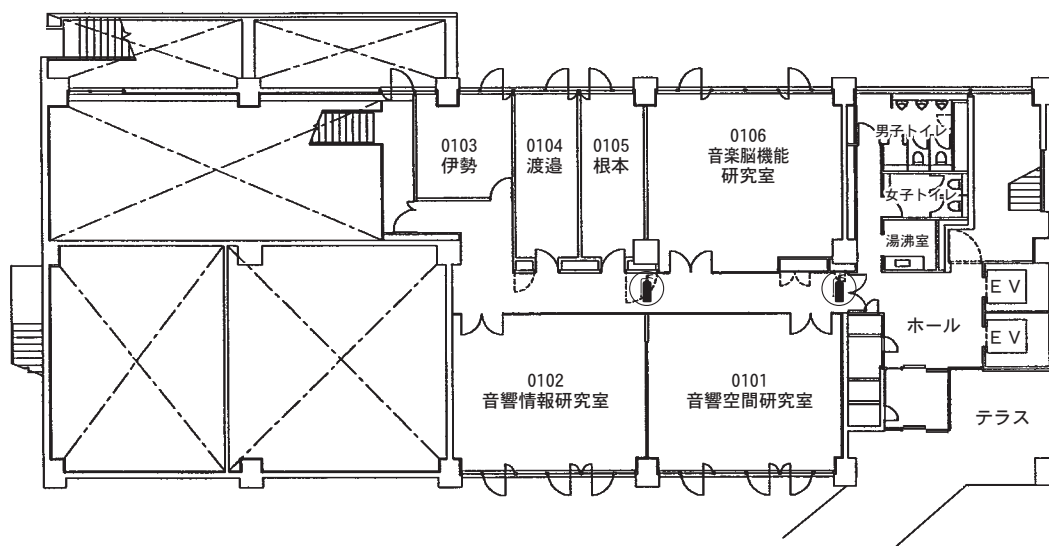


14号館（情報環境学部研究棟）

<地下1階>



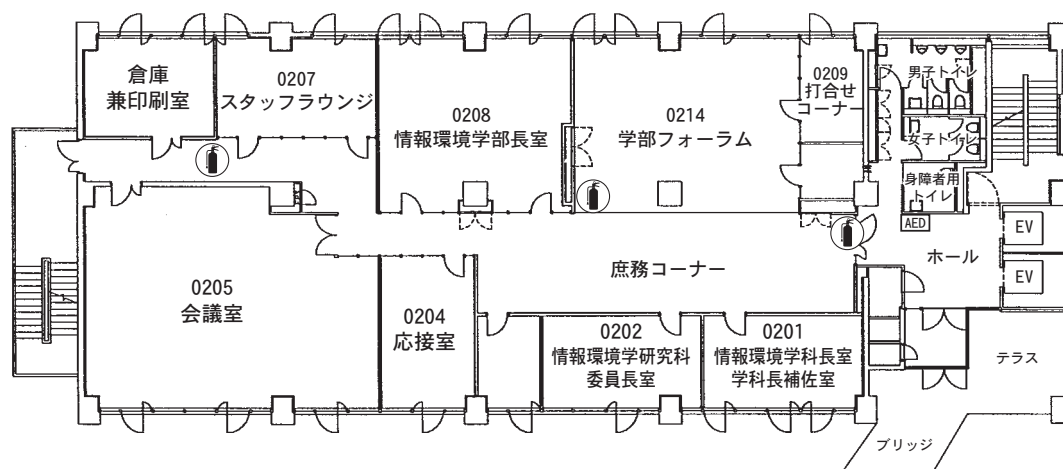
<1階>



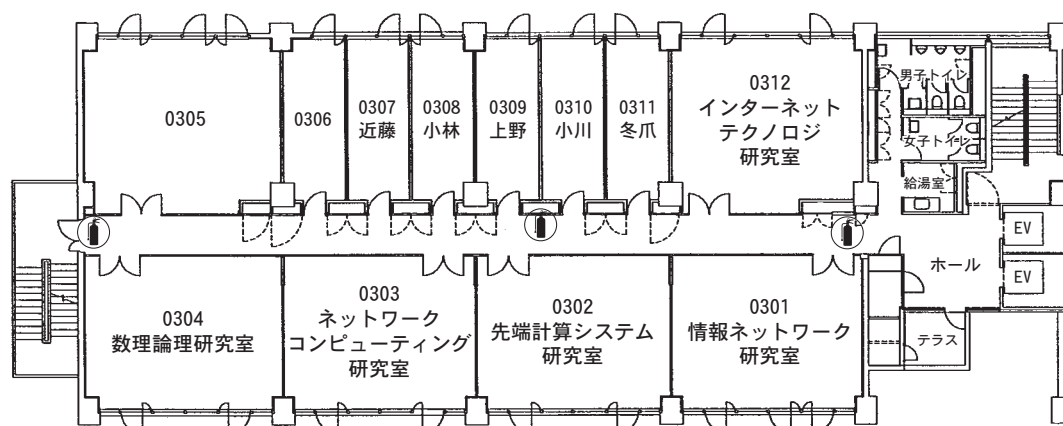
※①は消火器

14号館（情報環境学部研究棟）

< 2 階 >



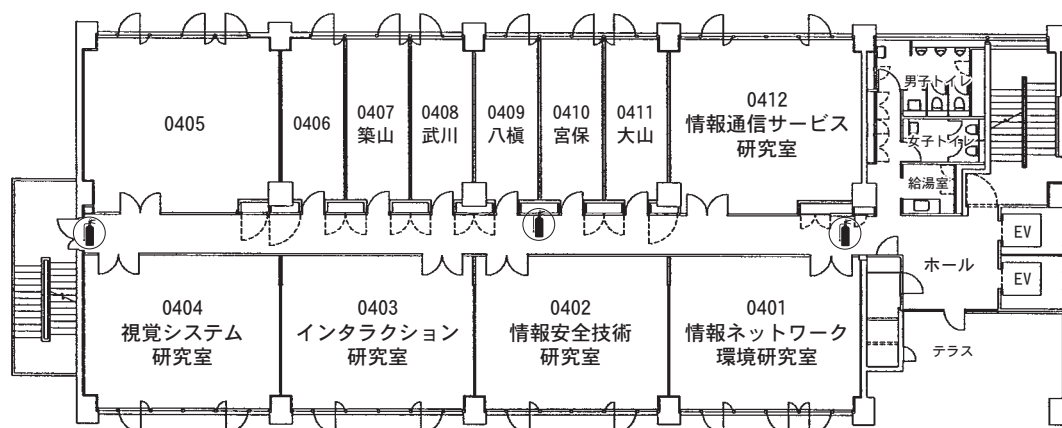
< 3 階 >



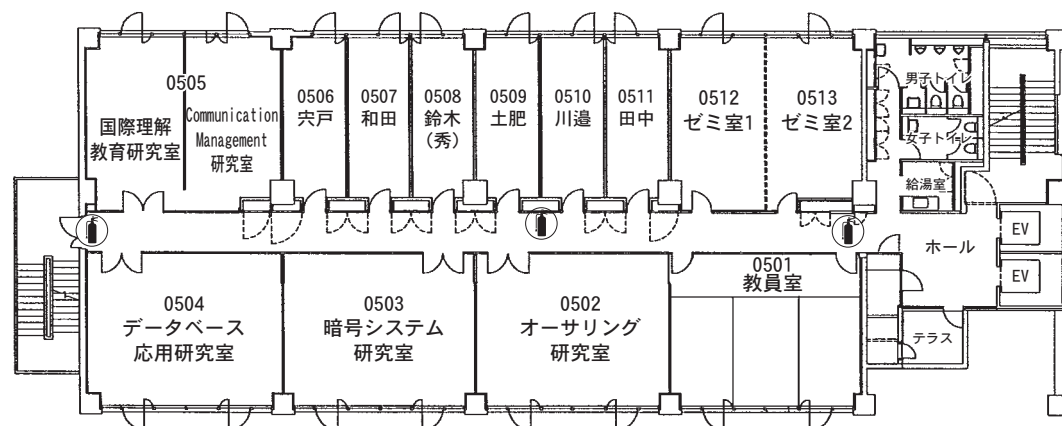
※①は消火器

14号館（情報環境学部研究棟）

< 4 階 >



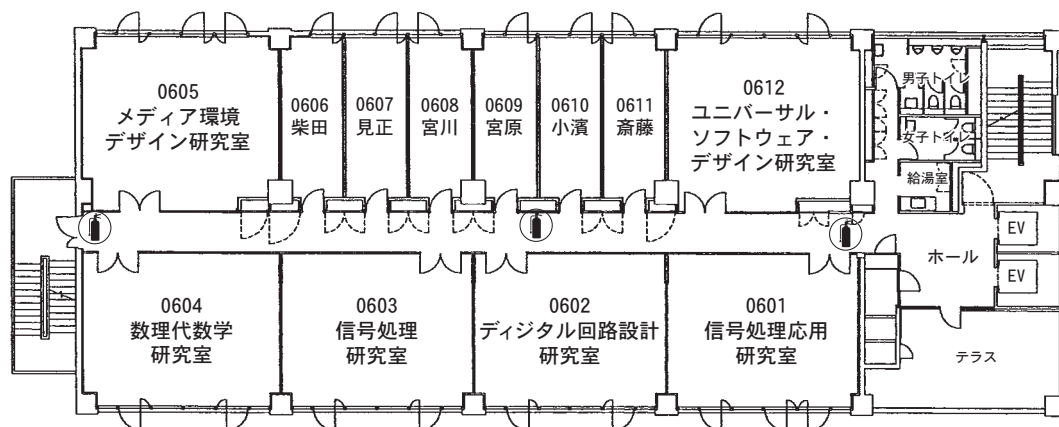
< 5 階 >



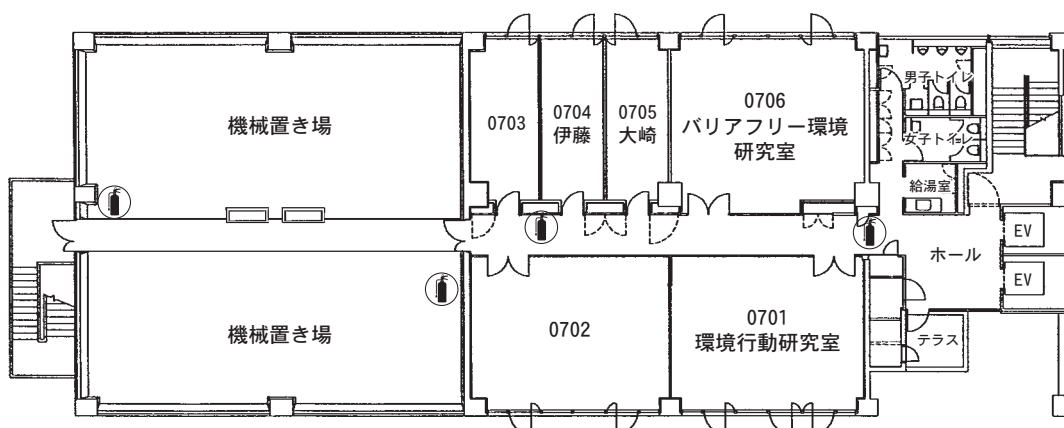
※①は消火器

14号館（情報環境学部研究棟）

< 6 階 >



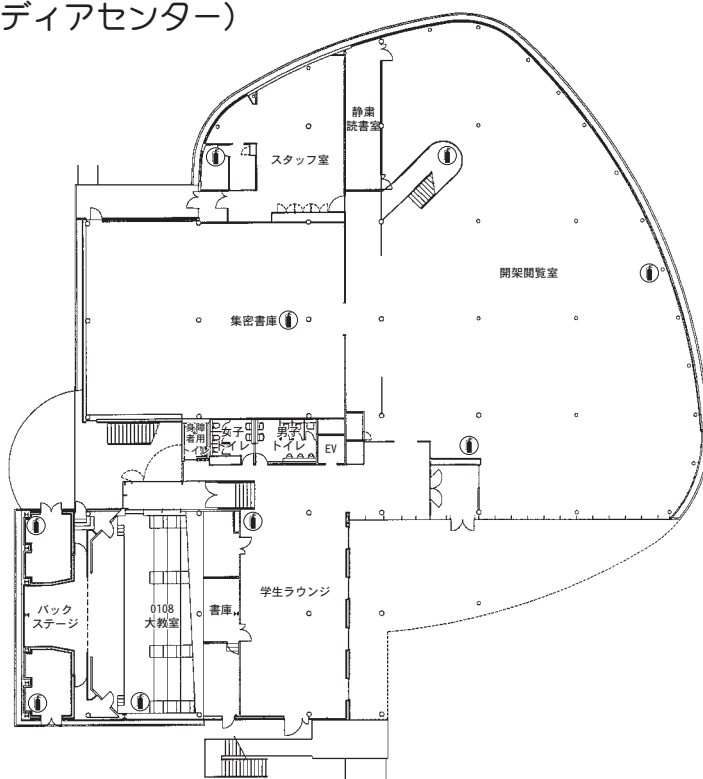
< 7 階 >



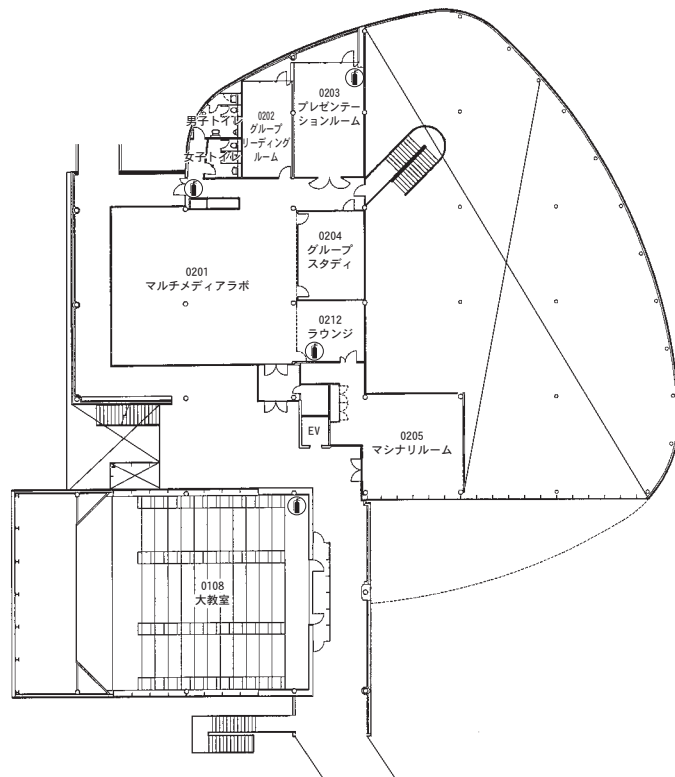
※①は消火器

15号館 (千葉メディアセンター)

< 1 階 >



< 2 階 >



※①は消火器

東京電機大学 校歌

歯切れよく 雄大に

草野心平 作詞

平岡照章 作曲

1. に ち り ん は て ん に か が や き
2. て ん た い は い よ よ ち か づ き

は く う ん は ふ じ に わ き た つ と も が ら よ
め ぐ る し き じ か ん は は や し と も が ら よ

ま ゆ あ げ よ お い な る れ き し の な か で
ゆ め も て よ お い な る じ く う を め ざ し

わ れ ら あ た ら し い し ん り を つ く る ー と う き ょ
わ れ ら あ た ら し い ふ ん か を つ く る ー と う き ょ

う ー で ん だ い ー わ れ ら が ー ば こ う ー あ
う ー で ん だ い ー わ れ ら が ー ば こ う ー あ

あ ー た た え ん か な そ の ー ー で ん と う ー
あ ー さ ん ぜ ん た り そ の ー ー み ら い ー

東京電機大学校歌

一. 日輪は 天にかがやき

白雲は 富士に沸きたつ

朋がらよ 眉あげよ

大なる 歴史のなかで

われら新しい 真理を創る

東京電大 われらが母校

あゝ讃えん哉

その伝統

二. 天体は いよよ近づき

めぐる四季 時間は早し

朋がらよ 夢もてよ

大なる 時空をめざし

われら新しい 文化を創る

東京電大 われらが母校

あゝ燦然たり

その未来

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取扱いについて

「個人情報保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

- (イ) 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
- (ロ) 正課授業および正課外活動のため。
- (ハ) 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、学生証発行、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
- (ニ) 学生の健康管理、学園祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行なうため。
- (ホ) 学生に対するキャリア・就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
- (ヘ) 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
- (ト) 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
- (チ) 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
- (リ) 学生本人および保証人に対して、本学（本学組織含む）ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
- (ヌ) その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
- (ル) その他法令に基づく場合。

ホームページ

情報環境学部ホームページでは、学部の基本的な情報を紹介しています。(下図参照)
情報環境学部ホームページ <http://www.sie.dendai.ac.jp/>

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

情報環境学部

目指せ！未来のエンジニア

- 学部がめざすもの
- 学部の取り組み
- 4つのコース一覧
- 情環の先生
- 情環の研究
- キャンパスライフ

お問い合わせ 交通アクセス
資料請求 English
大学院
学内の方へ
東京電機大学ホームページ

目指せ！未来のエンジニア！
コミュニケーション工学コース >

重要 2015年5月19日 情報環境学部及び同研究科（千葉ニュータウンキャンパス）の移転（平成30年4月予定）に関するお知らせ

NEWS

一覧を見る

最新情報	TOPICS	ニュースリリース	メディア掲載	受賞・表彰	イベント	在学生
------	--------	----------	--------	-------	------	-----

イベント 2017年1月10日 吉村先生・業合先生・鶴田先生の最終講義のご案内(1/12)

大学キャンパス所在地

東京千住キャンパス

[大学（工学部、同第二部、未来科学部、システムデザイン工学部）・大学院工学研究科・大学院未来科学研究科・大学院先端科学技術研究科]

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL 03-5284-5333

千葉ニュータウンキャンパス

[大学（情報環境学部、工学部、未来科学部）・大学院情報環境学研究科・大学院先端科学技術研究科]

〒270-1382 千葉県印西市武西学園台2-1200

TEL 0476-46-4111

埼玉鳩山キャンパス

[大学（理工学部）・大学院理工学研究科・大学院先端科学技術研究科]

〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町大字石坂

TEL 049-296-0042

（公財）大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について

認証評価制度は、2002（平成14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成16）年に導入されました。

本学は、2016（平成28）年度に（公財）大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2017（平成29）年4月1日～2024（平成36）年3月31日）されました。今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

情報環境学部事務部窓口取扱時間

期 間	取扱時間
授業期間の平日 (予備日を含む)	9 : 2 0 ~ 1 6 : 5 0
土曜日 授業期間以外の平日	1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

※窓口取扱は (P. 156参照)

平成29年4月1日発行

編 者 情報環境学部事務部

発行者 東京電機大学情報環境学部

〒270-1382

千葉県印西市武西学園台2-1200

TEL 0476-46-4111

印刷所 三陽メディア株式会社

[非売品]



School of Information Environment

TDU